

ブラジル アマゾン アトラス

世界最大の熱帯雨林に関する事実、データ、知識

2025



■■■ HEINRICH BÖLL STIFTUNG
ブラジルにおける25年

本出版物について

「ブラジル アマゾン アトラス (The BRAZILIAN AMAZON ATLAS)」は、ハインリヒ・ベル財団 (Heinrich Böll Foundation) リオデジャネイロ事務所のオリジナル出版物です。
<https://doi.org/10.29327/5491394>

ブラジルのハインリヒ・ベル財団 (Heinrich Böll Foundation) 理事: レジーネ・シェーネンベルク (Regine Schöenberg)
ブラジル版の構成: ジュリア・ドルチェ (Julia Dolce)、マルセロ・モンテネグロ (Marcelo Montenegro)、レジーネ・シェーネンベルク (Regine Schöenberg)。
編集委員会: アイアラ・コラレス (Aiala Colares)、アンジェラ・メンデス (Angela Mendes)、ジョアン・パウロ・バレット・トゥカノ (João Paulo Barreto Tukano)、ホセ・ヘダー・ベナッティ (José Heder Benatti)、カリナ・ペーニャ (Karina Penha)、カティア・ブラジル (Kátia Brasil)、エレイズ・ファリアス (Eláize Farias)、マルセラ・ヴェッキオーネ (Marcela Vecchione)
ポルトガル語版の校閲: ヘレナ・コスタ (Helena Costa)
英語への翻訳: アンドレッサ・コル (Andressa Korb)
英語版の校閲・校正: ロバート・ファーロン (Robert Furlong)
編集校閲: アイアラ・コラレス (Aiala Colares)、アンジェラ・メンデス (Angela Mendes)、ジョアン・パウロ・バレット (João Paulo Barreto)、ホセ・ヘダー・ベナッティ (José Heder Benatti)、ジュリア・ドルチェ (Julia Dolce)、カリナ・ペーニャ (Karina Penha)、カティア・ブラジル (Kátia Brasil)、エレイズ・ファリアス (Eláize Farias)、マノエラ・ヴィアンナ (Manoela Vianna)、マルセラ・ヴェッキオーネ (Marcela Vecchione)、マルセロ・モンテネグロ (Marcelo Montenegro)、レジーネ・シェーネンベルク (Regine Schöenberg)
グラフィックデザイン、グラフ作成、レイアウト: ドミンゴス・サビオ (Domingos Sávio)、ラファエル・ドゥラン (Raphael Durão)。

著者:

アイアラ・コラレス・クート (Aiala Colares Couto)、アイレン・ベガ (Ailén Vega)、アルミレス・マルチンス・マチャド (Almires Martins Machado)、アルタチ・コカマ (Altaci Kokama)、アマンド・ミハルスキー (Amanda Michalski)、アナ・クラウディア・ドゥアルテ・カルドーゾ (Ana Claudia Duarte Cardoso)、アナ・ポクソ・ムンドウルク (Ana Poxo Munduruku)、アナク レタ・ピレス・ダ・シルヴァ (Anacleto Pires da Silva)、アンドレ・オリヴェイラ・サワクチ (André Oliveira Sawakuchi)、アーリー・ジョゼ・シルヴェイラ・ダ・コスタ (Arley José Silveira da Costa)、サテル・マウエ先住民女性協会 (Association of Sateré-Mawé Indigenous Women)、ムンドウルク・ワコボルン女性協会 (Association of Munduruku Wakoborün Women)、ベアトリス・ルズ (Beatriz Luz)、ブルーノ・マルヘイロ (Bruno Malheiro)、カミラ・C・リーバス (Camila C. Ribas)、カミラ・モレノ (Camila Moreno)、カルロス・アウグスト・ダ・シルヴァ (Carlos Augusto da Silva)、チロ・デ・ソウザ・ブリト (Ciro de Souza Brito)、クラウディア・ヌ・ダ・シルヴァ (Claudiane da Silva)、クリスチアーネ・C・カルネイロ (Cristiane C. Carneiro)、エドナ・マリア・ラモス・デ・カストロ (Edna Maria Ramos de Castro)、エディエネ・キリクシ・ムンドウルク (Ediene Kirixi Munduruku)、エリエテ・ラマール・ゴメス (Eliete Ramalho Gomes)、エヴァンドロ・ボンフィム (Evandro Bonfim)、フランシスコ・ベント・ダ・シルヴァ (Francisco Bento da Silva)、フランシスコ・デ・アシス・コスタ (Francisco de Assis Costa)、フランソワ・ローラン (François Laurent)、フランシー・ジュニオール (Francy Junior)、ジルトン・メンデス・ドス・サントス (Gilton Mendes dos Santos)、ヒルデマラ・キリクシ・ムンドウルク (Hildemara Kirixi Munduruku)、インゴ・ワーンフリート (Ingo Wahnfried)、ジャイメ・ムーラ・フェルナンデス (デサナ) (Jaime Moura Fernandes (Desana))、ジャニス・ムリエル・クーニャ (Janice Muriel-Cunha)、ジャンセン・ズアノン (Jansen Zuanon)、ジェセム・ダグラス・ヤマール・オレリャーナ (Jesem Douglas Yamall Orellana)、ジョアン・パウロ・リマ・バレット (ツカノ) (João Paulo Lima Barreto (Tukano))、ジョエルシオ・ピレス・ダ・シルヴァ (Joércio Pires da Silva)、ジョゼ・ヘダー・ベナッティ (José Heder Benatti)、ジョジアヌ・ド・エスピリト・サント・ピレス・ダ・シルヴァ (Josiane do Espírito Santo Pires da Silva)、ジョシクレア・ピレス・ダ・シルヴァ (ジカ・ピレス) (Josicléa Pires da Silva (Zica Pires))、ジョシエル・ジュルナ (Josiel Juruna)、ジュスティエーノ・サルメント・レゼンデ (トゥウカ) (Justino Sarmento Rezende (Tuyuka))、ルア・サンパイオ (Luah Sampaio)、ルーカス・フェランテ (Lucas Ferrante)、ルシアヌ・カバ・ムンドウルク (Luciane Kaba Munduruku)、ルシネーテ・ソウ・ムンドウルク (Lucinete Saw Munduruku)、マエル・アンハンガ (Mael Anhangá)、マルシア・ムラ/タナマク (Márcia Mura/Tanãmak)、マリリア・ガブリエラ・シルヴァ・ロバト (Marília Gabriela Silva Lobato)、ロンドニア先住民若者運動 (Indigenous Youth Movement of Rondônia)、ペドロ・マルティンス (Pedro Martins)、フィリップ・マーティン・ファーナサイド (Philip Martin Fearnside)、ラケル・ソウザ・チャベス・トウピナンバ (Raquel Sousa Chaves Tupinambá)、レジーネ・シェーネンベルク (Regine Schöenberg)、ロベルト・アラウージョ・デ・オリヴェイラ・サントス・ジュニオール (Roberto Araujo de Oliveira Santos Junior)、ロミエ・ダ・バイシャン・ソウザ、ロザマリア・ロウレス (Romier da Paixão Sousa, Rosamaria Loures)、シルヴィオ・サンチェス・バレット (ハラ) (Sílvio Sanches Barreto (Bará))、シミー・コレア (Simy Correia)、タイナ・マラジョアラ (Tainá Marajoara)、タチアナ・オリヴェイラ (Tatiana Oliveira)、タチアナ・デイン・デ・アブレウ・サ (Tatiana Deane de Abreu Sá)

表紙画像の無断転載を禁じます: © マエル・アンハンガ (Mael Anhangá)

カバー画像、出版物の表紙、ロゴを除き、この素材は クリエイティブ・コモンズ (Creative Commons)「表示 4.0 インターナショナル」(CC BY 4.0) です。アイコン: thenounproject.com



使用許諾契約書については <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode> を参照し、その要約 (代替版ではない) は <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.en> にて閲覧してください。

本地図帳に掲載されている個々のグラフは、グラフの横に帰属表示を付すことにより、複製することができます。以下を引用する必要があります:「ブラジル アマゾン アトラス (Brazilian Amazon Atlas)、ハインリヒ・ベル財団 (Heinrich Böll Foundation)」

ご注文とダウンロード

ハインリヒ・ベル財団 (Fundação Heinrich Böll)

リオデジャネイロ事務所

グロリア通り 190/701、グロリア、ブラジル、リオデジャネイロ、CEP 2024-1180

電話番号: + 55 21 3221 9900

info@br.boell.org, <https://br.boell.org>

財団ウェブサイトにある「Brazilian Amazon Atlas」の特設ページをご覧ください - <https://br.boell.org>

ドイツ国内で英語版アトラスをご希望の方は、<https://www.boell.de/en/publications> までオンラインでご注文ください。



ブラジル アマゾン アトラス

世界最大の熱帯雨林に関する事実、データ、知識

追悼:

アナクレタ・ピレス・ダ・シルヴァ (Anacleta Pires da Silva)

マラニョン州イタペクル・ミリムにあるサンタ・ロサ・ドス・プレトス・キロンボのリーダーであり、人権、社会権、環境権の擁護者。彼女は2024年9月、この地図帳に「大地の鼓動」という記事を書いた直後に逝去しました。

目次

02 本出版物について

07 用語集

10 15の早わかり

12 はじめに

14 本文

16 国際的利益と協力

周縁にありながらも、長きにわたり世界と結びついている

アマゾンの熱帯雨林は、歴史的見て、国際的な経済利益のための投機の間であった。今日、この地域の保全のためにグローバルな協力を獲得すべきか検討するためには、この地域を安易に捉えた植民地的なイメージを複雑に考察し、議論においても地元の主体性を確保することが必要である。

18 境界線

世界最大の熱帯雨林の地理学

開発主義のプロジェクトを遂行するために政治的・経済的な境界線を作ることは、アマゾンにおける領土管理の歴史の一部である。このような境界線は、生物群を構成する一連の生態系を引き裂き、社会的・環境的損害を引き起こしている。

20 水系

アマゾンの水

アマゾンの水循環は世界最大の淡水システムを形成しており、南アメリカの大部分に降雨を行き渡らせ、地球の気候に直結している。このように、森林破壊および水生生態系への脅威は、地域的にも世界的にも影響を及ぼしている。

22 土地問題

領土から混乱へ

アマゾンの植民地化は、この地域が「無人の土地」であるという概念に基づく土地の混乱を引き起こした。今日でも、この混乱の原因となったと同様の集団が持つ利害は、地域を保護するための土地の配分や伝統的な権利の承認に向けた努力を依然として脅かし続けている。

24 考古学

アマゾンの生物的痕跡

アマゾンの景観が千年単位で変化している事実は、原住民が森林の形成に果たした役割を証明するものであり、この地域の先住民が今も活用し続けている先祖伝来の知識を明らかにするものである。

26 人工林

先祖伝来のノウハウ

アマゾンの熱帯雨林は、数千年にわたり原住民によって植林されたものであり、生態系の維持は原住民の知識に依存している。このプロセスにおける手段のひとつが、アマゾンのダークアースである。これは、古代から人が育ててきた栄養に富んだ黒い土につけられた名前である。

28 原住民

土着の存在論的考察

植民地化が始まって以来、先住民族は西洋の視点からは、教授しなければならない「白紙の状態」として扱われてきた。今日、大学における先住民の存在は、教育と知識のこの歴史的モデルを再構築しているところである。

30 伝統民族

森林における

アイデンティティの多様性

アマゾンでは、伝統民族とコミュニティは幅広い多民族から構成され、そのテリトリーの内部およびテリトリーとともに独自のダイナミクスを維持し、略奪ではなく、農作物採取活動を通じてアイデンティティを形成している。

32 移住

アマパ州アマゾンにおけるメガプロジェクトの影響

アマゾンの開発主義的なプロジェクトには、大規模な移住の流れを促進する大規模プロジェクトによる建設が含まれる。アマパ州では、水力発電所の建設が何千人もの移住者を呼び寄せ、さまざまな社会環境問題を引き起こしている。

34 先住民の言語

脅威にさらされた多言語の宇宙

ブラジルにはさまざまな先住民の言語が存在し、その大部分を占めているのがアマゾンである。これらの言語は、生物群に関する先祖代々の知識を広めるのに役立っている。しかし、言語も知識も大きな脅威に直面している。

36 都市化するアマゾン

都市による地域社会の崩壊

アマゾンにおける植民地時代以前の人間の存在は、森林を保護することと人間が存在することの間に矛盾がない証拠である。しかし、村落やコミュニティの地域的な取り決めは、都市の押し付けによってますます脅かされ、森林もまた危機にさらされている。

38 軍事化

アマゾンにおける 国家安全保障上の訴求

国家の安全保障と主権を守るための軍事的言説は、アマゾン支配することをその主要計画としている。この地域とその境界線における統治の歴史は、ブラジル軍の利益や軍主導による暴力と深く絡み合っている。

40 大規模開発工事

アマゾン開発主義プロジェクト

気候危機は、アマゾンに対する政府の政策形成の軸となったイデオロギーに疑問を投げかけている。商品輸出と石油探査に焦点を当てた現在の開発主義的なプロジェクトに対して、代替的な対立モデルを優先させる必要がある。

42 森林伐採と山火事

森林の荒廃

森林伐採と山火事は、アマゾンの生物多様性にとって大きな脅威である。木材搾取によって森林は火災が発生しやすくなり、荒廃のサイクルが始まって最終的には森林を破壊してしまう。この損失を食い止めるためには、保護区域を作ることが不可欠である。

44 アグリビジネス

アマゾンの農業ダイナミクスと 不平等

アマゾンの生産構造を支配しているのは、大豆の単一栽培と畜産である。これらのセクターの生産総額は、穀物価格の高騰と開発政策によって上昇している。一方、森林伐採は増加傾向にあり、家族農業の生産額は減少している。

46 鉱物開発

ムンドルク族の領土における 違法採掘

採掘はアマゾンで、特に先住民の土地で増加しており、一連の社会環境的影響を引き起こしている。タバジョス川流域は、最も影響を受けた地域のひとつであり、ムンドルク族が暴力と環境汚染に抵抗し続けている。

48 道路

BR-319: アマゾンの終焉への道

アマゾンにおける道路建設は、森林伐採と土地収奪を加速させ、生物多様性、生態系サービス、伝統民族を脅かしている。これらのプロジェクトの中でも、BR-319 高速道路の敷設は重大な脅威として際立っている。最後に残った手付かずの森林地域のひとつを危険にさらし、アマゾンが耐えられる森林破壊の限界を超えてしまった。

50 組織犯罪

アマゾン地域における 犯罪組織派閥のダイナミクス

ブラジルのアマゾン流域には、極めて重要な麻薬密売ルートが通っている。このようなルートと地元市場を支配することが、犯罪組織派閥の主要な目的になっている。麻薬密売人がその活動を専門職とし、環境犯罪への関与を拡大するのにしたがって、この地域では内部の暴力闘争が増加の一途をたどっている。

52 犯罪による経済活動

土地、権力、環境犯罪

アマゾンでは、土地の支配権と政治権力は深く絡み合っている。多くの自治体は、環境犯罪を推進するベンチャー企業によって設立されたもので、このつながりは、今日も続いている。

54 擁護者に対する暴力

森林を守る人々の命は危機に瀕している

法定アマゾンは、人権と環境権の擁護者にとって、ブラジルで最も危険な地域である。多数の未解決殺人事件の背景には、アグリビジネス、違法採掘、木材搾取がある。

56 健康と医薬品

アマゾンを脅かす公衆衛生の不安定化

略奪的活動の拡大は、アマゾンで深刻な健康被害をもたらしている。アマゾンでは、地域の特殊性と基本衛生サービスの不安定さによって、公的医療へのアクセスが妨げられている。このような状況に立ち向かうためには、医療へのアクセスを促進し、伝統的知識を大切にすることが不可欠である。

58 権威主義的主観

農業フロンティアにおける考え方と崇拜の 仕方

アマゾンにおける経済戦線の拡大は、文化的・宗教的ダイナミクスの拡大も伴うものである。しばしば繁栄の神学と結びついた権威主義的な考え方は、同質的な景観を押しつけ、アマゾンの豊かな領土と知識の多様性を抑圧する。

60 気候変動

COP 30: 回帰不能点

気候ガバナンスは、自然の金融化を伴う解決策に取り込まれてきた。アマゾンでの最初の COP は、アマゾンの住民の権利と領土主権を賭けて、これらのプロジェクトの影響と矛盾に正面から向き合う機会である。

62 グリーンウォッシング

アマゾンの金融化: 誤った解決策に向かつて

気候危機が加速するなか、手っ取り早く簡単そうな解決策を追求するあまり、市場を適切な対応策として位置づける傾向がますます強まっている。しかし、これは必ずしも最良の選択ではない。生存、自律、文化的アイデンティティを自然に直接依存している人々に悪影響を及ぼす傾向があるからだ。

64 気候ファイナンス

アマゾンにおけるコミュニティ基金の課題

伝統民族とコミュニティ、家族経営農家、小規模農家の組織は、気候変動に対処するための資源にアクセスする際に、多くの障壁に遭遇してきた。こういった需要に応じて、コミュニティ基金が設立されるようになった。

66 若者世代

アマゾンの新世代

機会の欠如と社会経済的障壁が、アマゾンの若者の地方流出の一因となっている。基本的なサービスと公共政策の確保は、この現象に対処するための鍵であり、この社会環境闘争の主唱者である若者たちが自分たちの領土に留まることができるかどうかに直接影響を与えている。

68 アマゾンの女性たち

社会環境正義の主唱者

アマゾンの女性たちはコミュニティにおいて重要な役割を果たしている。女性たちが主導する組織は、この地域における新採取主義との闘いの最前線にいる。この闘いは、制度的な政治参加に関する課題に加え、女性を標的とした殺人の割合が高いという状況の中で行われている。

70 農業生態学

持続可能性と回復力

アマゾンでは、科学的な農業生態学の知識と、伝統民族とコミュニティがもつ先祖伝来の知識を組み合わせることで森林管理を行っている。このような知識を融合させた管理法から、アグリビジネスの促進に対する抵抗としての構想が幾度も生み出されてきた。

72 食文化

世界の食料供給における歴史的転換点

食文化とは、民族と食物の栽培・調理との関係に関連する、一連の先祖伝来的・象徴的慣習として定義される。アマゾンで生まれたこの概念は、長い道のりを経て認知されるに至った。

74 共有財

伝統的領土の抵抗と自然保護

共有財のための闘いは、領土とそこで生きる生物の私有化に抵抗し、現行の法制度に異議を唱え、人間と非人間との共存システムを尊重する新たな構成を提案している。

76 ボディ・テリトリー

大地の鼓動

アマゾンはそこに住む人々にとって共通の家なのだ。これはボディ・テリトリー、身体の延長線上にある領土である。住民こそが陸地であり、水であり、森でもあるからだ。生物群の破壊を食い止めるためには、資本主義と植民地主義によって形成された人間同士の関係性についての限定的な考え方を拡大し、こういった帰属意識を理解する必要がある。

78 祖先

現在見られる祖先とのつながり

先住民の宇宙的認識には、人間と他の生物との親族関係が含まれている。それは先祖代々のつながりによって受け継がれてきた知識であり、スピリチュアルな領域と環境との関係の両方を通じて生じるものである。

80 存在と抵抗

サテレ・マウエ先住民女性運動

伝統的なアマゾンの人々は、抵抗運動の主唱者を数えきれないほど経験してきた。社会運動、組織、集団、協会は、この闘争に動員されたカテゴリーの一部である。この記事では、サテレ・マウエ先住民女性協会 (Association of Sateré-Mawé Indigenous Women) がそのストーリーを語っている。

82 著者と出典

94 大蛇の神話

用語集

農地改革者／農業フロンティア

生物多様性が保全された地域の衰退を通じて、自然環境を侵食し、農畜産物の生産を拡大している地域。

アグリビジネス

農畜産物の生産、加工、販売に関する一連の業務および経済活動。

農業生態学

より持続可能な農業食品システムの開発を支援するために、生態学的原則と手法を動員し、食料主権、土地の再分配、ジェンダー平等、社会環境正義に貢献する社会運動、活動、科学、生活様式。

アマゾン盆地

ブラジル、ボリビア、コロンビア、ガイアナ、フランス領ギアナ、ペルー、スリナム、ベネズエラにまたがる世界最大の河川流域に広がる盆地。

アマゾンのダークアース

アマゾン地域に見られる肥沃で黒い土壌の一種で、千年にわたる人間の森林管理活動によって作られた。

人工林

人間の行為によって改変された森林で、先住民と交換関係にあり、互いに恩恵を与えあっている。アマゾンはそのお手本のような例であり、何千年もの間、栽培、管理されてきた。

生物多様性

種の多様性と生物間の生態学的相互作用を含む、生物の多様性。

生物的痕迹

人間の行為によって地勢が改変されてきたことを証明する痕跡。

バイオパイラシー

伝統民族とコミュニティの知識をなど、天然資源や生物資源の違法な経済的搾取。

ボディ・テリトリー

生物学的、精神的、社会的、宇宙論的な領域において、人の身体とその生活領域との間の広がり定義する政治的概念。

共有財

この名称は、コミュニティによって管理される環境資源を維持する社会システムを指し、また、集団行動を通じて実施されるものを指す。これらは個人が所有する財産ではない。

COP 30

締約国会議 (Conference of the Parties) は、気候変動に関する国連気候変動枠組条約 (United Nations Framework Convention on Climate Change, UNFCCC) の締約国が毎年開催する一連の会議である。第30回 (COP 30) は、2025年11月10日から21日にかけてパラ州ベレンで開催される。

気候ファイナンス

気候変動への適応と緩和のための活動を支援することを目的とした一連の財源。

気候変動／危機／崩壊／緊急事態

天然資源の過剰搾取、温室効果ガスの排出量の増加、森林伐採など、産業革命後の資本主義的生産という背景において人間活動が引き起こしてきた、惑星の気温と気候パターンの変化。気候変動、気候危機、気候崩壊、気候緊急事態といった表現は、こうした変化の危機的状況がますます深刻化し、避けられなくなっていることを示すために使われる。

保全地域

生物多様性の保全のために保護されている公的または私的な地域。保全地域にはさまざまな種類があり、そこに住む伝統民族とコミュニティによって、完全保護地域や持続可能な利用地域に分けられている。

森林破壊の弧

この地域は、歴史的にアマゾン生物群の森林伐採率において先頭に立っていた。パラ州南東部から法定アマゾンの西部まで50万 km²に及び、森林伐採が現実のものとなっているマットグロッソ州、ロンドニア州、アクレ州が含まれる。

人口空白

「テラ・ヌリウス(無主の地)」や「ノーマンズ・ランド(無人地帯)」という言葉は、ある地域に元々住んでいた人々を無視していないものとするイデオロギーを指す。このイデオロギーが地球上のさまざまな地域で、植民地化のプロセスを導いた。ブラジルの軍事独裁政権下には、アマゾンの植民地化において広く使われてきた。

開発主義

この経済理論と経営実務は、工業生産とインフラストラクチャーを通じた経済成長を社会の主要な政治目標とみなしている。開発主義モデルは、ここ数十年間、法定アマゾン地域の政治運営の指針となってきた。

犯罪による経済活動

この理論では、犯罪を経済の一セクターとみなしている。アマゾンという環境においては、環境犯罪から成る違法行為に地域経済が依存していることを表すのに使われる。

自然の金融化

いわゆる「自然を基盤とした解決策」を通じて、価値を生み出し、自然を繁栄に変え、金融資産に変換する新しい方法。炭素市場は、こうした解決策の最もよく知られた例である。

空飛ぶ川

森林の蒸発散によってアマゾンで形成された水蒸気の塊は、ブラジルやラテンアメリカの他の地域を移動し、これらの地域の降雨のかなりの部分を担っている。

食文化

ある民族の食生活に関する一連の習慣、知識、伝統。

食料不安

健康的な生活を送るのに十分な量の、質の高い食料を定期的かつ恒常的に入手できないこと。

森林劣化

山火事や森林伐採によって、気候バランスや水・炭素循環への寄与など、森林が本来持っていた機能が失われること。

FUNAI

国立先住民保護財団(National Foundation for Indigenous Peoples, FUNAI)は、ブラジル連邦政府の公的な先住民機関である。ブラジルにおける先住民の権利の保護と促進を調整および実行する主要機関にあたる。

グリーンウォッシング

この用語は、企業や組織が、自らを環境に配慮する企業である強調するために、持続可能性推進活動の成果を誇張したり、歪曲したり、あるいは虚偽の変革さえも見せたりするマーケティング手法を指す。

IBAMA

ブラジル環境・再生可能天然資源院(Brazilian Institute of the Environment and Renewable Natural Resources, IBAMA)は、ブラジル国内の自然遺産の保護と保全に取り組むブラジルの政府機関である。

INCRA

国立植民農地改革院(National Institute for Colonization and Agrarian Reform, INCRA)はブラジルの政府機関で、農地改革の実施、キロンボラの土地の認定、国有地保有権の規制などに取り組んでいる。

先住民の土地

ブラジル連邦政府によって法的に画定された領土で、その占有権と用益権は先住民に永久に保証されている。

土地収奪

不正な所有権によって公共または第三者の土地を占有する違法行為。通常、環境犯罪のサイクルの第一段階として認識されている。

法定アマゾン

アマゾン盆地に属するブラジルの9州を包含する地政学的境界線。1953年にブラジル連邦政府によって制定され、開発主義的な施策の立案を目的としている。

法定保護区

農村地域の土地で、植生被覆と在来の生物多様性の保全のために指定されなければならない区域。法定アマゾンでは、不動産の80%を法定保護区として保全しなければならない。

リビング・ウェル

先住民の言語であるケチュア語の「Sumaq Kawsay」とアイマラ語の「Suma Gamaña」という新語を翻訳したもので、ラテンアメリカ先住民が持つ宇宙論の体系化を前提とし、人間と自然の間の互惠性の価値を決めることによって要約され、その結果、非略奪的な社会組織の形態を支えている。

大規模開発工事

道路や水力発電所など、開発主義的な戦略によって建設されたインフラ・プロジェクト。アマゾンは今も昔も、このような建設業の舞台であり、社会環境に多大な影響を及ぼしている。

採掘

もともとは、工業的規模の採掘ではなく、職人的な鉱物採掘による経済活動であった。現在、このような活動のほとんどすべてが、不法な鉱物採掘行為を表している。主に金に関連する違法採掘が多い。

新採取主義

アグリビジネスや鉱業などの活動を組み合わせた、天然資源の採取を基礎とした開発主義モデル。

存在論／宇宙論／宇宙的認識／認識論

存在論は、存在と実在についての表現モデルを定義する。宇宙論は、宇宙および現存するすべてのものの起源と構造に関する知識を表現することである。宇宙観は、異なる民族が世界をどのように捉えているかを説明するものである。認識論は、知識とその形式についての研究と組織化を描写するものである。

組織犯罪

経済的に、あるいは政治的に構造化された集団によって行われる違法行為。アマゾンでは、麻薬密売組織も環境犯罪を支配するようになっている。

原住民

植民地化するより以前にその地域に住んでいた人々を指す言葉。ブラジルやアマゾン地域では、「先住民民族 (Indigenous peoples)」と同義語として使われている。

パン・アマゾン

領土にアマゾンの生物群を内包するすべての国々を含む地域：ボリビア、ブラジル、コロンビア、エクアドル、ガイアナ、フランス領ギアナ、ペルー、スリナム、ベネズエラ。

アマゾンの回帰不能点

生物群がその点を超えると、不可逆的なプロセスに入り、自然に回復できなくなる劣化の閾値。

キロンボア族

奴隷にされたが、奴隷制に抵抗してきたアフリカ人が形成したマルーンコミュニティ (ブラジルではキロンボと呼ばれる) の残存民族。

REDD と REDD+

森林減少・劣化に由来する排出削減 (REDD) とは、温室効果ガス排出削減させる努力に対し経済的インセンティブを与えるメカニズムである。REDD+ には、森林炭素蓄積量の増加に対する金銭的補償、いわゆる炭素クレジット市場が含まれる。

伝統民族とコミュニティ

文化的に独自のグループであり、自らをそのような存在として認識しており、その文化的、社会的、宗教的、先祖伝来の経済的な生産を繰り返す条件として、独自の社会組織、職業形態、および領土の利用方法を有する集団。

領土

社会集団と空間との関係であり、その領土に帰属する文化的、象徴的、アイデンティティに基づく意味を含む。

未指定地／森林

公有地 (ブラジル連邦政府または州政府が所有) は、持続可能な利用や保全のためにまだ指定されておらず、しばしば土地収奪者の標的になる。

15の早わかり

世界最大の熱帯雨林 について

アマゾンの生物群は最大の熱帯雨林であり世界最大の淡水系である。また、地球上の生物種の半分が生息している。法定アマゾンは、1953年にブラジル政府によって制定された行政区域である。

1

2 アマゾンの人口のほとんどは都市に住んでいる。都市の人口は、大規模開発工事による搾取と建設のサイクルに紐づいた、さまざまな移住ブームによって形成された。

3

これらのサイクルは、アマゾンの植民地化のさまざまな段階に対応している。その中には、ブラジルの軍事独裁政権(1964~1985年)の開発主義的プロジェクトがあった。このプロジェクトは、先住民が数千年にわたって居住してきた事実を無視し、その地域が人口空白地帯だったと捏造することで実施された。

先住民にはアマゾンの森林に「植樹する」責任があった。この植樹は、その生物多様性の管理と地域の食糧安全保障に貢献している。

4

7 略奪的な新採取主義が行われるセクターは、この地域に大きな社会的・環境的影響をもたらしている。この地域において、アグリビジネスは、山火事と森林破壊の主な原因となっている。森林破壊の90%以上が牧草地の造成によるものである。

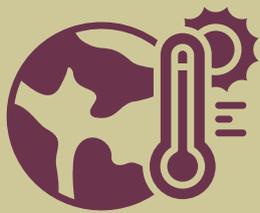
5

ブラジルの先住民の大半はアマゾンに住んでおり、先住民の言語も最も多様なのだが、多くの土着語が絶滅の危機に瀕している。先住民の土地は森林保全の弧を描く。

6

アマゾンにはまた多様な伝統民族とコミュニティがある。その中には、奴隷にされたアフリカ人の子孫であるマルーンの人々(キロンボラ族とも呼ばれる)や川沿いの住民も含まれる。





この知識という対抗力が、森林とその地球規模の気候変動を保護するのである。例えば、空飛ぶ川による降水量の分布が影響を与えている。森林伐採の進行は、回帰不能点を示している。この気候維持を危うくするものである。

15

気候変動の緩和は、伝統民族とコミュニティによる地域のイニシアティブや組織の資金調達を頼りにしている。これに対し、自然の金融化(炭素市場や工業化されたバイオエコノミー)は、これまでアマゾンの保護に効果を発揮してこなかった。

社会運動の歴史的な戦いは暴力によって特徴づけられる。法定アマゾン、人権と環境の権利擁護者にとって世界で最も危険な地域であり、紛争や殺人も多発している。

12

13

このような運動を守るためには、先祖代々のつながりに基づく地元の知識体系を高く評価することが不可欠である。

その知識とは、祖先、領土、そこで生きる存在とのつながりを基礎としている。



11

政治的二極化が、極右勢力、新ペンテコステ派運動、アグリビジネス対環境保護主義、文化的・存在論的の多様性という形で進行しており、アマゾン地域でますます顕著になってきている。



これらの犯罪行為は、合法的経済や地元の自治体との複数の関係性を通じてのみ存在しうる。

10

9

その一方で、先住民の土地や保護地区では採掘などの違法行為が横行し、暴力や深刻な健康問題にもつながっている。そして、組織犯罪は、麻薬密売から得た利益を洗浄する手段として、環境犯罪に目を向けたのである。

8

さらに、大規模採掘や道路や水力発電所といった、大規模開発工事も社会・環境に大きな影響を与えている。



はじめに

ポルトガルによる占領以来、アマゾン地域は、外部から持ち込まれた期待や展望の受け皿としての役割を果たしてきた。この歴史は、16世紀にスペインの船長フランシスコ・デオレリャーナが、ギリシャ神話に由来する「アマゾン」という名前をこの地域最大の川につけたことに始まる。この地域に付けられた他の通称は、何千年の間、この森に住み、耕作してきた住民のことを考慮していない。植民地支配者がつけた名称である「楽園への入り口」や「エルドラド」、数世紀後に新植民地化を指揮したブラジル軍事独裁政権（1964～1985年）がつけた「緑の地獄」などがこれに当たる。この期間ずっと、地域住民の慣習や存在論は、キリスト教化や大量虐殺によって抑圧され続け、その領土も、暴力的に接収され、私有化された。この土地収奪は、破壊的な概念によるもので、建前上持続可能な概念を土台とすることがあっても、それは開発の理想に浸っていたにすぎなかった。

アマゾンは、自らを変貌させてきたが、そのさまざまな変化を見事な回復力で一つにまとめてきた。しかし、開発主義者が展望する進歩の後に続いて、新たな脅威が生まれつつある。鉱業とインフラ事業は、アグリビジネスの生産モデルとその大規模な単一栽培の進展と相まって、天然資源をますます枯渇させ、アマゾンを立たせている。このタイミングで、差し迫った気候崩壊に向けた解決策がようやく模索され出した。具体的には、炭素吸収による緩和策と、地球文明の危機に適応する方法の両面である。

その結果、多くの人々がこの地域に目を向けるようになった。さらに、絶え間ない脅威にさらされていても、不可欠な複数生物種との相互作用によってこの地域を守り、存続させることに成功している人々である。先住民および伝統民族も注目されている。ドイツの政治財団として、私たちは2000年にブラジルで事業を開始して以来、こうした変化と緊張のすべてを注意深く見守ってきた。人権、先住民の権利、生物多様性、農業生態学、気候正義、空飛ぶ川など、アマゾン地域の抵抗をめぐるさまざまな問題を支

援し、対話を促進することを目指している。何世代にもわたって略奪的な経済セクターに立ち向かい、しばしばその代表者の手によって屈服させられてきた人々の持つ役割を常に高く評価している。これらの民族の領土権と生活様式を守ることを、アマゾンが直面する問題の解決に向けた議論の中心として扱われなくてはならない。

この「ブラジル アマゾン アトラス」によって、私たちはこの地域に対する固定観念を取り払おうとしている。本書の内容は、ブラジルはもとより世界中の人々がアマゾンを再び知ることができるように、視点の急転換に貢献することを目的としています。そして今回は、地域の多様な住民の視点からアマゾンを理解する機会を提供している。そのため、アマゾン出身の学者、活動家、コミュニケーター、あるいは何十年もアマゾンで活動してきた人々で構成された編集委員会を集め、地元の著者や取り上げるべきトピックを特定した。その結果、このアトラスに掲載された32本の記事は、アマゾンのさまざまな地域から集まった著者の大半によって作成されている。人種、民族、性別の多様性にも配慮された上で、このように選抜された。

さらに、本アトラスは、財団の視点の変化も以下のように説明している：このアトラスは、Heinrich Böll Foundation（ハインリヒ・ベル財団）が初めて「グローバルサウス」で作成した地図帳である。西洋の科学主義に挑戦した、地元の知識と科学にあふれた出版物である。

この「ブラジル アマゾン アトラス」が、この地域に関する知識への入り口として、またこの広大な領土を構成する複雑な関係について学ぶための道具として役立つことが、私たちの望みである。ここから、アマゾンとその住民が持続可能で自立した未来を築けるように弾みをつけるために、議論と対話を促進し、さまざまな課題に対する解決策を引き出すことができればと願っている。

アマゾン地域で初めて COP 30 が開催されるこの年

において、本資料は、この地域を千年以上にわたり保護してきた人々の主体性が、多国間の気候変動交渉の鍵を握り、ひいては地球の存続にとって重要であることを強調する役割を果たすことだろう。

最後に、読者が内容を理解しやすいように、前ページの「15の早わかり」に用語集と記事の要約を記載した。知識を集合させて構築した本作に不可欠だった、複雑かつ繊細な認識論的議論を含め、編集委員会のメンバーとしてアトラスの制作過程に多大なる貢献してくれた、アイアラ・コラレス (Aiala Colares)、アンジェラ・メンデス (Angela Mendes)、イライズ・フライタス (Elaíze Freitas)、ジョアン・パウロ・ツカノ (João Paulo Tukano)、ホセ・ヘデル・ベナッティ (José Héder Benatti)、カリーナ・ペーニャ (Karina Penha)、カティア・ブラジル (Kátia Brasil)、マルセラ・ヴェッキオーネ (Marcela Vecchione) に感謝したい。この議論の一部は、以下に掲げる共同執筆の編集記事の一部を構成している。

本書の内容は、ブラジルはもとより世界中の人々がアマゾンを再び知ることができるように、視点の急転換に貢献することを目的としています。

読者の皆さんも、私たちと一緒にこの視点を変え、ここで紹介するアマゾンに精神的かつ感情的に関与していただきたい。また、以下の方々も紹介させていただきたい。当財団とパートナーシップを結び、本作や当財団のウェブサイトで紹介している団体、ネットワーク、集団、運動は、アマゾンの人々と領土を守るためにたゆまぬ努力を続けている。

イメ・ショルツ (Imme Scholz)、ハインリヒ・ベル財団会長

Regine Schönenberg (レジネ・シェーネンベルク)、ハインリヒ・ベル財団ブラジル事務所所長

マルセロ・モンテネグロ (Marcelo Montenegro)、ハインリヒ・ベル財団ブラジル事務所社会環境正義コーディネーター

ジュリア・ドルチェ (Julia Dolce)、ハインリヒ・ベル財団ブラジル事務所 社会環境正義担当編集者

水の流れを変える

アマゾンには、豊かな天然資源と生物多様性の最後のフロンティアのひとつである。その結果、新自由主義的な経済セクター間の利害の押しつけが激しくなり、森林とそこで生きる存在(かなりの数の人口を含む)を脅かしている。ブラジルでは、この地域に2,800万人近い人々が暮らしており、その中には180を超える先住民民族、キロンボ、川沿いのコミュニティ、その他さまざまな伝統民族とコミュニティが含まれ、膨大な知識と持続可能な慣習を有している。

このような利害を考慮することは、ブラジルの他の地域や世界が、アマゾン地域とそのダイナミクスに関連して構築してきたビジョンを複雑化することを意味する。本アトラスはその過程のためのツールである。50人以上の執筆者(ほとんどがアマゾンの研究者や思想家)が書いた32本の記事は、今日まで残る植民地化から受け継がれた理想化されたヴィジョンに立ち向かっている。また、この複雑な生命のネットワークが空っぽの無人かつ原始的な領土として貶められ、西洋社会に暴力的に統合されるという運命にも抗っている。

ここ数十年、アマゾンの生物群が地球の気候バランスにとって重要であるという科学的なパラダイムは、この地域を多国間協議の争点に押し上げた。同時に、アマゾンは生物多様性や現地の生活様式に壊滅的な影響を及ぼす森林劣化の記録が相次ぎ、国際的な話題となっている。

このアトラスのデータが示すように、2019年から2022年にかけて、アマゾンでは記録的な森林伐採が行われた。保護地域(主にアマゾン地域内の先住民の土地)における違法採掘は90%増加した。さらに、極右の台頭に後押しされた市民が武装し、2018年から2022年の間に、アマゾン西部で武器を携帯する登録を受けた人の数が1,020%増加した。それに加えて、アマゾンで起きた環境保護活動家殺害事件は、世界全体の5分の1以上を占めている:2022年にはこの地域で39人の活動家が殺害された。

2023年、世界はヤノマミ族が直面した人道危機の悲惨な光景を目の当たりにした。この先住民の領土は、過去数年間にわたり違法採掘活動によって乗っ取られていた。同年、アマゾンは極端な干ばつと河川の水位が観測史上最低を記録するという激しい気候危機に見舞われ、動物たちの死のみならず、広大な河川インフラにも影響が及び、飲料水や食料の不足し、公共サービスへのアクセスも困難になった。

この地域が被害から完全に回復するより先に、2024年に再び干ばつがこの地域を襲った。同年、アマゾンの生物群は過去17年間で最も多くの火災に見舞われ、その煙は大気圏を通過してブラジル中西部、南東部、南部の各州に運ばれ、何千人もの人々の健康に被害を及ぼした。パンタナール湿地やセラードなど、法定アマゾン構成する他の生物群も、かつてない数の火災を記録した。

それ故、近年は、アマゾンとそこに住む人々の未来は、暗雲が漂う状況となっている。この原因としては、この地域における気候崩壊の影響や政治的対立が考えられる。政治対立は、環境犯罪の激化(地域内で麻薬密売組織によって組織化される傾向が強まっている)のペースを左右するだけでなく、地域の大規模プロジェクトを導く経済的利益にも影響を及ぼしている。

他方、アマゾンは社会運動、共同体、社会環境組織が活発に動員している地域であり、地域的な領土管理と世界的な気候変動アジェンダに関わる議論の最前線となっている。この動員は、地域とそこに住む生物と関係を築いている人々やコミュニティの思考モデルを高く評価するものである。このモデルは、差し迫った気候崩壊の責任を負うセクターを導くものとは根本的に異なっている。

このシナリオでは、2025年を、前例のないイベントの直前に迎えることとなった。ブラジルで開催される第1回目の国連気候変動枠組条約締約国会議(United Nations Conference of the Parties)である。さら

ハインリヒ・ベル財団が発行する他のアトラスとは異なり、この出版物は認識論的な議論を呼び起こすことを目的としている。

に、COP 30 は11月10日から21日にかけて、パラ州ベレン市のアマゾンで開催される。アマゾンと同じように、COP は新自由主義的なセクターの利益、開発主義的なアジェンダ、そして社会環境保護団体の闘争の対立の場となっている。

したがって、今回のイベントは、アマゾンのさまざまな地域の国際的イメージを複雑化するプロセスにおいても重要な役割を果たしている。この意味で、ポルトガル語と英語で出版された『ブラジル アマゾン アトラス』は、地理的であろうとなかろうと、外国人にこの地域の徹底的な調査を提案するものであり、社会的・環境的正義のために闘う人々の防衛に貢献するものである。

迫りくる気候崩壊が、生態系に関する経験的知識の欠如に起因し、人間と自然という誤った二項対立に支えられているとすれば、このようなパラダイムの中で生まれた現代科学そのものが、それに対応できる能力を持たないことになる。したがって、その対話相手である、同じ二項対立の下で活動する者も、同様に不適切である。このため、このアトラスを構成するテキストは、単に地域的な貢献だけでなく、存在論的な貢献も提供している。これは、先住民、キロンボーラ、川沿いのコミュニティ出身の複数の著者が、自然とのまた別の関係性の構築に挑むという背景に基づいている。

このアトラスの制作過程は、執筆者、ハインリヒ・ベル財団のチーム、デザインチーム、編集委員会による数ヶ月にわたる共同作業の成果である。この編集委員会は、科学者、研究者、コミュニケーター、アマゾンのさまざまな地域で社会・環境正義のために何十年も活動してきた活動家で構成されている。

ハインリヒ・ベル財団が発行する他のアトラスとは異なり、この出版物は、歴史的に西洋の植民地化モデルとヨーロッパ中心主義的な科学の構築によって劣等とされ、迫害され、破壊さえも受けてきた知識と、多分野をまたがる科学の両方を組み合わせるこ

とで、認識論的な議論を喚起することを目的としている。

本書はこうした慣例を打破することを目的とし、アマゾンの生物群と、その植民地化と管理に関する構造的な事実および今日もこの地域を支配している社会政治的、経済的な問題を理解するのに役立つ状況分析の両方を提示する。さらに、気候問題の行き詰まりに対する解決策として可能性を示す先祖伝来の知識も紹介し、危機を招いたシステムそのものを作り出した代替案とは対照的な視点を提供する。

アマゾンは岐路に立っている：ボイウナ（大蛇としても知られ、先住民のアマゾンの神話が基となっており、いくつかのバージョンがある。このアトラスに表紙にも描かれている）は、水の流れを変える能力があるとされ、その尾は、破壊力に匹敵するほどの創造的な力を持ち、世界を形作ることができると言われている。

ブラジル アマゾン アトラス編集委員会

周縁にありながらも、長きにわたり世界と結びついている

アマゾンの熱帯雨林は、歴史的見て、国際的な経済利益のための投機の間であった。今日、この地域の保全のためにグローバルな協力を獲得すべきか検討するためには、この地域を安易に捉えた植民地的なイメージを複雑に考察し、議論においても地元の主体性を確保することが必要である。

世界はアマゾンとどんな関係があるのだろうか？無限に遠い場所であるとか、世界地図上では「何もない」空間であると思っている人もいるかもしれない。もちろん、地球上で最も淡水量の多い河川流域を横切る、地球上で最大の地続きの熱帯雨林であることは言うまでもない。緑の肺なのか、それとも敵対する荒野なのか？現代生活の喧騒から遠く離れたエキゾチックな楽園か、それとも原材料に満ちた土地か？何世紀もの間、アマゾン地域は世界中の想像を膨らませる場所だった。権力者の頭の中では、常に戦略的投機の遊び場だった。この中で、地元住民の利益はほとんど考慮されておらず、彼らの多様な日常的現実もほとんど隠されたままである。しかし、極端な周辺の立場に見えるかもしれないが、アマゾンは常に世界とつながっていた。

コロンブス交換の一部であったマニオックなどの産物は、アマゾンが原産地である。アマゾンのゴムは、産業化において最も重要な原材料のひとつであり、今日に至るまで、ヤシの実のアサイーの例が示すように、アマゾンの製品は世界的な「流行」となっている。しかし、このような世界との相互関係は、ほとんどの場合、不平等で一方的なものであった（そして今もそうである）。ゴムはアマゾンの一部の人々だけに富をもたらしたが、ほとんどの人々は過酷な労働と生活環境におかれ、借金の返済として労働を課せられ、搾取に耐えなければならなかった。

一般的に、アマゾン周辺部と世界との関係は、インフラと暴力の歴史として書くことができる。このことは、1970年代の道路建設に象徴されている。アメリカの支援を受けた企業・軍事独裁政権が、実際に必要な農業改革の代わりに提唱した誤った植民地的な「代替案」によれば、アマゾンは「土地なき人々」のための「人々なき土地」であるとされ、開拓されるはずであった。しかし、ブラジルの南部や南東部から移住してきたのは小規模農民だけでなく、多数の投資家や、とりわけ投機家であり、そのなかには、アマゾンを新たな「遊び場」（土地投機、食肉生産、資源採掘）のように利用した外国資本も大量に含まれていた。

長年にわたり、アマゾン地域への圧力は、資源採掘（カラジャス鉄鉱石鉱山など）、エネルギー生産（アマゾン地域のダムや水力発電所。例えばベロ・モンテは、外国企業

が巨額の金を儲けている、世界でも最大級の水力発電ダム群である）、特にその南部の辺縁部における世界市場向け大豆栽培の急速な拡大（しばしば火事、森林破壊、土地収奪と関連）という大規模プロジェクトにより、ますます高まっている。今日でも、アマゾンの「開発」をめぐる言説の中心はインフラ問題（道路、鉄道、水路）である。しかし、焦点は常に世界市場が求める商品であって、そこに住む人々ではない。このため、強制移住や環境破壊、ほとんどのプロジェクトで参加権や事前協議が組織的に行われていない問題など、深刻な人権侵害が起きていることは明らかである。

アマゾン川流域地帯は、何世代にもわたって川辺で、川とともに生きてきた地域からますます遠ざかり、道路の上で、道路とともに生きる地域のようになりつつある。これは熱帯雨林の破壊、生物多様性の損失、気候変動に関連している。そして以下の条件がアマゾンと世界をつなぐものでもある：グローバル化と地球環境変動の多面的な相互依存関係がこれほど顕著な地域は他にないだろう。

国内的には、アマゾンの森林は、海を除けば世界最大の炭素吸収源であることから、国際的な経済交渉や気候変動交渉においても重要な交渉材料となる。この背景は、政府、地元の支配層、多国籍企業だけでなく、先住民や地元のコミュニティ、草の根運動、ならびに（国内・国際）NGO をも巻き込んだ対立する2つのパラダイムの間にある根本的な緊張関係を浮き彫りにしている。一方は、採取的かつ投機的な資本主義の「最後のフロンティア」のひとつとしてのアマゾンであり、もう一方は、人類共通の遺産の一部としてますます枠にはめられつつある、自己決定的で持続可能な開発のための場所としてのアマゾンである。加えて、さらに複雑なことに、新たな資産としての炭素市場の拡大など、市場をベースとした気候変動の解決策に関する提案も混在している。

結局のところ、成長と近代化を原動力とする地域的な「開発」とバイオエコノミーを推進する一方と、内発的な潜在力と自己決定に基づく持続可能性を追及する他方との間の対立が、アマゾンを「利害がぶつかり合う戦場」にしている。

このように複雑で、絶えず変化し、最も多様な利害に左右される構造を考えれば、今日に「ひとつの」アマゾンを語ることは難しい。アマゾン川流域地帯はたくさんある：多くの人の頭の中では、アマゾンは農村部が占めていると考えられている。しかし、アマゾンの住民の大半は現在、都市に住んでいる。こうした都市の中心部では、所得格差が激しくインフラが不足している一方、活気に満ちた独自の文化が共存している。

森の住民のアマゾンは、ここ数十年の間に彼らの願望、ライフスタイル、価値観を携えてやってきた移民のアマ

アマゾンとマルチスケール・コネクティビティ
外部からの圧力にさらされる地域／地方環境。

- 1876  ヘンリー・ウィッカムが、アマゾンのゴムの種をロンドンのキュー・ガーデンに密輸。
- 1907 マデira・マモレ鉄道の建設が始まり、第1次ゴム・ブームが終焉を迎える。
- 1920 タバジョス川にヘンリー・フォードのゴム農園、フォードランディアを設置。
- 1942 ワシントン合意「ゴム兵士 (Rubber soldiers)」がアマゾンで短い第2次ゴムブームを巻き起こす。
- 1970  国家統合計画 (Programa de Integração Nacional, PIN)、国道の建設、農業植民地化、牧畜の促進、そして軍事独裁政権によって、アマゾンの周辺地域が明確に組み込まれ始める。
- 1978 アマゾン協力条約 (Amazon Cooperation Treaty, OTCA) は、アマゾン盆地8カ国の協力を強化することを目的としている。
- 1978 アメリカの億万長者ダニエル・キース・ルートヴィヒは、セルロース工場と発電所をジャリ川の巨大プロジェクト (結局は失敗に終わった) に移設する。
- 1982 グランデ・カラジャスは、アマゾン東部における巨大な鉱業とインフラ整備計画であり、アマゾン東部をグローバル化経済に服従させるものである。
- 1984  ポロノロエステ:世界銀行はアマゾン西部の道路建設と農村地域開発に携わっている。
- 1992  ブラジルの熱帯雨林保全のためのパイロット・プログラム (Pilot Program to conserve the Brazilian rainforest, PPG7) の始動は、アマゾンにおける国際協力の新たな段階を開始するものである。
- 2004  森林保護・伐採防止行動計画 (Preservation and Deforestation Control Action Plan, PPCDAm) の実施は、アマゾンの熱帯雨林の破壊を制御し、対抗し、削減させる段階の始まりである。
- 2008 アマゾン基金は PPG7 に代わるもので、国際的な気候変動プロジェクトに新たな資金調達モデルを導入する。
- 2010  経済成長加速計画 (Growth Acceleration Program, PAC 2) は、アマゾンのインフラ拡充 (高速道路の建設とアスファルト舗装、水力発電所) を目的としている。
- 2016  アマゾンの持続可能性政策の解体と新自由主義的開発の強化の始まり (大豆輸出のための民間港湾ターミナルの拡大など)。
- 2023 アマゾンの持続可能性政策を復活させ、グローバルな気候ガバナンスに戻す。
- 2025  COP 30。

ブラジリアント・アマゾン・ヴィエイラ (PLAVIA DO AMAZONAL, VIEIRA, XANTON, GOI) (MARTIN CC)

ゾンと明らかに異なる。植民地による大量虐殺に抵抗してきた約180の先住民族は現在、他の孤立したグループとともにこの地域に暮らしている。彼らと並んで、天然資源の採取で生計を立てている、いわゆる伝統民族もいる。近年、その社会的背景はわずかに変化しており、これらの人々は自分たちの土地と権利を守るためにますます目立つようになり、公的な議論に独自の視点を持ち込むようになってきている。その一方で、大豆農家、牧畜業者、小規模農家、金鉱探鉱者のアマゾンがある。これらのフロンティアはしばしば重なり合うが、同時に互いを排除し、立ち退かせあっている。したがって、アマゾンは、自然との付き合い方についての考え方や良い生活についての考え方が、非常にダイナミックに交錯するパッチワークのような地域なのである。遠くから見ると均質に見えるものでも、よく見ると、認識、知識、価値観が膨大に蓄積されている。この地域に対する多様な提議が増えつつある今、アマゾンに対する国際協力のルール、手段、目標を再考し、新たなモデルを構想する時期に来ている。

気候変動という緊急事態の中で、回復力と適応に関する深い知識を持つ森林の民の先祖伝来の技術を重視する提案は、より大きな注目に値する。「アマゾンの人々」について考える際、気候正義を考慮することは不可欠であり、植民地的な「他者」の概念を超える必要性が極めて重要である。これには、地元の文化や所得創出に根ざしたイニシアティブを強化し、地元の人々が意思決定プロセスに有意義に参加できるようにすることで、包括的な可能性を構築することが含まれる。とはいえ、多くの場所でもまだ多数発生している紛争ではなく、実りある対話の場、多角的な交流の場へとこれらを導くことは、依然として大きな課題である。●

何十年もの間、アマゾンは外国企業による国際的な採掘プロジェクトやインフラ・プロジェクトの舞台であり、それらは地域に深刻な社会的・環境的影響を残してきた。

世界最大の熱帯雨林の地理学

開発主義のプロジェクトを遂行するために政治的・経済的な境界線を作ることは、アマゾンにおける領土管理の歴史の一部である。このような境界線は、生物群を構成する一連の生態系を引き裂き、社会的・環境的損害を引き起こしている。

アマゾンの生物群は、世界最大の熱帯雨林によって形成された生態系のネットワークとして理解でき、地球上の全生物種の50%に相当する生物保護区である。アマゾンはブラジル国内だけにとどまらず、近隣諸国にも拡大している。ただし、ブラジルでは、その生物群は国土のほぼ50%を占め、その面積は690万km²、ブラジルの9つの州にまたがっている。歴史的には、この巨大な領土の管理には、他の政治的・経済的な境界線が必要だった。その中に法定アマゾンがある。

アマゾンの生物群とアマゾンの熱帯雨林がブラジル領土と国境を接する近隣諸国に広がっているのに対し、法定アマゾンは1950年代に、この地域の経済的開発の停滞に立ち向かうことを主目的とした政治的プロジェクトによって確立されたブラジルの区分である。法定アマゾンに属する地域の分割に加え、アマゾン地域はさらに東部アマゾンと西部アマゾンに細分化された。東部にはパラ州、マラニオン州、アマパ州、トカンチンス州、マツグロツソ州が含まれる。西部はアマゾナス州、アクレ州、ロンド

ニア州、ロライマ州からなる。

これらの領土区分は、主に1960年代から2000年代にかけてアマゾン開発監督局 (Superintendence for the Development of the Amazon, SUDAM) によって実施された領土管理に役立った。同局は、主に国道などの大規模な国家統合プロジェクトの建設を通じて、アマゾン地域において一連の植民地化プロジェクトを実施した。この移住の過程において、入植者たちは先駆者、開拓者としての性格を持ち、地元住民(主に先住民族)の領土と生活様式の関係は無視された。ブラジル連邦政府は、アマゾンを進歩の名の下に支配し、探検してもよい広大な地域とみなしていた。

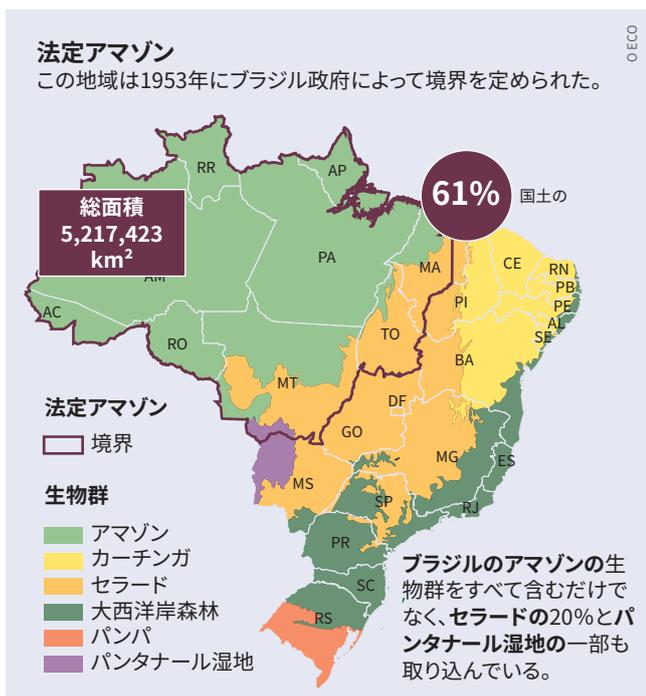
一方、環境問題は国際的に注目されるようになり、ブラジル政府は対外的な圧力に押され、アマゾンを無秩序に占拠する行為が生み出す環境への影響を軽減しようと努めるようになった。森林伐採の増加に歯止めをかけるため、連邦政府は「Planaflo」という新しいプログラムを導入した。この新プログラムの主要目的は、アマゾンの管理が適切に実行されるように、アマゾンの領土を整理することであり、経済的および環境的な懸念の両方に対応することを目指していた。

1980年代後半、政治的舞台における環境保護活動家の存在感の高まりとともに、アマゾン地域の領土管理に徐々に変化が生じた。このシナリオにより、環境管理機関が設立され、その主要機関がブラジル環境・再生可能天然資源院 (Brazilian Institute of the Environment and Renewable Natural Resources, IBAMA) である。さらに、森林地帯に立地する不動産に対して80%の法定保護区を要求するなど、生物群を守るための森林破壊規制が設けられた。

アマゾンの熱帯雨林のさまざまな地域が、農業フロンティア拡大地帯に分類されているため、こうした規制が必要なのである。新採取主義経済に駆り立てられ、大規模な単一栽培地帯として具現化された農業フロンティアは、人々やコミュニティをその領土から追放し、根こそぎ奪い、違法な森林伐採によって環境を悪化させている。さらに、社会環境紛争の発生率が高まる特徴も示している。

このように、ブラジル・アマゾンにおけるアグリビジネスの論理に駆り立てられた、グローバル資本の未開拓領域の拡大プロセスには、農耕地、森林地帯、水域にまたがる排他的で不平等な関係が複雑に絡み合った構造が浸

法定アマゾンの設立は、この地域の州や市町村の社会経済的發展を目的とした、領土計画や戦略的計画のための手段として機能した。



法定保護区の理解

自然空間を保護するための手段である「法定保護区」は、法定アマゾンにある農村部の土地について、その地所が置かれた場所の生物群に応じて、より高い保護率を要求している。

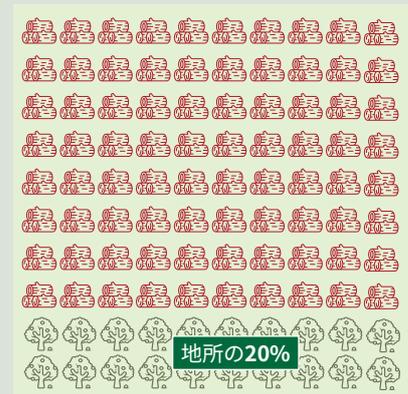
アマゾンの熱帯雨林地域



セラード地域



草原 地帯



ブラジル森林法では、この規則に対し、以下の3つの例外が認められている：

- 当該地所が所在する市町村が、50%の原生植生を維持している場合。この場合、法定保護区の比率は50%に低下する；
- 4つの財政上モジュールより小さい土地の場合、2008年に残存する森林で法定保護区を維持することができる；
- 生態経済区域 (Ecological-Economic Zoning) の統合地域にある土地は、法定保護区が最大50%削減される可能性がある。



ブラジルの法定保護区の損失は1,630万ヘクタールに及ぶ。アマゾンが、損失率において最も高く(57%)、法定保護区域として指定されるべき940万ヘクタールが伐採されている。

MARTINS, HERON (2023); TERMOMETRO DO CÓDIGO FLORESTAL

透している。

このように、グローバル市場における経済の流れを強化するために農地フロンティアを拡大するという論理は、森林破壊率や土地・領土紛争を増加させる。それだけでなく、反アマゾンの概念を(再び)突きつけ、農地と領土の対立の地図を徐々に具体化している。

このような加速的プロセスは、新たな領土構造と結びついて、社会的・経済的性質を有する空間的な影響を及ぼし、不十分な土地の分配に関連する社会的需要に対処することを目的としている。このように、グローバルレベルからローカルレベルまで、農村と都市のダイナミクスは絡み合い、社会経済的、領土的、人口学的要素を形成している。したがって、アマゾンは、アグリビジネスの影響を受けたマクロ地域における資本フロンティアの拡大という重要な地理的条件に基づいて理解されることが不可欠である。

アグリビジネスのフロンティアの拡大と、その結果生じた農地・領土紛争の最近の例は、ブラジルの3つの州(アマゾナス州南部、アクレ州東部、ロンドニア州北部)からなる「アマクロ (AMACRO)」と呼ばれる3つのフロンティアとマクロ地域である。この地域の農業景観は、マルチスケールかつ多角的な空間的・領土的変容を遂げてきたことが顕著である。これは、森林伐採に続く大豆生産の拡大や、それに伴う畜産業の移転に起因している。移転することで、フロンティア拡大の論理に従い、新たな地域へとさらに拡大していくのである。

したがって、新採取主義に関連する活動の移転の論理

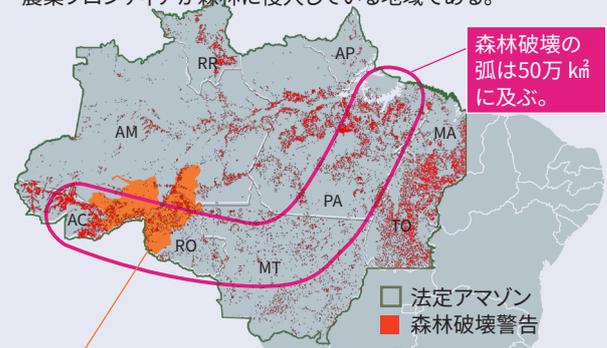
AMACRO は、アマゾン開発総局が2021年に開始したプロジェクトで、「持続可能な開発のための特別区」の創設を構想している。しかし、科学的調査によって、この地域はアマゾンで最も新しい森林破壊のホットスポットに分類されている。

法定保護区の保証は、2012年のブラジル森林法に規定されており、主にアマゾン地域に関連する割合を削減しようとするいくつかの法案によって争議の対象となっている。

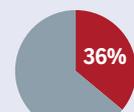
は、主に、失敗した農地改革と土地の正則化政策、土地闘争の犯罪化が進む中で、新たな開拓戦線の開設によって生じている。さらに、アマゾンが国際的な土地市場に参入することも、このプロセスを後押ししている。●

森林破壊の弧と新しい農業フロンティア

アマゾンの森林伐採率が最も高いのは、農業フロンティアが森林に侵入している地域である。



AMACRO (構成する3つの州の頭文字) という名前の地域がある。この地域は、ブラジルで最も新しい農業フロンティアである。32の市町村があり、93の保護区と49の先住民の土地が重なっている。



2022年には、AMACRO 地域は法定アマゾンの森林減少の36%を占めていた。

IPAM; O ECO; AMAZON

アマゾンの水

アマゾンの水循環は世界最大の淡水システムを形成しており、南アメリカの大部分に降雨を行き渡らせ、地球の気候に直結している。このように、森林破壊および水生生態系への脅威は、地域的にも世界的にも影響を及ぼしている。

アマゾンの水循環は、南半球の季節的な温暖化によって調節されており、これにより赤道直下の大西洋からアマゾンに水分が運ばれ、いわゆる「南アメリカモンスーン」が発生する。モンスーンの雨は、アマゾン川の洪水サイクルにおける氾濫期、増水期、干潮期、乾期を決定する。森林は、大量の水蒸気を運ぶ気団、いわゆる「空飛ぶ川」によって、南米大陸の大部分にモンスーンの雨を再循環させ、分散させている。世界最大の淡水系は、このように形成されている。それ故に、河川はアマゾンの熱帯雨林の存在に依存している。

アマゾン盆地の淡水生態系には、大規模な河川、湖沼、入り江のほか、氾濫原や湛水林などの季節的な水生環境、あるいは湿原(牧草地や河川間地)などの飽和土壌の環境が含まれる。ブラジル・アマゾンの主要な帯水層であるアウテル・ド・シヨンとイサは、アマゾン川の本流に沿った堆積盆地に位置し、自治体や地域社会の主要な水源となっているほか、生態系の維持にも大きく貢献している。アマゾン水域の物理的・化学的多様性は膨大で、川の階級の低下に伴いさらに増加する。

アマゾン川の水生生態系は、毎年発生する洪水パルスによって相互につながっている。洪水パルスは、水生環境と陸上環境の間に移行帯を形成し、水の流れと土砂

を運ぶことができる。アマゾンの川は地球上で最も多様な淡水魚を育てており、記載されている有効な淡水魚種の約15%を占めている。魚類以外にも、カピバラ、ネオトロピカルカワウソ、オオカワウソ、カワイルカ、キロガメ、マタマタ、アナコンダ、ワニ、数種類の鳥類など、水生生態系や季節的に氾濫する生態系に関連する脊椎動物がいる。毎年見られる魚類の遡上(ピラセーマと呼ばれる)、鳥類、昆虫の移動、河畔林の樹木の開花や結実は、アマゾン盆地の人間の農業生態系やその他の自然生態系にとって不可欠な生物資源である。

この複雑でダイナミックなシステムが脅威にさらされている。例えば、水力発電を行うために河川を堰き止めることは、洪水と干ばつの自然のサイクルや水生生物の移動通路を妨げ、土砂や栄養塩が運ばれるのを妨げる。水生生態系に生息する生物の一部は、土地利用の変化や大規模なインフラプロジェクト、外来種の侵入、採掘、そして近年における気候変動による直接的・間接的な影響によって、極めて重大な脅威にさらされている。地球上で進行している気候変動は、気温の上昇や極端な干ばつの頻度増加を通じて、アマゾンの水生生態系に影響を与えている。森林伐採と道路の増設は、水路の分断を引き起こし、水路の構造的特徴を変化させ、水路に生息する種の絶滅を招いている。また、農薬や工業用殺虫剤による有毒残留物の投入や、未処理の下水の排出など、公害による悪影響も拡大している。

土壌水分、地表水、地下水の水質を維持し、保護区、

アマゾン川は大西洋に流れ込み、淡水が優勢なデルタ河口域を形成している。この地域では、潮の満ち引きが洪水に影響を及ぼし、水位は4メートルから6メートルの範囲で変動する。

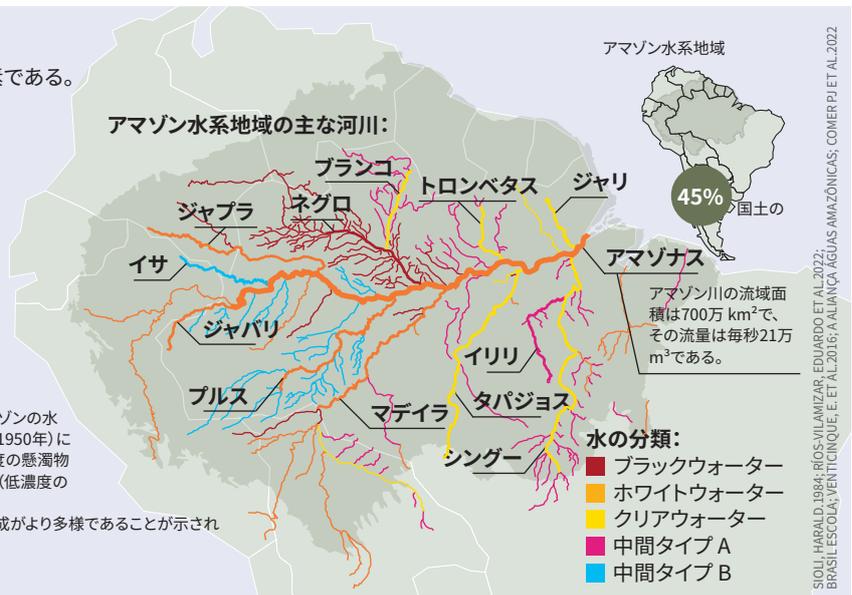
水域の生物群

川はアマゾンの生物多様性にとって不可欠な要素である。



月間降水量は、3月で200 mm以上、11月で50 mm 以下になることがある。年間平均降水量は地域によって異なるが、1,800 mmから3,000 mm と地域によって異なる。

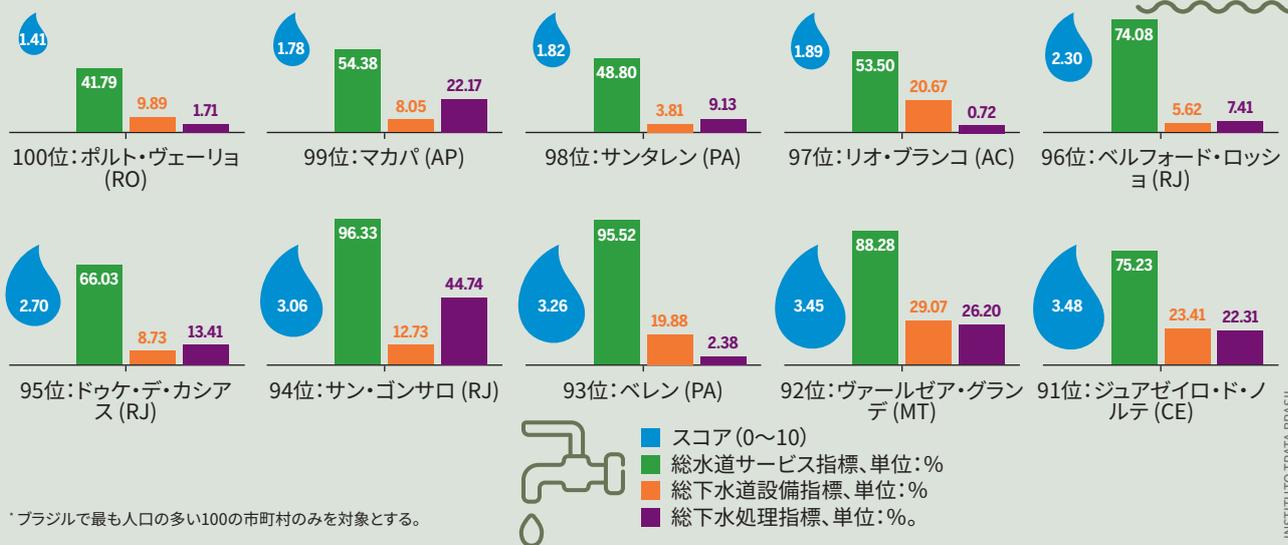
河川の水の色は、物理的および化学的変質によって変化し、懸濁物質(無機物)や溶解性有機物などの要因を明らかにする。アマゾンの水の科学的分類として最も広く使われているのは、ハラルド・シオリ(1950年)によるもので、彼は3つのタイプ、すなわちホワイトウォーター(高濃度の懸濁物質)、ブラックウォーター(高濃度の溶解性有機物)、クリアウォーター(低濃度の懸濁物質と溶解性有機物)を特定した。水化学データを分析した最近の研究では、アマゾンの水の化学組成がより多様であることが示されている。また、アマゾンの河川を、AとBの2つの中間タイプに分類している。



アマゾン水系地域
アマゾン水系地域の主な河川:
アマゾナス
アマゾン川の流域面積は700万 km²で、その流量は毎秒217万 m³である。
45%の国土の
SIOU, HARALD, 1984; RÍOS-VILAMIZAR, EDUARDO ET AL., 2022; BRÁSHI, ESCOLA, VENTURINO, E. ET AL., 2016; ALIANÇA ÁGUAS AMAZÔNICAS; COVER, PI ET AL., 2022

基本的衛生環境ランキング最下位

このランキングによると、国内で最も基本的衛生状態が悪い10の自治体のうち6つの自治体が法定アマゾンにある。*



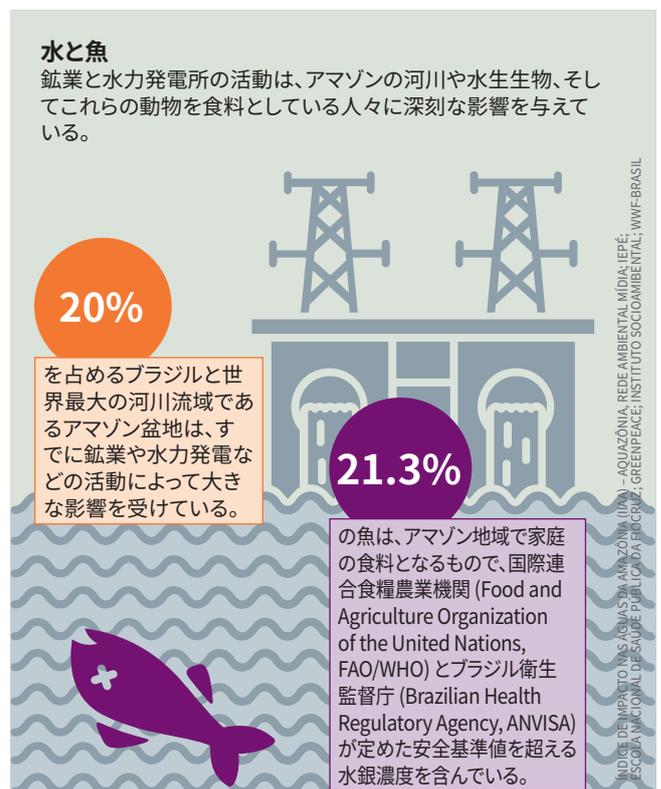
永久保護区、法定保護区を守り、先住民の領土の画定を継続するための行動を優先することが急務である。河川はアマゾンの社会的・生物学的多様性において極めて重要な役割を担っていることから、河川を法的権利の対象として認める構想がいくつか提案されている。アマゾンの河川の法的地位の承認はコロンビアで始まり、 Rondônia州グアジャラ・ミルムの基本法に示され、ブラジルのベロ・モンテ水力発電所の認可を求める公開民事訴訟で言及された。この発電所は、シンゲー川の水の分配をめぐる大きな紛争を引き起こし、伝統的なコミュニティや都市コミュニティ、水生生態系の生活に大きな影響を与え、いくつかの魚種の絶滅の危険性を増大させた。

アマゾンの川は、多くの原住民の領土の一部である。これらの民族はしばしば、川を自分たちの延長として、ボディ・テリトリーとして認識している。川は文化と生命の学校のようなもので、人々に泳ぎ方、釣り方、航海術を教えてくれる。また、雨の降るタイミング、黄色い斑点のあるカワウミガメの繁殖、果実が水中へ落下する時期、魚の回遊についても学ぶことができる。アマゾンの人々や動物、植物の生活は、河川に発生する自然な洪水サイクルに依存している。河川は、食料主権、航海、交流ネットワーク、娯楽、文化的再生産、そしてアマゾン特有の生活様式にとって不可欠な生物文化的テリトリーなのである。たとえば、シンゲー川のヴォルタ・グランデに住むコルナ/ユジャの人々は、「足の代わりにカヌーを持つ川の主」として知られている。しかし、ベロ・モンテ水力発電所によるシンゲー川の分水によって、彼らの川と身体が繋がったテリトリーや文化、川辺のアイデンティティも破壊されつつある。アマゾンの水、河川、森林、そして人々の文化を保護す

アマゾンの水生生物相の一部は、略奪的活動の直接的・間接的影響によって極めて重大な脅威にさらされている。

ブラジルの総給水量の平均値は95.68%だが、北部地域には指標が50%未満または50%に近い自治体がある。

るための計画や取り組みにおいては、これらすべての側面を考慮しなければならない。●



領土から混乱へ

アマゾンの植民地化は、この地域が「無人の土地」であるという概念に基づく土地の混乱を引き起こした。今日でも、この混乱の原因となったのと同様の集団が持つ利害は、地域を保護するための土地の配分や伝統的な権利の承認に向けた努力を依然として脅かし続けている。

アマゾンには歴史的に、伝統的な先住民族や原住民族が自分たちの領土で常に危険にさらされており、社会・環境問題の解決を政府に頼ることができない地域として認識されてきた。実際、ブラジルのどの生物群よりも、アマゾンには未指定の公有地があり、土地紛争が多発している。土地と領土に関する権利が不確定であるという問題は、植民地時代からアマゾンに根強く残っており、それが基本的な柱となって、領土の奪取と土地、森林、水域の暴力的な開発が行われた。

この植民地プロジェクトは20世紀、ブラジルの軍事独裁政権時代に改訂され、現在も引き続き複雑になっている。民主的な政府が復活し、新しいジオリファレンス技術が利用可能になるにつれて、地所の記録もデジタル化され、土地利用計画が策定されるに至った。それにもかかわらず、なぜこのような土地の混乱が依然として続いてい

るのだろうか。この問いに答えるには、土地に関するこうした不確定要素がどのように生み出され、再生産されるのかをよりよく理解する必要がある。

1850年にブラジルに私有地が出現して以来、土地へのアクセスは、富裕層のみが利用可能な高コストで官僚的な手続きによって規制されてきた。この手続きは、社会的、政治的、経済的な資本を有する者だけに不動産登記を限定するものだった。これは、奴隷制の時代も、それが終わった後も、特権を享受する白人に利益をもたらした。しかし、1889年にブラジルで共和国が宣言された後も、地図の作成と不動産登記の方法はほとんど進歩しなかった。

ブラジルにおける土地登記制度の採用、後にラテン・モデルの土地登記法に統合されたが、それはブラジル社会の階級的・人種の構造を強固にする手続きと連携した、官僚主義的な代案にすぎなかった。連邦政府は、遺言書や証書を作成する権限を、記録だけでなく情報へのアクセスも管理する家族運営の公証役場に委任した。

連邦政府の介入による土地の整理、つまり土地統治に対する要求は、共和政時代にも継続しており、大規模

侵略された公共区域を私有地として正則化できるようにする攻撃的政策は、計画的に更新される。

土地収奪は金になる

土地収奪と篡奪に恩赦を与えた主な法律と法的文書の年表。

1850

土地所有法

ブラジル皇帝から与えられた土地の権原 (sesmarias と呼ばれる) を私有化し、ブラジルの主要な土地所有形態として私有地制度を確立した。

1931

1931年法令第19924号

空地 (連邦政府の管轄に移された sesmarias の残存地) を規制し、新しく占有することは阻止できたが、すでに占有された土地は、単に所有権を宣言するだけで合法化されることになった。

1964/1985

軍事独裁政権

連邦政府は、国家統合計画 (National Integration Program, PIN) と土地再分配計画 (Land Redistribution Program, PROTERRA) の範囲内で、国立植民農地改革院による植民地化事業を推し進め、主にアマゾン地域での土地収奪を日常的な慣行に変えた。

2012

新森林法

(法律第12651号) 公有地の民営化と森林伐採地の環境的正則化のための条件を整えた。

2009

リーガル・ランド・プログラム

(法律第11952号、臨時大統領令第458号による) 法定アマゾンで占拠された連邦公有地の土地正則化を促進するために策定され、2004年12月までに充たされた権利の帰属を保証する。

2008

臨時大統領令第422号

(法律第11763号に転換) 臨時大統領令第422号 (法律第11763号に転換) アマゾンの占有された公有地のうち、最大1,500ヘクタールが公的に認可された。

2006

公有林野管理法

(2006年法律第11284号および2023年法律第14590号) 連邦政府が所有する公有地を、民間利用、特に木材関連目的の森林伐採権に割り当てることを規定。2023年の改正には、民間の炭素プロジェクトに公有林を割り当てることも含まれている。

2017

臨時大統領令第759号

(法律第13465号に転換) 土地収奪者に対する恩赦を延長し、正則化の終了期限を2008年7月まで早め、土地の取得可能面積を2,500ヘクタールに拡大し、私有地としての権原取得を可能にした。

2019

臨時大統領令第910号 (失効)

2019年12月まで、土地収奪者が侵略した公有地の広範な譲渡を可能にした。

2021

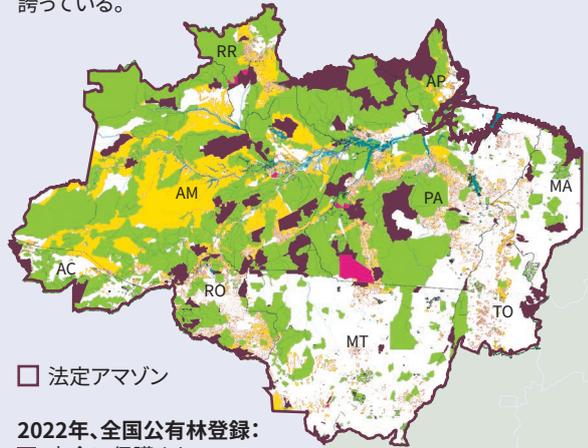
ティトゥラ・ブラジル・プログラム

ブラジル農畜産省が開始したこのプログラムは、国立植民農地改革院と市町村自治体とのパートナーシップを通じて、土地の正則化プロセスを迅速化することを目的としており、連邦政府が所有する地域の土地の正則化に対する責任を市町村に委ねる。

PIETRO, GUSTAVO, 2020

未指定地問題

未指定地とは、連邦政府が所有する土地のうち、先住民やその他の伝統民族のために区画指定されていないもの、入植プロジェクトに割り当てられていないもの、または保護区を通じて保護されていないものを指す。これらの地域は、土地市場で高い人気を誇っている。



2022年、全国公有林登録:

- 完全に保護されている
- 未指定
- 軍事的
- 持続可能な利用

アマゾンの熱帯雨林には**1億4300万**ヘクタールの未指定地または指定がまだ不確かなままの土地があり、法定アマゾンの**28.5%**を占めている。土地収奪者は、これらの土地のうち、**23%**をすでに奪い取ってきた。

INFOAMAZONIA; GRUPO DE PESQUISA REEXISTÊNCIA; NAEA (UFPA); AMAZON; IPAM

な土地を維持し、貧困層の農村世帯を他の地域に移住させることを目的としていた。これは主に、ヨーロッパからの移民入植者、特に白人層のニーズを満たすためのものであった。

ブラジルの帝国時代、将来の白人国家ブラジルを発展させるために生まれた植民地プロジェクトの一環として、植民地化は、ヨーロッパ人の移民を優遇し、大規模な領地の維持を許可するという2種類の利益によって推進された。したがって、ヨーロッパからの移民と土地の混乱との関係は、政府が制度化したイニシアティブとなった。

20世紀における最初の植民地化の形態は、人口空白、つまりブラジル内陸部は無人の土地(テラ・ヌリウス)であり、「分配」してもよいという仮定に基づいていた。このことが、白人移民による沿道の土地の占領計画に拍車をかけ、次いで、これらの土地は会社設立のために引き渡された。1938年のジェットウリオ・ヴァルガス大統領による「西方への行進 (March to the West)」から1964年から1985年の軍事政権に至るまで、アマゾンにはブラジルの移民、植民地化、統合の舞台となった:これらの政府は、大規模な幹線道路を開通させ、国立植民農地改革院 (National Institute for Colonization and Agrarian Reform) を設立し、何十万ヘクタールもの土地(すでに複数の伝統民族が住んでいた場所)を企業や大地主に分配した。

アマゾンを「テラ・ヌリウス(無人の土地)」とする言説

土地収奪という犯罪は、公有地や第三者の土地を不正な権原によって不法に占拠することである。ポルトガル語で「grilagem」(土地収奪)という言葉は、古くから行われていた慣行に由来している。この慣行は、これらの土地権利書をコオロギ(ポルトガル語でgrilos)の入った箱に保管し、コオロギが紙を黄ばませることで、権利書が古いものであるかのように錯覚させるというものであった。

州政府はアマゾンの未指定地に対し、一義的な責任を負っており、州レベルの法律のほとんどは公有地への継続的な侵入を奨励している。

は、政府や企業によって推進され、繰り返されてきた慣習である。この「テラ・ヌリウス」という概念を確立することは、先祖伝来の伝統的な、長年にわたって暮らしてきた存在や土地との関係を否定することを意味する。これは、先住民の土地や、キロンボ、伝統的コミュニティ、権利を持たない住民たちの領土のはく奪を押し進めるものだった。

1984年以降、全国農地改革計画と1988年憲法が、環境と民族の権利を認めたことにより、土地と領土に対するアプローチは変化した。その後実施された土地利用計画政策は、依然として国際協力を頼りにしており、土地の混乱を克服するという課題に直面している。これを解決するには、アマゾンの土地の所有権が不明確であるのを利用して、土地収奪を推進してきた貴族集団や新興資本主義企業に対抗する必要がある。

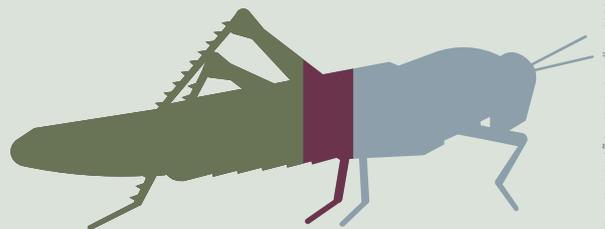
2000年代初頭には、この土地混乱に対抗するため、採掘保護区、国有林、入植プロジェクト(従来型か環境対応型かは問わず)、先住民の土地やキロンボの土地など、さまざまな種類の保護区に土地を指定する政策を通じて、大きな進展があった。しかし、課題は依然として残っている。特に、これらの土地の指定のための法的手段の縮小、再修正、取り消しといった後退の試みに関しては、今もなお問題となっている。

1970年代にアマゾンで集められた連邦の土地(図面)の中には、2022年に連邦政府によってジオリファレンスで記録が更新されたばかりのものもある。これらの地域の正則化(権原の取得)は、買い手が煩雑で官僚的な登録手続きを開始した場合にのみ発生する。そして、最終的に、昔からあったその土地との関係性も完全に消滅させてしまう。土地の利用や指定は、社会階級や人種に応じて、常に特定の人々に向けて確保されているという考えを広めるために、言説としても実行策としても、「テラ・ヌリウス」という概念が繰り返し強調されている。●

土地収奪に関する白書

1999年に INCRA によって発表されたこの文書は、何千万ヘクタールもの土地を公有地に戻すことを目的としていた。

この調査では、10万ヘクタール以上の土地の衛星画像の分析と、連邦政府および連邦歳入庁の土地の登記を照合した。



この調査では、国内の1億ヘクタールの土地が強奪されたと結論づけている。

- アマゾナス州 (55%)
- パラー州 (9%)

KATO, KARINA ET AL. FUNDAÇÃO HEINRICH BÖLL, 2022

アマゾンの生物的痕跡

アマゾンの景観が千年単位で変化している事実は、原住民が森林の形成に果たした役割を証明するものであり、この地域の先住民族が今も活用し続けている先祖伝来の知識を明らかにするものである。

アマゾンは無数の河川、入り江、湖沼、運河、支流からなる迷宮のような場所である。これらの場所では、ブラジル、コロンビア、ペルーの三国国境からシングー川の左岸まで、川の増水、氾濫、減水、干ばつという周期的な季節の変化が繰り返される。この現象は、この地域の生態系のバランスにとって重要であり、古代のアマゾンの住民は、これらの空間や場所を生物的痕跡を残す景観へと変化させた。

生物的痕跡を残す景観とは、アマゾンの森に1万3,000年近く生息してきた先祖代々の人々の、物質的な文化と非物質的な文化の両方を包含している。こうした景観は、氾濫原から乾燥地まで、アマゾンのすべての生態系に存在する。1940年代以降、考古学的調査によって、これらの先祖代々の人々の痕跡が残る森林などの空間や場所に、継続的な介入があったことが明らかになってきた。

森林に埋め込まれた生物的痕跡とは、人間の行為によって改変された景観のことであり、このような行為は主に、既存の植物の種子や苗を乾燥地の生態系から氾濫原

地域に移動させることから成っている。このような生態系の中にある遺跡には、多種多様な植物が生息しており、現代の先住民や遺跡を管理する人々には容易に見分けがつかない。これらの遺跡は、過去と現在の両方を理解するための膨大な知識の宝庫であり、野外の実験室のような役割を果たしている。これらの遺跡からは、家畜化された植物種に加え、石器(全体的または部分的に石で作られたもの)や陶器が発見され、古代アマゾンの環境史がさらに明らかになった。

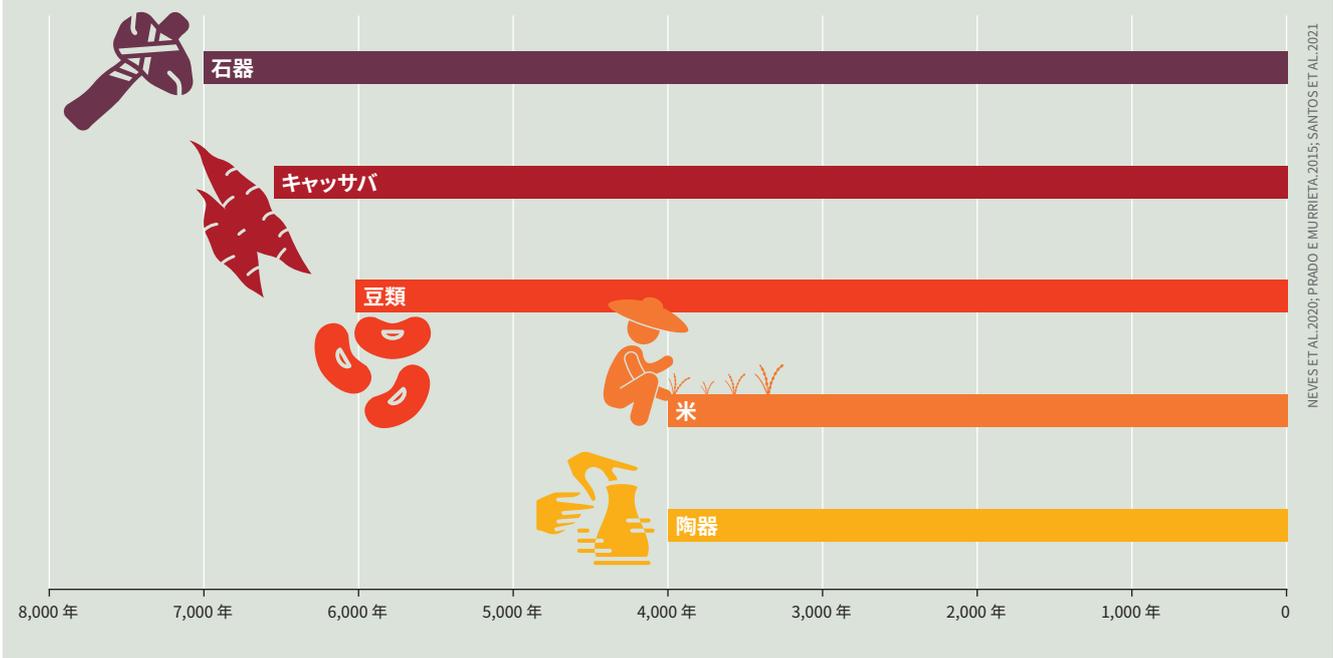
古代アマゾンの栽培化された植物については、考古学的研究によって食物残渣が証拠となり、管理・栽培化された植物の存在が解明された。 Rondônia州のグアポレ川右岸支流である、ブランコ川沿いにあるモンテ・カステロ貝塚遺跡では、キャッサバの茎の栽培やキャッサバの根から抽出したデンプンなど、植物が栽培されていた証拠となる多くの情報が発掘された。

考古学的調査によるもうひとつの発見は、「祖先のページ」とも呼ばれる「先住民のパン」である:これは、キャッサバにでんぷんと粟を混ぜて作った生地を焼いたもので、先住民が畑の休耕期間中に母なる大地に捧げる儀式の一環として土に埋めたものである。アマゾンで何千年

生物的痕跡のデータは、私たちが今日アマゾンの生物群として見ているものが構築されていく過程に、人類の祖先が参加していたことを証明している。

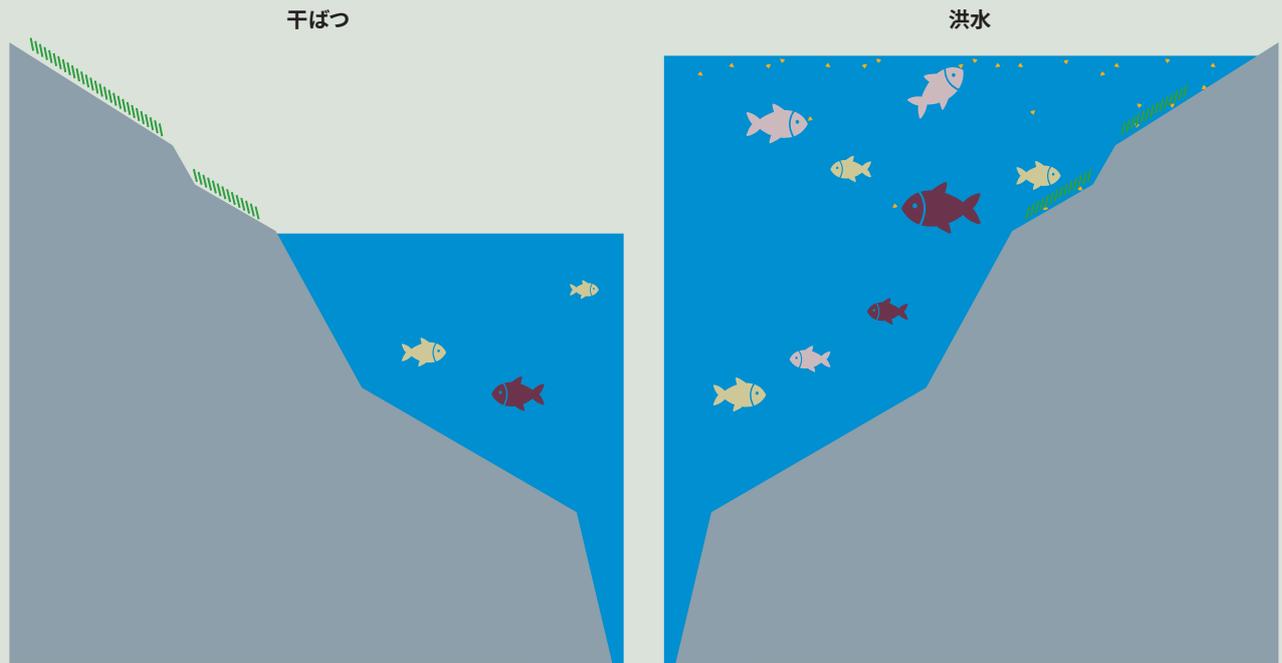
古代アマゾンの生物的痕跡

アマゾンの遺跡からは、栽培された植物、道具、千年前の陶器が見つかる。



アマゾンの風景における米のサイクル

先祖代々から管理されてきた栽培化された作物であるイネは、森にあるその他の種のライフサイクルの一部である。



湖、小川、水路、川岸では、氾濫原と乾燥地の生態系の両方で、水が引いた時に稲の緑の絨毯が出現するのがよく観察される。増水が始まると、水田は稲穂を揺らした。3月から4月下旬にかけて、イワシ、パクー、レッドコロソマ、タンバキなどの魚がこの米を食べる。

もの間栽培されてきた苦味種と甘味種のキャッサバの茎に加え、考古植物学の研究は、先祖代々の人々によって管理されてきた他の植物種の存在も明らかにしている。パイナップル、アサイー、バカバヤシの果実、白いサツマイモと紫のサツマイモ、ピーナッツ、栗、ココア、ガラナ、ココナ、カボチャ、トウガラシ、ジェニパップ、クラジル・カイオエ、トゥクマン、ピキア、アマゾンココヤシ、ウルクリ、ムカジャ、ムムルム、アンディローバ、コパイバ、スクバ、トマト、パッションフルーツ、トウモロコシ、豆、米などが挙げられる。

先祖代々、人々がその土地に定住するにつれて、彼らは安定を得るための代替手段を開発し、社会的需要を満たすための技術を生み出した。こうしたニーズを満たすために、彼らは日常のさまざまな活動に合わせて石製の加工品を作った。これが石器の始まりである。

20世紀前半にアマゾンで行われた調査では、一部の森林では原材料の入手が限られていたため、石器はあまり一般的ではなかったと結論付けられている。しかし、1990年代以降の研究によって、先祖代々の人々が社会的なニーズを満たすために、興味深い道具を生産していたことが明らかになっている。これは先住民族同士の文化交流により作り出されるようになった。例えば、ネグロ川上流域の人々は、アマゾン川上流からソリモンエス川に隣接する地域の人々との交流を維持し、原材料の供給を促進した。

考古学者エドゥアルド・ゴエス・ネヴェスがコーディネーターを務める中央アマゾン・プロジェクトが2002年にアマゾナス州イランドゥバで行った考古学的発掘調査で、ドナ・ステラ遺跡から紀元前7,000年から6,500年のものと推定される矢じりが出土した。斧の刃、すりこぎ、へら、泡だて器、くさびなど、その他の道具は、氾濫原と乾燥地

5月から6月にかけて、川の氾濫がピークに達すると、稲は氾濫した土壌から離れる。風に乗って、その種子は川に沿って漂い、上流または下流に流れる。この頃になると、鮮やかな緑色は消えていき、黄色がかった風景に変わっている。生物学的痕跡は、種の中にある生命が誕生する場所を象徴している。

帯の両方の遺跡で確認された。このように、石器はアマゾンの集約的労働の需要に応えるために発達した文化産業の基盤だった。これは、これらの地域に現在見られる植物の豊かな多様性に寄与した可能性があり、科学は、この現象を「バイオエコノミー」と表現するようになった。

完新世のアマゾンの社会環境では、紀元前6,000年前と推定される時代に、人々が食料、水、飲料、種子を貯蔵するための方法を発展させるに伴い、考古学的な焼成された土器、つまり陶器が出現した。遺跡の発掘調査では、シニンブ陶器とバカバル陶器が出土している。深さ約6メートルの最初の層で発見されたシニンブ陶器は、窯の五徳に関係する、焼成された粘土の小さな塊である。一方、バカバル陶器は約4000年前にさかのぼる装飾土器である。これらは、古代アマゾンのこのような生物学的祖先の痕跡の記録の例であり、景観の育成と保全の背後にある先住民の知識が祖先由来であることを証明している。このような証拠から、森との関わり方における略奪的ではない方法が明らかになった。●

先祖伝来のノウハウ

アマゾンの熱帯雨林は、数千年にわたり原住民によって植林されたものであり、生態系の維持は原住民の知識に依存している。このプロセスにおける手段のひとつが、アマゾンのダークアースである。これは、古代から人が育ててきた栄養に富んだ黒い土につけられた名前である。

アマゾンという世界最大の熱帯雨林の景観は、何千年もの間、先住民族によって管理されてきたものである。近年では、いわゆる伝統民族もこの科学の発展に貢献してきたことがわかっている。これらの民族は、文化的再生産を通じて生態系とその環境に対し役目を果たし続けられるよう促し、その生活様式において自然資源と独自の関係を築いている。考古学的研究によると、現在のブラジル・アマゾンには、少なくとも1万1200年前から先住民族が居住していたという。アマゾンの先住民は、自らの知識、科学、技術を利用して、生物多様性と農業生物多様性を生み出し、増幅し、維持し、土壌肥沃度を高めてきた。このプロセスの成果のひとつが、よく知られた「アマゾンのダークアース」である。栄養豊富な人造土壌は、植物の管理に不可欠であり、私たちが共有する故郷への配慮に根ざした、人間と自然の明確な関係を証明している。

アマゾンのダークアースは、古代集落において人間が長期にわたり精神的に努めてきたおかげで、有機物が蓄積された結果、人類が作った地層となった。この土壌は、コロンブス以前の陶器の存在によって証明されており、有機炭素、カルシウム、リン、マグネシウムを豊富に含み、pHが高い。現在、このタイプの土壌は、アマゾンではより集約的な耕作、短い休耕期間（地域の利用と放棄）、複数の利用サイクルと関連している。さらに、このような土壌に作られた里山や農場は、周辺地域とは異なる農業生物多様性を示している。

研究によると、ヨーロッパ人がアマゾンを征服する以

前、先住民族はアマゾンの景観を大きく変容させ、有用な種が多数を占める少数独裁的な森林づくりを促進するために環境を管理していた。アマゾン地域はまた、耕作植物を栽培する上で重要な中心地でもあり、少なくとも83種の在来種が、ある程度栽培化された個体種を含んでいる。推定では、征服前の食糧生産は少なくとも800万人を支えていた。今日、先住民や伝統的コミュニティは、遺伝的多様性を守りながら、現在進行形で積極的に多様性を生み出し、高めている。

キャッサバ (*Manihot esculenta* Crantz) のケースが良い例である。キャッサバはアマゾン中央部の先住民族によって栽培化された種であり、アマゾンの先住民や伝統的コミュニティにとって主要な作物となっている。焼畑農法は、植生を切り倒して燃やし、その後休耕期間を設けて森林を回復させるという生産システムである。これらの二次林は、これらの地域社会にとって重要な意味を持っている。キャッサバは、都心から遠く離れた伝統的な地域社会や先住民コミュニティにとって、経済的にも文化的にも大きな価値がある。研究によると、さまざまな文化グループ、伝統民族、先住民コミュニティによって栽培されているキャッサバ品種の管理方法と多様性は、生態学的、社会経済的、文化的要因の影響を受けている。

キャッサバの品種は大きく2つに分類される。野性種で苦みのある、アマゾンで単に「キャッサバ」と呼ばれるものと、マイルドで甘い、アマゾンで「マカセイラス (*macaxeiras*)」と呼ばれるものだ。この2つの品種の違いは、青酸の濃度であり、その濃度は、根の質量あたり20~30 ppmから最大500 ppm まで変動する。野生種のキャッサバは青酸濃度が高く(100 ppm 以上)、食べる前に複雑な解毒プロセスを必要とするが、マイルド・キャッサバは青酸

先住民族は、アマゾンの熱帯雨林の破壊を遅らせる役割を担っている。先住民の土地はブラジルの領土の13.9%を占めていたが、2020年にはブラジルの原生植生の19.5%を占めている。

フォレスト・アイランド

1985年から2022年にかけての、先住民の土地と私有地における原生植生の荒廃の比較。

先住民の土地における原生植生の喪失



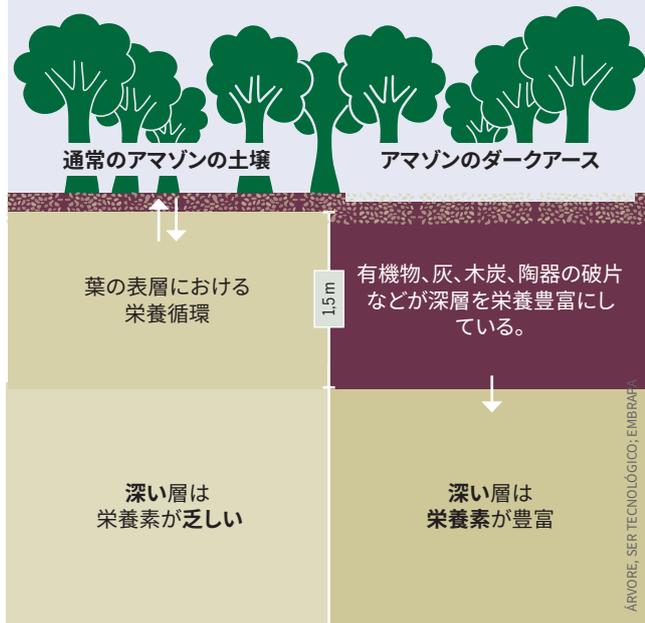
私有地における原生植生の喪失



MAPBIOMAS

アマゾンのダークアース

アマゾン地域のさまざまな場所で、先史時代の先住民が活動し、土壌のもととの性質を変容させ、その結果、栄養分が豊富な土壌になった。



アマゾンのダークアースは、アマゾン地域に複雑に密集して生活する集団が存在したことを示す人類学的、考古学的証拠にもなっている。アマゾンのダークアースの成分には、骨、動物、魚、灰、わら、樹皮、さらには人間の排泄物まで含まれている可能性がある。

沃度の低い土壌では、休耕期間が長くなり、連作回数も少なくなる。市場に向けた生産の方向性は、栽培システムの特徴に影響を与える：市場向けの生産比率が高い農家では、栽培面積が広く栽培品種が少ない傾向にあり、主に「商業用」品種が占めている。キャッサバの派生製品の生産は、いくつかの品種の栽培において決定的な役割を果たしている。タバジヨス川下流域の先住民コミュニティが管理するキャッサバにはかなりの多様性があり、土壌に応じた集荷管理に関する彼らの知識と、市場や郷土料理に向けた生産の方向性を示している。タカカはキャッサバを使ったアマゾンのレシピの一例である。苦いキャッサバから抽出した液体であるツクピーと、タピオカ澱粉の2つ材料からできている。

アマゾンの伝統民族とコミュニティの世界観と生活様式を強化し広めることは、気候変動という非常事態に立ち向かうために不可欠である。伝統民族とコミュニティがある場所には、生物多様性が息づいているからだ。●

濃度が低く(100 ppm 以下)、調理すれば食することができる。これは、この植物が長い栽培化プロセスを経てきたことを物語っている。

先住民や伝統的コミュニティは、農業生物多様性の保全において重要な味方である。研究によると、タバジヨス川下流域に位置するトゥピナンバ先住民の領土におけるキャッサバ品種の構成とその栽培システムの特徴は、土壌の種類、市場志向、地元料理の伝統に影響を受けている。栽培サイクルが短く、低デンプン質な品種は肥沃な土壌でよく栽培され、栽培サイクルの長い品種は肥沃でない土壌でよく栽培される。

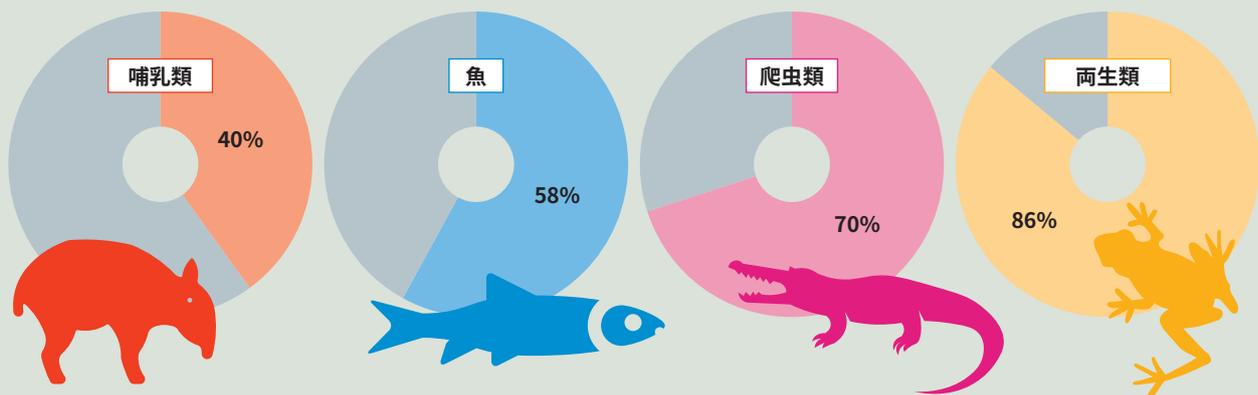
土壌の肥沃度もまた、利用率の高さと相関関係がある：より肥沃な土壌(アマゾンのダークアース)では、連続した植え付けサイクルの回数が多く、休耕期間は短い。肥

この巨大な生物多様性が脅威にさらされている：この10年間で、アマゾンで絶滅の危機に瀕している種の数には65%以上も増加した。

生物多様性第1位

アマゾンの熱帯雨林は世界の熱帯雨林の3分の1を占め、地球上の生物多様性の半分以上が生息している。

アマゾンの固有種率：



IPAM; WWF BRASIL; INSTITUTO MAMIRAUÁ; NEXO; ESPÉCIES AMEAÇADAS DE EXTINÇÃO NO BRASIL 2022 - IBGE

土着の存在論的考察

植民地化が始まって以来、先住民族は西洋の視点からは、教授しなければならない「白紙の状態」として扱われてきた。今日、大学における先住民の存在は、教育と知識のこの歴史的モデルを再構築しているところである。

世界中の先住民族の多様性は、人類の歴史における宝である。彼らが身につけている知識は、テリトリーに対する理解と深く結びついている。彼らの考察と実践は、日常生活においても儀式においても、「話す」「見せる」「行う」ことによって教え、「聞く」「見る」「行う」ことによって学ぶという方法論によって受け継がれている。ヨーロッパから植民者がやってくる以前、先住民の社会構造は、時間と空間、労働、祭り、儀式、療養、病気の予防、危険の軽減、人間と他の生物が共有する重要性の再確認などに対する彼らの理解と組織化によって形成されていた。

最初のカトリック宣教師が行った活動は、先住民族を教化し、ヨーロッパ文化に同化させることを目的としていた。イエズス会の宣教師たちは、先住民族の学校教育と識字率を向上させ、ヨーロッパの人々の知識、彼らの言語、習慣、生活習慣を教えた。一部の宣教師は先住民をより理解するために土着語を学んだが、多くの場合、支配戦略を展開し、彼らを商人の手先にすることを意図していた。この伝道と学校教育の実践はブラジル全土に広まり、先住民の領土における政府の教育政策の柱となった。こ

の政策では、先住民族を文明を刻み込むべき「白紙」として扱い、西洋の植民者の視点に従って作られた技術と世界観を身につけさせた。

今日、大学に入学した先住民族たちは、教育の歴史的モデルを変えようと努力している。欧州の科学機関内でも、彼らは自分たちの知識を議論し実証するための別の方法や経路を模索している。この観点からは、ユダヤ教や科学の伝統に根ざした概念や用語を用いて、先住民の世界観を翻訳するという罠に陥ることなく、先住民の世界理解を説明するために、彼らの思考に特有なカテゴリーを見出そうとする個人的・集団的努力がある。

また、高齢者たちが地域社会において知識や専門性を共有する会話の輪においては、記憶の定着と積極的な参加に重きを置く「傾聴法」にも注目することが重要である。さらに先住民族は、学術機関が要求する正式な文章だけでなく、さまざまな形の言語を通して自分自身を表現しようとしている。

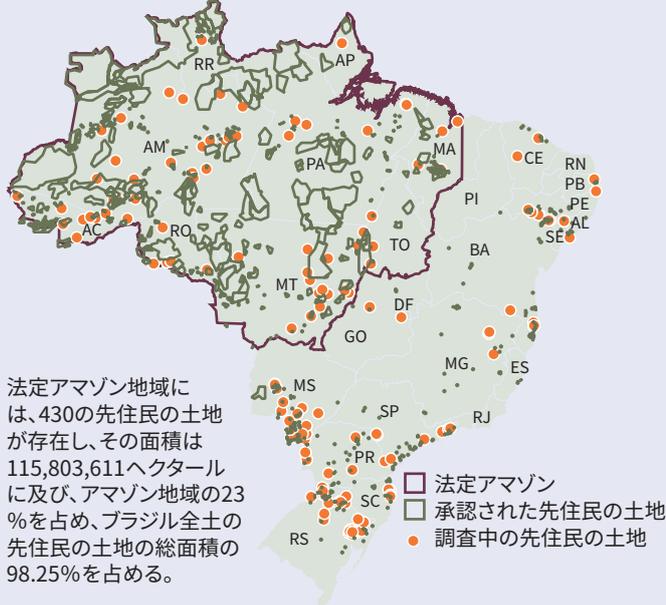
アマゾナス州ネグロ川上流地域の東部トゥカーノ語族、デサナ族の先住民の語りの形式と内容の一例を、イラストを通して上に示す。このイラストは、文章という科学的論理の及ばない別の宇宙観を描いている。

上のイラストは、全体が宇宙の本体を表している。イラ

社会環境研究所のデータによると、ブラジルの先住民の土地の32%がまだ確立されていない。ジャイル・ボルソナロ大統領の政権下では、先住民の土地は承認されなかった。

ブラジルの先住民の土地

ほとんどの先住民の土地は法定アマゾンに集中している。



境界策定プロセスの段階ごとの流れ

1段階 識別と境界画定

FUNAIの学際的な技術チームによって、領有権を主張する地域が調査され、領土が特定される。この段階では、行政レベルで異議を唱えることが可能であり、FUNAIは回答する責任がある。

2段階 宣言

FUNAIの報告書を法務省および公安省に提出し、評価および宣言的省令の発行を受ける。

3段階 物理的な画定

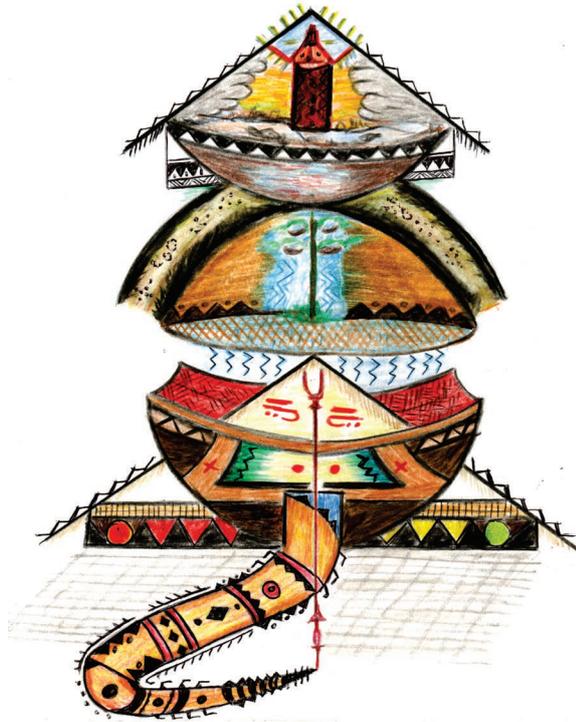
宣言条例が存在する場合、そのプロセスはFUNAIに戻され、標識(プレート)を用いて区域の物理的な画定が行われる。

4段階 承認

このプロセスは再び司法・公安省に送られ審査され、その後、共和国大統領府に送られ承認される。

5段階 連邦政府公共事務局および不動産評議会への登録

先住民の土地を連邦政府資産事務局および不動産公証人役場に、当該先住民の独占的使用のための公有地として登録する。



JAI ME DIAKARA DESANA

ストの一番下にある最初の椀は、生命、豊穡、豊かさを意味し、世界の起源、生命、人類の変革に根ざしている。デサナ族によると、椀には3つの種類がある。ümüsi dihtaruru koasoro、ümüsi pahti koasoro、そして dohôtôari pahti koasoro である。最初の椀である ümüsi dihtaruru koasoro は宇宙の湖を象徴し、そこから生命の色(青、黄、緑、白、茶、赤、黒)を含む7つの瓜が生まれた。これらの色は、宇宙の主な構成要素である「水」「光/太陽」「森」「空気/雲」「土」「樹脂」「生命の液体」「夜」を表している。

この原初の湖は暗く、煙と雲に満ちていた。その中に太陽の体が横たわっており、水面に浮かぶ瓜に乳を与えていた。この湖は地球上のすべての存在を守っていた。逆さまになった椀、ümü si pahti koasoro は宇宙そのものであり、星や存在が宿る空間である。黒いアーチはその端を示し、星座(天の川)を象徴している。これらの星座は雨季と乾季を導き、集団儀式(儀式)の時期を示し、人間の生活に対する危険や脅威を知らせる。イラストの中央には、暗い色の khó mürõño(雨の椰子の木)がある。椀の口にはふるいがあり、大地に落ちる雨粒の形を作る役割を担っている。

3つ目の椀、dohôtôari pahti koasoro は、7人のデミウルゴス(職人)と文化的英雄の起源を表している:Abe、Deyubari Goãmu、Baaribo、Buhsari Goãmu、Wanani Goãmu、そして2人の女性、Amoと Yugupó。彼らは共に、宇宙とその種、そして動物や植物を含むすべての生き物の創造と保護に責任を負っている。例えば、Baaribo は農場の植物と農場で栽培された食品の

大学という環境において、彼らはいまだに人種差別やさまざまな困難に直面しているが、先住民の研究者たちはエピステミサイド(特定の知識体系を破壊する行為)に反対し、先住民の伝統的な知識を大切にすることを支持する立場をますます強めている。

時間的枠組みに関する命題は、先住民がブラジル連邦憲法の公布日、すなわち1988年10月5日に占有していた、あるいはすでに係争中であった土地に対してのみ権利を有すると定めている。農業のための議会連合(Parliamentary Front for Agriculture)のメンバーは、何年もこの命題を含む法案を承認しようとしてきた。

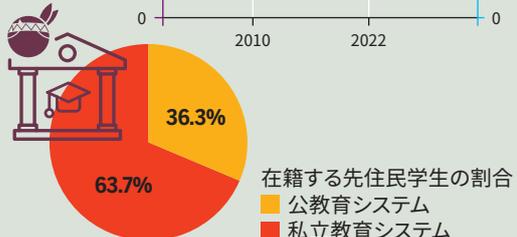
所有者であり、保護者である。この椀はまた、女性の子宮を象徴し、人類の発生と妊娠を表している。

イラストの一番下に描かれているマロカという先住民の家は、人間が住む地上のプラットフォームを表している。儀式に使われる家を支える杖は、宇宙と地上の身体を中心に固定されている。文化的英雄であり、リーダーであり、宇宙の目利きである Abe のバックボーンを表している。尾の先端が中央の杖に触れている蛇の様式化されたイメージは、「wãmũdia」と呼ばれる水上デッキのベッドを象徴している。このデッキから、人類の変容を表すカヌーが生まれ、大西洋(現在のリオデジャネイロ市がある)を出発し、ネグロ川上流地域のイパノレの滝を目指す。

先住民の反射性とは、先住民の専門家たちが継続的に発展させてきた知識であり、儀式の家、ベンチ、リズムを打つための杖、椀、アヤワスカの鍋、マラカス(先住民のガラガラ的一种)、ガラガラ鳴る杖の絵や、賢明な長老と新しい世代との継続的な対話の中に表現されている。●

大学に在籍する先住民

ブラジルの大学に在籍する先住民の学生数は、ここ10年で大幅に増加した。



CEN SO 2022; INEP

森林における アイデンティティの多様性

アマゾンでは、伝統民族とコミュニティは幅広い多民族から構成され、そのテリトリーの内部およびテリトリーとともに独自のダイナミクスを維持し、略奪ではなく、農作物採取活動を通じてアイデンティティを形成している。

歴史上、アマゾンの人間的要素については、ほとんど考慮も重要視もされてこなかった。しかし、アマゾンに生息する水と森の民の生き方は、この地域に現存する社会生物多様性の保全にとって基本的なものであった。

先住民族は自らを原住民とも呼び、アマゾンの生物多様性の主な保護者として努めてきた。彼ら以外にも、この生物群系に住み、伝統民族として認められている集団がいる。これらの民族やコミュニティを結びつけているのは、何世代にもわたって守り続けてきたいくつかの特徴である。たとえば、民族や集団のアイデンティティ、文化的儀礼、天然資源の持続可能な利用、森林、自然田、河川、動植物の保護など、これらすべてが領土との関係に深く結びついている。

これらの民族は、異なる時代と空間で生活し、共存してきた。領土紛争によって構築され、しばしばその影響を強く受けた関係を形成してきたが、何よりも、民族間の相互作用が特徴的である。ヨーロッパ人の植民地侵略により、数世紀にわたる外部からの移住、特に、地域の木材、鉱物、植物資源の探査機会を求めてヨーロッパ人が引き寄せられた移住は、地域の人口構成に重大な影響を及ぼした。これは主に、16世紀から19世紀にかけてブラジルに拉致され、人身売買された先住民族やアフリカ人による、自由労働と奴隷労働の両方からの搾取によるものだった。

抵抗の形態として、両方の土着民族はより遠隔地への移住を余儀なくされ、その結果、キロンボとモカンボの集落が形成された。この移住は、これらの民族間の知識

と技術の交換を促進し、アフリカ系ディアスポラの人々の生計維持とアマゾン生物群への統合を導くことになった。19世紀後半から20世紀初頭にかけて、北部地域はブラジル政府によって奨励された新たな移民の波を受け、主にゴム採掘などの大規模開発工事が推進された。その結果、主に東北の地域から男女の労働者がやってきて、新たな多民族構成を形成するようになった。

注目すべき点は、この多民族のアマゾン社会が長らく主に地域的な職業形態の特徴を維持し、宣教活動、村落、キロンボ、モカンボの集落を通じて形成されたコミュニティが存在していた点である。これらの集落は川岸や小川に沿って分布し、主に漁業と職人による狩猟で生計を立てていた。これらの人々は、持続可能な高床式住居や浮き家屋を建設することで、アマゾンの洪水と干ばつサイクルというダイナミクスに適用し、水へのアクセスや物資の積み下ろしを容易にした。その結果、これらのグループの多くは今日、自分たちを川沿いのコミュニティと呼んでいる。

とはいえ、アマゾンでは、多民族という現実こそが、これらの民族が採用する多様なアイデンティティに反映されている。先住民族、キロンボ、川沿いの住民に加え、地域で行われる活動と関連する他の呼称には、農村労働者、家族経営農家、ラバー採取職人、ババス・ココナツ割り職人、ナツツ拾い職人、漁師などが挙げられる。長い間、これらのグループが孤立していたことが、植民地化されない状態を永続させる一因となった。とはいえ、領土紛争に立ち向かう組織形態の発展も妨げられた。こうした孤立状態は、連邦政府と民間資本の双方にとっては、これらの集団に対する支配体制を確立する上で有利に働いた。

このような困難にもかかわらず、これらの民族は、特に口承による伝統を通じて、自分たちのアイデンティティ、

国際労働機関 (International Labour Organization, ILO) の第169号条約は、先住民族の権利を具体的に取り上げた最初の拘束力のある国際条約である。

自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意 (THE RIGHT TO FREE, PRIOR, AND INFORMED CONSENT)

ブラジルは、国際労働機関 (ILO) の条約第169号の署名国であり、この条約は、伝統民族とコミュニティの領土に影響を与える工事、措置、政策、またはプログラムを実施する場合、それらと協議する義務を定めている。

1989

6月27日

ジュネーブで ILO 第169号条約が採択される。

1991

9月5日

同条約は署名国において国際的に発効する。

2002

6月20日

ブラジルでは政令第143号で承認されている。

2003

7月25日

この政令は、この文書が ILO 事務局長によって批准された後に発効する。

2004

4月19日

2004年政令第5051号により制定されている。

2009

11月5日

現在、政令第10088号により施行されている。

CONVENÇÃO 169 DA OIT, GOVERNO FEDERAL

伝統的なアマゾンの人々

アマゾンには実に多様な伝統民族とコミュニティが存在する。彼らはまた、森と水の民としても知られている。



先住民



キロンボラのコミュニティ



川沿いの人々



家族経営農家



ラバー採取職人



アンディローバの収穫者*



アサイー採集職人**



ババス・ココナツ割り職人***



ピアサバの収穫職人****



ナツツ拾い職人



漁師



伝統的助産師

* アンディローバの採取を中心に組織化された採掘コミュニティ。

** アサイーなどのヤシの果の採取者

*** ババス農園から果物を集める女性グループ

**** ピアサバ椰子の木から繊維を取り出し、ほうきを作るグループ

文化、集団的自給自足の実践を維持し、抵抗するための戦略を発展させてきた。新たな侵略や領土や生活への脅威に直面して、彼らはまた、団結し、協会や協同組合を発足し、社会的排斥に抵抗する運動などを組織化した。こうした集団的な努力は、ブラジルにおける環境アジェンダの確立を推し進め、こういった集団の認知度を高めるだけでなく、ブラジル初の採掘保護区（伝統民族が森林を保護し、その資源から自給自足する地域）の創設など、重要な成果を確保した。

これらのコミュニティは、森林や河川から持続可能な方法で生産物を採取する、多様な民族や社会的アイデンティティを持つ集団で構成されている。地域の闘争と国内外からの圧力により、伝統民族とコミュニティの持続可能な発展を目指す国家政策が制定された（2007年2月、政令第6040号）。

しかし、制定から15年以上経った今でも、この政策の実施はこれらの民族の多くにとって難題のままである。これは、領土を没収してくるセクターの政治的・経済的利益や、連邦政府が実施する公共政策の不在や非効率に直面することに起因する。

「パン・アマゾンの社会・領土紛争アトラス (Atlas of Pan-Amazonian Socio-Territorial Conflicts)」によると、パン・アマゾンにおける紛争の影響を受けている人々の半数を伝統民族が占めている。こうした対立の主な原因は、搾取的資本主義セクターによる活動に起因している。このようなシナリオにもかかわらず、伝統民族とコミュニティは、自分たちの権利、特に土地に対する権利を求めて闘い続けている。人間と自然との間に厳格な隔たりはないという世界観を意味する「リビング・ウェル」論理に導かれ、彼らは豊かな栄養を与えてくれる森のあらゆる要素を尊重する関係を築こうとしている。●

「パン・アマゾン社会・領土紛争アトラス」がブラジルで記録した紛争の原因の60%はアグリビジネスである。

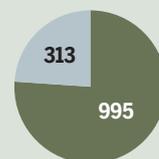
社会開発省 (Ministry of Social Development) は、伝統民族とコミュニティを、独自の社会組織形態を持つ、文化的に異なる集団と定義している。これらの集団は、文化的、社会的、宗教的、先祖伝来的、経済的な再生産の条件として、領土と天然資源を占有し、利用しており、伝統によって生み出され、受け継がれてきた知識、革新、慣習に依存している。

パン・アマゾンにおける紛争

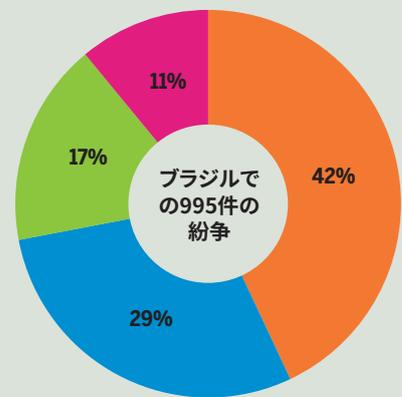
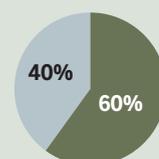
ある調査では、2017年から2018年にかけてパン・アマゾン地域で発生した1,308件の活発な紛争が分析された。

131,039ものブラジル人家族が、これらの紛争の影響を受けている。

紛争の数



領土面積



● ブラジル
■ パン・アマゾンにおけるその他の国

■ 小規模農家
■ 伝統的コミュニティ
■ 先住民コミュニティ
■ マルーンコミュニティ

アマパ州アマゾンにおけるメガプロジェクトの影響

アマゾンの開発主義的なプロジェクトには、大規模な移住の流れを促進する大規模プロジェクトによる建設が含まれる。アマパ州では、水力発電所の建設が何千人もの移住者を呼び寄せ、さまざまな社会環境問題を引き起こしている。

アアマゾンには、資源採掘と外国の利益を優先する植民地主義的な視点に基づく大規模開発プロジェクトの戦略的な場となっている。この地域には、メガプロジェクトの長い歴史があり、その実施に起因する数多くの社会・環境的影響に直面し続けている。このようなプロジェクトによる労働力の需要は、もともと人口の少なかった地域に大規模な移民を流入させる。この移民の到着は、医療、治安、住宅システムといった地域のインフラを圧倒し、社会的不平等を拡大し、地域住民との緊張や紛争を引き起こす。森林伐採や伝統的コミュニティの領土に対するさまざまな干渉も、こうした課題の一因となっており、地域社会の生活を破壊している。その結果、「進歩」に対する期待と、貧困、移住、社会的不安定に直面する地域住民への実際の影響との間に断絶が生じている。

アマパ州は、ブラジル・アマゾン地域における主要な州の一つであり、他の州と比べて自然資源の開発を目的としたメガプロジェクトとの関連性において特に目立っている。1943年にアマパ連邦直轄領が誕生したのは、鉱業や産業活動の拡大と同じ歴史的な時期であった。鉱業・貿易プロジェクト (Mining Industry and Trade Project, ICOMI)、ジャリ・プロジェクト、水力発電所建設は、アマパ州で実施されているメガプロジェクトの一部である。人口爆発と社会環境紛争は、開発主義的な約束にもかかわらず、地域住民の生活の質を向上させることができなかったこれらの構想の影響のひとつである。

1947年、マンガン鉱床の採掘権に関する公募入札はICOMI が落札し、これが移住の大きなきっかけとなった。アマパ州の人口は急激に増加し、1950年の3万7,477人から1980年には17万5,634人になった。セーラ・ド・ナヴィオは、もともと ICOMI の労働者のための村だったが、メガプロジェクトを支援するために鉱業都市がつくられた。主にブラジル北東部から数千人が、職を求めてセーラ・ド・ナヴィオに移住した。こうした人口爆発だけでなく、この地域は森林破壊、生物多様性の喪失、水質汚染、先住民

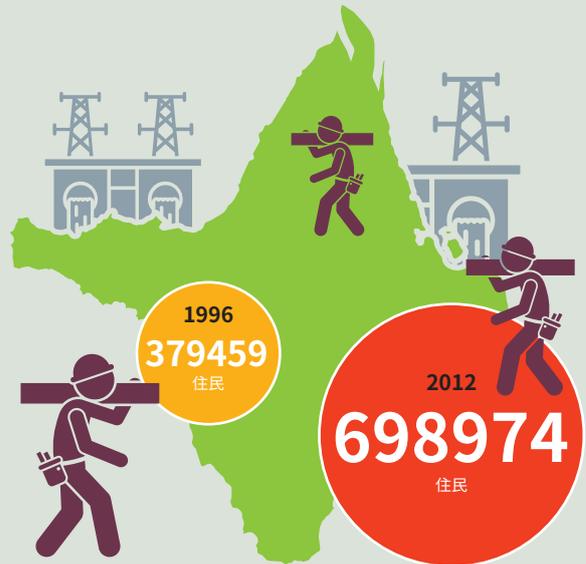
水力発電所の建設後、同州では農村からの人口流出が顕著になった。

や川沿いのコミュニティへの被害を経験した。

ジャリ・セルロース・プロジェクトは、地域に農業・工業複合施設を建設することを目的とし、1967年に広大な土地の取得に着手した。この土地は、セルロース生産、畜産、稲作のために開墾された。この買収は、領土に住む家族経営農家や川沿いのコミュニティに対する弾圧を引き起こした。1971年、ラランジャール・ド・ジャリのジャリ川岸にある木造家屋群、ベイラダンの住民とジャリの警備員との間で紛争が勃発した。リボルバーで武装した警備員が小規模農家の農業活動を禁止したとの報告もある。この弾圧は、ブラジル軍事独裁政権の制度的暴力を反映している。ICOMI プロジェクトで勃発した問題は、激しい移住、深刻な社会的不平等、農村部での暴力を伴って、再び

多くの水力発電所、電力不足と人口爆発

アマパ州では水力発電所建設のために労働者が移住し、16年間で州の人口が84.2%増加した。しかし、同州では依然として停電が頻発している。



2020年11月3日、停電によりアマパが暗闇に包まれたのは

20日間

16自治体のうち13件

が影響を受けた

約**800,000人**が被害を受けた

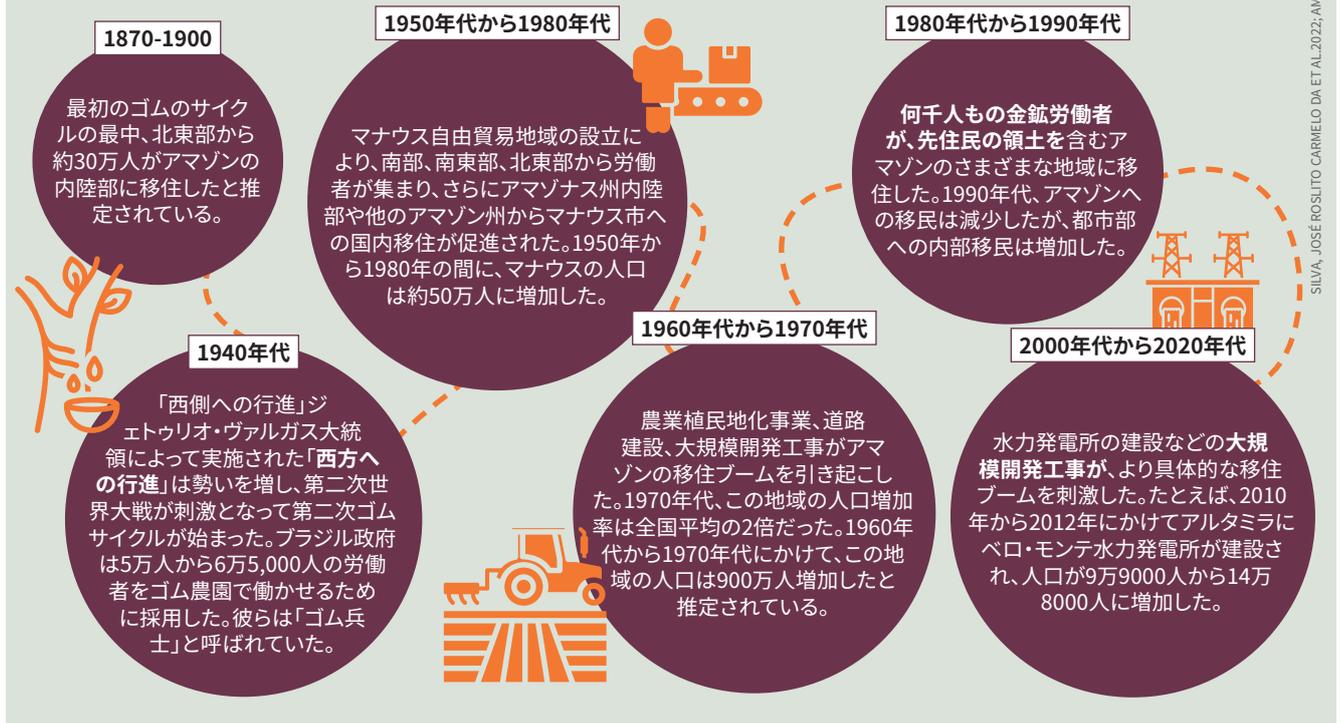


営業許可保有会社である Linhas de Macapá Transmissora de Energia に罰金

367万レアル

アマゾンの移住サイクル

過去2世紀にわたって、さまざまな経済サイクルがアマゾン地域への移住ブームをもたらした。



SILVA, JOSÉ ROSLITO CARMELO DA ET AL. 2022: AMAZONIA 2030

繰り返された。

巨大企業が天然資源開発を正当化する根拠は、国家の成長と関連があると企業が認識していたことにある。その結果、アマゾンにおける鉱業と林業の巨大企業の歴史は、連邦政府と州政府が天然資源開発プロジェクトの支援者としての役割を果たしてきたことを繰り返し示しており、社会的不平等が深刻化する中でもその傾向は変わっていない。このような巨大企業がもたらす社会・環境問題は後を絶たない。

アマパ州の最近のメガプロジェクトには、4つの水力発電所がある：フェレイラ・ゴメス・エネルギー、コアラシ・ヌネス、カシヨエイラ・カルデイラン（アラグアリ川）、サント・アントニオ・ド・ジャリ（ジャリ川）。進歩の物語はまた、これらの水力発電所を文脈化し、アマパ州の天然資源の継続的な開発を正当化する。ただし、地元住民が直面しているのは、魚の大量死、強制移住、人口爆発など、これらのプロジェクトによって引き起こされた社会環境破壊の影響を受けてきた現実である。

水力発電所の環境調査と許認可プロセスの期間中、アマパ州の人口は倍増した。1996年から2000年の間に、ポルト・グランデやフェレイラ・ゴメスといったダムに近い自治体は、それぞれ53.55%、46.41%の人口増加を記録した。発電所の建設によって引き起こされた農村からの移住の激化は、治安、保健、住宅制度を疲弊させ、行政、ひいてはアマパの住民の日常生活に大きな影響を与えた。

水力発電所のシナリオは、開発に関する言説と現地の現実との断絶を端的に示している。4つの水力発電所があるにもかかわらず、アマパ州は頻繁に停電に見舞われ、住民の生活に支障をきたしている。他地域へのエネルギー輸出は一般的であり、エネルギーの一部が生産地に配分されることを保証する法的メカニズムは存在しな

アマゾンの新たな経済サイクルに刺激された移住の流れは、歴史的に社会的・環境的混乱の激化を伴い、主にこの地域の先住民に影響を及ぼしてきた。

い。メガプロジェクトは経済発展をもたらさず、安定的な電力供給さえ確保できていない。にもかかわらず、川沿いのコミュニティを移住させ、地域住民との紛争を引き起こし、水生・陸生環境を害するなど、さまざまな問題を引き起こしている。

つまり、この地域のメガプロジェクトは、天然資源だけでなく、地域住民の搾取も招き、その結果、人口が爆発的に増加し、多くの社会的・環境的損害をもたらした。政治的・経済的構造は、輸出と国内総生産向上のための天然資源開発によって支えられてきた。経済構造は、輸出と国内総生産の増加を目的とした天然資源の開発によって支えられてきたが、連邦政府からの支援を受けて、これらの影響に対する緩和と補償のプロセスが提案されたものの、生態系や生物多様性へのダメージ、伝統的コミュニティの領土や生活様式の喪失を防止または軽減するには不十分であることが証明された。●

脅威にさらされた多言語の宇宙

ブラジルにはさまざまな先住民の言語が存在し、その大部分を占めているのがアマゾンである。これらの言語は、生物群に関する先祖代々の知識を広めるのに役立っている。しかし、言語も知識も大きな脅威に直面している。

地 球上で最も生物多様性の高い国であるブラジルは、先住民の言語を中心に、言語の多様性が最も高い10カ国のひとつでもある。ブラジルで話されている先住民の言語のほとんどはアマゾンに存在し、アマゾンにはブラジルの原語の3分の2がある。この多様性は数的・遺伝的なものであり、これらの言語はアマゾンに代表を持つおよそ20の言語族に属している。

アマゾンの言語景観には、ブラジルで最大のアメリカインディアンの遺伝的グループ(共通の起源を持つ言語)であるトゥピ語族、マクロジェ語族、アラワク語族、カリブ語族、パノ語(またはクイン語)族が含まれ、それぞれ約20以上の言語を包含している。また、ヤノマミ語族、トゥカーノ語族、アラワ語族、ナダハップ語族、カトゥキナ語族、ナンビクワラ語族、チャパクラ語族、ムラ語族など、アマゾンのみで話される中・小語族も多い。この地域には、いわゆる孤立言語と呼ばれる、他の母国語とは関係のない言語も存在する。これはティクナ語のケースであり、ブラジルで最も話者数の多い土着語である。その話者数は約4万7,000人で、ペルーとコロンビアの地域でも使われている。アマゾンの言語的多様性には、さらに先住民の手話言語や、 Rondônia に住むイコレン族(ガヴィアン族とも呼ばれる)のような口笛言語も含まれる。口笛言語は、イコレン族(Rondônia に住むガヴィアン族とも呼ばれる)が使うように、主に森の散策や狩猟中に使われる。口笛

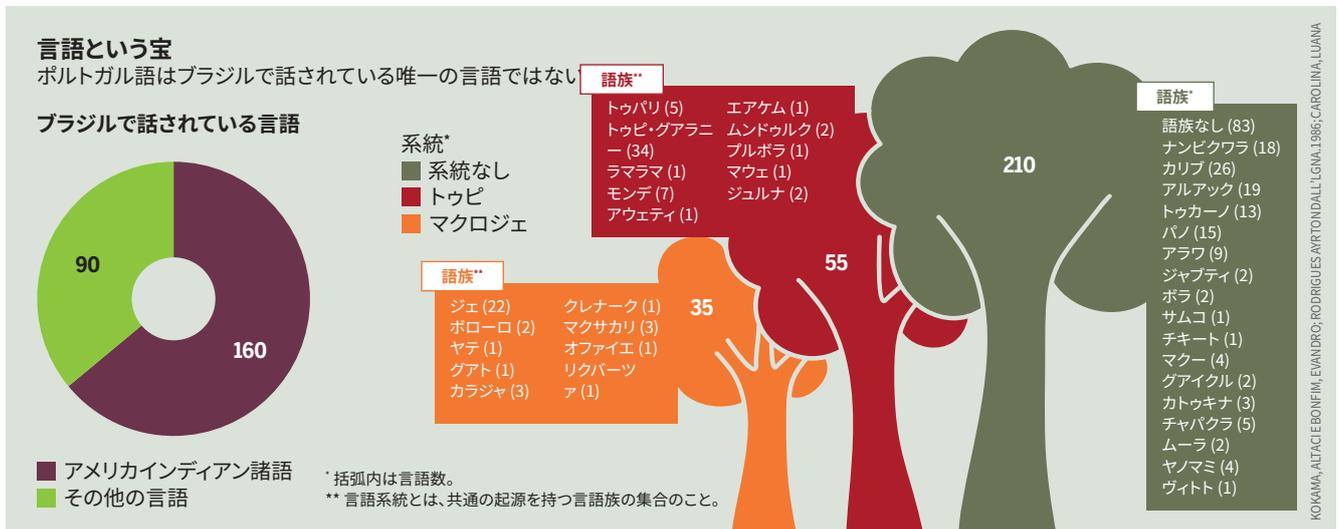
言語は主に森の中を散策するときや狩猟中に使われるが、これは長距離のコミュニケーションでも音響的な損失がなく、森の自然音に違和感なく溶け込むからである。

アマゾンには、ネグロ川上流 (AM)、シングレー川上流 (MT)、グアポレ・マモレ地域 (RO) という、土着語の多様性の3大ホットスポットがある。これらの地域は、多言語主義と、異なる民族言語を起源とする工芸品、儀式、人々の豊かな交流を特徴とする言語文化圏と考えられている。たとえば、ネグロ川上流部では、言語的外婚が顕著である。つまり、結婚は同じ言語族内か異なる言語族間かを問わず、異なる言語を話す人々同士で行われなければならない。

シングレー川上流域は、活発な儀式交流が特徴であり、特にクワループやフカ・フカ闘技などの儀式でそれは見られる。同時に異民族間の結婚の頻度が高く、これが多言語主義の促進につながっている。ボリビアのアマゾンを含むグアポレ・マモレ地域は、世界で最も言語の多様性が高い地域のひとつである。この地域のほとんどの言語は絶滅の危機に瀕しており、包括的な言語文化資料が不足しているため、アマゾンの言語多様性を維持するための最大の課題のひとつとなっている。

アマゾンの言語景観のもうひとつの重要な要素は、アマゾンのさまざまな地域でおよそ1万9000人が話すニエエンガトゥ語である。ニエエンガトゥ語(アマゾンの一般言語)は、ヨーロッパの植民者とトゥピ・グアラニー語族に属する先住民との接触から生まれた独特な言語現象の

2006年にユネスコが発表した『世界言語地図』では、これらの言語のうち190言語が絶滅の危機に瀕していることが明らかになった。2010年、ブラジル地理統計院 (Brazilian Institute of Geography and Statistics, IBGE) が目録を作成したのは、わずか305件だった。



ニエエンガトゥ

一般的なアマゾンの言語が復活してきている。

17世紀
初頭

ニエエンガトゥ語は、イエズス会が行ったトゥピナンバ族とのミッションに基づき、グラオー・パラ一州とマラニオン州で植民地化の手段として発展した。

1835

これは、カバナジェムの反乱の後、犯罪となった。

2010

ニエエンガトゥ語は、ユネスコが発行した「危機に瀕する世界の言語アトラス」の中で、深刻な絶滅の危機に瀕している言語リストに載っている。

2022

ニエエンガトゥ語アカデミーが設立された。

2023

国民司法評議会は連邦憲法をニエエンガトゥ語に翻訳した。

KOKAMA, ALTACE BONFIM, EVANDRO, NEXO

ニエエンガトゥ語を教えるための最初のアプリケーションがブラジルで作られたのは2021年のことである。

環境の中で何世紀にもわたって人類が共存し、高度に専門化された知識を生み出してきた産物だからだ。口承言語として、その民族や共同体の世界観を体現している。これらの言語には、魚、森林植物、栽培作物、動物、鉱物、地理的ランドマーク、さらに狩猟、漁労、農耕、航海のための道具や用具に関する専門的な語彙が含まれている。

各言語はまた、それぞれの文化特有の観察、研究、考察を通して何千年もかけて開発された、生き物の複雑な分類システムも提供している。このように、言語と環境保全は深く結びついている。先住民の言語には、それぞれの領土でそれぞれの人々が積み重ねてきた経験が刻み込まれているからだ。言語の喪失は、現在の気候・環境危機に対処する上で極めて重要な知識の喪失を意味する。したがって、先住民の遺伝遺産の保護は、言語データを含む知的・無形遺産を保護する努力と同時に進めなければならない。これらの言語の多くは、文書化や記述の段階が異なっており、世代間伝達の失敗という危機に直面している。新型コロナウイルスパンデミックは、先住民の長老や指導者に特に大きな影響を及ぼし、これらの言語の脆弱性を浮き彫りにした。こうした言語の多くは、主に人口の最年長層によって話され、記憶されているからである。

一部である。これらの言語は、宣教、探検、非同盟の先住民グループや一般的にタブイアと呼ばれるトゥピ・グアラニー語を話さない人々との交渉において、植民地の管理媒体として機能した。ニエエンガトゥ語はアマゾンの社会的交流の主要言語となり、少数のポルトガル人、増え続ける混血人口、そして先住民によって使われるようになった。現在、ニエエンガトゥ語はネグロ川上流地域の先住民、たとえばバレ族、フレケナ族、バニワ族の一部やタパジヨス地域の先住民の母語である。

アマゾンに関するもうひとつの重要な問題は、言語と生物群に関する先祖代々の知識との関係である。生物学的多様性は、人間活動と絡み合っている生物社会的現象である。先住民の言語は、このプロセスにおいて決定的な役割を果たしている。なぜなら、先住民の言語は、特定の

アマゾン地域には、ブラジルで最も先住民の言語が多様な地域がある。

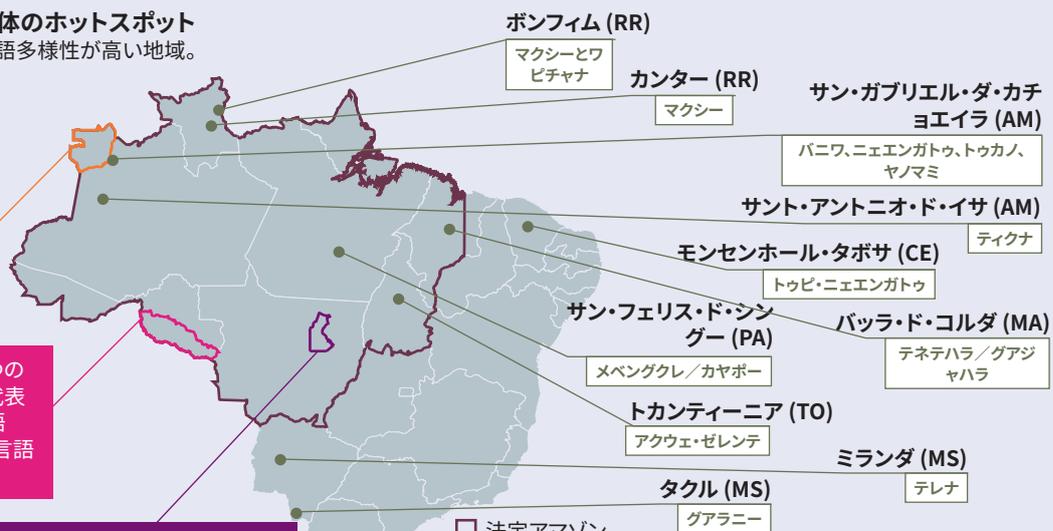
先住民の言語と自治体のホットスポット

国内で最も先住民の言語多様性が高い地域。

この地域には、ニエエンガトゥ語のほか、トゥカノ語、アラワク語、ナダハップ語族の言語が含まれる。

この地域には、8つの異なる言語族を代表する50以上の言語と、11の孤立した言語がある。

この地域には以下の言語がある：トゥピ語、カリブ語、アラワク語、トゥルマイ語。これらは、シンゲー公園の他の地区にあるジェ語に加えて、孤立した言語と考えられている。



KOKAMA, ALTACE BONFIM, EVANDRO, PROJETO COLABORA

都市による地域社会の崩壊

アマゾンにおける植民地時代以前の人間の存在は、森林を保護することと人間が存在することの間に矛盾がない証拠である。しかし、村落やコミュニティの地域的な取り決めは、都市の押し付けによってますます脅かされ、森林もまた危機にさらされている。

過 去30年間に蓄積された考古学的発見の発表を受けて、現在では、アマゾンの植民地化以前は、人口密度が低く、農業的で、熱帯的な都市化が存在したことについて、意見の一致が得られている。アマゾン川の河口からアンデス山脈に至るまで、多くの先住民族が河川を通じて共存し、交流していた。河川は主要な交通手段であり、その氾濫原は魚、カメ類、果物など豊富な食料を供給した。ヨーロッパ人旅行者の物語は、水路が人間の居住地の位置を決めるガイドとなっていたことを明らかにしている。

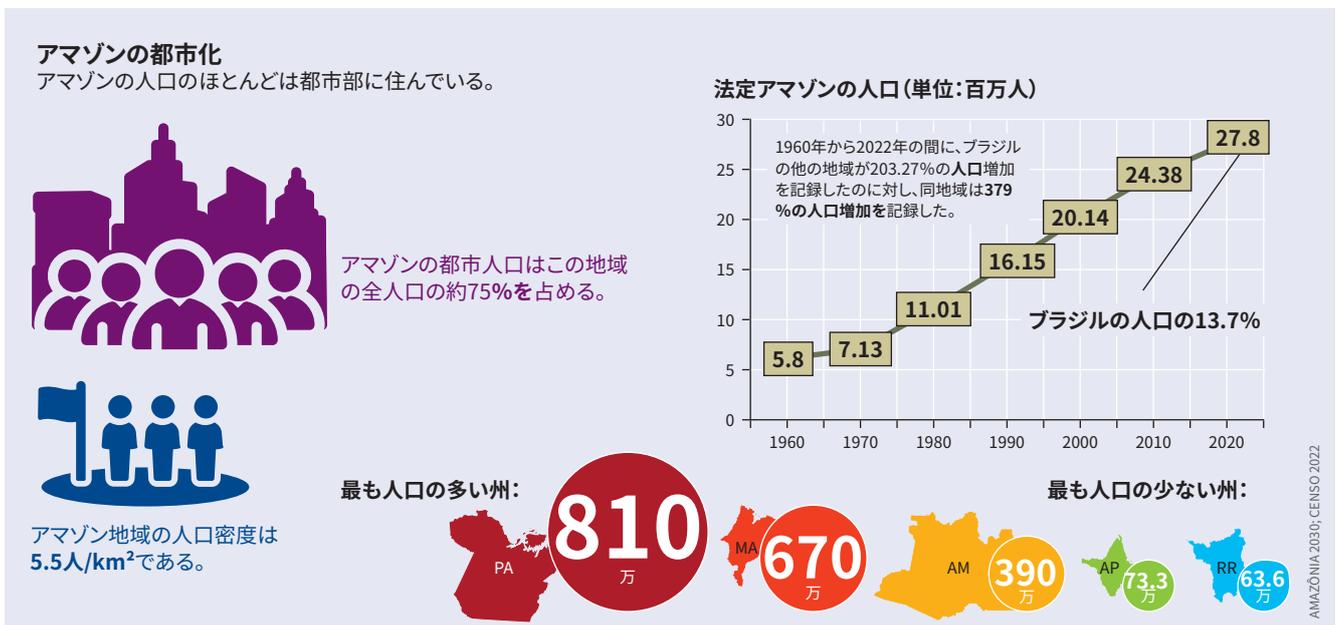
川、村、農場、森林は互いに補いあいながら、人間の活動によって形作られた風景と、人間の世代に影響を与えた風景の療養を形成してきた。村は社会的交流と家庭生活が共存する空間であり、川と森は生産地として、採集、森林農業栽培、漁業を支えていた。特に、この視点から考えると、都市化と森林が必ずしも対立するものではないことが理解しやすくなる。特に、森林そのものが人間の相互作用によって生み出され、人間にとって不可欠な資源の主要な供給源として機能している場合はなおさらであろう。

ポルトガルの植民地化以前は、人間の居住地は小規模で、互いに近距離に位置し、川や陸路で結ばれていた。最大の集落は2つの川の合流点に位置し、領土支配のために戦略的に配置されていた。今日、この遺産が維持されているのは、先住民の村々が宗教的ミッションに組み込まれたからである。宗教指導者たちは、これらの集落の配置を変更した(たとえば土地割り当てを導入するなど)が、その元の位置は維持された。18世紀、ポンバリン政権は宣教師を追放したが、森に住む人々から受け継いだ領土の組織化は維持した。植民地化戦略として都市化を採用したポンバリン政権は、かつての宣教団の跡地に町や都市を建設し、先住民の地名をポルトガルの地名に置き換えた。

植民者たちは大規模な植林を推進することを目指したが、最終的には既存の林産物の採取に頼った。何世紀にもわたり、植民者は先住民族からこれらの資源を収集し、消費する方法を学んだ。特定の林産物の商業的価値は、ヨーロッパへの輸出に基づく経済サイクルの説明を正当化するものだった。この貿易は、社会形成や環境的背景が異なるにもかかわらず、工業都市と同様のインフラや設備を整備する手段を提供した。

いわゆる経済サイクルは、自然資源の搾取と輸出のサイクルを象徴するようになった。たとえば、ゴムサイクルの繁栄は、公衆衛生の解決策の輸入、エネルギー供給、道

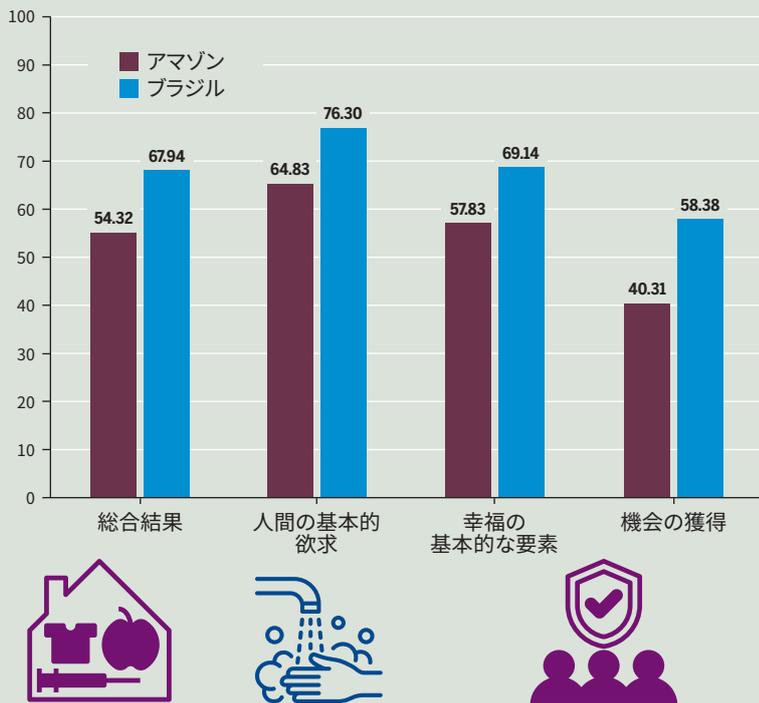
1960年から2022年にかけての法定アマゾンの人口増加は、同期間の全国平均の187%に達し、アマゾン地域の農村部からの人口流出もここ数十年で激しさを増している。



アマゾンの社会進歩

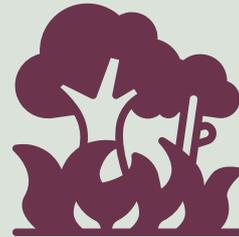
社会進歩指数は、アマゾンとブラジルの2023年におけるさまざまな社会的側面からの指数をまとめたものである。

2023年におけるアマゾンとブラジルの総合結果と社会進歩指数の次元



社会進歩指数2023の12項目のうち、6項目は平均指数が低い(60未満)。該当項目:水と衛生設備、個人の安全情報と通信へのアクセス、個人の権利、個人の自由、高等教育へのアクセス。

社会進歩指数2023の分析対象期間(2020年8月~2022年7月)に森林伐採が増加したため、「環境の質」の指数は63.96となった。



アマゾンの9州はいずれも全国平均を上回らなかった。最低得点の15市町村のうち、いくつかの市町村は森林減少、森林劣化、社会紛争に強く関連している。

IPS AMAZONIA - AMAZON

路舗装、交通インフラ、土地の民間分譲を可能にした。

20世紀には、ブラジルの植民地化によって森林伐採が広がり、森林は農村空間として再定義されるようになった。その目的は、公有地を探検し、集積することだった。たとえそこに、人種差別によって人間性を剥奪された人々がすでに住んでいたとしても、推進された。農地改革と大規模開発工事によって森林が農村地帯へと変貌したため、先住民は都市近郊へと追いやられた。これにより、市民が都市化を体現し、新しい都市計画技術を適用すべき空間であるという認識が強まった。

この変化の兆候は、大規模プロジェクトがカンパニータウン(最も熟練した労働力を収容するために設計された自給自足のインフラ拠点)によって支えられた一方で、労働者たちが30年以上かけて即興で建設した居住地が中規模都市へと発展していった際に現れた。

現在、アマゾンの人口の大半は都市に住んでいるが、村やコミュニティを農村集落として法的に分類しているため、農村住民の割合は通常、全国平均の2倍である。マナウス市とマカパ市(それぞれアマゾナス州とアマパ州)には州の人口の60%が集中しているのに対し、パラ州の州都ベレン市には30%が集中している。この大都市では、2022年のデータによると、島嶼部、村落を中心とした地域、コミュニティで人口が増加している。マナウスでは先住民の人口が増加しており、サンタレンなどの都市では、先住民の利益と商品生産者の対立によって、同じグループが都市の変貌といわゆる農村空間の変化の両方を支配していることが明らかになっている。

とはいえ、大河川の水路沿いには、植民地時代以前の都市化の遺産を守りながら、都市に食糧を供給し続けて

社会進歩指数は、経済指標に基づく開発指標が不十分であるという考えに基づいて設計された。なぜなら、これらの指標は環境破壊、格差の拡大、排除、および社会的な対立といった結果を反映していないからである。

いる村やコミュニティがある。これらの地域は、都市部と同様に、モビリティ・ソリューションとサービス提供を必要とするマイクロネットワークを形成している。この点で、アマゾンは分散した地域的形成を特徴とし、緑の隙間が存在できるようになっている。これらの隙間は微気候の調節機能を果たし、生態系サービスと食料の供給源として機能している。しかし、理解が不足しているために、これらの地形は解体され、内外ともに植生を失った都市に取って代わられている。

広範な職業は、市場にとって最も有益な慣行である。しかし、これは、先住民の居住地を組み込み、コミュニティの生産手段を奪うことで生態系を破壊し、さらに彼らを貧困に追いやる結果を招いている。同時に、これらの集団において、徐々に洪水平野の埋め立てが許可され、高コストな大規模排水システムにより、これらの地域を商業的に利用可能な状態にすることも可能になった。その結果、現代の危機(特に気候危機)に対する回復力と適応力が失われつつある。●

アマゾンにおける 国家安全保障上の訴求

国家の安全保障と主権を守るための軍事的言説は、アマゾンを支配することをその主要計画としていっている。この地域とその境界線における統治の歴史は、ブラジル軍の利益や軍主導による暴力と深く絡み合っている。

現 アマゾンと呼ばれている地域の歴史的形成は、主に植民地時代とスペインとポルトガル間の紛争にまでさかのぼる。植民地支配と搾取の最も初期の痕跡のひとつは、植物、鉱物、動物資源の収奪に対する大都会の関心であった。経済的、宗教的、政治的利益と並んで、軍事戦略がこの地域の征服、占領、搾取、所有において中心的な役割を果たした。それは、北東部の海岸からサン・ルイス、マカパ、ベレンを通り抜け、プリンシペ・ダ・ベイラ要塞（現在のロンドニア）まで伸びる軍事要塞網の建設に顕著であった。1750年以降、ポルトガルとスペインの間でマドリッド条約が締結され、トルデシリャス線以西の広大な領土に対するポルトガルの主権が認められると、要塞化への取り組みが始まった。これに対し、ポルトガルはアマゾン川の河口を要塞化することで、この地域へのアクセスを確保しようとした。

19世紀初頭にブラジルの独立が進行し、その後の統合の過程で、国民国家と民間企業は、先住民の領土と地域の天然資源に対して、植民地時代と同様のアプローチ

を維持した。ブラジルは、不規則かつ優柔不断で、しばしば二次的な行動をとりながらも、生存とゴムブームに駆り立てられた入植者の自発的な動きの中で、19世紀後半に条約を締結して国境を確保し、アマゾンでの採掘による経済的・財政的利益を守ろうとした。そのひとつがアヤクーチョ条約（1867年）で、ブラジルは現在のアクレ州をボリビア領として承認した。その1年前、別の方策により、リビアとペルーはアマゾン川の自由航行を認められた。これらの協定はパラグアイ戦争（1864-1870年）の最中に結ばれたもので、ブラジル帝国政府はボリビアとペルーの中立を確保し、パラグアイに味方しないようにするため、戦略的にアクレとアマゾン川を交渉の切り札として利用した。

しかし、19世紀後半から20世紀初頭にかけて、アクレは再び表舞台に登場することになる。アクレ州にはすでにブラジル人が主に居住しており（古くからそこに住んでいた先住民族も存在した）、ブラジル人、ペルー人、ボリビア人の武力衝突が国境地域で激化したためである。その結果、ブラジル政府によるアクレ州の軍事占領と、それに続くペトロポリス条約（1904年）によって、アクレはブラジ

オズワルド・クルス財団が発行した『紛争地図』によれば、アルカンタラにおける領土をめぐる闘争は、ブラジルにおけるキロンボーラの信念として最も重要な事例のひとつとみなされている。現在、基地は十分に活用されていないが、軍部は基地の拡張を推し進め続けている。

キロンボーラの土地の軍事基地

マラニョン州のアルカンタラ射場（Alcântara Space Center in Maranhão）は、キロンボーラの土地に建設された。

1980年9月

32のキロンボが住んでいたこの地域は、射場建設のために「公共利用地」に指定された。

2003

ロケットの誤発射による火災で21人が死亡。それ以来、基地は十分に活用されていない。

2008

アルカンタラのキロンボーラの土地の特定と境界画定に関する技術報告書が発表された。

2023

ロケット不足のため、同センターが軌道に乗せた衛星は1機だけだった。

2023年4月

ブラジル政府は、アルカンタラのキロンボーラのコミュニティの権利を侵害したことを公式に認めた。省庁間の作業部会が設置され、これらのコミュニティに対する土地所有権に関する措置が提案された。

2024年1月

キロンボーラの各団体は一時的にワーキンググループから脱退し、技術的な調査の中止を要求した。

2024年9月

アルカンタラ協定の調印-ブラジル連邦政府とキロンボーラのコミュニティとの和解、約束、相互承認の条項。



1986年以来、312世帯のキロンボーラが、射場建設のために土地を追われた。これらの家族は、海岸から遠く離れた軍事計画による農業村に移された。

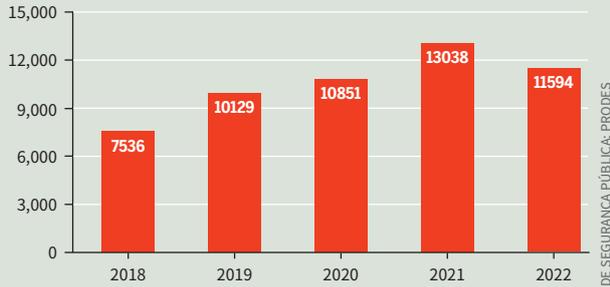


アルカンタラは、ブラジルのどの自治体よりもキロンボーラの人口が多く、1万7,000人のキロンボーラの85%が約200の集落に住んでいる。

軍事指揮

「法と秩序の保証」作戦により、2018年から2022年にかけて、アマゾンの環境犯罪撲滅を軍が担当することになった。しかし、結果は有意ではなかった。

法定アマゾンの森林伐採 (km²)



2018-2019: 「Verde Brasil I」を含むアマゾンの5つの「法と秩序の保証」作戦
1億2450万レアル

2020-2021: 作戦 Verde Brasil II and Samau' ma
4億6,000万レアル

FORUM BRASILEIRO DE SEGURANÇA PÚBLICA; PRODES

ル初の連邦直轄地としてブラジルに編入された。これによってブラジル政府は、ほぼ60年間、ほぼ独占的な軍政下にあったアクレ連邦(1904~1962年)の行政・財政管理を確立することができた。1943年には、アクレに加え、アマゾンに2つの連邦直轄領が新設された: グアボレ(現在のロンドニア)とアマパは、どちらも主に軍事政権によって統治され、国境地域に位置している。

これに、国際的な拝金主義から保護されていない資源豊富な地域の物語が加わってくる。このテーマは第二次世界大戦後、強い民族主義的な訴求力を持ち、繰り返し政治的なスローガンとして掲げられるようになった。この考え方は、特に1964年のクーデター以降、ブラジルの軍事思想の中心となった。国家安全保障イデオロギーを背景に、軍事に直結するかどうかにかかわらず、大規模なプロジェクトが続々と実施された。例えば、「アマゾン横断道路」、移住者の再定住を目指した「国家統合計画」、「ポラマゾニア計画」、さまざまな鉱業や水力発電所プロジェクトなどが挙げられる。伝統民族や先住民族は、このような開発によって深い影響を受け、伝染病、領土の喪失、文化的浸食に苦しみ、奴隷化やレイプなど、さまざまな形態の虐待を受けた。

2018年から2022年にかけて、研究や公式文書によると、機関の措置により、武装勢力がアマゾンにおける森林破壊、山火事、土地収奪、先住民の土地への侵入、違法採掘との闘いにおける主要な主体として位置付けられた。その結果、国立先住民保護財団、シコ・メンデス生物多様性保全研究所 (Chico Mendes Institute for Biodiversity Conservation)、ブラジル環境・再生可能天然資源院などの機関は、放置、解体、信用の喪失に苦しんだ。これらの機関は、環境政策や先住民政策の専門知識を持たない軍人が率いていた。2021年、アマゾンで「法と秩序の保証 (Law and Order Guarantee)」作戦が開始され、環境犯罪撲滅の責任を軍隊に課すことで、こうした機能不

「国家安全保障」と「国家主権」という軍事的レトリックが、アマゾン地域における管理政策の大半を支えている。

PRODES プロジェクトは、衛星技術を使って法定アマゾンの皆伐による森林減少を監視している。1988年以来、衛星画像によって確認された森林伐採地域の増加をもとに、年間森林減少率を算出している。

全かつ介入主義的な措置がさらに拡大された。さらに、環境省は防衛省に直接財源を移譲した。

現在、公式データによれば、ブラジル・アマゾンには63の軍事組織と約3万人の軍人が存在し、1万5,000 km以上に及ぶ陸上国境を監督している。この広大な領土は、違法薬物や武器の侵入を容易にする広範かつ穴の多い水路網によってさらに複雑になっており、それらの取引は大規模な犯罪組織によって管理されている。この現実には、軍事セクターにおいて繰り返し指摘される「鉱物資源、生物多様性、淡水資源が豊富な地域におけるブラジルの主権を確保する地政学的・戦略的必要性」という主張をさらに強化している。しかしながら、こうした軍の存在や連邦政府、市民社会組織の努力にもかかわらず、効果的な国境管理、繰り返される違法行為の封じ込め、アマゾンの天然資源の保護は、いまだ称賛に値する成果とはほど遠い状況である。●

歴史的軍事合理性

アマゾンの領土管理は、ブラジル軍の管理下に置かれた:



アマゾン開発主義プロジェクト

気候危機は、アマゾンに対する政府の政策形成の軸となったイデオロギーに疑問を投げかけている。商品輸出と石油探査に焦点を当てた現在の開発主義的なプロジェクトに対して、代替的な対立モデルを優先させる必要がある。

気候危機が地球上に危機感を与えているにもかかわらず、アマゾンは占領すべき空間、つまり天然資源と生物多様性を征服し、集中的な開発を行なうための場所とみなされ続けている。このイデオロギーは、さまざまな政府や時代を超えて、政策や計画の基盤となってきた。新国家時代(1937~1945年)にジェトゥリオ・ヴァルガス大統領が打ち出した「西部への進軍(March to the West)」計画は、その後、ジュセリーノ・クビチェック大統領によって引き継がれ、中西部地域の国境を開き、北方諸国と市場および開発への最終的な統合を達成すべく、ベレン-ブラジリア高速道路(森林を貫く約2,000 km)が設計された。

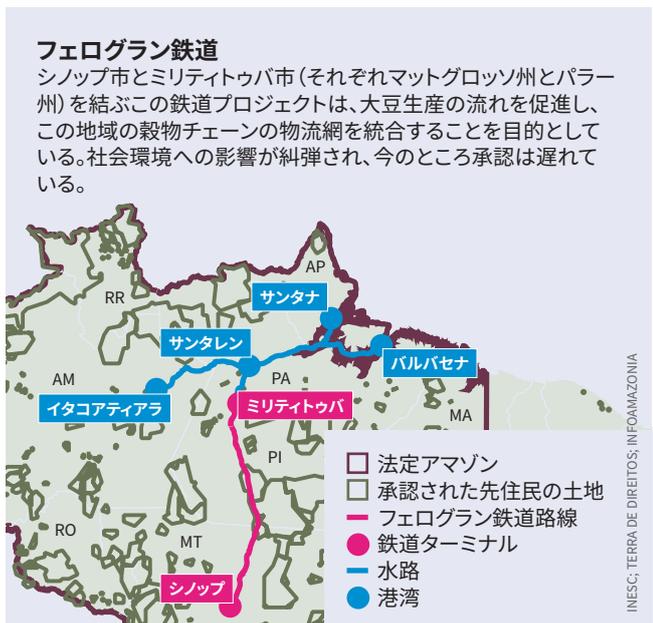
この高速道路は、ブラジルの近代化における地政学的な主要プロジェクトであった。このモデルはその後、1964年以降の軍事政権でも採用され、植民地化や国家統合計画と連動した主要幹線道路の建設が行われた。こうした政府の政策が大規模な領土介入につながり、森林における人間の居住パターンが再構築され、経済構造や権力構造が変化した。国家統合計画(the National Integration Program)、グランデ・カラジャス・プログラム(the Grande Carajás Program)、ポラマゾニア計画(the Polamazônia Program)、ポロノロエステ・プログラム

(the Polonoroeste Programs)などがその代表例で、いずれも畜産、農業、木材搾取、鉱業団地の設立を目的とした税制優遇措置による財政支援を受けていた。

1960年代以降は、大規模な水力発電所プロジェクトが次々と実施された。さまざまな用途において、エネルギー生産は不可欠だが、社会環境への影響を最小限に抑える技術を追求することは極めて重要である。アマゾンは、国内最大の大規模水力発電所プロジェクトを抱えており、多額の資金調達、設置された広大な地域の急速な変貌、社会・環境への大きな影響で特徴づけられている。次のような主要プロジェクトが特に際立っている：パラ州のトゥクルイ(Tucuruí)(1984年)とベロ・モンテ(Belo Monte)(2016年)、アマゾナス州のバルビナ(Balbina)(1989年)、ロンドニア州のジラウ(Jirau)(2013年)とサント・アントニオ(Santo Antônio)(2016年)、トカンチンス州のラジェアド(Lajeado)(2002年)。これらのプロジェクトはすべて、その導入のさまざまなフェーズにおいて引き起こされた社会環境的な悪影響により、社会運動や環境保護活動家からの強い反対に直面した。

こうした影響には、社会的・民族的集団の強制的な移住、建設現場に集まる労働者の集中的な移動、建設後の広範な失業、労働裁判所に提訴される訴訟の大幅な増加、公共サービスへの需要の増大と逼迫などが含まれる。さらに、森林伐採、動物相の生態系と食物連鎖の乱れ、植物相の変化、水質とその流れの悪化もある。最も象徴的な事例であるベロ・モンテとバルビナのようなプロジェクトは、膨大な科学報告によって、社会的、環境的、技術的な実行可能性が疑問視されている。先住民民族、キロンボラ族、川沿いの住民、農村の住民がさまざまな方面に動員された。検察庁によって検証された条件は認められたが、ほとんどの法的手続きでは無視されることが多く、環境ライセンスに有利な手続き上のバイアスがかかっていた。

アマゾンは現在、穀物、食肉、鉱石の生産チェーンにおいて、大企業の利益の集中心として中心的な位置を占めている。ブラジルの農産物や鉱産物の輸出において、最も重要な通路のひとつとなっている。アマゾンの各州で大豆生産が拡大し、土地の後継者不足が急速に進行している。大規模な穀物生産のための土地取得に対する国内外の関心は顕著に高まっており、先物市場を中心とした投



ベロ・モンテ

ベロ・モンテ水力発電所の建設は5つの自治体に影響を与え、6万6,000ヘクタールが浸水した。

ベロ・モンテは
**シングレー川
(ヴォルタ・グランデ)の
ほぼ80%の水を迂回させ、**
その距離は2つのダム間
130 kmに及ぶ。

プロジェクト費用
190億リアル

プロジェクトは**何万人もの人々**を立ち退かせ、これには何百もの川沿いに住む家族も含まれている。

このプロジェクトは
2つの先住民の土地に直接影響を与えた。

裁判所は工場の操業を
7回

停止したが、これは、社会環境影響を緩和するためにコンセッションリア・ノルテ・エネルギーに課された暫定的救済措置に従わなかったためである。

47の暫定的救済措置のうち

34が遵守されることはなかった。

IBAMAは2012年から水力発電所に**36回**罰金を科した。

INSTITUTO SOCIOAMBIENTAL (ISA); MINISTÉRIO PÚBLICO FEDERAL; REVISTA VEJA

シングレー流域では、1980年代にすでに5つの水力発電所の建設が計画されていた。1989年、この地域の先住民は、「シングレー先住民会議 (Meeting of the Indigenous Peoples of the Xingu)」を組織し、これらの発電所の設置に反対した。当時、先住民の女性ユイレ・カヤポーは、エトロノルテの当時のディレクター、ホセ・アントニオ・ムニス・ロペスの顔にナタをこすりつけるという抵抗行為で広く知られるようになった。

西洋岸における石油探査活動について触れておくことも重要である。2024年11月現在、調査・試掘段階を経て、プロジェクトは競売・利権化段階にある。特に COP 30 以前の状況において、世界的に異常気象が増加し、エネルギー転換政策が急務となる中、地政学的・経済的利害の動きとその同盟関係や戦略は、重要な問題を提起している。特に、私たちがすでに直面している気候の崩壊を考慮すれば、いかにアマゾン上流地域における石油探査活動モデルを環境を回復不能な状態にまで破壊せずに維持すべきか？国際的な気候変動交渉において、ブラジルはどのような役割を果たすべきなのか？

また、大規模な建設プロジェクトが中心となっている現在のアマゾンのインフラ政策に疑問を投げかけることも重要である。ここ数十年、この政策は森林伐採の軌道と社会経済的ダイナミクス、そして紛争の構図を導いてきた。覇権主義的な（そして持続不可能な）開発モデルに起因するこの状況を理解するには、エネルギー転換プロセスを緊急に推進し、持続可能性と社会環境正義を備えた生活を組織する代替的な経験とモデルを評価する政治的責任が必要である。●

資が行われている。このような動きは土地市場に大きな圧力をかけ、土地取引を促進し、とりわけ土地収奪を引き起こす。

インフラ事業への大規模な公共投資や民間投資は、輸送、港湾、中継所、道路、鉄道、冷蔵倉庫などに向けられている。新成長加速プログラム (The New Growth Acceleration Program, PAC3) は、引き続き開発主義と近代化の理想に従っている。そのようなプロジェクトのひとつであるフェログラン鉄道 (EF170) は、特に農産物の流通を促進するために先住民の土地と保護区を横断している。プロジェクトの規模、連邦政府から提供される資源、さまざまなエージェントを引きつけ紛争を引き起こす可能性を考えると、プロジェクトによって誘発される森林伐採を監視・管理することは極めて重要である。そのためには、社会参加と地域社会の監視を確保するとともに、地域の土地・領土計画を強化する必要がある。

2023年、シングレー+ネットワーク (Xingu+ Network) は、フェログラン鉄道の技術的、経済的、環境的実現可能性の調査、社会経済的調査の再評価の必要性を強調した。また、意思決定プロセスへの参加を促進するメカニズムとして、「自由で、事前の、情報に基づいた協議と同意」を認識することの重要性を強調した。

最後に、アマゾン上流地域とパラ州、アマパ州の大

ペトロブラスはブラジル環境・再生可能天然資源院 (Brazilian Institute of the Environment and Renewable Natural Resources, IBAMA) の決定を不服とし、プロジェクトが先住民に与える影響の分析を要求した。ブラジル連邦政府はアマゾン河口での石油探査を支援している。

アマゾン川河口の石油

アマゾン川河口での石油探査プロジェクトは、環境保護活動家とブラジル連邦政府との対立の火種となった。



ペトロブラスの調査によると、アマパ州のアマゾン河口の赤道直下にある FZA-M-59 鉱区には、以下が含まれている可能性が示された。

560万 バレルの石油。

ペトロブラス社は、同地域の探査エリアから同地域で

1480万 バレルの石油が生産可能であると推測している。

IBAMA は、この鉱区での

探鉱ライセンスを拒否

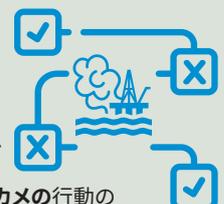
した。

IBAMA の評価では、59鉱区の環境影響は**最大で**。

18件の悪影響

が記録され、そのうち4件は重大レベルであった。

それらには、この地域の水生哺乳類やカメの行動の乱れも含まれる。



PETROBRÁS; PODER 360; GREENPEACE

森林の荒廃

森林伐採と山火事は、アマゾンの生物多様性にとって大きな脅威である。木材搾取によって森林は火災が発生しやすくなり、荒廃のサイクルが始まって最終的には森林を破壊してしまう。この損失を食い止めるためには、保護区域を作ることが不可欠である。

アマゾンには生物多様性の莫大な宝庫であり、その破壊は生物多様性のほとんどを失うことにつながる。アマゾンの熱帯雨林の伐採が広く知られている一方で、あまり知られていないが、気候変動によって悪化した山火事、伐採、干ばつによる劣化は、より危険な脅威となりうる。木を伐採するのは意識的な決断であり、政府の措置はそうした行為を抑制するのに役立つ。しかし、火災や干ばつによって樹木が破壊されると、森林の損失を防ぐことは難しくなる。森林劣化の主要因のひとつである木材搾取は、実際、コントロールすることができる。

合法であれ違法であれ、伐採によって森林の樹冠に隙間ができ、日光や風が入り込むようになる。また、伐採した木や伐採作業中に誤って伐採した木の枯れ枝も残る。これらの要因が、火災が発生する可能性と延焼の激しさを高める。過去に発生した火災も同様の影響を及ぼし、火災が続けば森林全体が消滅するという悪循環を引き起こす。気候変動はアマゾンの乾季を長期化し、干ばつと気温の上昇を激化させると予想されている。これは、森林が火災に耐える能力の更なる低下の要因となる。こ

の地域では家畜耕作が拡大しているため、森林は乾燥した縁や枯れ木のある小さなパッチに分断され、火災のリスクも高まっている。さらに、最初の整地や牧草地の維持に使われた火は、しばしば森林へと漏れ出ることがあり、危険な発火源となる。

社会生物多様性の喪失、地球温暖化防止に重要な役割を果たす森林の炭素蓄積、アマゾンだけでなくブラジルやラテンアメリカの他の地域にも降雨を供給する水循環機能の喪失は、アマゾンの熱帯雨林の破壊を止める重要な理由である。

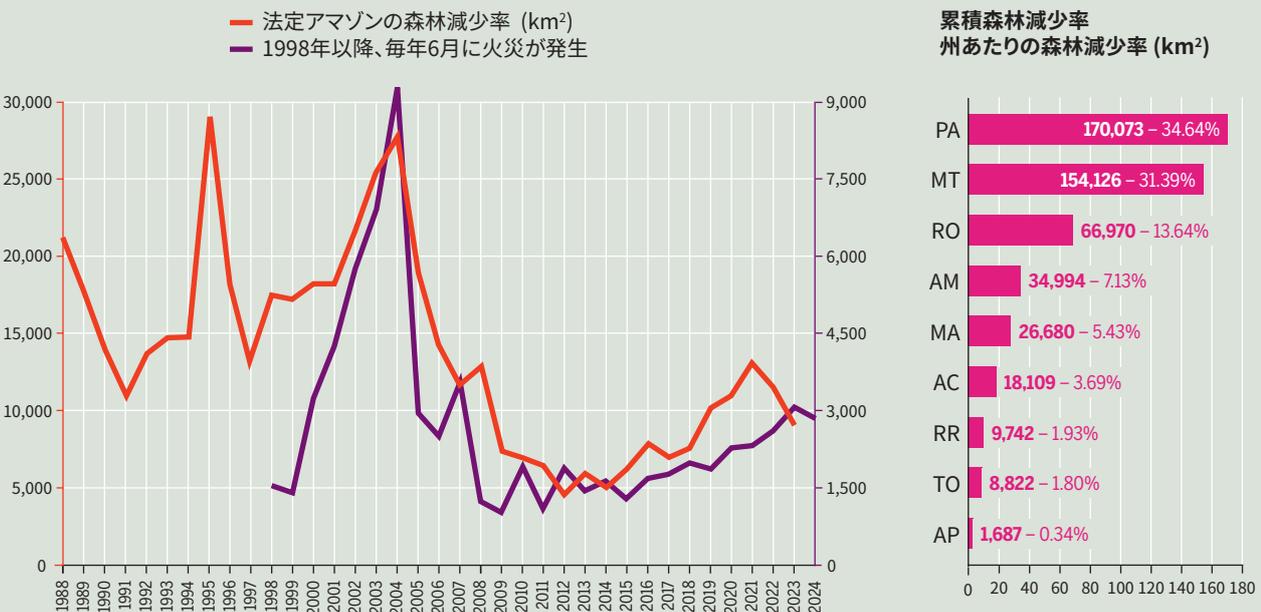
森林破壊を促進する力を理解し、それに対抗する効果的な対策を実施することは、その影響を緩和するために不可欠である。現在、ほとんどの議論は、検査と罰金によって違法な森林伐採を抑制することに焦点が当てられている。他の対策が検討される場合、話題は通常、森林再生に移る。残念ながら、アマゾンの文脈ではこのアプローチは逆効果だ。アマゾンの荒廃した土地1ヘクタールの修復には、1ヘクタールの原生林の消失を防ぐよりもはるかに多くの費用がかかる。さらに、社会生物多様性や気候の観点からは、1ヘクタール当たり、また投資額当たりの修復のメリットははるかに小さい。環境保護活動に使える資源は常に不十分であり、森林回復に1レアル使うごとに、森林破壊を防ぐための1レアルが減ることになる。

森林破壊を食い止めるには、このプロセスを推進して

ジャイル・ボルソナロ前大統領の政権下で、アマゾンの森林伐採率は2006年以来初めて再び増加し始めた。

アマゾン：森林伐採と火災

国立宇宙研究所は、アマゾンの火災発生と年間森林伐採率を監視している。



炎の日々

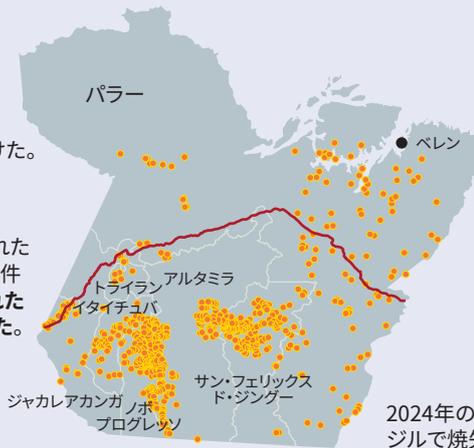
2019年8月10日から11日にかけて、パラ州の農村部の生産者たちが政治的に動員され、アマゾンの熱帯雨林に火を放った。2024年、過去最多の山火事が報告され、多くの山火事の背後に組織的な犯罪活動の疑いがもたれている。

2019年8月10日から11日にかけて

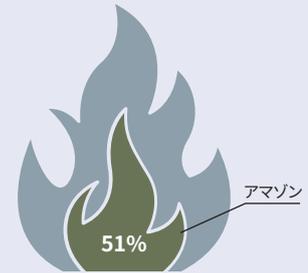
パラ州では1,456件の火災の発生が記録された。
53の先住民の土地が影響を受けた。
534の保護区が影響を受けた。

2019年の「火災の日」に記録された火災発生の50%は、農村部の物件(207件)で発生したが、**通報された物件は全体の5%に過ぎなかった。**

● 記録された熱源
— アマゾン横断道路



火災発生 (2024年 1月～9月)



2024年の最初の9カ月間に、ロライマ州に匹敵する面積がブラジルで焼失した。
ピークは9月で、**1,065万ヘクタール**が焼失した。

GREENPEACE BRASIL; BDOQUEIMADAS - TERRABRASIL

いる根本的な原因に取り組む必要がある。多くの要因があるが、最も重要な要因に焦点を当てるのが論理的なアプローチである。近年の森林破壊の半分は、指定されていない公有地で起きている。こうした土地での違法な森林伐採は非常に収益性が高く、アマゾンでは急速に増加している。この傾向は、土地収奪をより柔軟にすることを目的とした一連の法律が承認されたり、国会で審議中であったりすることによって、さらに助長されている。このプロセスの主役は、大規模な土地収奪者と畜産農家である。

新森林法によって2012年に設立された農村環境登記簿は、現地調査なしで、個人が自己申告で農村の不動産をオンラインで登録できるようにすることで、土地収奪を大いに促進している。農村環境登記簿自体は、所有権や所有者の証明としての法的価値はないが、事実上、土地の不法占拠を助長している。さらに、同法は40年以上にわたる環境犯罪を恩赦することで、土地収奪を奨励している。現在のシステムを放置すれば、将来的にアマゾンで大規模な森林伐採が起こる可能性がある。不法占拠を合法化することは、しばしば「正規化」と呼ばれるが、これは主張された土地に対する法的権利を誤解させるものであり、公有地へのさらなる侵入を助長する。

ブラジル・アマゾンの東部と南部は「森林破壊の弧 (deforestation arc)」と呼ばれ、すでに森林伐採が進んでいる。元来森林であったこれらの地域に残されたものは、深刻な劣化が起きている。これまでのところ、他の地域が比較的保全されているのは、主に違法伐採者のアクセスが困難なためである。しかし、これらの残された森林地帯も脅威にさらされている。特に、BR-319 高速道路 (マナウス-ポルト・ヴェーリヨ間) の再建や関連する地方道路などのインフラ・プロジェクトが計画されており、これらの地域は森林破壊の弧に含まれることになる。生物多様性を

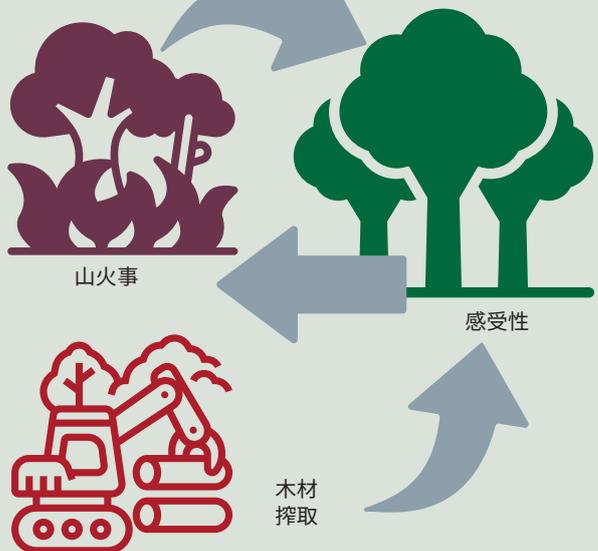
森林の火災に対する感受性が高まると、山火事の頻度も被害も大きくなる。この脆弱性は、木材採取や過去の山火事によってさらに悪化している。

2019年の「火の日 (Fire Day)」に発生した煙は非常に激しく、8月19日にはサンパウロまで到達し、市内は昼から夜に変わってしまった。

保護し、森林減少を抑制するためには、先住民の土地や保護区の新設が不可欠である。しかし、違法占拠の合法化は、先住民族やキロンボーラ族、伝統的コミュニティの領土権の承認よりも優先されることが多い。●

森林と火災

木材採取によって伐採された地域は、火災の影響を受けやすい。一度山火事が発生すると、同じ地域でその後も火災が発生する危険性が高まる。



NEPSTAD, DANIEL ET AL. 2000

アマゾンの農業ダイナミクスと不平等

アマゾンの生産構造を支配しているのは、大豆の単一栽培と畜産である。これらのセクターの生産総額は、穀物価格の高騰と開発政策によって上昇している。一方、森林伐採は増加傾向にあり、家族農業の生産額は減少している。

法 定アマゾンの農耕経済は、ここ数十年で急成長を遂げた。1995年から2006年の国勢調査の間、農業総生産額 (Gross Value of Agricultural Production, GVP) の年間増加率は5.2%で、2006年から2017年の間に7.7%に上昇し、2022年には年間13.6%に達する。この間、GVP は2020年の恒常価格ベースで340億リアルから2,500億リアルに急増した。この成長は、生産形態の大幅な再編成、土地の集中化、森林破壊とそれに関連する排出量の大幅な増加を伴っていた。

その結果、アマゾンの生産構造は、賃金労働を中心とした雇用者ベースの農業(アグリビジネス)に大きく偏り、農村部や小規模の家族農業が犠牲になっている。この傾向は2017年の国勢調査以降も続き、GVP の大幅な増加によって牽引された。その成長の3分の1は世界市場による需要によってもたらされた価格の上昇に起因している。2022年までに、アグリビジネスがこの地域の農業経済の90%を占めるようになった一方で、農村の家族農業の割合は、同じ期間に47%からわずか10%に減少した。

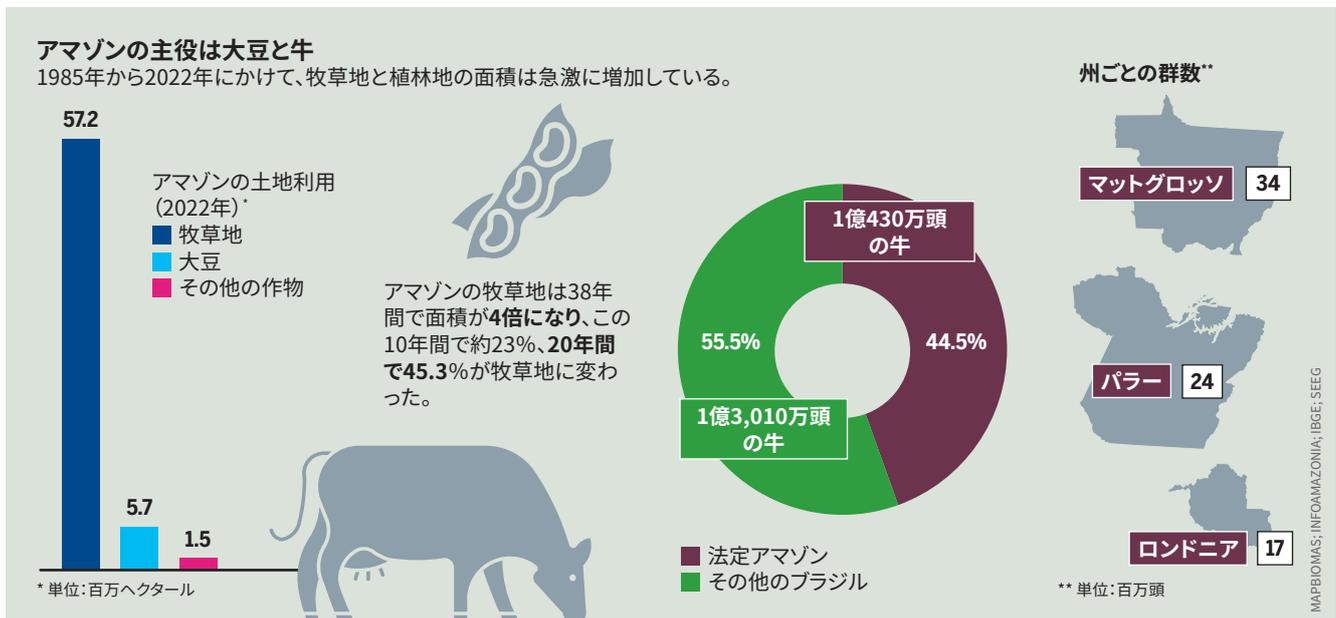
このダイナミズムを牽引する事業所が支配する土地は、1995年の1億1900万ヘクタールから2017年には1億3100万ヘクタールへと拡大し、巨大な規模に達して

いる。このうち79%がアグリビジネス関連企業に属している。2017年、アグリビジネス業者は1億300万ヘクタールを支配し、その中には5900万ヘクタールの伐採地と4400万ヘクタールの森林が含まれていた。総面積が変わらなると仮定すると、森林伐採地の割合は近年大幅に増加している。2017年には59%に達し、この地域の森林規範で定められた20%の制限をすでに大きく上回っている。2019年にはこの数字は63%に上昇し、2022年には71%に達した。この拡大により、1,400万ヘクタールの森林が伐採され、環境に大きな影響を与えた。

アマゾンのアグリビジネスは、ここでは頭文字をとってSTT (sociotechnical trajectories) と呼ばれる3つの社会技術的軌道に沿って発展する。これには、穀物栽培を中心とする生産システムに焦点を当てた社会技術的軌道 (STT-Grain)、肉牛飼育を中心とする社会技術的軌道 (STT-Livestock Farming)、永続的作物の均質なプランテーションと植林に基づく社会技術的軌道 (STT-Plantations) が含まれる。

なかでも、機械的・化学的資源を集中的に使用した穀物生産を特徴とする STT-Grains が最も急速に成長した。GVP は1995年から2017年の農業国勢調査の間に前年比10%増加し、その後の数年間は2倍以上に増加した。その結果、2020年には10%、2021年と2022年には45%の穀物価格の上昇によって、この社会技術的軌道では土地の転換が進み、農家の関与が増加した。この軌道でのこのような土地需要の高まりは森林破壊を激化させ、大

アグリビジネスは、アマゾン地域における森林破壊の主な原因のひとつである。



法定アマゾンのアグリビジネスと経済

法定アマゾンのGVPに占めるアグリビジネスの割合は増加しているが、小規模農家の参加は停滞している。この結果は、食料生産量の増加だけでなく、価格の上昇も反映している。一方、小規模農家の生産は価格切り下げに直面している。



アグリビジネスが占拠する地域では数百万ヘクタールの森林伐採が年々増加しているが、小規模農家が占拠する地域では森林伐採は停滞している。



* GVPの推移は、2020年の恒常価格における価格上昇と生産量の増加によって説明される割合を示している。

1995年、2006年、2017年農業センター統計、IBGE、野村農業生産、SIDRAシステム

豆とトウモロコシ栽培のために伐採された面積は700万ヘクタール近くに達した。STT-Grainsの成功は、ダイズとトウモロコシの混作システムによる生産性の向上によるところが大きい。こうした発展は、特権的なレベルでの技術支援や融資を提供する公共政策によって支えられていた。

アマゾンで2番目に急成長し、最も重要なアグリビジネスの生産構造は、STT-Livestock Farmingである。GVPは1995年から2006年にかけて年率3.8%成長し、次の国勢調査までの期間には倍増の年率7.8%となった。2017年には、この地域の農業経済の25%を占めるまでになった。それ以来、軌道の生産額は2.3倍に増加し、2017年には3400万ヘクタールだった新たな土地需要は、2022年までに約700万ヘクタール拡大した。この増加は、その年の法定アマゾンの全森林伐採地の約40%に相当する。この森林伐採と、STT-Livestock Farmingにおける一般的な牧草地管理技術(山火事による開墾を含む)に伴うCO₂純排出量は、1995年から2006年の間に農畜産物の排出量の60%以上を占め、2006年から2017年の間には65%に上昇した。

持続可能な開発の原則に沿わないという特徴があるにもかかわらず、STT-Livestock Farmingと開発政策の関係は、STT-Grains同様、優遇されてきた。2017年には、このような軌道をたどる農業企業の20%が技術支援を受けているのに対し、家族農業はわずか9%だった。STT-Livestock Farmingには2017年にGVPの34%が融資されたが、これは2006年の約3倍で、家族農業の2倍以上であり、アグリビジネスセクターの他のすべての社会的技

1995年には法定アマゾンの農業GVPの53%を占めていたバランスの取れた状況から、アグリビジネスは2017年までに同セクターの経済の83%を占めるまでに成長した。一方、家族農業の割合は同じ期間に47%から17%に減少した。

術的軌道の中で最も高い割合であった。STT-GrainsとSTT-Livestock Farmingセクターは緊密な協力関係のもとに事業を拡大してきた。前者は後者によってすでに伐採された土地を吸収しており、前述したCO₂純排出量の大きな原因となっている。また、STT-Grainsの生産者や投資家との土地取引から得た利益は、STT-Livestock Farmingの競争力と拡大を支えている。

第3のアグリビジネス軌道であるSTT-Plantationは、2006年から2017年の間に、年率わずか0.7%の成長率で、農業経済に占める割合を6%から3%に減少させ、非常に控えめな経済実績を示している。森林伐採率は50%に達するが、植生が永久に維持されているため、炭素収支は比較的良好である。しかし、この軌道はアグリビジネスセクターで最も公的資金や技術支援を受けていない。2017年、技術支援を受けた事業所は17%に満たず、融資を受けたGVPは21%に過ぎなかった。●

ムンドウルク族の領土における違法採掘

採掘はアマゾンで、特に先住民の土地で増加しており、一連の社会環境的影響を引き起こしている。タパジヨス川流域は、最も影響を受けた地域のひとつであり、ムンドウルク族が暴力と環境汚染に抵抗し続けている。

2022年の MapBiomass のデータによると、ブラジルの採掘面積の92%はアマゾンにあり、その大半は金の採掘に充てられている。これは、この地域の採掘活動の拡大という歴史的傾向を反映しており、2010年以降4倍に増加している。2018年から2022年にかけて、アマゾンでの採掘は、ジャイル・ボルソナロ前大統領(2019~2022年)の政府の政策と、新型コロナウイルスパンデミック時の金価格の記録的な高騰に後押しされ、ブラジル連邦政府によって公式に区画され、承認された先住民の土地内で激化した。このシナリオは、過去6年間にブラジルの先住民の土地で行われた違法採掘の新たな特徴を決定づけた略奪的採掘を浮き彫りにしている。ブラジルでは、この採掘活動は「ガリンポ (garimpo)」と呼ばれ、もともとは初歩的な道具を使った沖積鉱物の採掘を意味するブラジル語であったが、ここ数十年の間に機械化され、資本集約的な作業に発展した。その結果、「ガリンポ」は大規模採掘に典型的な特徴を獲得し、採掘規模の拡大と社会環境への影響をもたらした。

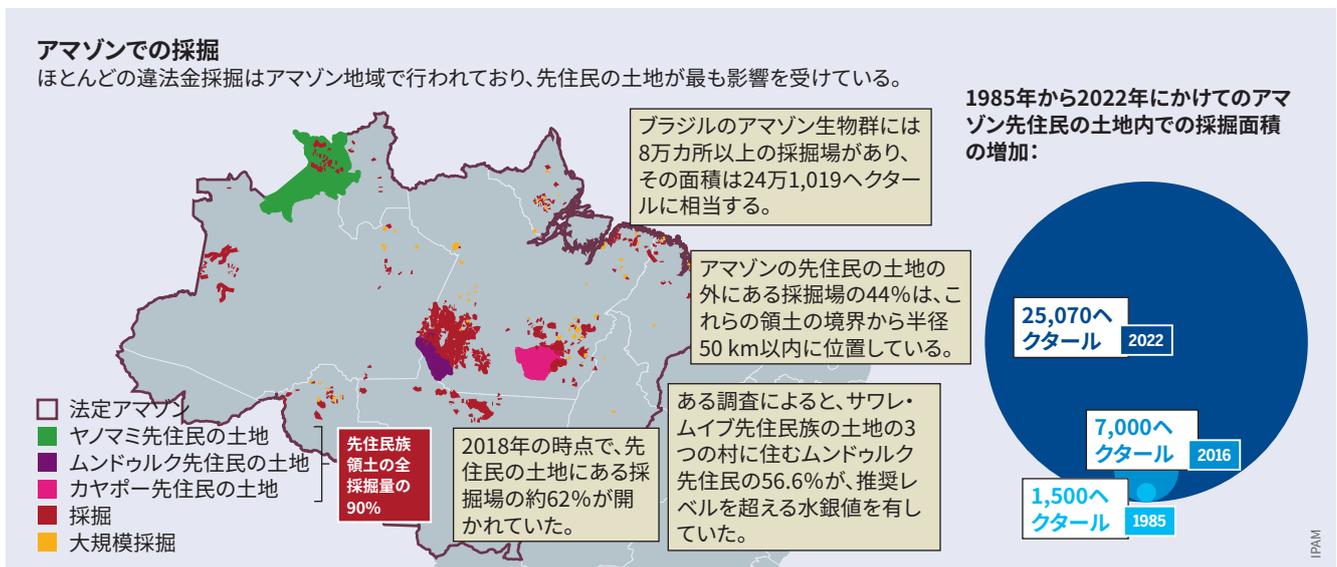
ブラジルの先住民の土地での採掘は、ブラジル連邦憲法のもとでは違法である。これらの領土での採掘を合法化しようとする動きは、1988年10月5日(ブラジル連邦憲法が公布された日)時点で先住民が占有していた土地

の権利に制限を加える法的テーゼである、時間的枠組み法案 (Temporal Framework Bill) の推進の中心的な役割を果たした。この法案は2023年に法律第14701号として公認・制定されたが、先住民の土地や保護地域内での鉱物採掘の合法化は依然として大きな議論を呼んでいる。

現在、採掘は人身売買、性的搾取、奴隷的労働条件と結びついている。また、金取引にトレーサビリティの仕組みがないことや、強力なロビー活動の影響など、犯罪組織の特徴を持つグループによって助長されている。採掘の拡大は、政府の政策、特に2013年法律第12844号によって確立された善意推定原則によってさらに促進されてきた。2023年5月まで、この法律は、金買い取り会社が確認なしに、紙の用紙だけを使って金の原産地を申告することを認め、事実上、金をマネーロンダリングの手段として推奨していた。

パラ州南東部のタパジヨス川での採掘は、その長い採掘活動の歴史と、その結果もたらされた環境破壊の象徴である。タパジヨス盆地は、面積の点で世界最大の鉱物資源地帯と考えられており、歴史的にブラジル・アマゾンで最も多くの鉱山労働者が集中していた。ムンドウルク族は何世紀にもわたってタパジヨス盆地を占拠してきた。彼らの領土の一部 (Sawre MuybuとSawre Ba'pimの先住民の土地、Praia do ÍndioとPraia do Mangueの保護区) を含むイタイチュバ自治体は、ブラジルで最も採掘活

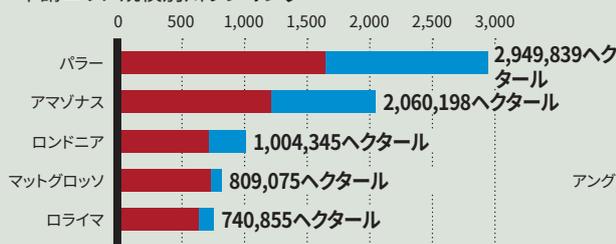
先住民の土地での天然資源の採取は禁止されている。これらの地域における採掘場と採掘活動の規制は、ここ数十年、いくつかの立法案の対象となってきた。



アマゾンでの鉱物探査

ブラジルの法律は保護区での採掘を禁じている。しかし、近年、これらの地域では何百もの採掘申請手続きが登録されている。

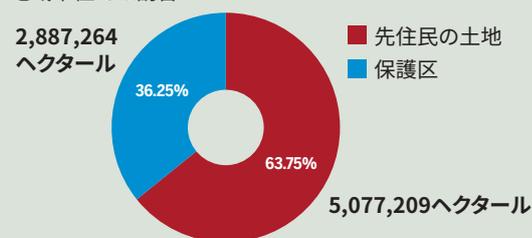
申請エリア規模別州ランキング



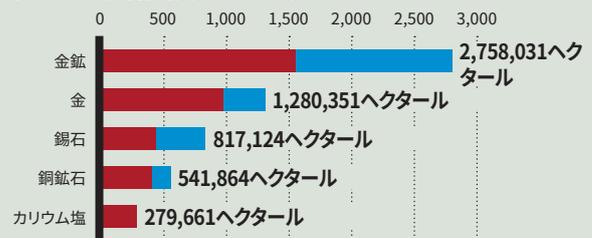
申請エリア規模別企業ランキング



地域単位での割合



申請エリア規模別採掘物ランキング



AMAZONIA MINADA - INFORMAZON/AMAZON WATCH/AGENCIA NACIONAL DE MINERACAO

動が集中しており、ムンドウルク族、サイ・シンザ族、カヤビ族の先住民の土地があるジャカリアカンガがそれに続く。

この流域で最初の大規模な採掘ブームが起こったのは1980年代である。しかし、アマゾンでの金採掘は、人口拡大と投資促進を目的とした軍事政権の政策によって、それ以前の1970年代に始まった。1983年に国立鉱物生産局 (the National Department of Mineral Production) (後に2017年に国家鉱業庁 (the National Mining Agency) に改称) によって、イタイチュバ自治体の約2万9,000 km²をカバーするタパジヨス鉱区保護区が創設されたことは、この地域が鉱物採掘にとって戦略的に重要であることを強調している。

2019年、ブラジル・アマゾンで2回目の大規模な採掘が行われている最中、タパジヨス地方ではムンドウルク族とサイ・シンザ先住民の土地での金採掘による森林破壊が進んだ。国家鉱業庁への採掘許可申請は激化した。2021年5月、ジャカリアカンガ州政府は採掘推進派のデモを奨励し、ムンドウルク先住民領内のファゼンダ・タパジヨス村への武力攻撃につながった。その2カ月前には、採掘に反対することを公言していたワコボーン協会 (the Wakoborün Association)、イペレグ・アイル169運動 (the Iperég Ayü Movement)、その他のムンドウルクの抵抗組織の本部が破壊された。この時期、ムンドウルクの指導者たちは、自分たちの領土での違法採掘活動に関する報告の結果、殺害予告の増加に直面した。ムンドウルクの人々自身が実施した調査によると、少なくとも18人の指導者が現在、直接的な脅威にさらされている。

このような状況の中で、ムンドウルク族は彼らの健康への壊滅的な打撃を受け続けている。バックホー、浚渫

水銀は有毒金属で、ブラジルでは商品化が禁止されている。同国は水俣条約に加盟しており、その使用は制限されている。鉱山労働者が堆積物から金を分離する工程で使用される。

保護区での採掘が禁止されているにもかかわらず、国家鉱業庁は、「資源が提供される」可能性があるとして理解しているため、何千もの有効な採掘申請をシステムに保持している。

船、その他の機械の使用が、人々の主な飲料水源を汚染し、破壊している。採掘はまた、マラリアを媒介する蚊の繁殖に理想的な条件を提供する。健康危機に拍車をかけているのは、ムンドウルクの人々が慢性的に水銀にさらされていることだ。「アズーグ (azougue)」と呼ばれるこの薬品は、金を「浄化」するために採掘に使われ、人々の主なタンパク源である魚を汚染の主な経路にしてしまう。主に新生児や小児の神経系に影響を及ぼす。

ムンドウルクの人々は、少なくとも1980年代から自分たちの土地での違法な金採掘に抵抗してきており、彼らの活動は独自の調査の採用により、2010年代に激化した。管轄機関の支援がないなかで、彼らは領土を守るための取り組みを実行し続けている。●

ブラジルでの金生産チェーンにおける違法行為

ブラジルで取引される金のかなりの部分は違法採掘によるものである。違法採掘活動における水銀の使用が、先住民族を汚染しているという研究結果もある。



2019年から2020年にかけて取引される174トンの金のうち、49トンは、不正の証拠がある地域からのものである。



金の生産量1グラムにつき
1.3~8グラムの水銀が使用される。
2018年から2022年の間に、ブラジルの鉱山で185トンの起源不明の水銀が使用された。

PORTAL DA TRANSPARENCIA DO OURO; MANZOLLI, BRUNO ET AL. 2021; MINISTERIO PUBLICO FEDERAL; INSTITUTO ESCOLHAS; FIOCRUZ

BR-319:アマゾンの終焉への道

アマゾンにおける道路建設は、森林伐採と土地収奪を加速させ、生物多様性、生態系サービス、伝統民族を脅かしている。これらのプロジェクトの中でも、BR-319 高速道路の敷設は重大な脅威として際立っている。最後に残った手付かずの森林地域のひとつを危険にさらし、アマゾンが耐えられる森林破壊の限界を超えてしまった。

アマゾン地域には独特の植生と地理的特性があり、広大な河川が主要なアクセスルートと経済統合の手段となっている。こうした特異性にもかかわらず、1970年代、ブラジルの独裁政府は、この地域の占領と農業・畜産の拡大戦略として道路建設を推進した。最初に建設された高速道路は、1960年に開通したBR-010（ベレン - ブラジリア間）とBR-364（サンパウロ - アクレ間）で、次いで1972年に開通したトランスアマゾニカ（BR-230）は、アマゾナス州南部のラブレアとパラ州のアルタミラを結び、同国北東部のジョアン・ペソアまで延びている。

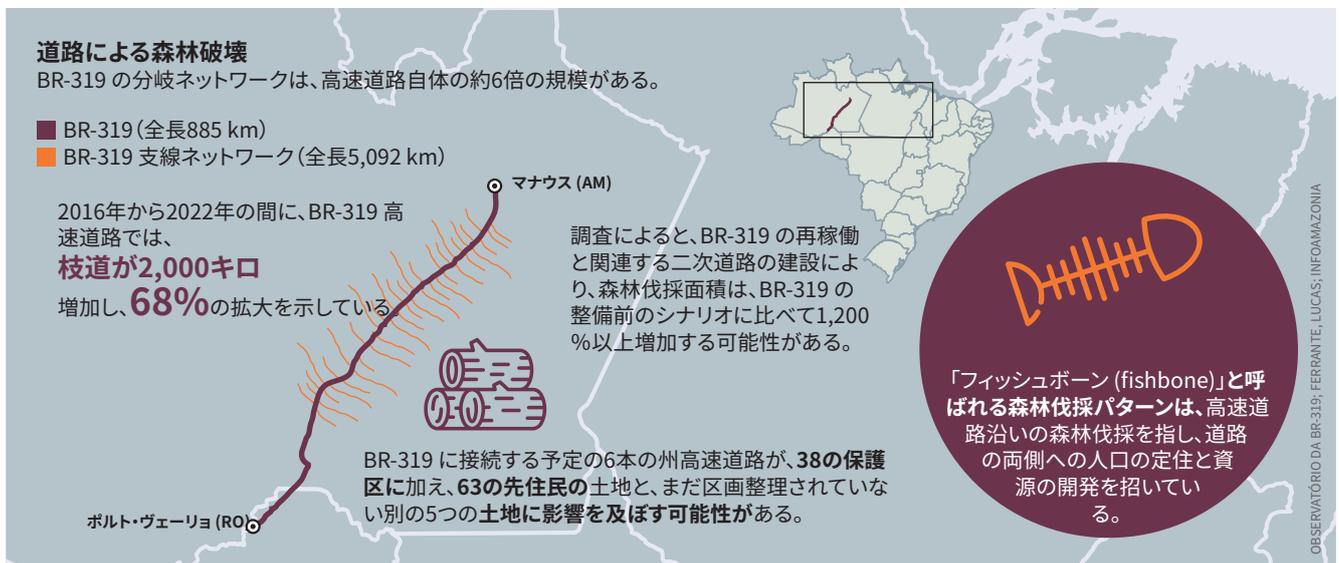
1976年、BR-319 高速道路が開通し、悪名高い森林破壊の弧にある自治体である Rondônia 州の州都ポルト・ヴェーリョとアマゾナス州の州都マナウスを結び、フマイタ自治体でトランスアマゾニカ高速道路と交差する。同年、BR-163 高速道路（クイアバ - サンタレン間）が開通したが、舗装が完了したのは2024年のことだった。道路拡張計画は、1977年に完成したBR-174 高速道路（マナウス - ボア・ビスタ間）の建設まで続いた。その建設の代償として、ウアイミリ・アトロアリ先住民族が虐殺され、彼らは現在、道路に二分された保護区に住んでいる。

これらの高速道路の建設は、森林伐採、森林劣化、違法な木材採取、土地収奪、風土病の蔓延、高速道路全長にわたる殺し屋などの暴力の急増につながった。要するに、アマゾン地域の高速道路は、それが接続する自治体の発展を促進することはなく、むしろ社会的、経済的、健康的格差を深めてきたのである。このプロセスは、伝統民族の権利の絶え間ない侵害、エスカレートする暴力、悪化する環境悪化を特徴としている。

最近、舗装の約束によって有名になったケースのひとつに、BR-319 高速道路がある。1973年に建設が開始され、1976年に開通したものの、交通の便が悪く経済的にも成り立たなかったため、1988年に通行不能となった。その結果、プルス川とマデイラ川に挟まれた広大な森林が保護されることになった。

2015年には、必要な管理や環境調査が行われないうまま、BR-319 高速道路の新たなメンテナンス・ライセンスが発行され、地域の森林伐採が大幅に増加した。高速道路周辺には不法占拠者や土地強奪者が集まるようになり、彼らは土地投機に従事するだけでなく、整備されたインフラを利用して違法な森林伐採や木材採取活動を拡大した。環境検査やガバナンスの欠如に加え、土地の所有権を証明することなく森林管理ライセンスを不規則に付与したことで、大規模な略奪的木材採取が可能になった。この状況は、広大な森林地帯の牧草地や農地への転換を促進し、環境の悪化を激化させ、生物多様性とアマゾンの伝統民族の両方を脅かした。

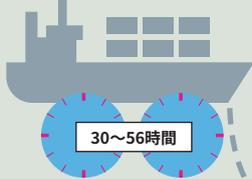
BR-319 高速道路の舗装は、開発主義セクターが擁護する政治プロジェクトであり、アマゾンの住民を分断している。



交通機関の改善？

BR-319 高速道路による酸素輸送が、新型コロナウイルスパンデミック時のマナウスの健康危機を悪化させたという研究結果が発表された。

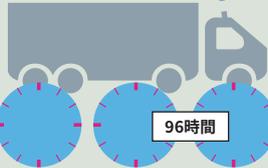
河川輸送
(マデイラ・リバー経由)



マナウスにおける新型コロナウイルスの第2波において、国家交通インフラ局が酸素搬送の最も効率的なルートを見失っていたという調査結果がある。当時、業者が航行可能な条件が整っていたマデイラ川を使わず、BR-319 高速道路を選んだことは、死者数に影響を与えたかもしれない。



陸上輸送
(BR-319 高速道路経由)



選択されたルートには150万レアルの追加コストがかかる。

FERRANTE, LUCAS E FEARNSIDE, PHILIP, 2023.

BR-319 高速道路は、ブラジルで経済的実現可能性の調査が行われていない唯一の主要インフラプロジェクトである。当初は国家安全保障のために必要不可欠だと正当化されていたが、高速道路は国際国境から遠く離れているため、軍当局はこの議論に反論している。3つの独立した研究により、道路は地域輸送に効果がなく、カボタージュがより安価で効率的な代替手段であることが証明されている。

2023年12月18日、緊急手続きに基づき、2023年法案第4994号が下院本会議での審議議題に追加された。この提案は、BR-319 高速道路を「国家安全保障に不可欠な重要インフラ」に分類し、建設許可証の発行とプロジェクトのための資源の即時割り当てを義務付けようとするものである。適切な技術的正当性を欠くこの法案は、大臣権限と国内法を無視している。さらに、アマゾン基金の

アマゾン地域では歴史的に、人と貨物の河川輸送が最も利用されてきた。この地域には1万6,000 km以上の航行可能な河川がある。

ような環境保護を目的とした資金を、アマゾンの熱帯雨林に大きな環境影響を与えるプロジェクトの資金に流用しようとしている。連邦司法長官は、ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ大統領の監督下にある政権に対し、この地域で孤立している先住民族を保護するためのより強力な措置を採用するよう求めた。しかし、ブラジル連邦政府は、影響を受ける伝統的コミュニティのために必要な保護メカニズムを実施することなく、環境許認可プロセスを加速させている。

BR-319 高速道路がもたらす複数の影響から、意思決定者は技術的な基準に基づいてプロジェクトを評価する必要がある。しかし、地元の政治家や連邦政府の野心は、科学的な議論と衝突してきた。その背景には、アマゾンの石油・ガス開発地域へアクセスしやすくするため、BR-319 から分岐する追加の道路を建設する計画や、土地の正規化に特権的にアクセスできる選ばれたグループの利益となる、投機のためのより多くの土地を開放する機会などがある。さらに、こうした動きは先住民の土地や伝統的コミュニティに対する認識を弱めることになる。注目すべき例は、アマゾンの熱帯雨林の最後の手つかずの部分と考えられているトランス・プルス地域へのアクセスを可能にするAM-366高速道路計画である。科学的な研究は、このような軌道がアマゾンだけでなく地球規模での不可逆的な生態系と気候の崩壊につながることを圧倒的に示している。

道路舗装プロジェクトの総費用は260億米ドルである。研究者たちは、プロジェクトに関する確かなデータや信頼できる技術的な実現可能性調査が不足していると指摘している。

舗装の脅威

アマゾン盆地では5カ国にまたがる75の道路舗装プロジェクトがあり、その総延長は1万2,000 kmに及ぶ。



大豆輸送の主要ルートであるBR-163 高速道路(クイアバ - サンタレン間)が、計画されている496 kmまで拡張された場合、2030年までに4億トンの炭素が排出される可能性がある。



ブラジルでは、アマゾン横断道路(BR-230)がすでに4,000 kmにわたって伸びている。この高速道路の工事だけで、2030年までにアマゾン地域の森林伐採の23%、約56万1,000ヘクタールを占める可能性がある。

これらは240万ヘクタールの森林破壊を引き起こす可能性がある。

ブラジルは24のプロジェクトを実施し、ランキングのトップに立ち、142万ヘクタールの森林減少に影響を与えている。

VILELA, THAIS ET AL., 2020; MONGABAY

アマゾン地域における 犯罪組織派閥のダイナミクス

ブラジルのアマゾン流域には、極めて重要な麻薬密売ルートが通っている。このようなルートと地元市場を支配することが、犯罪組織派閥の主要な目的になっている。麻薬密売人がその活動を専門職とし、環境犯罪への関与を拡大するのにしたがって、この地域では内部の暴力闘争が増加の一途をたどっている。

調査によると、アマゾン盆地では1980年代から組織犯罪が活発化している。その間、この地域はボリビア、コロンビア、ペルーを中心とするアンデス諸国（現在も世界最大のコカイン生産国）からブラジルへのコカイン密売の重要な通路となっていた。犯罪ダイナミクスにおけるアマゾン地域（パン・アマゾン）の役割は、ブラジルを越えてボリビア、コロンビア、エクアドル、ガイアナ、ペルー、ベネズエラ、スリナム、フランス領ギアナにまたがる約674万 km²という広大な領土のために独特である。

統合された地域安全保障政策がないことと、伝統的な非正規から正式な近代化への移行管理が不十分であることが、アマゾンにおける国際組織犯罪の拡大を促進している。国境を越えた犯罪は、違法市場の世界的なダイナミクスによって、密売ルートに沿って確立されたさまざまなつながりを含んでおり、アマゾンは南米、アフリカ、ヨーロッパを結ぶ重要なハブとしての役割を果たしている。

近年、国連薬物犯罪事務所（the United Nations Office on Drugs and Crime, UNODC）の報告によると、ブラジルは米国に次ぐ世界第2位のコカイン消費国である。このグローバルな市場構造は、ブラジル・アマゾンの犯罪集団の内部組織に大きな変化をもたらし、主要な麻薬密売ルートを掌握することが、国内市場への供給と国際的な需要に応えるという、犯罪組織派閥の主要な目的となった。

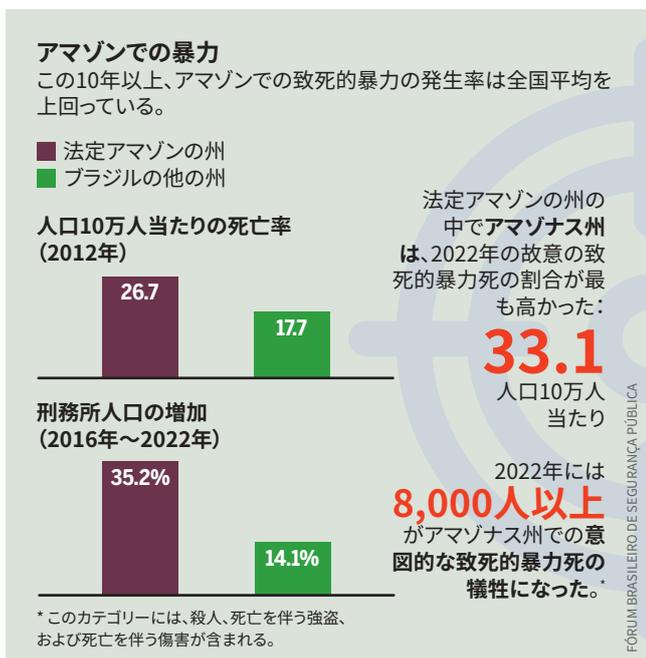
こうした中、かつてはブラジル南東部を中心に活動していた犯罪組織派閥が、サンパウロのプライメイロ・コマンド・ダ・キャピタルやリオデジャネイロのコマンド・ヴェルメーリョなど、アマゾンで勢力を拡大している。さらに、アマゾナス州のファミリア・ド・ノルテ（Família do Norte）やパラ州のコマンド・クラッセ A（Comando Classe A）のような地域的な犯罪組織派閥が台頭し、地域支配を主張し、同盟を結び、非地域的な犯罪集団と衝突しており、この地域の暴力紛争に大きく寄与している。

支配という意味では、暴力は、紛争を管理する手段としても、自然との関係においても、アマゾンの歴史を特徴づけてきた。愛国主義やクライアント主義に根ざした土地をめぐる権力の野放図な主張は、犯罪組織派閥や民兵の活動と交錯している。今日、先住民族、キロンボーラ族、その他の伝統的コミュニティに対する暴力は、治安部隊、企業利益、政治ネットワークの交差点で発生し、犯罪的な統治形態を強化している。

アマゾンでの麻薬密売の拡大は、こうした犯罪組織派閥による農村部での暴力の激化を伴っている。しかし、2つの重要な点が際立っている：(1) 麻薬密売と環境犯罪がますます交錯していること、(2) 麻薬密売が先住民族、キロンボーラ族、川沿いのコミュニティの領土と生活様式に深刻な脅威をもたらしていること。

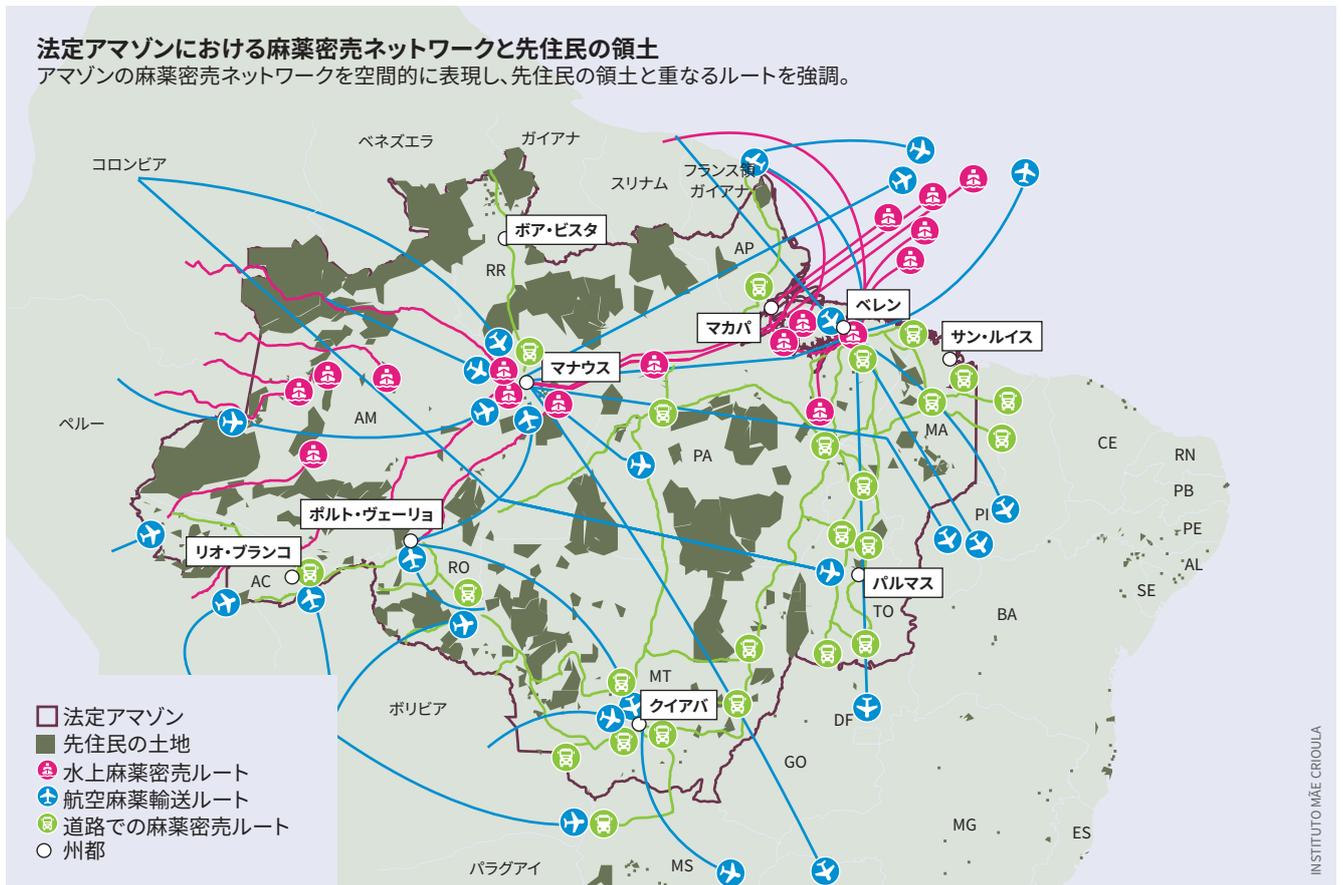
麻薬密売と環境犯罪の関係は、違法な木材採掘、鉱物（マンガンや錫石）の密輸、土地収奪といった違法行為を通じて生じている。こうした活動は近年、主にマネーロンダリング（資金洗浄）戦略として、組織犯罪によって資金提供されている。先住民の領土に対する脅威で最も顕著なのは、違法な金採掘の拡大と、若い先住民族を勧誘し、コミュニティの日常生活を変えてしまう犯罪組織派閥のメンバーによるテリトリーへの侵入である。また、先住民の土地に近い、あるいはつながっている道路、それらをつなぐ河川、あるいは保護区に違法に建設された秘密の滑走

報告書では、アマゾンの治安部隊と環境執行機関の組織間調整は、この地域における組織犯罪の拡大を効果的に抑制するために必要な運用能力と統合性を欠いていると結論づけた。



法定アマゾンにおける麻薬密売ネットワークと先住民の領土

アマゾンの麻薬密売ネットワークを空間的に表現し、先住民の領土と重なるルートを強調。



INSTITUTO MÃE CRIOLA

路に着陸する航空機の使用など、さまざまな麻薬輸送手段によって生じるこれらの人々への接近も注目し得る。このように、アマゾンにおける犯罪組織派閥や民兵の広がりや領土化は、暴力の専門化を助長し、アマゾンの制度や住民を弱体化させ、人権を守り、公正な気候政策を実施するための代替手段をも弱体化させている。

その背景として、何世紀にもわたって権威主義的かつ保守的なやり方で伝統的な住民の領土権を侵害し、環境破壊を引き起こし、現在は組織犯罪に私物化され、本項で触れている麻薬密売はその活動のほんの一部である、不平等のベクトルを生み出してきたこの地域の開発モデルを考察することが重要である。したがって、アマゾンの主要な問題であり、生物群をサバンナ化などの劣化へと導き、その住民を犯罪化させている未解決の土地問題に関連する他の犯罪ダイナミクスを分析することが不可欠である。●

ほとんどの自治体は、次の2大犯罪組織のいずれかが支配している：リオデジャネイロのComando Vermelho、サンパウロのPrimeiro Comando da Capital。さらに、80の市町村が対立する犯罪組織派閥の間で活発に紛争が起きている。

麻薬密売ルートは国境を越え、戦略的な地点、つまり交流の重要な「ハブ」として機能する都市に集中する。

アマゾンにおける組織犯罪の台頭

アマゾン地域の人口のほとんどは、麻薬密売から違法採掘にまで影響力を広げる犯罪組織の支配地域に住んでいる。



22のブラジル国内外
犯罪組織派閥
が、この地域で活動している。

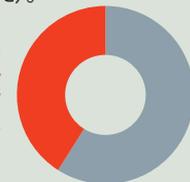


178の自治体

が、法定アマゾン内でギャング活動を報告した(アマパ州のサンタナは、2024年に国内で最も暴力的な自治体にランクされた)。

人口の
59%が

少なくとも1つの犯罪グループの支配下にある。



830万人の住人が
極端な暴力を経験する。

FÓRUM BRASILEIRO DE SEGURANÇA PÚBLICA; REVISTA VEJA; ANUÁRIO BRASILEIRO DE VIOLÊNCIA PÚBLICA 2024

土地、権力、環境犯罪

アマゾンでは、土地の支配権と政治権力は深く絡み合っている。多くの自治体は、環境犯罪を推進するベンチャー企業によって設立されたもので、このつながりは、今日も続いている。

ブラジルの軍事政権時代から、アマゾンの自治体化は土地収奪者と違法伐採業者に政治的利益をもたらしてきた。パラ州では、こうした企業を中心に発展した集落から多くの自治体が誕生した。マラジョアラ伐採会社の設立に端を発するパウ・ダルコ (Pau d'Arco) や、マギンコ伐採会社を中心に形成されたリオ・マリア (Rio Maria) がその例である。

この過程で、企業の代表者、農場経営者、その他の権力者による地方政治権力が台頭し、強化された。農業経営者が市長になったことで、この地域の政治構造は大きく変化した。たとえば、レデンソン市は1985年からマタ・ジェラル社の元プロジェクト・マネージャーによって統治されており、彼は伐採や違法な土地売買で得た利益を再投資することで、コンセイサン・ド・アラグアイア地域の20%近くを取得していた。同様に、カンポ・アレグレ農場の経営者は、同時期にサンタナ・ド・アラグアイア市長に選出されている。シンガラでは、畜産業の大手企業であるクアリアート・グループ (the Quagliato Group) の元経営者が1990年に市長に当選した。

土地の支配は政治権力へのアクセスを提供し、選挙交渉を通じて公的資金へのアクセスを提供する。ラナリー・ド・ヴァル、マルゾーニー族、ルナルデッリー族など、最初に土地を収奪した大企業のいくつかは、1966年にアマゾン開発監督局によって設立された税制優遇制度の初期の受益者だった。この機関は計画省と連動しており、工業、農業、畜産業、基本的サービス業に対して所得税と連邦政府の手数料を免除し、機械設備の輸入関税と税金を免除する法律第5174号に基づいて運営されていた。実際、アマゾン開発監督局は、土地収奪者に資源を分配するための政治機構となり、彼らは「スダムゼイロス (sudamzeiros)」として知られるようになった。この名前は、ポルトガルにあるこの機関の「SUDAM」という頭字語を仄めかしている。

1990年代から2000年代にかけての大豆栽培の到来は、特定のコーカスの国会議員選出を強化した。彼らの立法的後押しにより、公有地の流用が加速し、農場の売買や畜産業の急成長を通じて、麻薬密売などの非合法的な利益を合法的な経済に再統合することが容易になった。レオナルド・ディアス・メンドンサとそのパートナー、ウィルソン・トーレスは、サン・フェリックス・ド・シンガーをはじめとするパラ州南東部の自治体で公的契約を獲得するかたわら、牧畜場と17の会社を運営していた。

環境破壊を伴う大規模採掘の拡大は、マネーロンダリングの機会をさらに増やしている。金の採掘量を効果的にコントロールすることはできない。その一方で、犯罪組織派閥を含む組織犯罪の新たな主体が、麻薬や不正資本、警備サービスを採掘セクターに提供している。

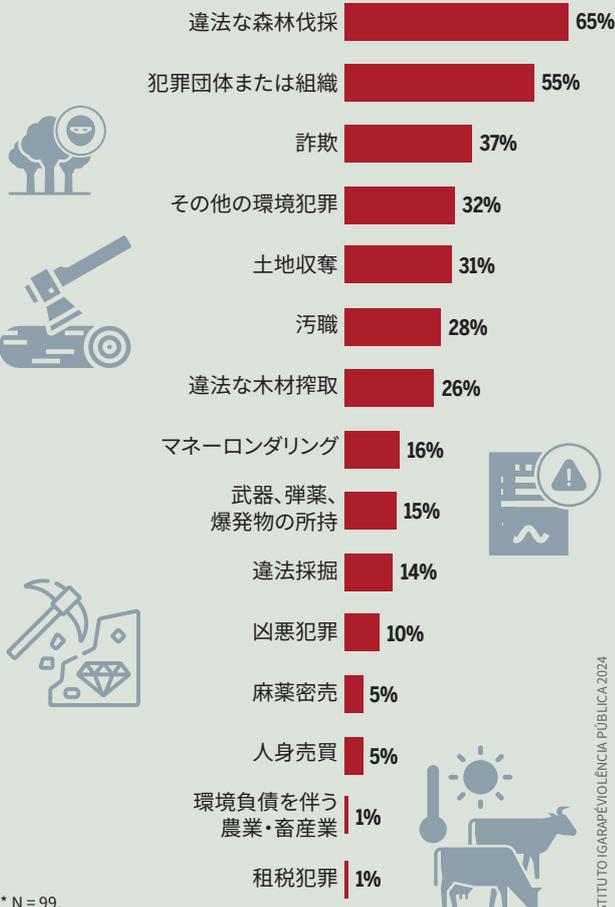
さらに、保護地域、先住民やキロンボラ族の土地、農地改革入植地では、土地収奪や暴力が再燃している。いくつかの立法案、とりわけ「時間的枠組み」テーゼは、有力な土地所有者と土地の所有権を争う農地改革受益者

環境犯罪と違法行為の複雑なネットワークは、環境以外の犯罪との強いつながりを明らかにしている。

アマゾンにおける環境犯罪の生態系

2016年から2021年までの法定アマゾンにおける連邦警察活動データに基づく、森林における不正な経済間の相互作用の分析。

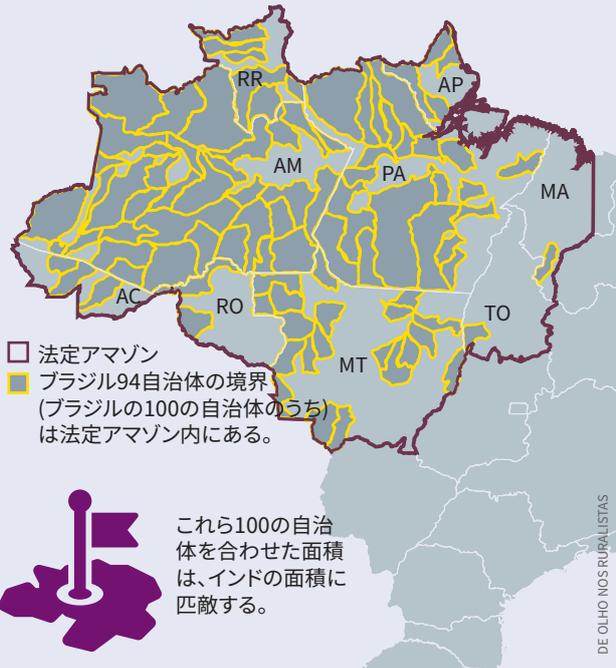
違法な森林伐採の犯罪的生態系*



INSTITUTO IGARAPÉVIO LÊNCIA PÚBLICA 2024

ザ・ジャイアンツ

ブラジルの100の大きな自治体は、国土の37%を占めている。そのほとんどが法定アマゾンに位置している。



環境犯罪と闘い、広大な領土で基本的権利を促進するための資源が不足していることは、大きな課題である。

を伐採することで土地の支配権を確立し、その価値を投機することで、土地を商品として市場に組み込んでいる。

こうした違法経済と、コカイン密売、違法採掘、野生生物の売買など他の違法活動との密接な結びつきは、こうした事業から利益を得る経済グループによる、より広範な領土占有サイクルの一部である。行政府と立法府の代表者は、不正な収入や資産を合法的な財産に変えることを可能にする行政機構をますます統制するようになっていく。汚職や政治的駆け引きを通じて、彼らはまた、経済活動のための国家財政、公共入札、憲法上の移転など、合法的に調達された公的資金への特権的なアクセスを得ている。こうしたダイナミクスがアマゾンの土地市場と環境破壊の基盤を形成し、この状況から得る利益を得る者によって左右されるため、当局が無力となる、「土地の caos (land chaos)」状態を助長している。

植生保護を目的とした炭素市場のような「価値シミュレーション (value simulation)」に基づく新興市場を分析する際には、このような違法性の構造を考慮することが極めて重要である。この理解がなければ、地域の文脈の中での可能性と限界は不明瞭なままである。●

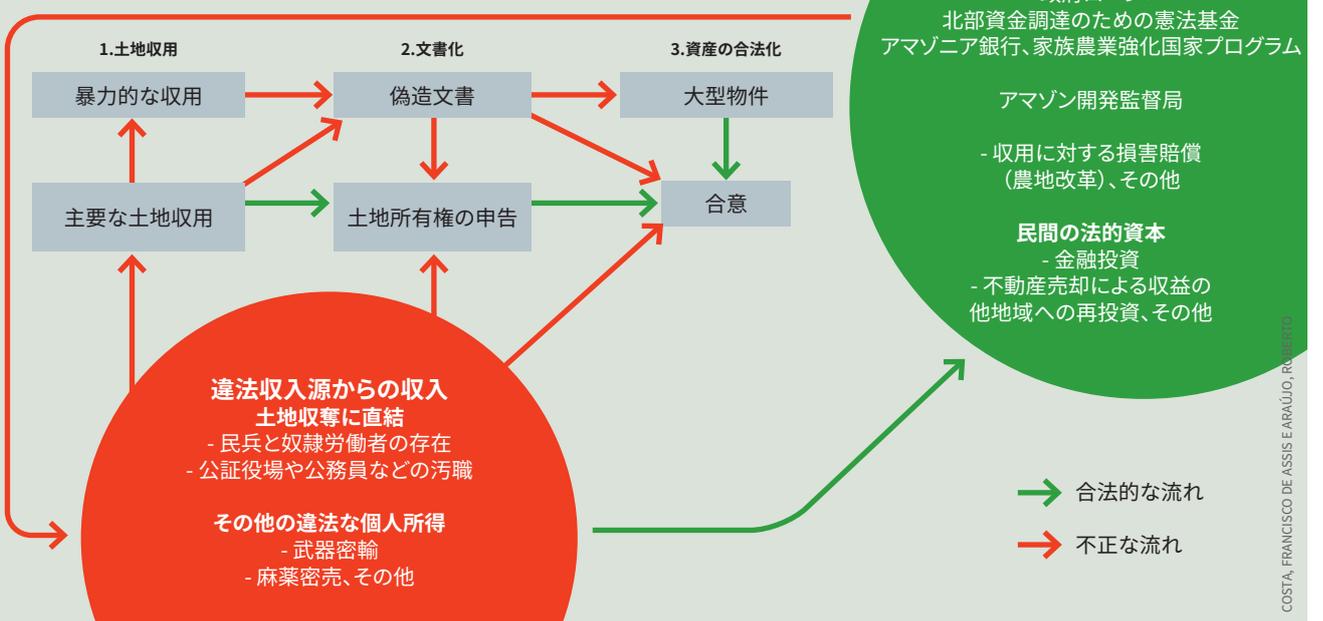
だけでなく、先住民、キロンボラ族、川沿いのコミュニティを疎外しようとしている。農村環境登記簿は、先住民の土地内にある採掘場や農場の所有権を主張するためにさえ使われている。こうしたグループが利用できる政治的コネクションは、土地収奪を容易にし、サイクルを完成させる。

したがって、公有地や森林の横領、奴隷労働、労働搾取、農村指導者の殺害、脅迫、無許可の司法による立ち退きなど、土地収奪システムを支える犯罪行為と森林破壊には直接的なつながりがある。実際、犯罪者たちは植生

アマゾンにおける土地収用、文書化、資産の合法化のプロセスは、不正な利益をロンダリングし、合法的な収入に変える上で重要な役割を果たしている。

アマゾンの合法と非合法の流れ

合法的な活動と違法な活動が同じ生態系の中で共存している。



擁護者に対する暴力

森林を守る人々の命は危機に瀕している

法定アマゾン、人権と環境権の擁護者にとって、ブラジルで最も危険な地域である。多数の未解決殺人事件の背景には、アグリビジネス、違法採掘、木材搾取がある。

アマゾンの一般的なイメージは、緑豊かな森林、先住民族、そして豊富な水である。しかし、この物語に含まれ、世界的な関連性を獲得しなければならぬ最も差し迫った問題のひとつは、環境と人権の擁護者に対する暴力である。

ここでいう擁護者とは、環境と人権、そして国内外で認められている基本的自由の実現を主張し、その実現に向けて活動する個人のことである。社会的、政治的、経済的状況を改善し、権利に対する意識を高め、環境と人権を保護・促進するための政策を形成することに貢献している。そして、彼らが擁護する大義や要求のために、しばしば脅威や障害に直面する特定の擁護者グループがある。

「グローバル・ウィットネス (Global Witness)」によると、2012年から2022年の間に、男女1,910人の擁護者が地球を守るために命を落とした。ラテンアメリカでは、世界の殺人事件の88%を占めており、コロンビアが最も多く、次いでブラジルとなっている。2022年だけでも、ブラジルで34人の擁護者が殺害され、その3分の1以上が先住民族(36%)、5分の1以上が小規模農家(22%)だった。

法定アマゾンは、ブラジルの擁護者にとって最も危険な地域である。「グローバル・ジャスティス (Global Justice)」のデータによると、過去4年間で、擁護者に対する襲撃が最も多く記録された5つの州のうち4つが法定アマゾン内にある：(ロンドニア州、マラニョン州、パラ州、トカナンチス州)。

権利侵害が最も多いのは主に土地紛争で、次いで労働紛争、水紛争となっている。その半数近くが脅迫(49.4%)で、次いで身体的攻撃(16.8%)、殺人(14.4%)となっ

2023年、農村部での紛争件数は2022年と比べて8%増加した。過去10年間で、農村部の暴力は60%も激化した。

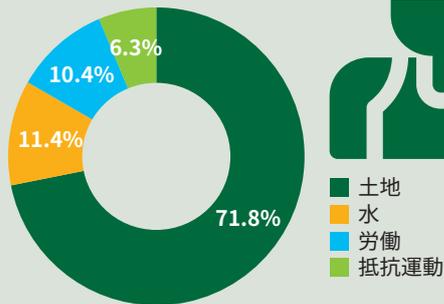
脅威にさらされるアマゾンの指導者たち

2023年、ブラジルは牧畜地委員会が記録した農村紛争の件数で過去最高を記録した。大部分(35%)は北部地域で発生した。

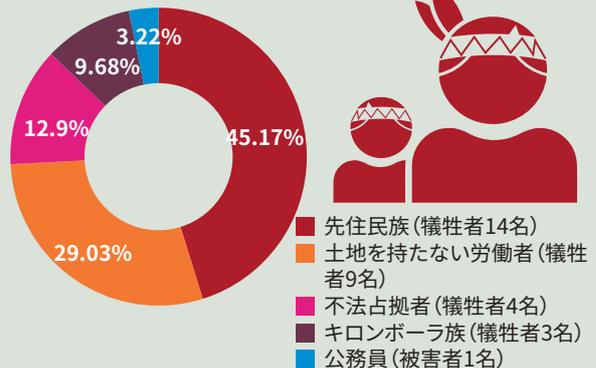
過去10年間の履歴データ



紛争の種類



最も標的とされたグループ (殺人事件の被害者)



CONFLITOS NO CAMPO 2023 - COMISSÃO PASTORAL DA TERRA

農村暴力における不処罰

森林保護者の殺害のほとんどは処罰されず、加害者も犯罪を指示した者も裁きを受けることはほとんどない。

1985年から2021年の間に、

ここ数十年の間に殺害されたアマゾン擁護者の一部

1,536件の殺人記録

その結果、

死者は2,028人。

裁判にかけられたのはわずか147件であり、殺人を含む約

90%これらの犯罪

は依然として起訴されていない。

これらの殺人を命じた39人だけが有罪判決を受け、34人は無罪となった。

殺人を実行した者のうち、139人が有罪判決を受け、

244人が無罪となった。



アリ・ウル・ウー・ウー

マリア・ド・エスピリト・サント

ブルーノ・ペレイラ

パウロ・パウリーノ・グアジャハラ



ジョゼ・クラウディオ・リベイロ

ドム・フィリップス

シスター・ドロシー・スタング

シコ・メンデス

ている。殺人事件は氷山の一角にすぎず、擁護者に対する無数の攻撃は報告されていない。

ブラジル政府は、「人権擁護者、コミュニケーター、環境保護活動家の保護のための国家政策 (the National Policy for the Protection of Human Rights Defenders, Communicators, and Environmentalists)」の策定を主な取り組みとして、擁護者に対する暴力を緩和するための措置を講じている。しかし、市民社会組織からの報告書は、このプログラムの実施を担当する政府機構を強化する必要性と、ラテンアメリカとカリブ海諸国における最初の環境条約であるエスカズ協定 (the Escazú Agreement) の批准の緊急性を強調している。この協定は、情報へのアクセスや市民参加を促進するだけでなく、環境擁護者を保護するための具体的なメカニズムも定めている。

この暴力の主な原因はアグリビジネスに関連しており、採掘と伐採がそれに続く。これら3つのセクターはまた、世界的な温室効果ガス排出の重要な原因となっており、人権・環境擁護者の闘いと気候変動との闘いとの間に直接的なつながりがあることを浮き彫りにしている。

歴史的に見れば、ブラジルにおける暴力はポルトガルの植民地化にまでさかのぼるが、戦略的な国益を動機としてアマゾンの植民地化に初めて取り組んだのは、ジエウリオ・ヴァルガス大統領 (1930~1945年) の政権時代だった。ジエウリオ・ヴァルガスは、政府による森林開発奨励の継続的なサイクルを開始した。ブラジルの軍事独裁政権 (1964~1985年) は、国家安全保障を口実にこのプロセスをさらに深化させ、アマゾンを実地をアメリカ、日本、カナダ、ノルウェーの多国籍企業に開放した。この時期は、暴力と強制力によって強制された、外部勢力によるこの地域の占領を意味する。

ブラジルの農地問題は依然として中心的な要因である。この国の広範な社会構造と絡み合った一連の農村問

牧畜地委員会 (the Pastoral Land Commission) が記録した殺人事件の大半は、法定アマゾン内で発生している。記録された件数が最も多いのはパラ州 (497件)、次いでマラニョン州 (173件) である。

題と定義されるこの問題は、農村部と都市部の両方に深刻な影響を及ぼしている。土地、富、政治的影響力を支配する強力な農民エリートが強化された結果、農村の住民は追放された。

アマゾンの「開放 (opening)」プロセスは、個人と外部の経済的利益を優先し、アマゾンの住民の集団的権利を損なうもので、収用、脅迫、領土侵害につながった。これによって、環境破壊、土地の収奪、環境と人権の指導者に対する暴力の上に築かれた開発モデルが確立され、海外市場に原材料を供給することが第一の目標となった。

その結果、シコ・メンデス、ホセ・クラウディオ・リベイロ、マリア・ド・エスピリト・サント、シスター・ドロシー・スタング、パウロ・パウリーノ・グアジャハラ、最近ではドム・フィリップス、ブルーノ・ペレイラなど、アマゾン擁護する著名人が殺害された。こうした犯罪の多くは、司法制度の中で未解決のままである。

この開発モデルは、道路、水路、港湾、水力発電所、採掘事業、その他の採掘プロジェクトの建設を中心に構成されていた。こうした取り組みが、アマゾンの領土における単一栽培農業と畜産業の拡大を加速させ、森林伐採と森林火災を引き起こした。その結果、森林が失われ、先住民族や伝統的コミュニティが移住させられ、人権侵害が蔓延することになった。こうした状況の中で、暴力は組織的な手段となっている。●

アマゾンに脅かす公衆衛生の不安定化

略奪的活動の拡大は、アマゾンで深刻な健康被害をもたらしている。アマゾンでは、地域の特殊性と基本衛生サービスの不安定さによって、公的医療へのアクセスが妨げられている。このような状況に立ち向かうためには、医療へのアクセスを促進し、伝統的知識を大切にすることが不可欠である。

広大な領土、社会文化的多様性、独特の気候、植生、地形のため、アマゾンにおける衛生上の課題は歴史的に複雑で対照的であった。このような格差は、都市と農村の人口、規模の異なる自治体における医療サービスへのアクセス、先住民族と非先住民族の生活環境の比較だけでなく、ブラジルの南東部や南部と比較した北部の一般住民の健康指標にも表れている。

過去40年間、極端な気候変動の中で、アマゾンの生物群は、アグリビジネスの略奪的拡大、産業漁業、違法伐採、金採取、広大な森林の焼畑などによる深刻な脅威に直面してきた。こうした活動は、程度の差こそあれ、大気、水、土壌に有毒な廃棄物を放出したり、都市中心部内外での風土病の蔓延に見られるように、さまざまな生物と

人間の相互作用を変化させたりすることで、人間の健康に悪影響を及ぼしてきた。

ブラジル地理統計院による2017年全国衛生調査によると、北部地域では、1日に発生する汚水量の16.4%しか処理されておらず、これはブラジルの全地域の中で最低の割合である。このデータは、不十分な環境衛生に関連した疾病の高い発生率と一致している。2021年、北部のデング熱による入院患者数が、全国的な減少傾向に反して、2020年に比べて27%増加したのは偶然ではない。レプトスピラ症や、感染由来と推定される下痢や胃腸炎による入院でも同様のパターンが観察される。

このような不安定な衛生環境では、さまざまな感染症や顧みられない病気(人間的・社会的発展が遅れている地域の風土病)が、障害や病気、予防可能な死亡を引き起こしている。疾病負担の点で最も影響が大きいのは、マラリア、結核、HIV/AIDS、黄熱病である。アマゾンの衛生環境は、新興・再興感染症による悲劇的な伝染病の出現も目の当たりにしてきた。たとえば、2024年に発生したオロプーシェ熱は、9月3日までに前例のない5,644件に達し、国の総発生数の71.2%を占めた。

新型コロナウイルスパンデミックは、特にマナウスにおいて、葬儀、病院、外来診療の壊滅的な崩壊を引き起こした死亡率への否定できない影響だけでなく、医療と社会経済の脆弱性を悪化させた。これは、経済的脆弱性を悪化させ、さらなる公衆衛生の危機を引き起こす条件を作り出した。このような状況において、30~59歳の女性の自殺者数の増加(2020年3月から2022年2月までの間に27%増加)と、同じ期間に北部アマゾンで妊産婦死亡が約70%増加したことは、この症候群の危機の深刻さを反映している。これらの数値は、ブラジルが持続可能な開発目標の下で改善を約束していた「健康と幸福(Health and Well-Being)」の指標の大幅な後退を浮き彫りにしている。

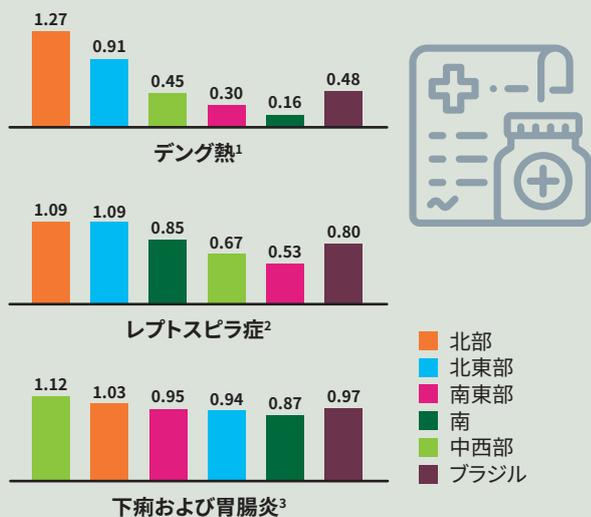
もう一つの深刻な脅威は、特に1歳以上の子どものワクチン拒否である。2022年末までに、四種混合ワクチン(麻疹、おたふくかぜ、風疹、水痘)、DTP ワクチン(ジフテリア、破傷風、百日咳)、A 型肝炎ワクチンの接種率は、それぞれ7%未満、55%未満、60%未満であった。これらの割合は、ブラジルの他の地域で観察される割合よりも低だけでなく、95%のカバー率目標にもはるかに及ばない。

もうひとつの喫緊の課題は食料不安である。データによると、北部地域は深刻な食料不安の割合が最も高く、25.7%である。アマパ州とパラ州では、この数字は

アマゾン地域の気候的、地理的、社会的な特殊性は、こうした健康上の課題をさらに複雑にしている。

衛生的弱さの結果

2020年と比較した2021年のレプトスピラ症、デング熱、下痢症、感染由来と推定される胃腸炎による入院件数の地域別比率。



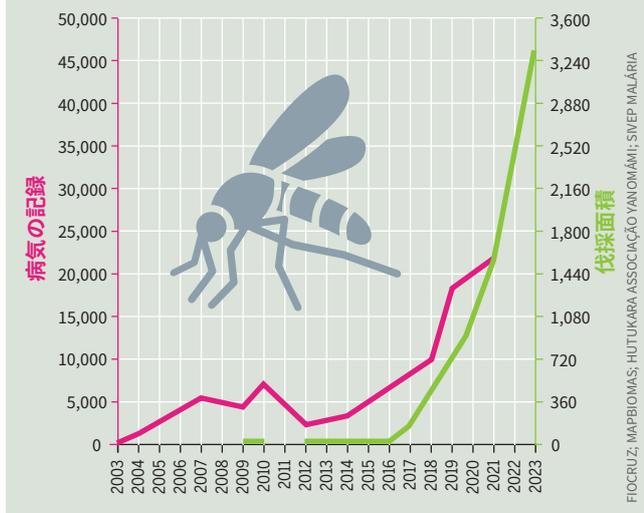
¹ 古典型デング熱

² 外出血性レプトスピラ症、その他の型、特定不能のレプトスピラ症

³ 感染由来と推定される下痢および胃腸炎

採掘がマラリアをもたらす

違法採掘の拡大により、ロライマ州の特別先住民保健地区では自生マラリア患者が増加している。



人口の30%を超えている。2021年、北部の5歳未満児の栄養失調による死亡者数が2020年比で36.8%増加したのに対し、ブラジル全体では11%の増加にとどまったのは偶然ではない。

他の慢性非伝染性疾患と同様、肥満、座りがちな生活、不健康な食習慣に関連する糖尿病も、アマゾン地域では深刻な問題となっている。地域の死亡率は人口10万人当たり33.1人で、アマゾナス州では40.3人に達し、これは全国平均より50%高い。

最後に、アマゾンの膨大な健康指標と疾病指標は、この国で最も不利な健康シナリオのひとつを明らかにしている。これは、生産性の低下、障害による早期退職の増加、予防可能な慢性疾患への出費の増加、アマゾンの人々の生活の質と幸福の低下につながる可能性のある早

採掘活動は地域の生態系を大きく変化させる。金を求めて鉱山労働者が掘った大きな穴はアマゾンの雨水で満たされ、蚊の増殖に理想的な環境となる。

期死亡によって顕著である。したがって、アマゾンでタイムリーで質の高い医療アクセスを確保することは、特に、一次医療、中・高度医療、複雑な医療ネットワークが限られているか、存在しないコミュニティにおいて、持続可能な環境保護を保証することと同様に極めて重要である。

同様に、アマゾンの領土に住む人々の知識体系も認識され、評価されなければならない。先住民のシャーマンや助産婦のような専門家を、彼らのヘルスケアやヒーリングの技術とともに認めることが不可欠である。考古学的な議論によれば、先住民族は少なくとも1万2000年、1万4000年、あるいは1万7000年前から、この領土（現在のブラジル）に存在していたという。この間、彼らは陶器作り、食品の加工と取り扱い、木彫り、植物栽培、医療と癒しの技術などを発展させてきた。

バフセリコウィ土着医療センターは、人類学者のジョアン・パウロ・バレット・ユカノによって2017年に設立された。祝福や薬草の使用など、先住民の慣習に基づいたケアを提供している。センターで働く専門家たちは、イエパマ族(ユカノ)、ウタンピロポラン族(ユユカ)、ウムコリマ族(デサナ)の出身である。




土着医療

先住民の知識体系は複雑であり、それをよく知らない人にとっては、論理性がないように見えることさえある。その結果、「伝統的」、「先祖伝来」、「古代」といった、過去からのもの、人里離れたもの、呪術的なもの、宗教的なものを意味することの多い専門用語の罫にはまることなく、土着医療のような特定のトピックを研究することは、常に挑戦である。

他の医学の形態と同様、先住民族の医療とヒーリングの実践は、具体的かつ抽象的な要素(植物化学的側面と形而上学的側面を含む)を包含する理論、原則、概念によって導かれている。これらの実践は、技術を習得するために厳しい訓練を受けた専門家によって行われる。各先住民グループには、こうした専門家を教育・訓練するための独自の機関があり、経験豊富な指導者のもとで深い知識を得ることができる。

病気と健康という概念は、生物学的な領域に限定されるものではない。それどころか、他の存在、動物、空間、家族、人々など、より広範な人間関係のネットワークと個人を結びつける宇宙政治的な側面を

含んでいる。この視点は、身体だけに焦点を当てた生物医学モデルの純粋に生物学的なアプローチから離れたものである。

ネグロ川上流地域の先住民族を対象とした調査では、医療とヒーリングの技術には主に次のようなものがあることが明らかになった：バセッセ(祝福)、専門家によって唱えられる予防、治療、ヒーリングのためのメタ科学的、形而上学的な処方および薬草の使用。



BARRETO, JOÃO PAULO

アグリビジネスフロンティアにおける考え方と礼拝の仕方

アマゾンにおける経済戦線の拡大は、文化的・宗教的ダイナミクスの拡大も伴うものである。しばしば繁栄の神学と結びついた権威主義的な考え方は、同質的な景観を押しつけ、アマゾンの豊かな領土と知識の多様性を抑圧する。

アマゾンの歴史は、経済戦線による領土拡大の暴力的な地形に特徴づけられる。そして現在に至るまで、行く手で遭遇する人間および非人間の生命を一切顧みることなく確立されてきた国境を引き、生命を維持する領土を破壊するこのプロセスは、政治的・経済的選択に根ざしている。いわゆる発展への唯一の道は、一次産品の輸出であるという信念である。その結果、アマゾンのような地域は犠牲地帯と化し

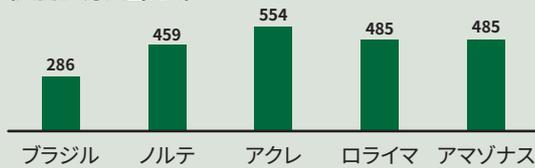
た。こうした破滅的な現実を説明するのに、もはや概念的な婉曲表現に頼ることはできない。したがって私たちは、アマゾンにおける資本主義の拡大という歴史的、永続的、かつ継続的なプロジェクトを、その真の姿である戦争、つまり「生命に対する資本主義の戦争」と呼ぶことにする。戦争は、環境崩壊の推進力としての戦争と、権威主義の力としての戦争という2つの基本的な方法で顕在化している。この文章では後者に焦点を当てる。この戦争に拍車をかけている企業は、民主主義とうまく共存してきたとはいえない。なぜなら、彼らは暴力的でトラウマ的な空間の変容を生きがいにしており、武力や法的不服従、法律の改正なしには実現不可能な変化をもたらすからだ。

福音主義の急成長はアマゾン地域で最も著しい。しかし、北部では依然としてカトリック信者が人口の50%を占めている。

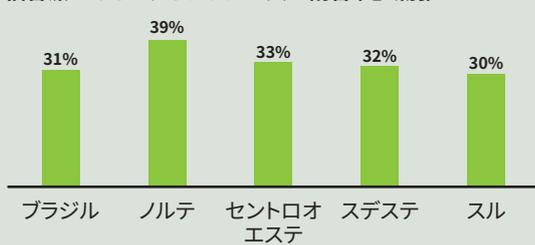
アマゾンにおける信仰

北部地域は、宗教寺院の割合がブラジルで最も高く、福音派の人口指数も最大である。

宗教施設の平均数
(人口10万人当たり)



福音派であるとするブラジル人の割合 (地域別)

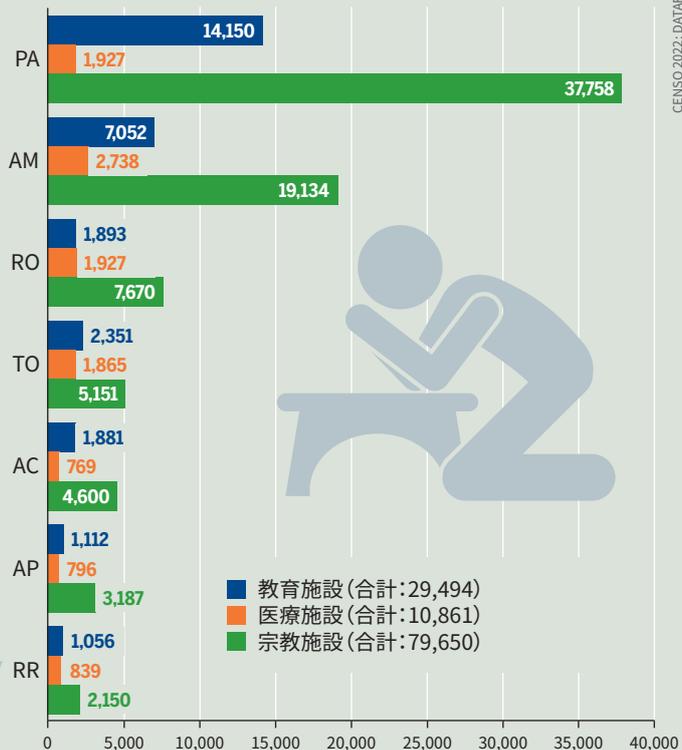


宣教プロジェクトと福音主義教会は、僻地、特に先住民の土地で急速に拡大している。

アマゾナス州アタライア・ド・ノルテは、人口1万5,000人の自治体である、そのうちの50.76%が先住民であり(その一部がヴァーレ・ド・ジャヴァリ自治体内に)、福音主義教会の存在感が著しく高まっている。2023年12月現在、都市部だけでも44の福音主義教会があった。2013年にはわずか14だった。



教育、医療、宗教施設のランキング
(北部地域)

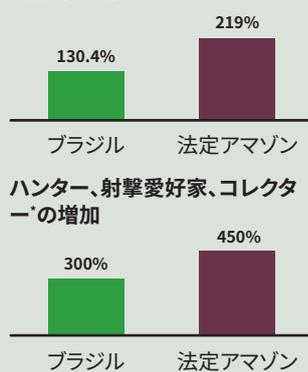


CENSO 2022; DATAFOLHA; AGÊNCIA PÚBLICA

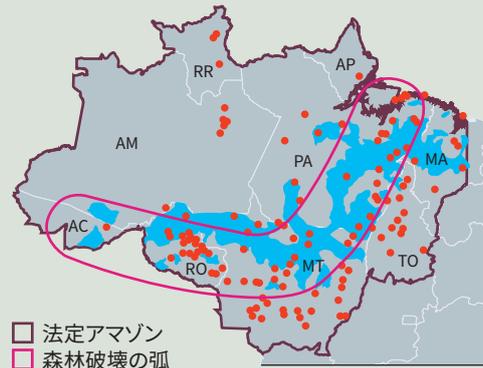
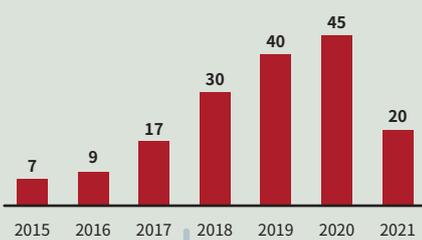
ターゲットシューティング

法定アマゾンでは、射撃場に加え、ハンター、射撃愛好家、コレクターの登録が増加している点が特に重要である。この現象は、社会環境紛争の歴史を持つ自治体で最も顕著である。

銃登録の増加*



法定アマゾンの新しい射撃場



* 2018年から2021年の間

**森林減少については2022年まで、農業使用については2017年までの過去系列

INSTITUTO IGARAPÉ, THE INTERCEPT BRASIL, PRODES, BOMBRADI, LARISSA, WALHEIRO, BRUNO.

とはいえ、戦争が生み出す権威主義の次元はこれだけではない。資本主義戦争の空間的拡大は、音楽の嗜好、食事、服装、行動様式、財産防衛や礼拝に対する態度にも及んでいることを理解することが不可欠である。このような空間的生産様式は、農業フェスティバルのサーキット、大学のカントリーミュージックの台頭、射撃場の急増といった文化的ダイナミクスに深く根ざしており、これらは牧畜、大豆栽培、その他の単一栽培の拡大に伴う現象である。これらの要素は、多様性に抵抗し、権威主義的な性質を持ち、銃推進イデオロギーと密接に結びついた主観を正当化する役割を果たしている。この主観性はまた、卸売ネットワークの普及によって強化され、アグリビジネス製品を安価な食品として標準化し、有害物質を人々の食卓にもたらす。さらに、雇用と所得に関する言説を形成する労働組合の政治的影響力によって支えられている。さらに、福音主義教会、特に新ペンテコステ派運動の拡大は、経済的前線に追随し、この権威主義的世界観を正当化する手段として繁栄の神学を広めている。

したがって、この資本主義戦争は、権威主義を受け入れる主体性を宣伝する。それは、トラクターに鎖を付けて森林を伐採し、樹木を単なる障害物に貶める行為や、違法なものを合法なものに変える土地収奪行為、地域社会に囲まれた単一栽培の畑に農薬を散布し、人間の命も含め、採算が合わないとなされるすべての種を使い捨てる害虫として扱う行為、私有地の警備に民間の警備会社を雇い、私有地防衛の軍事化をさらに常態化させる行為に現れている。こうした行動は、そうした行動や考え方を強化し、常態化させる。

権威主義的な主体性を拡大するこの過程で、繁栄の神学の原則、たとえば成功の個人化、達成や失敗を信仰の個人的選択として枠にはめること、世界を善と悪の聖戦として解釈すること、「神、祖国、家族」の三位一体を擁護することなどが、戦争を正当化するために構築された物語と交差する。こうした語りは、成功は個人の努力の結果のみであるという考えを助長し、アグリビジネスや鉱業など、生活を商品化する産業は、雇用や収入、未来を生み出す「祖国」の大いなる善のための力であると決めつけている。その結果、これらの産業は、社会運動、先住民族、

ブラジルでは、スポーツ射手は60丁まで、スポーツ猟師は30丁までの銃器の所有が法的に認められている。国内で合法的に狩猟が認められているのはイノシシだけである。2019年、ブラジルには合計1,536頭のイノシシがいたが、法定アマゾンにいたのは125頭だけだった。

環境保護活動家、さらには環境保護機関など、開発の「障害」とみなされる人々から保護される必要があるように描かれている。

この収束は、自然を障害物に変え、異質なものを敵とみなし、社会生活を軍事化し、暴力を美化し、私有財産を守るという名目で共同生活のあらゆる形態を解体することを常態化することで、権威主義の基礎を育む。

生命に対するこの資本主義的戦争を支える人間関係のネットワークは、アマゾンの世界を食い荒らし、生命を維持するつながりを破壊し、生態系を破壊する機械のように、アマゾンの生態系の安定を維持する物質とエネルギーの重要な循環と流れを破壊する。この環境崩壊の生成は、河川の堰止めや山の破壊を工学的成功として常態化し、森林伐採や農薬散布を農学的死科学の勝利とみなす考え方や行動の生成でもある。資本主義戦争が権威主義的主観を形成していることは間違いない。私たちは考え方を変えなければならず、環境、民族、文化、言語の多様性を持つアマゾンは、私たちをそうさせるよう誘う。

生命に逆らうのではなく、生命とともに生み出される知識を議論の中心に戻すことは、アマゾンを経済的な言説の中心に据えることを意味する。それは、人間中心主義ではなく、世界と人間の相互のつながりを地球を理解する基準とし、希少性ではなく、豊かさを経済について考える基準とし、競争や繁栄の追求ではなく、補完性、配慮、互惠性を人間関係に定義づける民族や共同体によって築かれた理論的・政治的遺産を、全身全霊で受け入れることを意味する。●

COP 30: 回帰不能点

気候ガバナンスは、自然の金融化を伴う解決策に取り込まれてきた。アマゾンでの最初の COP は、アマゾンの住民の権利と領土主権を賭けて、これらのプロジェクトの影響と矛盾に正面から向き合う機会である。

2025年にブラジルのパラ州の州都ベレンで COP 30 が開催される見通しとなったことで、アマゾンは再び国際的な気候・環境ガバナンスの議論の中心に位置づけられることになった。実際のところ、森林、特にアマゾンを守る問題は常に重要な役割を担っており、これまでの歴史に類をみない程に重大で広範な功績である、「気候を支配する」体制を確立するに至った科学的・政治的軌道と絡み合っている。

国連気候変動枠組条約 (United Nations Framework Convention on Climate Change, UNFCCC) と生物多様性条約 (Convention on Biological Diversity, CBD)、そして砂漠化対処条約 (United Nations Convention to Combat Desertification, UNCCD) が署名された1992年のリオデジャネイロの地球サミットでは、森林に関する特定の法的文書を求める大きなキャンペーンが行われた。このキャンペーンは、取り組みはエネルギー、技術移行、熱帯雨林を持つ国々の主権に関する問題への取り組みに加え、世界的な化石燃料基盤の克服に集中する必要があるという議論により、ブラジルによって厳しい態度で拒否された。ブラジルでは歴史的に、アマゾンに対する国家主権の問題は、良くも悪くも、国のアイデンティティ

の重要なテーマであり、政治的想像力の動員力であると同時に、国の開発プロジェクトにとって戦略的な領土であった。

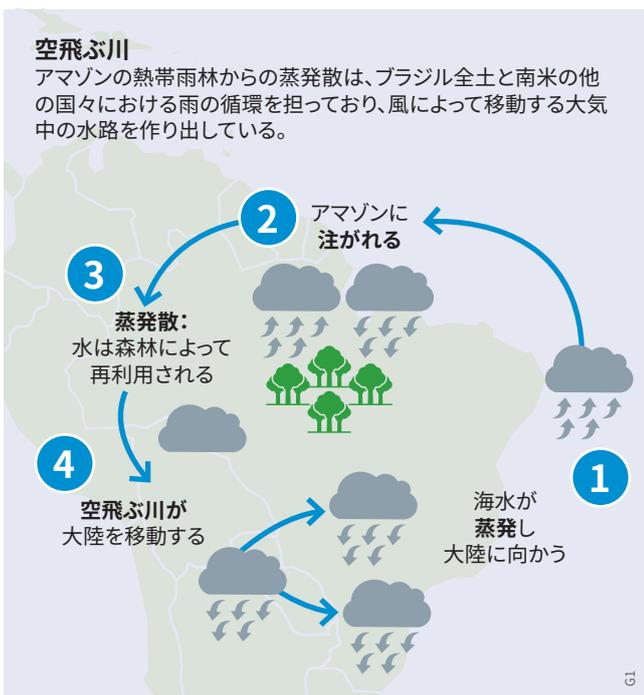
それから30年、状況はこれ以上ないほど異なっている。アマゾンは、新しい気候変動経済においておそらく最も価値のある環境資産として、事実上、地球環境保護のシンボルとしての地位を確立している。実際、アマゾンは現在、世界最大の連続した熱帯雨林である。また、戦略的資源、特に淡水と生物多様性の源でもある。さらに、その土地は世界的な商品貿易の新たな需要に対応できるよう、地理的に戦略的な位置にあり、アグリビジネス、水力発電所、鉱業の拡大を支えるため、水路、鉄道、港湾などの新たな物流ルートの開発を推進している。

2024年2月に『ネイチャー』誌に掲載された研究が警告しているように、現在の開発モデルや、旧来型と新興型の両方のグローバル・バリューチェーンから強い圧力を受けている森林は、すでに「回帰不能点」への道を歩み始めているのかもしれない。

森林の未来は現在、気候変動問題において非常に重要な位置を占めている。近年、地球の温度調節システムにおける森林の役割の重要性が、自然ベースの解決策の傘下に REDD+ メカニズムが組み込まれたことで、再び脚光を浴びている。これには、樹木の光合成による炭素の生物学的回収と隔離が含まれ、炭素市場や生物多様性市場と連動した「修復」経済の庇護のもと、本質的に自然を収益化し、金融化する計画である。この視野を明らかにするように、ブラジル国立経済社会開発銀行は、2030年までにアマゾンの600万ヘクタール、2050年までにさらに1,800万ヘクタールの復元に資金を提供する計画をし、さらに民間セクターおよび資本市場からの投資に持続可能性について頼るつもりであるという期待を発表した。

過去数十年にわたり、化石燃料からの脱却をめぐる中心的かつ不可避な議論は、地球規模の気候システムを調整する上で生態系が果たす役割によって、交渉の影が薄くなってきた。その証拠に、自然ベースの解決策の費用対効果、有効性、拡張性に対する科学的、政治的、経済的コミットメントが高まっており、また、新たな経済サイクルにおける世界的な取り組みに貢献するために、グローバルサウスの国や地域を巻き込む方法として、そうした解決策を支持する動員力が高まっている。なぜなら、自然科学と生態系サービスの提供という観点から、熱帯雨林は莫大な生産的可能性を秘めた地域であり、脱炭素化が推進するこの新しい世界経済サイクルにとって戦略的な資産であり、森林は今や世界的な金融資産だからである。

政治科学と気候変動社会学の批判的観点からすると、この強調は、「炭素」という架空の商品に基づく市場を



アマゾンの熱帯雨林は、大陸の雨の形成に不可欠である。森林伐採が進むと、降雨体制全体が影響を受け、社会・環境に甚大な被害をもたらす。

アマゾンの回帰不能点

このコンセプトは、アマゾンの森林伐採と気候変動が、森林の自然再生を損ない、森林の持続可能性に不可欠な雨の循環を乱し、砂漠化につながる危険なレベルを定義している。



アマゾンの回帰不能点を示す指標



REVISTA NATURE, 2024, G1

通じて表現される、新たな蓄積の歴史的パターンによって駆動される、気候変動への資金調達と対策のメカニズムから生じる新興ビジネスと経済的機会に関連する、新たな価値生成の形態に関する一連の矛盾を新たにもたら

アマゾンの2024年の干ばつは、社会経済への影響という点で、歴史上最も深刻なものと考えられている。干ばつは同州の69%の自治体に影響を及ぼし、約77万人が影響を受け、損失は6億2000万レアルを超えた。

した。

COP 30 は、アマゾンにとって、現在の破壊的な開発モデル(森林減少の軌道を逆転させることを目指す)と気候ガバナンスの外部性、そして誤った解決策がもたらす影響の両方の矛盾に直接立ち向かう歴史的な機会となる。

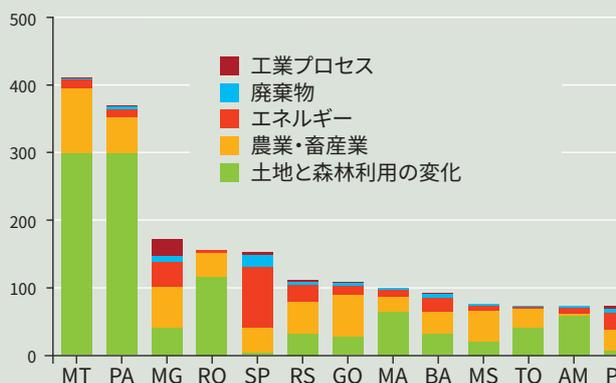
アマゾンの熱帯雨林システムの「限界点」や、偽りの解決策の推進、自然や炭素市場の金融化、土地や共有財の収用・囲い込み・私有化、領土権や世界中の人々や住民の主権の侵害につながる暴力の原動力を回避する必要がある。気候変動に対する真の解決策は、先住民と地域住民の土地へのアクセスを保証し、領土主権を確保し、領土に根ざした生活様式を維持することを目的とした地元の生産活動を保護することにある。生物群の再生産が最終的に左右するのは、社会生物多様性の存続である。

ブラジルが目標を達成するためには、温室効果ガス(GHG)排出量の削減が不可欠である。しかし、森林減少・劣化からの温室効果ガス排出削減(Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation, REDD) やREDD+ (炭素市場を含む) といった、途上国の排出量を金銭的に補償する仕組みは、伝統民族の領土に対する主権に影響を与えている。

温室効果ガス (GREENHOUSE GAS, GHG)排出量のチャンピオン

法定アマゾンに位置する州は、ブラジルの GHG ガス排出量をリードしている。これは、国内で最も排出量が多いセクターが農業食品システムの一部であるためである: 「土地と森林利用の変化」と「アグリビジネス」。

2023年のブラジルの GHG ガス排出量 (州別) (単位: 百万トン CO₂)



REDDとREDD+ メカニズム: 簡単な年表

- 2005年** 国連気候変動枠組条約 (United Nations Framework Convention on Climate Change, UNFCCC): 森林減少と森林劣化の問題を取り込むことを目的とした提案が浮上した。
- 2007年** COP 13: このメカニズムは、バリ行動計画に、京都議定書以降の気候体制を設計するための要素の一つとして盛り込まれている。
- 2008年** COP の議論の中心となる。
- 2013年** ワルシャワ・フレームワークで正式決定。
- 2015年** パリ協定の特定条項を獲得。

SISTEMA DE ESTIMATIVAS DE EMISSÕES E REMOÇÕES DE EFEITO ESTUFA (SEEG) - 2023; MORENO, CAMILA

アマゾンの金融化：誤った解決策に向かって

気候危機が加速するなか、手っ取り早く簡単
そうな解決策を追求するあまり、市場を適切
な対応策として位置づける傾向がますます強
まっている。しかし、これは必ずしも最良の選
択ではない。生存、自律、文化的アイデンティ
ティを自然に直接依存している人々に悪影響
を及ぼす傾向があるからだ。

近年、市場が天然資源を資本化し、社会的生物
多様性を金融資産へと変貌させる動きが拡大
している。このプロセスは、金融システムと生
態学的危機（汚染、気候、生物多様性）を媒介とする新しい
評価形態を促進する、グローバル経済の制度における
より広範な変化の一部である。

特に、加速する気候危機を考慮すると、解決策を提供
する緊急性は、即座の対応策として市場に有利である。こ
うした状況の中で、金融システムは富の蓄積のために前
例のない搾取形態を生み出してきた。これは高い社会的
コストで発生し、さまざまな暴力の引き金となっている。
特に、現在の混沌とした状況によって宇宙論的システム
が脆弱になっているグループに対するものだ。

このように、自然が金融資産へと姿を変えると、この
経済的決断がもたらす影響は、天然資源の利用可能性や
聖域としての概念にとどまらない。それはまた、生存、自
治、反近代的な文化的アイデンティティのためにそれに依
存している人々にも影響を与える。このプロセスは、物質
的な側面や労働の余剰価値に限定されない、特定の形
態の搾取を生み出す。それは、コミュニティや、関与する個
人の文化的、主観的な範囲にまで及ぶ。

一般的に、廃墟と化した近代性の中で、植民地政策が
再び登場し、それは環境危機を解決するための市場価格
に対する忠誠心の新たな波から始まり、包括的な輪郭を
帯びている。

環境危機への共同の対応を形作る取り組みにおい
て、多様な文化はしばしば、主に2つの印象に限定され
る。一方では、管理された表現にさらされ、アイデンティ
ティのある種の凍結につながる。もう一方では、彼らは市場
志向であり、そこから自らを起業家として、また保護プロ
ジェクトへの投資家として行動することが期待されている。

その結果、先住民族や伝統的コミュニティ、農村住民
の間にある差異が均質化される傾向にある。金融の論理
は経済を再編成するだけでなく、生活様式や実用主義を
幅広く再定義し、古来からの存在形態を、気候の名の下
に、市場に奉仕する表現に適合させるよう圧力をかける。

生態系の危機に対する具体的な対応策を提示する
多様性の余地を与えるところか、金融が社会的・生物
学的多様性の再生産に与える影響は、現在の生態系の
破局をもたらした問題そのものを助長し続けている。
生物多様性の再生産に及ぼす金融の影響は、生態系の
破局という現状をもたらした問題そのものを煽り続け
ている。人間と自然との関係、あるいは自然そのものを、保
全すべき聖域か搾取すべき資源かの二重の概念で捉えて
いるのだ。

実際、この二重性に基づいてこそ、すべての人々が、一
方では市場への統合を通じて、他方ではエコロジーの義
務を通じて組織された、抗いがたい国家プロジェクトに
召集されるのである。進歩的な政治プロジェクトが衰退
している今、持続可能性は、深い変革への道筋としてで
はなく、むしろ、遅れて挫折しつつある近代性を再配置す
る手段として浮上してきた。

ブラジルのアマゾンでは、商業バイオエコノミーと炭
素市場が、持続可能な開発に関する議論に関連するトピ
ックとなっている。

国際的には、バイオエコノミーは、バイオテクノロジー
や、循環型経済を促進することによって世界経済の脱炭
素化を目指す科学的・産業的イノベーションの推進と広く
結びついている。ブラジルの文脈、とりわけアマゾンでは、
社会正義、雇用創出、環境の持続可能性を組み合わせた
開発モデルの輪郭を帯びている。

しかし、生物多様性は、純粋にブラジルの輸出商品と
して扱われ、そのバリューチェーンの構造において、非道

研究者たちは、炭素クレジットの取得に充てられる資金
の代わりに、伝統的コミュニティや先住民コミュニティが
主導する森林保護プロジェクトに投資することを推奨し
ている。

炭素市場は有効か？

調査によれば、炭素クレジットのうち、実際に排出量の
削減を実証しているものは少数派である。



炭素クレジットの13分の1が
排出量の実質的な削減に相当する。

調査によると、保護プロジェクトがない場合に
予想される森林減少のレベルを推定するため
に使用される方法論は、最高と最低の推定値
の間に1,400%以上の差がある結果につな
がる可能性がある。



共同利用地域における炭素クレジット・プロジェクトの重複

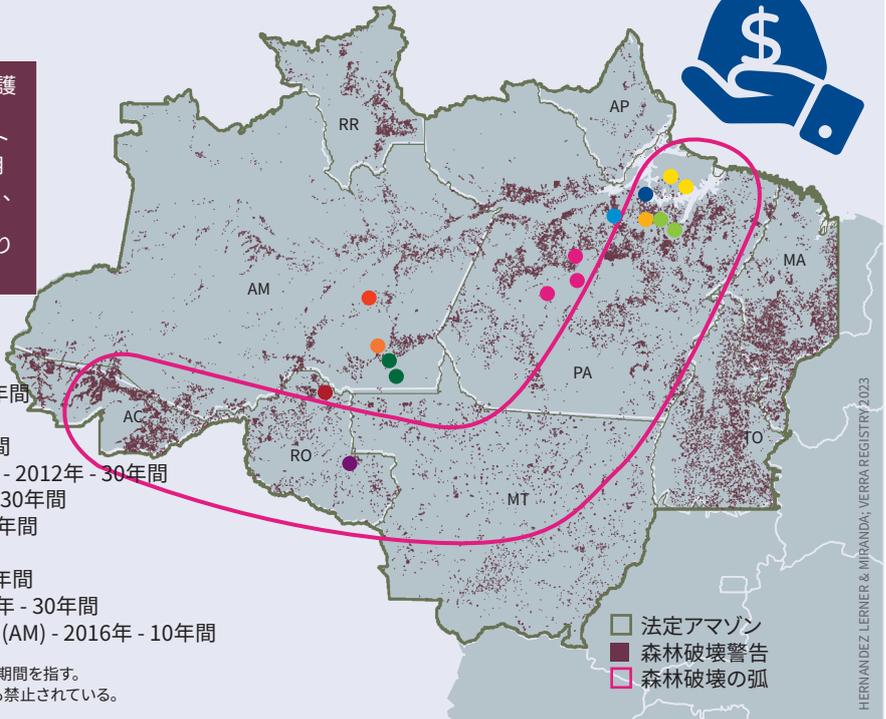
アマゾンの共同利用地域で地理空間的に重複する Verra プラットフォームに登録された11の Verified Carbon Standard の炭素クレジット・プロジェクトの分布。



これらのプロジェクトのうち、5つが採掘保護区、3つが持続可能な開発保護区、2つが先住民族の領土にある。すべてのプロジェクトが、プロジェクト開発文書の中で、共同利用地域への関与を明示しているわけではなく、これは、プラットフォームが提供する情報の透明性とアクセシビリティの弱点を浮き彫りにしている。

- ボアフェ REDD (RO) - 2020年 - 10年間*
- エコマプア・アマゾン REDD - 2003年 - 30年間
- パカハル REDD+ (PA) - 2009年 - 40年間
- リベイリーニョ REDD+ (PA) - 2017 - 30年間
- RESEX リオ・プレト・ジャクンダ REDD (RO) - 2012年 - 30年間
- リオ・アナブ・パカハ REDD (PA) - 2016年 - 30年間
- RMDLT ポルテル REDD (PA) - 2019年 - 40年間
- サマウマ REDD+ (AM) - 2020年 - 30年間
- スルイの森林炭素 (RO/MT) - 2009年 - 30年間
- 持続可能な林業経営計画 (PA/AM) - 2016年 - 30年間
- ジュマ持続可能な開発保護区プロジェクト (AM) - 2016年 - 10年間

* 期間は、プロジェクトが活動し、炭素クレジットを創出できる期間を指す。
この期間中は、植林や作物管理のための小規模な森林伐採も禁止されている。



HERNANDEZ LERNER & MIRANDA - VERRA REGISTRY 2023

な生産様式によって形成され続けている。伝統的な農村経済の規模を拡大しようという要求の下、バイオエコノミーは文化的に異なる社会集団の生産慣行を再構成し、多くの場合、もともと社会生物学的に多様な生産方法を標準化する。

アサイーのサプライチェーンを分析することで、この製品の国際的な商業化が、いかに現地の社会文化的ダイナミクスを変容させ、同時に地域社会の食糧と栄養の安全保障を脅かしているかを証明することができる。同様に、最近行われたクプアスの遺伝子配列の解読によって、味、食感、香りといった果実の品質が人工的に再現できるようになった。つまりこれは、生産者への即時の経済的恩恵はないということになる。それでも、生産規模を拡大することで、「アサイーブランド」と同じように、「クプアスブランド」は世界市場や、いわゆる先進国のスーパーマーケットの棚に並ぶことができる。これらの植物種とその人間の歴史を「ブランド」や「金融資産」として扱うことは、それらがかつて定義していた種間関係から切り離し、非領土化を招く。

炭素市場、特にいわゆるボランティア市場は、より柔軟で、私的で市場寄りのガバナンスを持つ環境法の形態を開発しようとするアメリカ企業の研究とロビー活動から生まれた。温室効果ガス排出削減の解決策とみなされることが多いこれらの市場は、汚染産業が実際に排出量を削減することなく、排出量を相殺することを可能にする。特別保護地域に指定された伝統的住民の居住地域に炭素市場を導入する場合、長期的な土地の固定化が必要となる。その結果、人間以外の生き物との絆、儀式、分業、食文化など、テリトリーとの他の関係が制約を受けることになる。テリトリー外では、植物の光合成の価値を金融資産として再構成する汚染クレジットや証明書に関

共同利用地域が金融資産として扱われると、森林は投機の対象となり、土地利用や管理体制を含む差別化された生活様式は見えなくなってしまう。

わる金融取引が、公的な監視や公共の利益を顧みることなく行われている。

法律事務所 Hernandez Lerner e Miranda が Verra 認証機関のデータを用いて行った調査によると、ブラジルの炭素市場は重大な悪影響を及ぼしていることが明らかになった。分析対象となった69のプロジェクトのうち、11のプロジェクトが集団利用エリア、22が公共エリア、23が私有地と重なっている。残りの13例は情報不足のため分析できなかった。パラ州ポルテル市での事例を分析すると、このセクターの企業は土地収奪に関係しており、自由意思に基づく事前協議の権利を無視していることがわかる。

過去と同じように、「炭素指標」と市場の自主規制力に対する過度の信頼が、世界経済の構造調整への道を開く。その意味で、先住民族や伝統的な農村コミュニティの自決を尊重・承認した上での利益の再分配や公平性の向上に関する約束は、依然として大きな課題として残されている。こうしたダイナミクスは、変革的な言説と実践の間の緊張関係を浮き彫りにし、時に歴史的な不平等を繰り返す、その効果的かつ公正な実施には批判的な視線が必要となる。●

アマゾンにおけるコミュニティ基金の課題

伝統民族とコミュニティ、家族経営農家、小規模農家の組織は、気候変動に対処するための資源にアクセスする際に、多くの障壁に遭遇してきた。こういった需要に応じて、コミュニティ基金が設立されるようになった。

ルウェーのレインフォレスト財団 (Rainforest Foundation) の調査によると、2011年から2020年にかけて、先住民が気候変動緩和のために世界的に割り当てられた財源のうち、わずか0.13%しか利用できなかった。従来の気候ファイナンス調達メカニズムは、気候危機に対する代替案として、社会生物多様性のある領土の維持に歴史的に貢献してきた人々に届かないことが証明されている。

自然の金融化が進み、以前は市場に出回らなかったものが商品化され、システミックな資本主義の危機が資本蓄積のレバーへと変貌している。気候変動による緊急事態をめぐる議論は、2つの大きな軸を持つこの文脈に貫かれている。第一の軸は、世界的・多国間協定の署名国が定めた温室効果ガス排出削減目標である。これらは、その遵守を監視するメカニズムがほとんど、あるいはまったくない目標であり、削減を約束した後でさえ、気候の現実とその深刻な結果を示す研究とは対照的である。第二の軸は、これらの目標を達成するための資金調達に関する議論である。気候変動の緩和と適応のためのイニシアチブの費用を誰が負担するのか？気候変動に対する代替案のための資金を提供することを目的とした戦略の中で、気候ファイナンスが位置づけられる。したがって、これ

らの資源がどこから来るのか、どのように利用可能になるのか、また誰に、何のために使われるのかを検討することが不可欠である。

気候ファイナンスとは、温室効果ガスの削減や気候変動への適応のための直接的・間接的な取り組みを目的とした資金の支出として理解されている。「基金」の仕組みは目新しいものではないが、この10年間にこの手段が量的に拡大したのは、気候変動の緊急事態に充てられる資源を確保するためである。気候政策イニシアチブ (Climate Policy Initiative, CPI) の調査によると、気候ファイナンスのために集められた資金は増加しているが、その行き先は依然として達成目標と相反している。この調査はまた、公共政策に充てられる資源のほとんどが私的なものであることも示している。気候ファイナンスの原資が私的なものであることは、環境への配慮という言葉の背後に、同じく私的な利害が埋め込まれていることを浮き彫りにしている。企業や銀行は、ほとんどの場合、協力や寄付ではなく、融資を通じて借金の論理を押し付けている。これらの資源を利用するための条件として利権が適用されることは、地域に根ざした組織のアクセスに決定的な障壁を課すだけでなく、気候変動市場実施のための有利な源泉となる。

農村部信用供与は、土地利用行動を目的とした国内の主要な気候ファイナンス調達手段である。しかし、ここで使われる「土地利用」という概念には、土地を劣化させるような利用も含まれる。補助金によるアグリビジネスの

ブラジルで気候変動緊急事態のために調達される資金のほとんどは、金融機関が農村部の信用供与に資金を配分する義務を負っていることに由来する。

気候変動という非常事態に立ち向かうための資金調達

ブラジルの土地利用のための気候ファイナンスを概観すると、民間資金が圧倒的に多いことがわかる。

2015年から2020年の間に、
ブラジル気候変動の緊急事態に対処するために、年間

250億リアル

の資金を調達した。
これらのリソースのほとんどは
国内ソースであり、-年間約

238億リアル

つまり全体の95%にあたる。
国内融資の3分の2、年間約

159億リアル

が、民間から調達されている。



アマゾンコミュニティ基金ネットワーク

8つの基金がネットワークを形成しており、領土とその民衆を守るためにこれらの基金のアジェンダを統一することを目的としている:

- デマ基金
- ルジア・ドロシー・ド・エスピリト・サント自治農村女性基金
- テンピラ先住民基金
- ミジジ・ドウドウ・キロンボラ基金
- パバス・ココナツ割り職人の女性運動から生まれたパバス基金
- ボダーリ先住民基金 (ブラジル・アマゾンの先住民組織連合が起源)
- リオ・ネグロ先住民基金 (リオ・ネグロ先住民組織連合による)
- ブラジル・アマゾンの搾取者たちからのブクシルム基金

家族農業への資金調達の脅威

アグリビジネスはブラジルの公的資金の大半を受け取っている。全国家族農業プログラム (PRONAF) は、この不平等に対処するために創設されたが、データによれば、農産物の輸出モノカルチャーがこの公共政策のスペースを占めている。

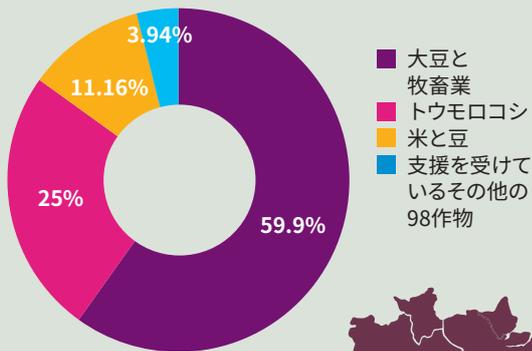


2020年には、たったの

12.09%

が3,657,671の家族経営農業経営体のうち、融資を受けることができた。

家族農業のための PRONAF リソース (活動別)



北部地域は、たったの4.8%がPRONAFの資金を利用できる。

INSTITUTO TRICONTINENTAL DE PESQUISA SOCIAL; NÚCLEO DE ESTUDOS EM COOPERAÇÃO (ECCOPI), DA UNIVERSIDADE FEDERAL DA FRONTEIRA SUL

強化は、多くの公的インセンティブを通じて行われており、農村部での信用供与もそのひとつである。

2015年から2020年にかけての気候ファイナンスフローの5%を占める国際的な資金については、そのほとんどが国際政府、気候変動基金、多国間銀行によるものである。アマゾン基金 (Amazon Fund) は、これらの資金を受け取り、緩和と適応に沿った返済不要の土地利用イニシアティブを支援するための主要な手段である。しかし、アマゾン基金が要求する官僚的・環境的なレベルは、小規模な地域組織の直接アクセスを制限している。環境・気候変動省によると、アマゾン基金には2023年に7億2600万レアルの寄付があり、主な寄付先はイギリス、ドイツ、スイス、アメリカである。

国際レベルでは、気候ファイナンスを支援する2つの大きな基金がある。ひとつは、2010年に国連気候変動枠組条約加盟194カ国によって設立された「緑の気候基金 (the Green Climate Fund)」である。各国を代表する24人の理事によって運営され、締約国会議 (COP) から指導を受ける。ブラジルは、このシステムを導入した最初の国である。各国は、森林減少と劣化の削減に関する証拠の提示に基づいて資源を受け取る。承認された金額は9,640万米ドル (約5億レアル) であったが、2023年前半までどのインセンティブ方式も計画通りに運用されず、その結果、目標が大幅に遅れ、プロジェクトの最終受益者に支払われた資源はごく一部であった。

2つ目の基金は、2023年の COP28 で創設された「損失と損害 (ロス & ダメージ) 基金 (the Loss and Damage Fund)」である。この基金は世界銀行が主催し、日本、アラブ首長国連邦、イギリス、ドイツなどの国々から総額

アグリビジネスの生産・物流構造には、多様な食糧生産を損なうような彼らの技術パッケージを採用するよう、家族農業に圧力をかける動機がある。

4億2000万ドルの寄付を受けている。世界銀行が独立した資源管理メカニズムではないことに加え、先進国の影響力が強いため、周辺国が優先的に資源を利用できる状況にはない。これらの国際基金に共通しているのは、資金が不十分であること、社会的統制や民衆参加の仕組みがほとんどない、あるいはまったくなく、地域に根ざした組織による資源へのアクセスを遠ざける運営構造や強制力があることである。

アマゾンのコミュニティ基金の起源は、環境犯罪と闘い、領土を守り、画定し、所有権を与え、アイデンティティと文化を強化するための歴史的戦略に基づく社会運動の要求と、基本的な制度構造の進歩段階と彼らの自律的行動を支援する必要性からきている。たとえば、環境正義と違法伐採犯罪の阻止を目指すトランス・アマゾンとシングー地方の社会運動が、社会的・環境的公正と違法伐採犯罪の阻止のために立ち上げた「デマ基金 (the Dema Fund)」がそうである。この基金は、2001年8月25日にパラ州アルタミラで惨殺されたアマゾンの熱帯雨林の活動家、アデミール・フェデリッチ (別名デマ) の記憶をそのアイデンティティとしている。

2003年以来、社会教育支援団体連合に本部を置き、団体や社会運動からなる委員会によって一括管理されているデマ基金は、アマゾンのさまざまなテーマやプロセスに関する集団プロジェクトやコミュニティ・プロジェクトを支援している。これらは、アマゾンの食料安全保障と民衆主権に不可欠な食料を生産するために、領土組織を強化し、とりわけキロンボ、農業搾取主義者、農村や先住民族の能力を強化するという要求を反映している。

中央集権的で官僚主義的であることに加え、農村部での信用供与を含め、覇権的となっている気候ファイナンスのさまざまな形態は、構造的な不平等を強化するものであり、社会運動によって常に疑問を呈し、議論されなければならない。同様に、多国籍企業と結びついた企業ファンドや補償ファンドは、支配的な気候ファイナンスの論理を再生産し、アマゾン地域で拡大している。対照的に、コミュニティ基金は、テリトリーを守るための複数の戦略を通じて、財源へのアクセスの民主化に貢献し、アマゾン地域で何千年にもわたって築かれてきた社会生物多様性に対応できる生産指標としての農業生態学、そしてテリトリーのニーズに適応した真の解決策としての気候変動の影響への対処に寄与している。アグリビジネスは飢餓をメインディッシュとし、気候危機に対する偽りの代替案を提示することで正当性を求めている。したがって、気候ファイナンスは、財源配分に関するものだけでなく、何よりも社会のためのプロジェクトとして、この論争の対象となる。●

アマゾンの新世代

機会の欠如と社会経済的障壁が、アマゾンの若者の地方流出の一因となっている。基本的なサービスと公共政策の確保は、この現象に対処するための鍵であり、この社会環境闘争の主唱者である若者たちが自分たちの領土に留まることができるかどうかに直接影響を与えている。

アマゾンの若者は、教育的、職業的、社会的な機会の不足により、大きな困難に直面している。この現実には、この地域に浸透しているさまざまな構造的・歴史的問題を反映しており、しばしば農村からの流出や若者の脱領土化をもたらしている。より良い生活環境を求めて都市部に強制移住させられたことは、彼らの文化的アイデンティティに悪影響を及ぼし、アマゾン全土の農村と伝統的コミュニティを弱体化させている。

アマゾンの農村部には質の高い学校や高等教育機関がないことが多く、若者の総合的な教育へのアクセスが制限されている。不十分な学校インフラ、専門的な教育資源の不足、資格のある教師の不足が、多くの人々にとって学習を困難なものにしている。適切な教育を受けなければ、青少年は生まれ育った地域社会で個人的・職業的成長を遂げる機会がほとんどない。農村部には基本的なサービスがないため、状況はさらに悪化している。医療、交通、電気、基本的な衛生設備へのアクセスが困難なため、これらのコミュニティでの生活は魅力に欠け、より困難なものとなっている。こうした必要不可欠なサービスがなければ、若者の生活の質は著しく低下し、移民をさらに助長することになる。

また、社会経済的な制約があるため、若者たちは自分

たちの地域社会で豊かな未来を描くことができず、都市中心部での雇用を求めようになる。このようなダイナミズムは、都市化の進展と、社会的疎外や不安定な労働条件といった新たな課題にしばしば遭遇する大都市圏への若者の集中を助長している。

農村からの流出と若者の脱領土化がもたらす社会文化的影響も同様に深刻だ。移住は文化的アイデンティティの喪失と地域の伝統の喪失につながり、コミュニティの絆を弱め、伝統的な文化的慣習の継承を妨げる。農村地域社会は重要な再生の源泉を失い、若者は不慣れな都市環境に適応するという困難な課題に直面し、しばしば偏見や社会経済的苦難と闘うことになる。

もうひとつの重要な課題は、若者を環境犯罪に巻き込むことである。これは、根強い社会的・経済的不平等を直接的に反映している。森林伐採、違法採掘、略奪的な狩猟や漁業は、アマゾンの若者を惹きつける違法行為のひとつであり、多くの場合、社会経済的機会の欠如が原因となっている。犯罪組織は、彼らが環境破壊的な行為に関与する代わりに、手っ取り早く金銭的な見返りを提供することで、こうした若者の脆弱性を利用して、このダイナミズムは、森林だけでなく地域社会にも壊滅的な影響を及ぼす。このような犯罪への参加は、若者を暴力、不安定、搾取にさらし、排除と疎外の連鎖を永続化させることが多い。

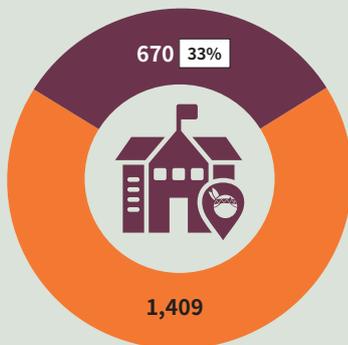
こうした課題に対処するには、教育の機会を強化し、地域の経済発展を促進し、文化的な理解を促進する統合

2014年の国家教育計画では、2024年までに達成すべき戦略と目標が定められた。そのひとつは、農村部、先住民、キロンボラの人々への初等教育の提供を促進することだった。しかし、この目標はまだ達成されていない。

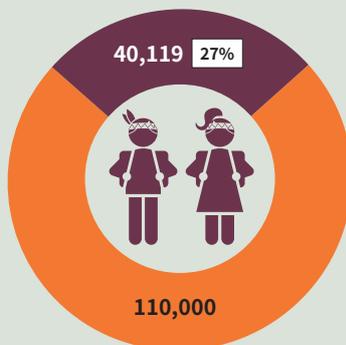
アマゾンの先住民教育

ブラジル連邦憲法は、先住民に差別化された特定のバイリンガル教育を受ける権利を保障している。

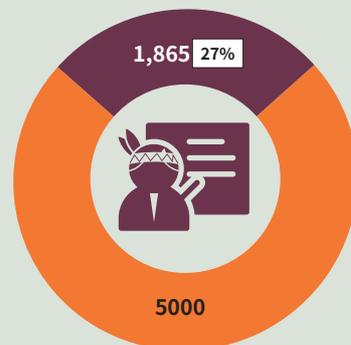
先住民の土地にある学校



先住民の学生



教師*



しかし、600校は校舎を持たずに運営している。北部地域では、先住民の学校の65%が自前の校舎で運営されていない。

■ アマゾナス州
■ ブラジルの他の州

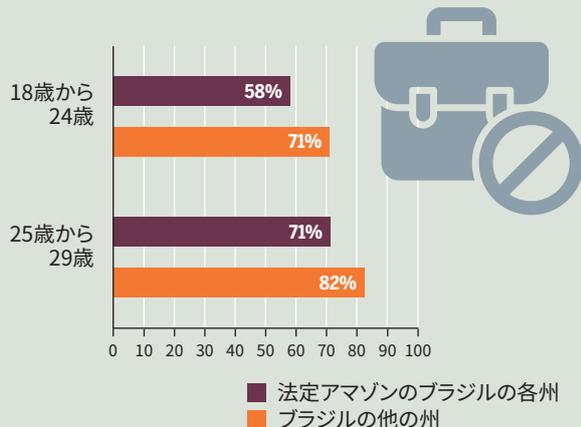
* 先住民の土地にある学校で働く教師、その85%が先住民

アマゾンでの(非)雇用

法定アマゾンの州では、雇用市場に参入する難易度が他の州に比べて13%高い。

AMAZÓNIA 2030

若者と若年成人の雇用市場への参加：



* この指数は、正規・非正規を問わず、何らかの職に就いている若者に加え、就職市場に参入しようとしている若者も対象としている。

的なアプローチが必要である。学校のインフラや技術・職業訓練への投資は、若者たちが自分たちの地域社会を変える担い手となる力を与え、強制移住の防止に役立つ。さらに、地元の起業家精神と持続可能な経済的選択肢を促進することで、雇用を創出し、収入を得ることができ、これらの若者を地元に残らせることができる。

農村部におけるインフラと基本的サービスの改善も同様に不可欠である。持続可能な開発戦略の立案と実施において、若者とコミュニティの積極的な参加を促進する公共政策は、若者が自らのルーツを置き去りにすることなく成長できる環境を作るために不可欠である。

このような厳しい現実とは対照的に、先祖伝来の領土の抵抗と防衛、森林の保護、気候変動と社会正義の追求における先住民の若者の主体性は際立っている。自分たちの土地や文化に対する深い責任感に突き動かされた

アマゾンの若者の失業率は高く、環境犯罪に関連した違法市場にリクルートされやすい。

若者たちは、自分たちのコミュニティを外部の脅威から守ろうとする抵抗運動に組織している。このリーダーシップは、年長者との関係や先祖への尊敬の念に強く影響される。先祖は、環境保全のための戦いの指針となる伝統的な知識や価値観を伝えることで、若い先住民のリーダーを形成する上で基本的な役割を果たしている。こうした世代を超えた知識の伝達は、外部圧力に耐える必要不可欠な要素である文化的アイデンティティとコミュニティの結束を強化する。さらに、祖先の教えは環境に対する全体的な理解をもたらし、人間と自然の相互依存関係を認識し、環境保全への包括的なアプローチを促進する。

先住民コミュニティの文化的回復力は、彼らの領土に対する脅威に対抗するための重要な要素である。伝統的知識を大切に、環境保護闘争に組み込むことで、先住民の若者は自分たちの土地を守るだけでなく、先住民としてのアイデンティティと権利を再確認することができる。社会運動や非政府組織との対話は、彼らの目的の可視性を高め、先住民の領土権を尊重し保証する公共政策への圧力を強める。●

北部地域の2大首都は、平均年齢が比較的「高い」：マナウス(30)とベレン(35)。

若きアマゾン

2022年の国勢調査によると、北部地域はブラジルで最も人口の年齢が若い。



社会環境正義の主唱者

アマゾンの女性たちはコミュニティにおいて重要な役割を果たしている。女性たちが主導する組織は、この地域における新採取主義との闘いの最前線にいる。この闘いは、制度的な政治参加に関する課題に加え、女性を標的とした殺人の割合が高いという状況の中で行われている。

アマゾンには、ここで暮らし、働き、闘う女性たちにとって大きな挑戦の場である。この地域の女性たちは、社会的、文化的、経済的、政治的要因が複雑に絡み合っ、多面的な権利侵害が目立つ現実と直面している。こうした侵害は、ジェンダーに基づく抑圧や不平等だけでなく、何世紀にもわたってアマゾン社会で持続してきた寡頭支配構造と絡み合った天然資源開発の直接的な結果でもある。

法定アマゾンでは、女性が人口の大半(50.2%)を占め、コミュニティで重要な役割を果たしている。しかし、彼らの制度的な政治参加は、歴史的に文化的、社会的、経済的要因によって制限されてきた。例えば、2024年の第一回市議選では、ブラジル全土で選出された市長のうち女性はわずか15.5%で、法定アマゾンのいくつかの州ではさらに低い平均値だった。アクレでは、当選した市長のうち女性が4.55%だった。ロンドニア州では、行政府の当選者のうち女性はわずか5.88%だった。市議会については、2024年に全国で選出された市議会議員の18.24%を女性が占めるが、パラ州やロンドニア州などはこの平均を下回り、それぞれ17%、16%だった。

男女平等の促進を目的とした公共政策の欠如や、女

性の教育や政治研修へのアクセスの制限など、差別的で性差別的な慣行によって、彼女たちの過小代表はさらに悪化している。

その一方で、農村地帯や森林地帯の女性たちの動員も増えており、彼女たちはネットワークを組織し、地域協議会、権利協議会、協会、協同組合での代表権を求めており、それによって、意思決定領域でのポジションにおける奮闘が進んでいる。彼らは自分たちの権利の承認を求める闘いの主唱者となり、彼らの生活様式は領土の保全と密接に結びついているため、土地、水、森林も守っている。こうしてアマゾンの女性たちは、黒人、先住民、川沿いに住む女性、キロンボラ族の女性など、農村労働者であれ都市労働者であれ、新採取主義の進展に対する抵抗と生存の社会運動で際立ってきた。

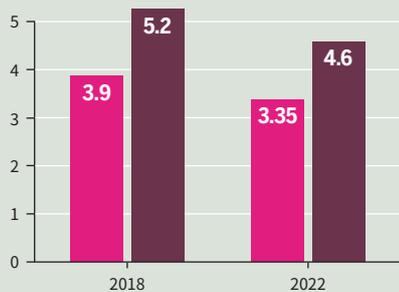
例えばアマゾナス州では、「マナウス女性常設フォーラム (the Permanent Forum of Women of Manaus)」が30以上の女性団体を集めている。その中には、エコフェミニスト運動マリア・セム・ヴェルゴニャ (the Ecofeminist Movement Maria sem Vergonha)、森の黒人女性運動(ダングラ) (the Movement of Black Women of the Forest (Dandara))、マナウス代替収入生成グループ協会 (the Association of Alternative Income Generation Groups of Manaus)、アマゾナス女性連帯運動 (the Movement of Solidary Women of Amazonas)、ブラジル女性連合 (the Brazilian Union of Women)などが含まれ、これらの団体は、歴史的に権利と正義へのデモ活動の最前線で活動してきている。彼らは自分たちの領土

ある報告書は、法的暴力がアマゾンの女性に及ぼす影響は、ブラジルの他の地域の女性に比べて不釣り合いであると結論づけている。

アマゾンの女性に対する暴力

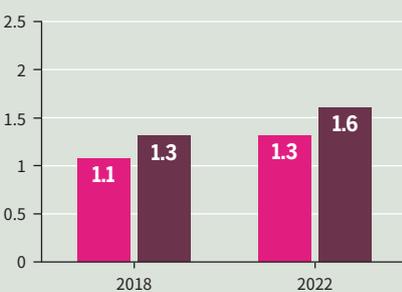
アマゾン地域は、ジェンダーに基づく暴力に関する憂慮すべきデータで際立っている。

女性に対する殺人*



* 女性10万人当たりの割合

フェミサイド* (女性であることを理由とする殺人)



身体的暴力*



■ その他の国
■ 法定アマゾン

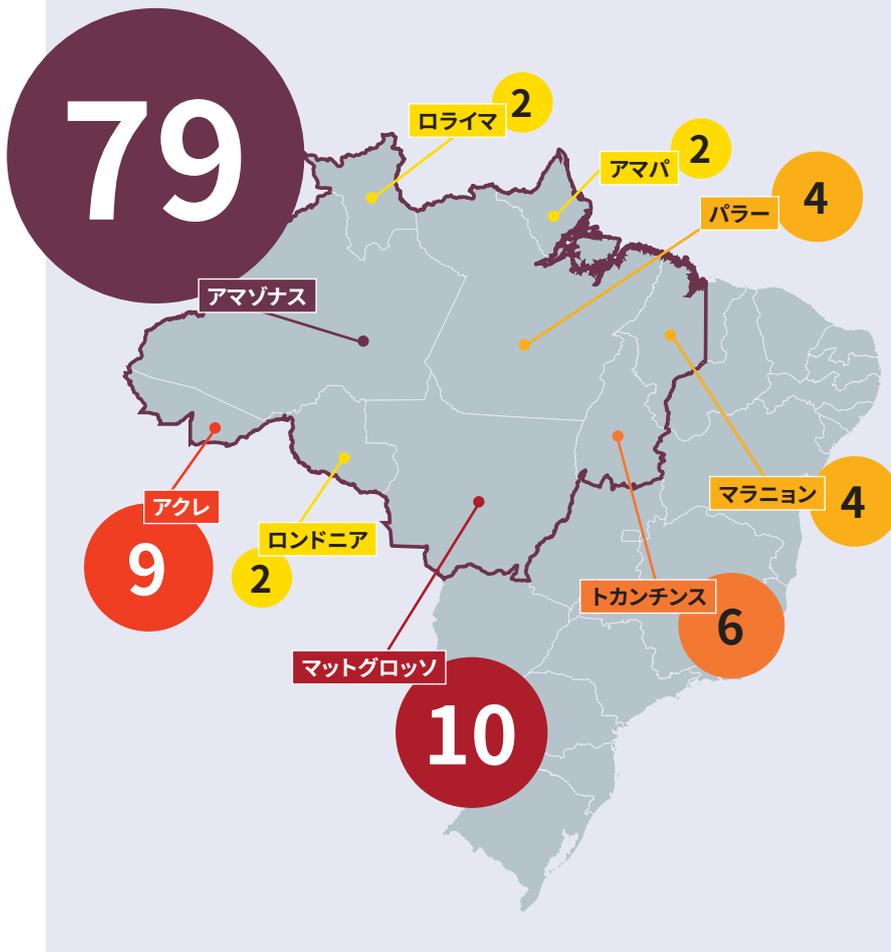
INSTITUTO GARAPÉ

女性の抵抗

2023年における、ブラジル・アマゾンの先住民女性が主導する公式・非公式の組織、グループ、集団のマッピング。

アマゾンの9つの州に118の組織／グループがある：

団体によって開発された
経済活動



ハンドクラフト



養蜂



農業



先住民の衣装



裁縫



料理



アート



梱包

FUNDAÇÃO AMAZÔNIA SUSTENTÁVEL (FAS)

でのダム建設や鉱物資源開発に反対してきた。特筆すべきは、1990年代後半からマナウスの水道事業の民営化に反対する動員にも参加しており、最近では2018年のアマゾニア・エネルギー本社の占拠に至っている。

新型コロナウイルスパンデミックでは、アマゾンの女性たちの闘いも際立っていた。隔離期間中、マナウス女性常設フォーラムはアマゾナス州議会で抗議し、ワクチン、マスクの寄付、緊急援助、すべての労働活動の停止を要求した。空路と河川でしかアクセスできないアマパ州では、パンデミックの間、アルコール、手袋、マスク、個人防護具が不足した。さまざまな組織の女性たち、特にアマパ黒人女性研究所は、薬草やバルサミコ製品（エリキシル、シロップ、お茶など）を通じて、民族の先祖伝来の知恵を引き出し、これらは痛みを和らげ、免疫力を高め、命を救うために欠かせないものとなった。

このような組織の活動はすべて、闘争のさまざまな前線における女性の主体性を強化する上で基本となっている訓練とエンパワーメントの取り組みによってのみ可能となる。ワークショップ、人権、天然資源管理、コミュニティ・リーダーシップに関する研修コース、連帯経済やリプロダクティブ・ライツに関する研修は、女性の生活に直接影響を与える決定への参加を促進するために採用された戦略の一部である。

アマゾンの先住民女性が率いる組織やグループ、集団の多くは、持続可能な経済活動に取り組んでいる。

これらの行動は、女性個人の現実を変えるだけでなく、男女平等と環境正義の向上につながる社会的変化を促進することを目的としている。その結果、性差別、人種差別、LGBT 恐怖症、ジェンダーに基づく政治的暴力、開発主義的プログラムに対する闘いを封じ込めようとして、多くの女性が標的となり、殺害されている。アマゾンの女性に対する殺人およびフェミサイドの件数は、ブラジルの平均を上回っている。

アマゾンの女性たちは、歴史的な物語に登場せず、政治参加やジェンダーに基づく暴力における不平等に直面しているにもかかわらず、力強い変革の担い手である。アマゾンのためだけでなく、より公正で平等主義的で持続可能な世界の可能性を創造するためにも、彼らの関与は不可欠である。アマゾンの女性たちの抵抗は、社会悪に直面したときの回復力と希望の象徴である。●

持続可能性と回復力

アマゾンでは、科学的な農業生態学の知識と、伝統民族とコミュニティがもつ先祖伝来の知識を組み合わせ、森林管理を行っている。このような知識を融合させた管理法から、アグリビジネスの促進に対する抵抗としての構想が幾度も生み出されてきた。

農業生態学(アグロエコロジー)とは、より持続可能な農業食糧システムの開発を支援するために、生態学的な原理と方法を動員する科学である。農業生態学の概念は、近年、土地集中、加工、市場、労働とジェンダーの関係、消費、廃棄物の発生など、より広範な問題を無視しながら、生産における「成功の島」を孤立させることの不可能性を強調する議論の展開を受けて、拡大してきた。

アマゾンはその生態系の生物多様性とそこに住む人々やコミュニティの多様性が認められており、農業生態学的な科学的知識は、人間と自然との直接的な関係を通じて歴史的に構築されてきた知識と融合している。アマゾンの農業生態学を理解するためには、アマゾンの歴史的な占有過程、組織や制度とアマゾンの住民との関係、そして林床で採用されている慣行を前進させるための課題を分析する必要がある。

農業生態学に動員される知識の一部は、先住民族が何千年も前に実践してきた、農業生態系の管理と設計に関する先祖伝来の慣習に由来する。この意味で、農業生態学の分野ですでに開発された無数の社会的・科学的体系化は、先祖伝来の先住民の生産と食糧システム、そして最近では、奴隷としてアマゾンに連れてこられたアフリカの人々のシステムに根ざしている。

森林農業(アグロフォレストリー)システムや生産性の高い家庭菜園といった伝統的な生産・食糧システムは、アマゾンのダークアースや文化的な森林と同様、こうした貢献の明白な例である。したがって、アマゾンの農業生態学の発展のかなりの部分は、こうした慣行とその進化の過程に関連している。これらの地域における農業生態学の転換は、こうした知識を取り入れ、強化し、先祖伝来の知恵を再評価するものでなければならない。この運動は林床における農業生態学のエッセンスであり、プクシラン、ムティロン、その他の集団的な仕事とそのケア、互酬性の実践が、このテリトリーにおけるありふれた個人のビジョンの基調となっている。

しかし、過去50年間、特にブラジルの軍事独裁政権時代とその後に、アマゾンはさまざまな形の人為的活動(森林伐採、山火事、水質汚染、採掘による水銀への住民の暴露、単一栽培の大豆とアブラヤシのプランテーションの拡大、水力発電所の建設、穀物港、保護区内の道路、農業の集中的使用)を特徴とする広範な領土占領計画を経てきた。これらのプロセスは、気候変動の明らかな兆候によって悪化しており、この地域は人間の行動がもたらす影響の重要な舞台となっている。このような景観の変容は、農業食品システムの持続可能性という点で新たな課題をもたらした。

現在、家族経営農家は、さまざまな形態の森林農業システムを導入したり、在来植生と食用作物を組み合わせ、森林や低木林の管理システムを採用するなど、生態学に基づいた実践を通じて、自分たちの領土の一部を取り

農業生態学は、農業生態系管理の先祖伝来の集団的実践に着想を得ている。アマゾンでは、プキシラムがそのひとつである。

奴隷労働 X プキシラム*

アマゾンは、奴隷同然の労働環境課から救出された労働者のほぼ半数を占めている。このデータの主役はアグリビジネスである。

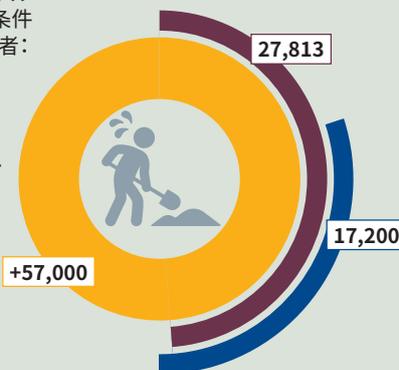
アマゾンの農業生態学は「プキシラム(puxirum)」の実践を取り入れている。ポルトガル語の「mutirão」(集団的な努力)と同義語であるプキシラムは、アマゾンのさまざまな地域で、収穫や建築などの共同作業のために人々が集まることを表す言葉として一般的に使われている。



1995年**から2021年の間に、労働省の検査グループによって奴隷的条件下から解放された労働者:

合計で2,721件の検査が同期間に法定アマゾンで行なわれた。

- ブラジル
- 法定アマゾン
- 牧畜場

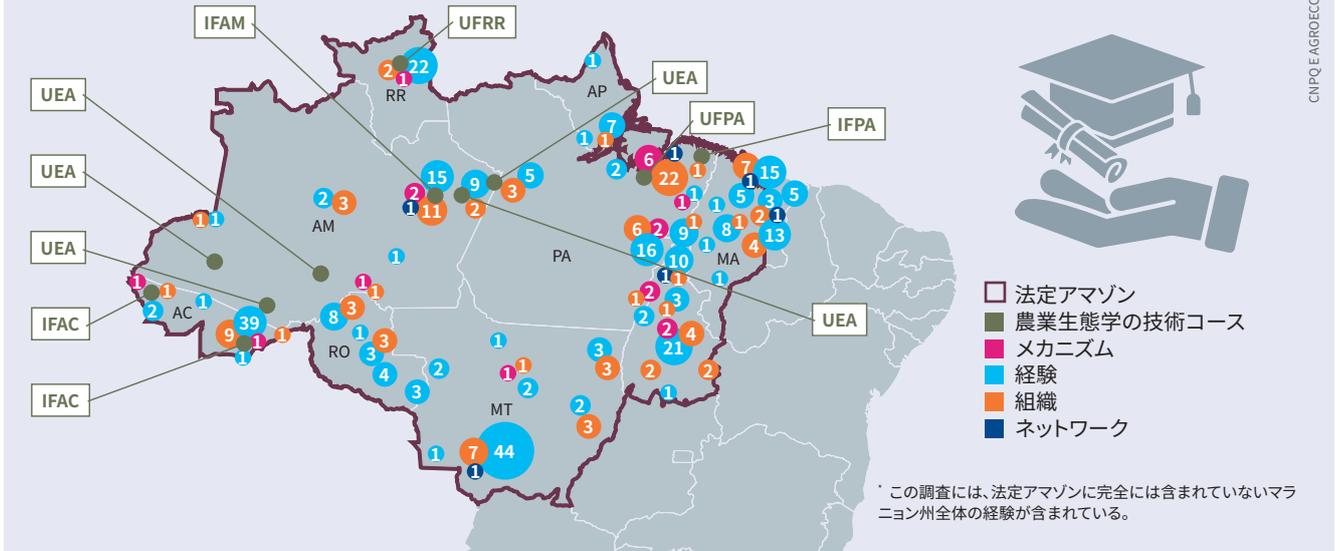


*「プキシラム」も「mutirão」もトゥピ語の「moty'rô」に由来する。これは「共同作業」を意味する。

**ブラジルが奴隷労働撲滅のための手段を確立した年。

アマゾンの農業生態学

法定アマゾンを構成する州には、6つの技術コース (11のキャンパス) と508の農業生態学の取り組みがある。



戻そうと努力している。その中核となるのは、生産の多様化と産業投入物の削減または代替で、アマゾンの農業生態学的転換を推進する上で効果的であることが証明されている。

政治的な側面では、抵抗の取り組みも多様化しており、制度的な政治そのものを超えて理解することができる。短いサプライチェーンに基づく市場の社会的構築 (地域の見本市や、食糧獲得プログラムや全国学校給食プログラムのような制度的購買プログラムの実施など) は、アマゾンの農家の経済をよりダイナミックにするための重要な代替選択肢となっている。家族農業協同組合によって組織された小規模農産業が生み出す付加価値は、特にアサイーやブラジルナッツなどの社会的生物多様性産品を通じて、近年注目を集めている。

アマゾンの農業生態学の活動、特に生産性の高い家庭菜園や在来動植物資源の保護、農業生物多様性や社会生物多様性製品の加工が行われている地域では、女性が重要な役割を果たしている。組合や協同組合などの代表組織に組織され、地域の生産方法の継続性を確保するための公共政策に影響を与えようとする傾向が強まっている。

このように、農業生態学はアマゾンの社会環境レジリエンスを強化する道筋として浮かび上がってくる。そのためには、増え続ける公的教育・研究機関、非政府組織、農民、先住民族、伝統的コミュニティの組織からなる社会技術的ネットワークを強化し、統合することが不可欠である。これらの関係者は、地域的な観点から農業生態学の原則を採用することを目的とした学際的な行動を通じて協力しなければならない。この文脈では、農業生態学と

農業生態学と有機生産のための国家政策では、有機食品の品質を保証する方法として、監査による認証、参加型保証システムによる認証、社会管理組織による認証の3つがあると定めている。

農業生態学の研究は、その知識が科学として受け入れられるにつれ、大学でも広がりを見せている。これと並行して、アマゾンの地域で農業生態学を推進しようとするイニシアチブもいくつかある。

社会生物多様性に焦点を当て、農業生態学と有機生産のための国家政策と統合された、州や地域の政策を通じて、農業生態学活動を促進する手段を作り、強化することが極めて重要である。●

アマゾンの有機認証

法定アマゾンを構成する州の有機認証生産者は、ブラジルの認証生産者総数の22%を占める。



■ 法定アマゾンを構成する各州の有機認定生産者
■ ブラジル他州の有機認定生産者

世界の食料供給における歴史的転換点

食文化とは、民族と食物の栽培・調理との関係に関連する、一連の先祖伝来的・象徴的慣習として定義される。アマゾンで生まれたこの概念は、長い道のりを経て認知されるに至った。

2021年、「十分な食料と栄養を得る人権監視団 (the Observatory for the Human Right to Adequate Food and Nutrition)」は、ブラジルの都市部に住む先住民の食糧不安に関する初の調査を発表した。予備調査の結果、パラ州ベレンに住む先住民の70%が飢餓を経験しており、少なくとも40%の子どもたちが1日2食しか食べていないことが判明した。このような食料不安の状況は、これらの人々の文化的な食習慣の崩壊を含む、一連の複雑な問題を浮き彫りにしている。

2013年まで、ブラジルでは食文化は文化表現として公式に認められていなかった。公的資金や助成金プログラム、あるいは同様のメカニズムを通じてであれ、文化としての食に投資することはなかった。この概念は、その年の第3回全国文化会議で正式に認められ、食文化と

いう概念を導入する動議が承認された。このコンセプトは、2000年代前半の10年間、パラ州アマゾン地域の食文化に関する参加型文化マッピング・プロジェクトの一環として、マラジョー地域のコミュニティに行ったインタビューから生まれた。「ガストロノミー (美食学)」という言葉では、特に先住民や伝統的コミュニティの間で食を形成している知識、技術、形而上学、実践、精神性、手工業、地域性、運動、アイデンティティ、多様性の深さと複雑さを捉えることができないからだ。

ガストロノミーを文化の同義語として扱うことは支離滅裂であることが証明された。この言葉は、その語源からして科学を指している。さらに、ガストロノミーに関連するすべての慣習が、文化表現としての分類を正当化するわけではない。例えば、ファーストフード、遺伝子組み換え食品、合成物質などは、文化という概念を支える象徴的でアイデンティティに関連した次元を欠く慣行の例である。

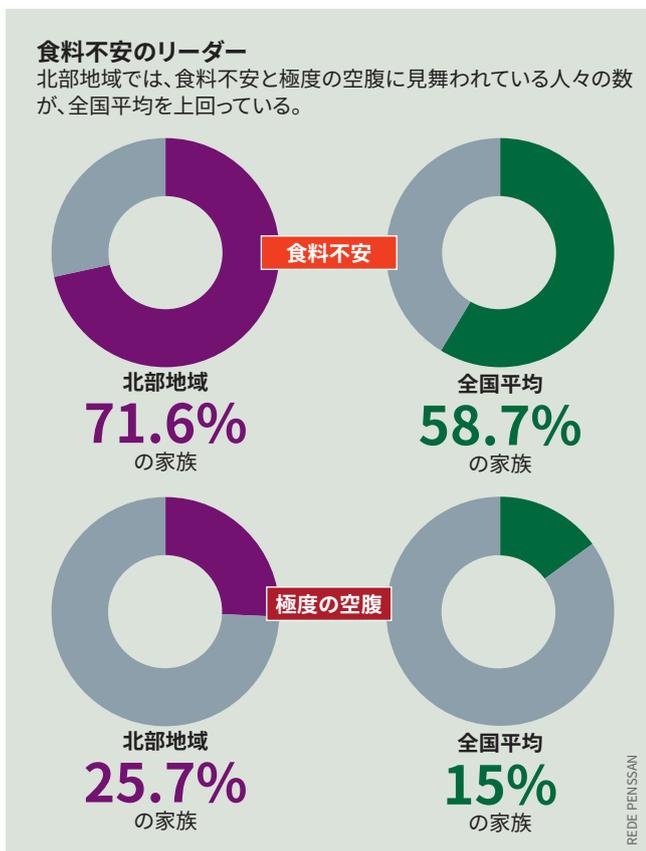
しかし、農産食品帝国の幻想主義は、歴史的にガストロノミーを文化と同一視するよう働きかけてきた。たとえ同じシステムが、文化的・遺伝的遺産の収奪や象徴的支配の責任を負っているとしても。これらの帝国が地方文化に対して進出していくにつれ、有機的な知識人たちによる抵抗に遭遇し、彼らは食文化という概念を明確にし、ガストロノミーとは区別した。この区別は、ブラジルが加盟している国際的な議定書や協定に基づく権利の枠組みに食文化を固定するものである。

アマゾンから世界まで、従来のレストランとは異なる組織原則に導かれたスペースである食文化ポイントが出現している。今日、こうした食文化のポイントのいくつかは、ブラジルで15年以上にわたって定着している。最も顕著で成功した例のひとつが、ベレンにある「Iacitá Amazônia Viva」である。

食文化という概念が、食料安全保障と主権に直接的に貢献していることを強調することは重要である。これには、ブラジルの家族農業による職人製品の非犯罪化、キャッサバやその派生品などを含む基本食料バスケットの改訂の提唱、食文化常設委員会の設立、食料・栄養安全保障国家評議会の代表権の保証などが含まれる。

国際的には、生物多様性に関する COP10 で策定された「愛知生物多様性目標 (2010-2020)」に食文化の概念が盛り込まれた。これらの目標は、生物多様性の世界的な損失を食い止めるための具体的な行動を概説したものである。食文化は現在、ブラジルの社会生物多様性の保護と促進、そして気候変動の影響軽減のためのセーフガードとして認識されている。さらに、国連食糧農業機関 (the Food and Agriculture Organization of the United

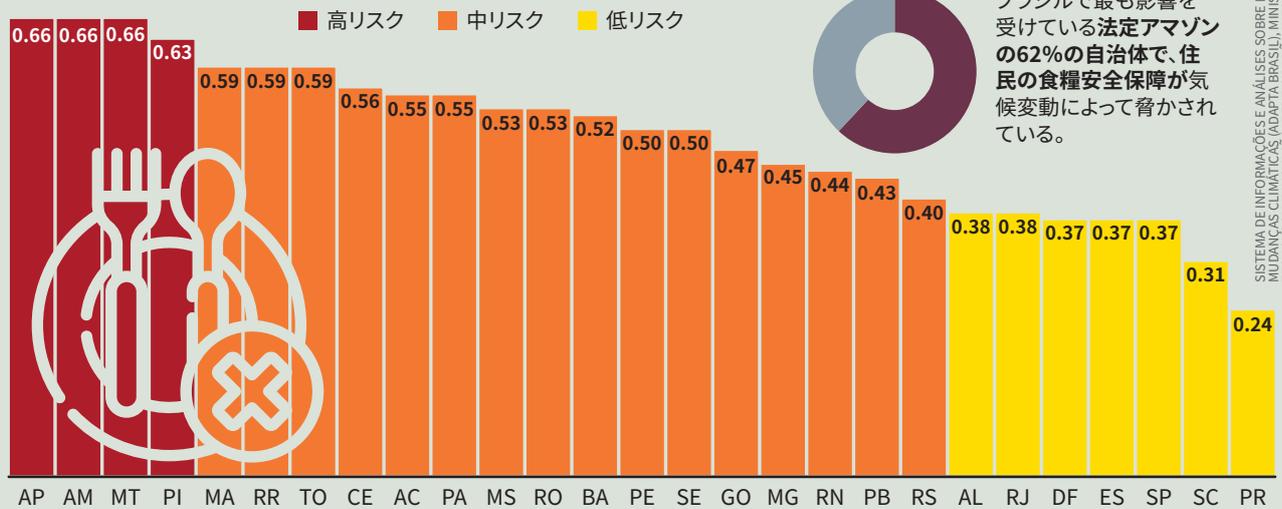
北部地域では、パラ州が最も飢餓人口が多く、260万人に上る。



アマゾンの状況はさらに悪化する

気候変動は、法定アマゾンの62%の自治体で、住民の食糧安全保障を脅かしている、最も影響を受けている地域である。

気候変動による食料不安に対する脆弱性のランキング(ブラジル州別)：



SISTEMA DE INFORMAÇÕES E ANÁLISES SOBRE IMPACTOS DAS MUDANÇAS CLIMÁTICAS (ADAPTA BRASIL), MINISTÉRIO DA CIÊNCIA, TECNOLOGIA E INOVAÇÃO; REDE CIDADÃ - INFOAMAZONIA

Nations) は、飢餓との戦いや食糧主権を追求する上で、食文化を重要な柱として認識し始めている。この概念は、知的財産とそれに関連する伝統的知識に関する国際条約 (the International Treaty on Intellectual Property and Associated Traditional Knowledge, WIPO/2024) 内の議論にも貢献している。

2023年、「食と栄養の安全保障全国会議 (the National Conference on Food and Nutrition Security)」の期間中、「食文化自由会議 (the Free Conference on Food Culture)」が開催され、食文化の概念が全体会議で「知ること、行うこと、話すこと、育てること、創造すること、準備すること、世話すること、癒すこと、魅了すること」と再定義された。この新たな定義は、祖先、精神性、領土、そして象徴とアイデンティティに基づく中心的な側面を包含している。このように、食文化は、生産的、社会経済的、健康的、人権的側面、さらには社会環境的・気候的正義、土地と領土の問題、女性差別、家父長制、構造的な人種差別、職人的・宗教的食習慣の犯罪化に対する闘争と交差する、食にまつわる一連の実践、表現、文化的表現として理解される。

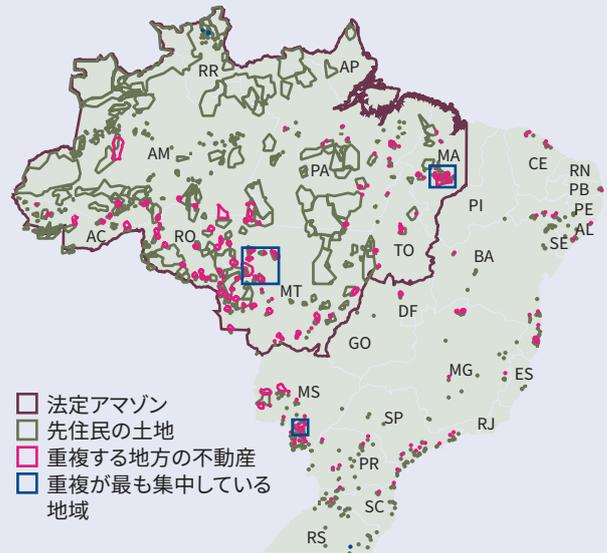
したがって、食文化は食の安全保障、民族の自己決定、豊かな生活の追求と切り離すことができない。しかし、文化省は限られた前進しかしておらず、特にアマゾン地域に重点を置いた先住民族と伝統的コミュニティにとって、この問題が政治的に重要であることを認めているにすぎない。●

マットグロッソ・ド・スル州は、グアラニー・カイオワ虐殺の舞台であり、ブラジルで最も土地の重複が多い州である：合計630人。法定アマゾンの各州がそれに続く：マットグロッソ州 (247) とマラニョン州 (189) である。これらの州は、被害を受けた面積でもランキングの上位を占めている：マットグロッソ州 (37万1,500ヘクタール)、マラニョン州 (24万4,900ヘクタール)、マットグロッソ・ド・スル州 (23万8,900ヘクタール)。

脆弱性指数は、気候変動に対する住民の適応能力と、その影響に対する住民の感受性の両方を測定するもので、食料生産、農業施設、食料品の品質などの側面を含む。

先住民の土地を侵略する農業

土地データベースの相互参照により、以下のことが判明した。1,692の農場が先住民の土地で重複している。農業界のビッグネームがデータに登場する。



1,692 の先住民の土地内の重複農場は 118万ヘクタール に相当し、このうち 95.5% が境界画定待ち地域である。 たったの 18.6% の重複地域が農業生産に使用されている。

DE OLHO NOS RURALISTAS

伝統的領土の抵抗と自然保護

共有財のための闘いは、領土とそこで生きる生物の私有化に抵抗し、現行の法制度に異議を唱え、人間と非人間との共存システムを尊重する新たな構成を提案している。

「共有 (common)」という用語は新しいものではなく、哲学的、法律的、宗教的な意味合いを持ちながら、さまざまな理論的文脈で議論されてきた。21世紀においては、私有財産と排除という現在の構造に対する批判を表し、自治、協力、自治のための空間として理解されている。この用語は「共有財」とも呼ばれ、集団行動によって具体化された、コミュニティによって集団的に管理される一連の環境財を管理する社会システムを指す。囲い込み、民営化、特許化、商業化、バイオパイラシー行為に対して、これらの商品の個人所有に対するコミュニティの抵抗がある。ブラジルの先住民族の闘いは、自然破壊に対する抵抗の一例であり、特にアマゾンでは、社会的生物多様性の保護と共有財の防衛に関与している。

共有財に関するさまざまな概念は、気候危機に対する代替案として、また特定の資産(水、空気、森林、土地など)を単独で保護するという考え方に対する批判として提示されている。この断片的な認識に関する主な懸念は、生態系は相互に関連しており、その影響は局所的、地域的、そして地球規模に及ぶという事実である。

「人類の共有財」とも呼ばれるこの概念は、物質的・

科学的進歩に限定され、人間のニーズに応える無尽蔵の天然資源を持つ地球に住むという概念に基づき、競争経済を中心とする現代の発展のパラダイムとは対照的である。それは「リビング・ウェル」のための提案として提示され、生活条件の再構築を通じて、自然との調和を図りながら、個人、性別、社会集団の間でバランスの取れた社会的ダイナミズムを達成することを目指している。この意味で、人類の共有財は、具体的な経験や社会的闘争に根ざしたプロセス、すなわち社会的構築として理解される。

その最も偉大な例は、何千年もの間、自然と調和しながら暮らし、共有財の概念が普及した互惠性、連帯、集団的権利という3つの基本原則に導かれてきた先住民族に由来する。人類の共有財は、ラテンアメリカの先住民族に見られるような、自然と集団生活の尊重に根ざした世界観と実践の重要性を認識している。生産手段の私的所有に疑問を投げかけることで、その構築における異文化間の確立を目指す。

一般的に、共有財に関する議論は、協力や集団行動に関連するものであり、現代の一般的な考え方に対抗する役割を果たそうとしている。その一例が共有地で、現代では疎外された物理的空間となっている。先住民、キロンボラ族、伝統的コミュニティの土地は、このような法的認識の欠如に見舞われている。区画されていないと、捕食さ

1992年の生物多様性条約によれば、バイオパイラシー行為とは、生物資源の搾取、操作、輸出、および／または国際的な商業化を指す。

バイオパイラシー：アマゾンの生活と知識の略奪

2024年に承認された国際条約は、知的所有権、遺伝資源、先住民の伝統的知識を扱っている。

2024年5月24日

ジュネーブで「知的財産、遺伝資源及び関連する伝統的知識に関する条約」が承認された。

- この**最初の条約**は、先住民族と地域社会の知識を保護するための具体的な規定を盛り込んでいる。
- その承認は**数十年にわたる交渉**の末のものであった。
- この条約には**ブラジルを含む190カ国**が署名した。
- 同法は、遺伝資源または関連する伝統的知識に基づいて発明を行う特許出願人は、原産国、これらの資源の原産地、研究に使用された伝統的知識を提供した先住民族または地域社会を開示しなければならないと定めている。

アマゾンの先住民族のカンボガエルの分泌物に関する知識をめぐるバイオパイラシー行為の証拠を発見した。



カエルの学名：
**フィロメドゥサ・バイカ
ラー**

動物の分泌物には鎮痛作用や抗生物質としての効果があり、伝統的に約15の先住民族が利用している。

調査の結果先進国で登録された**11件の特許** 遺伝資源の流用にあたる可能性があることが判明した。



UNIVERSIDADE FEDERAL DE JUÍZ DE FORA; GOVERNO FEDERAL; CONVENÇÃO SOBRE DIVERSIDADE BIOLÓGICA DE 1992; TRATADO DE PROPRIEDADE INTELECTUAL; RECURSOS GENÉTICOS E CONHECIMENTOS TRADICIONAIS ASSOCIADOS EM GENEBRA

共有財と関連概念

人新生

この概念は、人類が地球に与えた影響を特徴とする新しい地質学的時代を指す。この言葉は、1995年にノーベル化学賞を受賞したオランダの化学者パウル・クルッツェンによって2000年に広められた。一部の学術的な議論では、現在の時代を「資本新世」あるいは「プランテーション新世」と名付け、資本主義の台頭やプランテーション制度をこの影響の重要な指標として強調することが提案されている。

共有可能性と多種の景観

これらの用語は、複雑な社会生態学的システムの中で、人間と非人間が永続的、機能的、公平に共存するための複数の取り決めを指す。

共有財

「共有財」という言葉の柱のひとつは、交換価値という資本主義の論理とは対照的に、与えられた財やサービスが人間の重要なニーズを満たすことに向けられるときに生じる使用価値である。そのような基本的な財やサービスは、商品として扱われるのではなく、民主的なプロセスを通じて、さまざまなレベルのコミュニティによって定義され、管理されることになる。

リビング・ウェル

ケチュア語の新造語「sumaq kawsay」とアイマラ語の「suma qamaña」の翻訳であるこの言葉は、ラテンアメリカ先住民のコスモロジーを体系化したものであり、人間と自然との間の互恵関係を重視し、非捕食的な社会組織形態を支えるものである。エクアドルの2008年憲法とボリビアの多民族国2009年憲法に規定されており、いずれも自然を権利の対象として認められている。



れやすくなる。共有財のための戦いは、絶対的な国家を再確立することを目的としているのではなく、むしろコミュニティと地元の経験を強化することを目的としている。これにはある資源から直接的に利益を得なくても、相互作用や相互関係によって、誰もが何らかの形で利益を得ることができるということを理解することであるという帰属の概念が関わっている。

地域社会が領土を管理することは、国内外において、領土、社会、環境、そして法的にも重要な意味を持つようになった。ブラジルでは、ラテンアメリカやヨーロッパのいくつかの国と同様、この現象が繰り返されている。したがって、共有財の領土化と共同体管理に関する現在の議論、および既存の法的枠組みにおけるその相対的な特殊性は、財産の法体系の新たな構成を示すものであり、多元的な価値観を反映するものである。

今日、社会的・生物学的多様性（生物多様性社会）を確保し、同時に気候危機を緩和するためには、共有財、特に伝統民族とコミュニティの領域に存在する共有財を保護することの重要性が、いくつかの研究によって実証されている。このような社会から疎外されたグループは、自然を大切に、自然と調和して生活するという真の共有可能性を特徴としている。このように、共有財は、種間の共存と多種の相互依存を明確に表現している。

ブラジルにおける共有財のための闘いは、社会環境主義とともに注目を集め、明確な提案として登場した。特定の環境 NGO と連携し、持続可能な開発と伝統的領土の保護を取り入れることで、自然空間の保護という概念を拡大し、先住民族、キロンボーラ族、伝統的コミュニティの領土権を憲法で認めている。

社会正義と環境正義はどのように両立させることが

国際レベルでは、気候変動に関する政府間パネル (Intergovernmental Panel on Climate Change, IPCC) などの機関が、伝統的な領土の保護と生物多様性の直接的な関係を示し、先住民の土地が生物多様性を確保するための基本であることを強調している。

できるのか？環境破壊が証明され、共有財としての自然そのものが消滅するという現実的な脅威を前にして、パラダイム・シフトの重要性が明らかになった。先住民の哲学と認識論に導かれた持続可能性モデルは、こうした現実からの脱却を指し示しているのかもしれない。

先住民の指導者であるアイルトン・クレナクが正しく述べているように、私たちは世界の終わりを防ぐために、物語、ストーリー、そして行動を創造する必要がある。グアラニー族は、自分たちが踊り、歌い、儀式を実践している限り、世界は滅びないと信じている。そしてダビ・コペナワは、白人が先住民族から学ばない限り、天罰はますます近づいてくると力説する。気候危機との闘いにおいては、緩和策や補償策だけでは十分ではない。現在の経済システムを変革することが必要であり、その最短の道は、共有財の管理における人間と非人間との共存を通じて築かれた教えを尊重することにある。●

大地の鼓動

アマゾンはそのに住む人々にとって共通の家なのだ。これはボディ・テリトリー、身体の延長線上にある領土である。住民こそが陸地であり、水であり、森でもあるからだ。生物群の破壊を食い止めるためには、資本主義と植民地主義によって形成された人間同士の関係性についての限定的な考え方を拡大し、こういった帰属意識を理解する必要がある。

アマゾンは地球全体の生命にとって不可欠である。しかし、この重要性は、歴史的にこの地域が多くの生活様式を通じて多様化してきた、さまざまな種類の知識に基づいて考える必要がある。このような生活様式が森林を支えてきたのであり、アマゾンの生活の力であり基盤なのである。しかし、この多様な生活様式は、さまざまな略奪のサイクルによって攻撃されてきた。アマゾンの人々にとって最も神聖なものの商業化は、彼らの領土を破壊する手段であった。香辛料、ゴム、家畜、鉱物など、この土地とは関係のない多くの活動の搾取を通じて、民族は奴隷にされ、領土を分割され、横断され、破壊された。彼らはまだ抵抗の中で生き延びている。だからこそ、彼らは書き続けている。この文章は、口承伝承に基づいて書かれたものであり、人生と心のアイデアを体系化するための共同作業によって書かれたものである。

アナクレタ・ピレス・シウヴァと彼女の家族は、マラニオン州イタペクル-ミリム自治体にあるサンタ・ロサ・ドス・プレトスのキロンボーラ族領土からこの言葉を書いた。この領土は、奴隷となっていた黒人が自らを解放し、アマゾンで自由を再構築したことから生まれた。この領土は、1838年から1841年にかけて当時のマラニオン州で勃発したバライアーダの反乱のキロンボーラ族の指導者、ネグロ・コスメの抵抗の物語に支脈している。サンタ・ロサ・ドス・プレトスの領土は、複数の資本主義企業で埋め尽くされているが、それでもなお、土地の心、祖先、リズムが脈打っている。この言葉は、彼女の民族のように、今も先祖の記憶の力を受け継ぎ、暴力に屈しない人々のために書かれた。アナクリータは、彼女が蒔いた抵抗の種が、それを読む人々の心の中で発芽するように、彼女の声が世界に届くことを望んでいた。このため、これから紹介する文章は、まず抑圧の原因を指摘し、それから解放について語る。

「アマゾンにおける奴隷制の歴史は、アフリカから連れ去られた人々から始まったわけではない。私たち以前にも、

2023年5月、ブラジルのキロンボーラ領土の土地正規化手続きは1,082件が保留中であった。テラ・デ・ディレイトス (Terra de Direitos) の調査によると、現在の権利付与率では、これらすべての不動産に完全に権利を付与するのに2,188年かかるという。

キロンボーラ・アマゾン

以下のデータは、国立植民農地改革院が法定アマゾンで所有権を認められたキロンボーラ族の数と、現在も権利付与手続き中のコミュニティの数を示している。

キロンボーラ族の領土の境界を示すジオロケーションマップ:



583
の土地は、法定アマゾンで所有権付与の
手続き中である。

パラ州は
キロンボーラが所有
権を付与された
土地数で
上位に位置している **86**

権利取得の段階ごとの流れ

1段階 キロンボーラ族による自己定義

バルマレス財団から自認証書が発行される。

2段階 報告書の作成

識別と境界画定のためのテクニカルレポートが作成される。

3段階 報告書の発行

識別と境界画定のためのテクニカルレポートが連邦官報と州官報に掲載される。

4段階 INCRA 発行の条例

キロンボーラ領土の境界を公式に認める INCRA 発行の条例。

5段階 収用令

キロンボーラ領土内にある私有地に関する、社会的利益のための大統領収用命令。

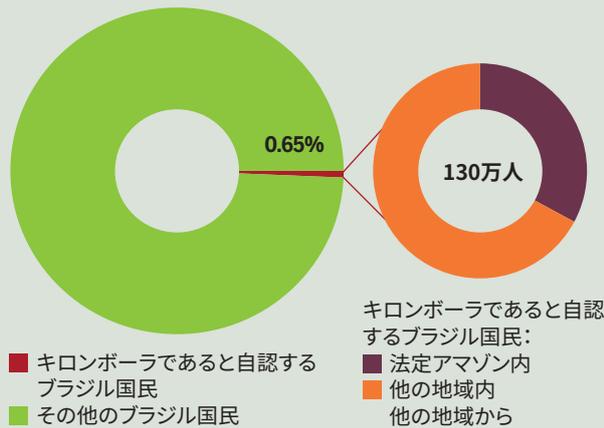
6段階 権利付与

INCRA 会長が法的に構成された組合の名義で集団的土地所有権を付与する。

ブラジルと法定アマゾンのキロンボーラ族

ブラジルでキロンボーラと自認する人口の32.1%が法定アマゾンに住んでいる。

CENSO 2022



先住民族は教会、国家、連邦政府、そして入植者たちによる奴隷制の対象となっていた。これは構造的な人種差別に象徴される歴史であり、現在も存在する奴隷制度を通じて、キロンボーラ族の人々や先住民族、その他多くの民族のアイデンティティを沈黙させ、抹殺する手段として機能している。否定主義による障害や、身体／領土、異なる領土性の侵害を通じて、民族を自然との本来のつながりから引き離す。

「この構造的な人種差別は、資本主義や植民地主義の原理主義と密接に結びついている。それは、自らの想像力に根ざした心理的支配というイデオロギー的な姿勢によって、民族のアイデンティティを消し去り、地球上の生命を導こうとする試みに拍車をかけている。貪欲、憎悪、そしてアマゾンの原住民の知識に対する無知が際立つ意図的な計画によって、「持つ」という考えを植え付ける。この原理主義の最大の表れは、帰属することなく、領土の心と共に命を脈打たせることなく、知識の床に足を踏み入れることなく、土地から切り離された人間関係の中にある。

「この限定された存在の考え方のせいで、いわゆる「人間」は人生の感受性を失い、自分の存在を発揮することやめ、自分が持っているものによって自分自身を定義し始める：「私は医者である、検事である、裁判官である。」などと。これは資本主義の支配力を明らかにするものであり、資本主義は、社会・環境との断絶を通じて、人間的・環境的破壊の塵を通して死のプロジェクトを強化する。

「しかし、世界にはまだ突破口がある。死を食い止めなければならないという、私たちの声を結集することなのだ。私たちのコミットメントは、私たちの共通の家である領土、つまり土地／身体／水／森との愛と平和の場を大切にし、守ることである。そのためには、死に至らしめた者に責任を負わせなければならない。だからこそ、社会全体がより多くの採掘活動、より多くの畜産、より多くの採掘場、より多くの大豆、より多くの道路、より多くの鉄道を求め続けることはでき

森林保護が最も進んでいるのは、 Rondônia州のサンタ・フェ・ド・グアポレとイエスのキロンボである。そこでは53世帯が家族農業で生計を立てている。これらのキロンボは、自分たちの領土内の森林の98%を保全している。森林伐採のポイントは、土地が伐採された地域を示している。

法定アマゾンのキロンボーラ人口は42万7000人。大多数はマラニョン州とパラ州に住んでおり、それぞれ26万9,074人と13万5,033人である。

ないのだ。私たちは、これらのプロセスが、生命を生み出す領土を切断し、出血させるカミソリのようなものであり、そうすることで世界を病気にすることを知っている。だからこそ、私たちはもっと健康的な食べ物を求め、私たちをここまで導いてくれた知識との結びつきを強めなければならない。

「存在するものすべてが、あなたの身体／領土／スピリチュアリティに瞬時に浸透していくという理解を通じて、自然とともに脱出する道しかない。なぜなら私たち自身もまた大地であり、水であり、森だからである。キロンボーラ族の知識とは、所有の知識ではなく、共有の知識であり、所有の知識ではなく、存在の知識であり、死の知識ではなく、生の知識であり、悲しみの知識ではなく、祝福の知識である。キロンボーラ族は、信仰、強さ、信頼、信念、そして死というプロジェクトに立ち向かう勇気で生きている。この生命のサイクルは、自然を慈しみ、守り、保護することに関しては揺るがない。労働と闘争において、私たちは疲弊することはないし、あきらめることもない。私たちはライフサイクルの一部であり、先祖代々の知識はこのことを常に知っていた。その記憶が葬られそうになったときでさえ。だから私たちは語り、これからも語り続ける。だからこそ、私たちの学びは、自然に耳を傾け、自然を見て、自然とのつながりを感じることから生まれるのだ。アマゾンが生き続けるように、私たちは先祖の言葉を守っている。

「それは、単に生き残ることを止め、地上宇宙で、地球の奥底で、私たちのアマゾンという心臓の静脈で、生命、調和、分かち合い、仲間、集団性、責任、献身、社会正義、愛、平和で溢れる充実した生命を生き始める鍵となるものである。空が落ちないように、大地の土台と柱を守らなければならない！」●

保護シールド

アマゾンの熱帯雨林保護にキロンボーラの領土が貢献しているという調査結果が発表された。

99%
のキロンボーラ領土内の森林地帯は保護されている。



同時に、キロンボ周辺には森林伐採の跡が点在している。

パラ州には
474 k km²

の森林伐採がキロンボーラの領土周辺10キロに存在する。



INFOAMAZONIA; PRODES - INPE

現在見られる祖先とのつながり

先住民の宇宙的認識には、人間と他の生物との親族関係が含まれている。それは先祖代々のつながりによって受け継がれてきた知識であり、スピリチュアルな領域と環境との関係の両方を通じて生じるものである。

私 たちの領土が侵略され、アイデンティティ抹殺政策が実施されているにもかかわらず、私たちは祖先とのつながりを取り戻し、先住民の現在を再構築している。近年、「祖先」という言葉は資本によって流用され、商品として使われている。また、学術的な概念としても広く用いられている。祖先とのつながりを生きる私たち先住民は、学問が理論として示すものは、私たちが記録された歴史を超えた時代から生きてきた経験であることを知っている。

それは長老たちの記憶の時間であり、すべての計測された時間を超越したものである。それは夢を通して、感覚を通して、そして環境全体との相互関係の中で生きることによって受け継がれる、異なる時間なのだ。それは、現在と完全に結びついた世界の宇宙観そして宇宙的認識を形成する、魅惑の時間、スピリチュアルな雰囲気と結びついている。したがって、祖先というものは学問的な用語だけで定義することはできない。感じ取り、生きることを通じて体験するものである。その本質は、商業的な矮小化に抵抗する文化的で精神的な世界に根ざし、世代をつなぐ糸として残っている。

その意味で、この言葉の消耗から逃れるには、私たちが存在し続けることができるもの、つまり祖先とのつながりを持ち出せば十分なのである。このつながりは、環境との関係において、人間は森林、水、そしてすべての生物群に存在する他の生物よりも優れているわけではないという、先住民の宇宙的認識を教えてくれる。これらの存在は呼吸をし、互いに関わり合い、私たちの親族である。彼らは私たちに生き方を教えてくれる。木々、水、鳥、すべての生きとし生けるもの、スピリチュアルな存在の神聖さを感じることは、環境全体とつながることである。私たちはこの教えを、物質化された物理的な領域を通して学ぶとは限らない。多くの場合、学習は精神的な領域で、精神的な存在とともに行われる。それは夢を通して、あるいは目覚めていて母なる大地の力を感じているときにも起こる。私たちは、木々の間を舞う風や、朝日や夕日とのつながりを感じる。

先住民の祖先とつながるといことは、私たちが生まれる前は水であり、森林であり、風であり、果実であり、動物であったかもしれないこと、そして霊的存在の領域へと旅立った後は、水底の大蛇になるかもしれないことを自覚することでもある。私たちが信じるように、私たちは鳥や他のスピリチュアルな存在になるかもしれない。そして私たちは、母なる

地球のすべての生き物が互いにどのように関わり合っているかを観察するだけで、他に何も必要ないことを知っている。

母なる地球についての先住民の考え方を、ガイア理論（地球は複雑で自己制御的な生命システムであるとする仮説）と対話させるアイルトン・クレナクという言葉に耳を傾けることで、私たちと地球とのつながりを、人間とは無関係に存在し続けることのできる生命体として認識することができる。また、人類は自分たちの方が優れていると考え、あらゆる生物群の森林や川を破壊し、近代技術によって表面的な環境を作り出すことが必要だという考えを広めることで、徐々にそれを殺していることを認識することもできる。この考えに基づき、人間は地球を犠牲にして「リビング・ウェル」という概念を確立し、私たちの領土、食料、文化を維持することができる先住民の幸福とは対立している。

この「リビング・ウェル」と「幸福」の対立は、環境全体との関わり方から生じる。資本主義の下では、この関係は搾取的で破壊的である。都市は私たちの領土の上に建設され、汚水は川や海に捨てられ、川は水力発電所を建設するために堰き止められ、私たちの土地は鉱物採掘のために侵略される。そしてこれは先住民族や伝統民族の間での分断を生み、さらに病気や死をも生む。要するに、テクノロジーはアマゾンやカーチンガ、セラード、パンタナール湿地、大西洋岸森林、パンパを救うために使われるのではなく、むしろ私たちの共有の神聖な空間を私物化し、リゾート化する喜びのためにそれらを破壊するために使われているのだ。「リビング・ウェル」という資本主義のプロパガンダは、それ自体が労働の極端な搾取に根ざしている。人々は、商品を消費し、決して真に享受することのない「幸福」を信じ込むために、自分の人生を労働に捧げるよう奨励され、しばしば不安定な雇用を強いられている。

「良い暮らし」とは、アンデス地方アビヤ・ヤラ（私たちの共通の故郷）の先住民族の世界観に基づいて概念化され、またピンドラマ（植民地化によってブラジルと呼ばれるようになった、ヤシの木がたくさん生える土地）の先住民にも反映されている。つまりそれぞれの先住民が独自の方法で土地、水、その他の人間、または彼らの土地、集まり、漁、狩猟と関わり合う方法に注意を向けている。これらの実践は、毒物や天然資源の破壊的な搾取から解放された伝統的な食システムの中で行われ、土地の実りと神聖な存在から授かった贈り物を称える。

ジェニ・ヌニエスの詩「木々も私たちの親族 (The Trees Are Our Relatives Too)」では、木々との親族関係を考えるだけでなく、私たち先住民族に対する固定観念を打ち砕くことも行われている。植民地化され、先住民、白人、黒人の関係に基づいて家族が形成されたとしても（強制されたかどうかは別として）、先住民の帰属意識は残っているのである。なぜなら、それは髪や肌、表現型形質によってではなく、私たちの祖先とのつながりによって定義されるからである。

サテレ・マウエ先住民女性運動

伝統的なアマゾンの人々は、抵抗運動の主唱者を数えきれないほど経験してきた。社会運動、組織、集団、協会は、この闘争に動員されたカテゴリーの一部である。

この記事では、サテレ・マウエ先住民女性協会 (Association of Sateré-Mawé Indigenous Women) がそのストーリーを語っている。

サテレ・マウエ先住民女性協会の経験は、ジェニップ染料で描かれた線と種子の道筋に沿って、社会参加の布をたどっている。サテレ・マウエ族の本来の領土は、現在アンディラ・マラウ先住民の土地が公式に認められているアマゾン中央部にある。さらに、人口の一部は、アマゾナス州の都市部だけでなく、別の先住民の土地、コアタ・ランジャルにも居住している。サテレ・マウエ先住民女性協会は、アマゾナス州の州都マナウスを拠点としている。その歴史は、女性たちが自分たちの権利、自律性、そして自己価値を主張する中で、より広範な先住民運動と土地をめぐる闘争との間に深いつながりがあることを明らかにしている。先住民の女性たちは、変革的な社会的主体としてこうした闘いに積極的に参加し、彼女たちの社会的実践に政治的意味を与えるこの構築の中で可視性を獲得している。

この文脈において、運動の旗印のひとつは、1988年のブラジル連邦憲法第231条と第232条で保証された、先住民の自己肯定の擁護と促進である。この運動は、強制移住やその他の理由によるものであろうとなかろうと、たとえ伝統的コミュニティに住まなくなったとしても、また先祖伝来の言葉を話さなくなったとしても、現在どこにようと、自分たちがサテレ・マウエの血と魂を受け継いだ身体であり魂であると認識している親族を支援するものである。この運動の女性たちは、先住民族は過去の人々ではなく、今もここにいるという確固たる主張をもって、この闘いをリードしている。彼らは、この抵抗、反動、アイデンティティ否定主義との闘いの道筋に沿って歓迎され、理解されなければならない。

サテレ・マウエの女性たちが直面する強い偏見のため、また、発言力と知名度を確保するために、特に都市部の脆弱な地域に住む女性たちのため、1992年、リーダーのゼニルダ・サテレ・マウエは、サテレ・マウエ先住民女性協会の設立を組織した。1995年、協会は法的に登録された。彼女たちとその家族の教育、健康、文化といった権利

ブラジルの非村落先住民は、公共政策へのアクセスにおいて偏見と一連の困難に直面している。

都市部における先住民族

ブラジルでは、都市部に住む先住民の人口が農村部の人口を上回っている。北部地域では先住民の半数が都市部に住んでいる。マナウスは国内最大の先住民人口を擁する自治体で、都市部のコミュニティも拡大している。

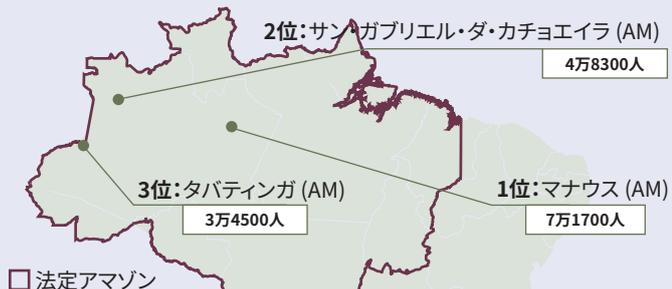
ブラジル



北部地域



先住民の人口が最も多い自治体のランキング:



パルケ・ダス・トリボス

マナウス西部に位置するブラジル最大の都市先住民コミュニティであるパルケ・ダス・トリボス (部族公園):

- ・約5,000人の先住民族
- ・サテレ・マウエを含む35の民族
- ・約20の言語を話す

2022年、オズワルド・クルス財団のプロジェクトの一環として行われた調査によると、パルケ・ダス・トリボスの先住民族の約97%が月600レアル程度で生活しており、先住民の家族の68%は女性が世帯主であった。

非村民の先住民の慢性疾患

ある調査によると、村外に住む20歳以上の先住民の60%が、少なくとも1つの慢性疾患を抱えている。



最も流行している病気は以下の通りである。

高血圧 (29.3%)
慢性脊椎疾患 (20.6%)
高コレステロール (14.3%)
うつ病 (10%)
関節炎またはリウマチ (10%)

86.4%

の成人または高齢の非村落先住民の人口は、もっぱら公的医療制度に依存している。



非村民の先住民のうち、
87.5%
が都市部に住み、主に周辺地域で暮らしている。

FACULDADE DE CIÊNCIAS MÉDICAS (FCM) E UNIVERSIDADE FEDERAL DE MINAS GERAIS (UFMG) - PESQUISA NACIONAL DE SAÚDE/IBGE - 2019

の擁護、領土保護、民族的アイデンティティと自治権の強化などがその目的である。同協会は設立以来、先住民の手工芸品の生産と販売を通じた連帯経済プロジェクトに専心してきた。これらの手工芸品は、先住民の文化の保存と継続、および組合員の生計維持の両面で役割を果たしている。

ゼニルダ・サテレ・マエは、アマゾンで最も重要な先住民女性団体のひとつを創設し、歴史に名を刻んだ。彼女の遺産は、娘のレジーナ・サテレ・マウエと孫娘のサメラ・サテレ・マウエを通して、彼女の家系にも根付いている。サメラは協会内で生まれ育った。彼女は、闘争、集団、集会、行為、マニフェストを常に完全に経験してきたと強調する。この経験は、女性として、活動家として、そしてアマゾン人としての彼女の形成に不可欠なものであり、祖母と母の影響によって先住民運動に参加することができたと言った彼女は言う。

この水平的な視点に立ち、サメラ・サテレ・マウエは、

「時間的枠組み (Temporal Framework)」とは、ブラジル連邦憲法の公布日、つまり1988年10月5日において、関連する民族がその土地領土を有していたか、もしくは係争中であった場合にのみ、先住民の土地を画定することができるとする法律論文である。この論文は、ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ大統領が一部拒否権を行使し、現在連邦最高裁判所で争われている2023年法律第14701号に含まれている。

研究の著者によると、このデータは社会的不平等が健康に与える影響を反映したもので、非村落先住民のかなりの部分が都市近郊で、より貧しい社会経済状況の下で暮らしている。

祖先の目的を継承し、政治組織の代替モデルを模索し、地域、国内、国際フォーラム、会議、会合への参加を通じて、若いサテレ・マウエ女性の声を増幅させることに積極的に取り組んでいる。また先住民の活動家、コミュニケーターとしてメディアにも登場し、連邦政府の経済政策や先住民の土地への環境影響を非難している。サメラの歩む道は、孫娘たちや後世の人々が彼女の仕事を引き継ぐことができるようにと協会を設立したゼニルダ氏の哲学に沿ったものである。

このように、さまざまな世代がすでに、サテレ・マウエの女性たち、そしてすべての先住民の存在と抵抗のために動員されている。今日、これらの組合員は、自分たちの手工芸品によってもたらされる機会を通じて、大学や官庁といった社会の新たな場所を占めつつあることを理解している。現在、この協会に所属する職人グループは、地元の種を使ったネックレス、イヤリング、ブレスレットなど、先住民のアイデンティティを反映した商品を生産している。さらに、伝統的なデザインをプリントにした手描きTシャツも制作している。職人たちは、彼らの伝統的な染料や文様を作品に生かそうとしている。こうして、土地と環境を守るための闘いを自らの身体で担っている。そしてこれは彼らの生活をも守るものである。

また、自分たちの生活様式を守ることに焦点を当てたこの協会の女性たちが率いた闘争の経験が、儀式に使われる伝統的な先住民の楽器であるホルンやマラカスなど、職人たちが作った他の品々にも表現されていることも注目している。これらの楽器の音色は、社会動員や記念碑、そして都市における土地の権利や存在、先住民の抵抗に対する要求の歴史を強化する役割も果たしてきた。

時間的枠組みと気候の脅威

ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ大統領が部分的に拒否権を行使した2023年普通法14701号で規定されている「時間的枠組み」が施行された場合、法定アマゾンの原生植生が将来的に破壊される可能性があるという警告する研究結果が発表された。

時間的枠組みが支持されれば、**2,300万から5,500万ヘクタール**の森林が伐採される可能性がある。

これにより、**76~187億トン**、つまりブラジル全体の総排出量の5年から14年分に相当するCO₂が排出されることになる。



近年、先住民運動は時間的枠組みテーマに反対するために広く動員されている。

ALENCAR, A ET AL. - IPAM

テキストおよび図表データの著者と出典

16-17 - 国際的利益と協力

フラヴィア・ド・アマラル・ヴィエイラ (Flávia do Amaral Vieira) (ティルブルク大学/パラ連邦大学(Tilburg University/Universidade Federal do Pará))、**マーティン・コイ (Martin Coy)** (インスブルック大学地理学科(Department of Geography, University of Innsbruck)) 著

グラフ

p.17: フラヴィア・ド・アマラル・ヴィエイラ (Flávia do Amaral Vieira)、マーティン・コイ (Martin Coy)

テキスト

FOLHES, Ricardo Theohilo; GONÇALVES, Marcela Vecchione (org). **Para além da COP 30: Tópicos sobre desenvolvimento na Amazônia em tempos de emergência climática.**2024.

HECHT, Susanna; COCKBURN, Alexander. **The fate of the forest: Developers, destroyers, and defenders of the Amazon.**2011.

LOUREIRO, Violeta Refkalefsky. **Amazônia: uma história de perdas e danos, um futuro a (re)construir.**2002.

VIEIRA, F.A. **Política externa brasileira: da Rio-92 à COP30.**2024

18-19 境界線

アマンダ・ミハルスキー (Amanda Michalski) (ロンドニア連邦大学/ロンドニア州牧草地委員会アマゾン境界の国家と領土に関する研究・調査・普及グループ、アマゾンの領土管理と農業地理に関する研究グループ(Study, Research and Extension Group on the State and Territories on the Amazon Border and Research Group on Territorial Management and Agrarian Geography of the Amazon of the Federal University of Rondônia/Pastoral Land Commission of Rondônia)) 著

グラフ

p.18: O ECO. **O que é a Amazônia Legal.**2014. <https://bit.ly/4fQkYff>

p.19: 上マーティンズ (Martins)、ヘロン (Heron) **A Reserva Legal na Amazônia Brasileira: A real obrigação de conservação de vegetação nos imóveis rurais.**2023. <https://bit.ly/4ijWMnx>
TERMÔMETRO DO CÓDIGO FLORESTAL. <https://bit.ly/4fPZak4>

p.19: 下アマゾン環境調査研究所 (IPAM) **Arco do desmatamento.** <https://bit.ly/3CQLd74>

O ECO. **Amacro: a nova (velha) fronteira do desmatamento na Amazônia.**2021. <https://bit.ly/3B6V9c2>

CHAVES, Michel E.D. et al. **AMACRO: The newer Amazonia deforestation hotspot and a potential setback for Brazilian agriculture.** <https://doi.org/10.1016/j.pecon.2024.01.009>

IMAZON. <https://bit.ly/3OyREho>

テキスト

COMISSÃO PASTORAL DA TERRA. **Caderno de Conflitos no**

Campo Brasil 2023.2024. <https://bit.ly/3Zzi8WG>

COSTA SILVA, Ricardo Gilson; LIMA, Luís Augusto Pereira; CONCEIÇÃO, Francilene Sales. **Territórios em disputas na Amazônia brasileira: ribeirinhos e camponeses frente as hidrelétricas e ao agronegócio.**2018. <https://doi.org/10.4000/confins.13980>

COSTA SILVA, Ricardo Gilson; MILCHALSKI, Amanda. **A caminho do Norte: cartografia dos impactos territoriais do agronegócio em Rondônia (Amazônia ocidental).**2020. <https://doi.org/10.4000/confins.28017>

HAESBAERT, R. **O mito da desterritorialização: do "fim dos territórios" à multiterritorialidade.**2004.

MILCHALSKI, Amanda. **Fronteira e Território Normado: União Bandeirantes a agrocidade da Amazônia.**2023.

農業開発省 (MINISTÉRIO DO DESENVOLVIMENTO AGRÁRIO) **スダム (SUDAM) A Sudam e o Projeto AMACRO.**2021. <https://bit.ly/3Vj4aFU>

ROSS, Jurandy. **Projeto Radam Brasil.**2019.

20-21 - 水系

ジャニーン・ミュリエル・クーニャ (Janice Muriel-Cunha) (パラ連邦大学(Federal University of Pará))、**ジャンセン・ズアノン (Jansen Zuanon)** (サンタ・セシリア大学/ブラジル国立アマゾン研究所(Santa Cecília University/National Institute for Amazonian Research))、**カミリア・C・リーバス (Camila C. Ribas)** (ブラジル国立アマゾン研究所(National Institute for Amazonian Research))、**クリスティアン・C・カルネイロ (Cristiane C. Carneiro)** (連邦検察庁(Federal Prosecution Office))、**アンドレ・オリビエラ・サワクチ (André Oliveira Sawakuchi)** (サンパウロ大学地球科学研究所(Institute of Geosciences of the University of São Paulo))、**インゴ・D・ワンプライド (Ingo D. Wahnfried)** (アマゾナス連邦大学地球科学科(Department of Geosciences of the Federal University of Amazonas))、**ホシエル・ヨールーナ (Josiel Juruna)** (ヴォルタ・グランデ・ド・シンゲー独立地域環境監視局(Independent Territorial Environmental Monitoring of Volta Grande do Xingu)) 著

グラフ

p.20: SIOLI, H. **Introduction: History of discovery of the Amazon and the research of Amazonian waters and landscapes.**1984.

RÍOS-VILLAMIZAR, Eduardo Antonio et al. **Hydrochemical classification of Amazonian rivers: A systematic review and meta-analysis.**2022.

<https://doi.org/10.14393/RCG217853272>

p.21、上 INSTITUTO TRATA BRASIL. <https://bit.ly/41BZbUL>

p.21、下 AQUAZÔNIA, REDE AMBIENTAL DE MÍDIA. **Índice de Impacto nas Águas da Amazônia.**

IEPÉ; FIOCRUZ; GREENPEACE; INSTITUTO SOCIOAMBIENTAL; WWF-BRASIL. **Análise regional dos níveis de mercúrio em peixes consumidos pela população da Amazônia brasileira – Um alerta em saúde pública e uma ameaça à**

segurança alimentar.2023. <https://bit.ly/41igtgG>

テキスト

A ALIANÇA ÁGUAS AMAZÔNICAS.O Estuário: o Amazonas se encontra com o Atlântico.

AÇÃO CIVIL PÚBLICA N. 28944-98.2011.4.01.3900.

米水資源庁 (AGÊNCIA NACIONAL DE ÁGUAS, ANA)Avaliação dos Aquíferos das Bacias Sedimentares da Província

Hidrogeológica Amazonas no Brasil (escala 1:1.000.000) e Cidades Pilotos (escala 1:50.000).2015. <https://bit.ly/4gjs7Qt>

ALBERT, J.S. et al.Scientists' warning to humanity on the freshwater biodiversity crisis.2021. <https://doi.org/10.1007/s13280-020-01318-8>

BARTHEM, R.B.Goliath catfish spawning in the far western Amazon confirmed by the distribution of mature adults, drifting larvae and migrating juveniles.2017. <https://doi.org/10.1038/srep41784>

COMER, P.J. et al.Long-term loss in extent and current protection of terrestrial ecosystem diversity in the temperate and tropical Americas.2020. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0234960>

DAGOSTA, F.C.; De Pinna, M. The fishes of the Amazon: Distribution and biogeographical patterns, with a comprehensive list of species.2019. <https://doi.org/10.1206/0003-0090.431.1.1>

DORIA, C.R.C. et al.The invisibility of fisheries in the process of hydropower development across the Amazon.2018. <https://doi.org/10.1007/s13280-017-0994-7>

ÉZÉQUEL, C. et al.A database of freshwater fish species of the Amazon Basin.2020. <https://doi.org/10.6084/m9.figshare.11920800>

GOULDING, M. et al.Ecosystem-based management of Amazon fisheries and wetlands.2019. <https://doi.org/10.1111/faf.12328>

GOULDING, M. et al.スミノニアン版アマゾン地図 (The Smithsonian atlas of the Amazon)

エレラー R. グイド, A.ら (HERRERA-R. Guido, A. et al) The combined effects of climate change and river fragmentation on the distribution of Andean Amazon fishes.2020. <https://doi.org/10.1111/gcb.15285>

HESS, L et al.Wetlands of the lowland Amazon basin: Extent, vegetative cover, and dual-season inundated area as mapped with JERS-1 Synthetic Aperture Radar.2015 <https://bit.ly/4fal7Cj>

HU, Kexiang et al.Hydrogeological characterisation of groundwater over Brazil using remotely sensed and model products.2017. <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2017.04.188>

JUNK, W. J.; K. M. Wantzen.The flood pulse concept: New aspects, approaches and applications – an update.2004. <https://bit.ly/4gfkCO>

JUNK, W. J. et al. A classification of the major habitats of Amazonian black-water river floodplains and a comparison with their white-water counterparts.2015. <https://doi.org/10.1007/s11273-015-9412-8>

LACERDA, Luiz Felipe (Org).Direitos da natureza: marcos para a construção de uma teoria geral.2020. <https://bit.ly/3CXudfk>

LLATRUBESSE, E.M. et al.Damming the rivers of the Amazon basin.2017. <https://doi.org/10.1038/nature22333>

MELACK, J.; HESS, L. Remote sensing of the distribution

and extent of wetlands in the Amazon Basin.参照

元: Amazonian floodplain forests: Ecophysiology, biodiversity and sustainable management.2010. <https://bit.ly/41dkyvf>

NEVES, E.G.Sob os tempos do equinócio: oito mil anos de história da Amazônia Central.2020.

ROSÁRIO, F.F. et al.Hydrogeology of the Western Amazon Aquifer System (WAAS).2016. <https://doi.org/10.1016/j.jsames.2016.10.004>

SCHOENHART, J.; JUNK, W.J.Forecasting the flood-pulse in Central Amazonia by ENSO-indices.2007. <https://doi.org/10.1016/j.jhydrol.2006.11.005>

SIDDIQUI, S. et al.Flow regimes of the Amazon Basin. *Aquatic conservation: Marine and freshwater ecosystems*.2021 <https://doi.org/10.1002/aqc.3582>

THE AMAZON WE WANT.Amazon assessment report.2021. <https://bit.ly/3CZpYjq>

VENTICINQUE et al.An explicit GIS-based river basin framework for aquatic ecosystem conservation in the Amazon, *Earth Syst*.2016. <https://doi.org/10.5194/essd-8-651-2016>

VILLAMIZAR et al.The distribution of river types in the Amazon basin.2020. <http://doi.org/10.14393/RCG217853272>

22-23 - 土地問題

ペドロ・マルティンス (Pedro Martins)(FASE)著

グラフ

p.22: PIETRO, Gustavo.Nacional por usurpação: a grilagem de terras como fundamento da formação territorial brasileira.参照元: A grilagem de terras na formação territorial brasileira.2020. <https://bit.ly/49gDeMG>

p.23、上: PRIZIBISZCKI, Cristiane.Floresta de ninguém.((o)) eco . <https://bit.ly/4idDiam>

GRUPO DE PESQUISA REEXISTERRA – NAEA/UFPA.

BRITO, B. et al.Dez fatos essenciais sobre regularização fundiária na Amazônia.2021.Imazon. <https://bit.ly/3DaIIML>

AZEVEDO-RAMOS, Claudia et al.Lawless land in no man's land: **ブラジル・アマゾンの未指定公有林 (Lawless land in no man's land: The undesignated public forests in the Brazilian Amazon.)**2020. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2020.104863>

p. 23、下GREENPEACEComo “sinal verde” de Brasília fez avançar a grilagem na Amazônia. p. 2021. <https://bit.ly/49tNnFY>

KATO, Karina et al.A solução é a regularização fundiária? Privatização da terra, digitalização de registros e o papel do estado.2022. <https://bit.ly/30JsM6E>

テキスト

ARAUJO, R.A. et al.Estado e Sociedade na BR 163: desmatamento, conflitos e processos de ordenamento territorial.参照元: Sociedade, Território e Conflitos: BR-163 em Questão.2008.

MARTINS, José de SouzaFrenteira: a degradação do Outro nos confins do humano.2019.

MENDES, Josilene Ferreira.O Direito vivo na luta pela terra.2015.

TORRES, Mauricio.Dono é quem desmata: conexões entre grilagem e desmatamento no sudoeste paraense.2017. <https://bit.ly/41cSF6y>

24-25 - 考古学

カルロス・アウグスト・ダ・シルヴァ (Carlos Augusto da Silva) (アマゾナス連邦大学アマゾンの環境科学と持続可能性の大学院プログラム(Graduate Program in Environmental Sciences and Sustainability in the Amazon of the Federal University of Amazonas)) 著

グラフ

p.24: NEVES et al. **A arqueologia do alto Madeira no contexto arqueológico da Amazônia.** 2020. <https://doi.org/10.1590/2178-2547-BGOELDI-2019-0081>

PRADO, Helbert Medeiros; Rui Sérgio Sereni. **Presentes do passado: Domesticação de plantas e paisagens culturais na Amazônia pre-histórica.** 2015. <https://bit.ly/41oI3Sg>

SANTOS, Gilton Mendes dos. **Pão-de-índio e massas vegetais: elos entre passado e presente na Amazônia indígena.** 2021. <https://doi.org/10.1590/2178-2547-BGOELDI-2020-0012>

p.25: DA SILVA, Carlos Augusto.

テキスト

CARVAJAL, Frei Gaspar de [1504-1584]. **Relação do famosíssimo e muito poderoso rio chamado Marañón.** 2021.

JUNK, Wolfgang J. et al. **Várzeas Amazônicas: Desafios para um Manejo Sustentável.** 2020. <https://bit.ly/4iqkheo>

PORRO, Antônio. **O povo das águas: ensaio de etnohistória amazônica.** 2016. <https://bit.ly/4f5otgZ>

NEVES, Eduardo Góes. **Sob os tempos do equinócio: oito mil anos de história na Amazônia Central.** 2022.

26-27 - 人工林

ラケル・ソウザ・チャベス・トウピナンバ (Raquel Sousa Chaves Tupinambá) (ブラジリア大学/タパジヨス下流トウピナンバ先住民評議会(University of Brasília/Tupinambá Indigenous Council of the Lower Tapajós)) 著

グラフ

p.26: MAPBIOMAS. Terras Indígenas contribuem para a preservação das florestas. <https://bit.ly/3BdahEG>

p.27: 上: **ÁRVORE, SER TECNOLÓGICO.** <https://bit.ly/4imcdLW>
EMBRAPA. Terra Preta de Índio ajuda a confirmar presença humana na **Amazônia desde a antiguidade.** 2023. <https://bit.ly/3Zo6dcZ>

p.28: 下: IPAM. A importância das florestas em pé. <https://bit.ly/3Zzz0fQ>

WWF BRASIL; INSTITUTO MAMIRAUÁ; NEXO. **Qual a dimensão da biodiversidade da região amazônica.** 2022.

<https://bit.ly/4inlfbm>

IBGE. Espécies Ameaçadas de Extinção no Brasil. 2022. <https://bit.ly/3VmSsKe>

テキスト

CHAVES, Raquel Sousa; JUNQUEIRA, André Braga; CLEMENT, Charles R. **The influence of soil quality and market orientation on Manioc (Manihot Esculenta) varietal choice by smallholder farmers along the lower Tapajós river, Pará, Brazil.** 2018. <https://doi.org/10.1007/s10745-018-9981-2>

CLEMENT, C.R.; MCCANN, J. M.; SMITH, N. J. **Agrobiodiversity in Amazonia and its relationship with dark earths.** 2003.

WOODS, W. **Os solos e as Ciências Humanas:**

interpretação do passado. 参照元: As terras pretas de índio da Amazônia: sua caracterização e uso deste conhecimento na criação de novas áreas. 2009.

28-29 - 原住民

ホステイーノ・サルメント・ヘゼンジ (Justino Sarmento Rezende) (トゥユカ(Tuyuka))、**ハイメ・ムーラ・フェナンデス** (Jaime Moura Fernandes) (デサナ(Desana))、**シルヴィオ・サンチェス・バレット** (Silvio Sanches Barreto) (バラ(Bará))、**ジルトン・メンデス・ドス・サントス** (Gilton Mendes dos Santos) (いずれもアマゾナス連邦大学、アマゾン先住民研究センターメンバー(all members of Center for Studies of the Indigenous Amazon of the Federal University of Amazonas)) 著

グラフ

p.28: INSTITUTO SOCIOAMBIENTAL. **Localização e extensão das TIs.** <https://bit.ly/4fYitYH>

FUNAI.

p.29: 上: Diakara Desana.

p.29: 下: CENSO 2022.

INEP. **Levantamento Semesp com base em dados do Censo da Educação Superior do Instituto Nacional de Estudos e Pesquisas Educacionais Anísio Teixeira.** <https://bit.ly/4gj23tt>

30-31 - 伝統民族

クラウディア・ヌ・ダ・シルヴァ (Claudiane da Silva) (パラ連邦大学アフロ・ブラジリア先住民研究センター、キャンパス・プレヴェス/マリエレス・ド・マラジョ女性コレクティブ(Center for Afro-Brazilian and Indigenous Studies of the Federal Institute of Pará, Campus Breves/Marielles do Marajó Women's Collective)) 著

グラフ

p.30: COVENÇÃO 169 DA ORGANIZAÇÃO INTERNACIONAL DO TRABALHO. <https://bit.ly/49nHFVZ>

p.31: 上: LADISLAU, Claudiane.

INSTITUTO SOCIEDADE, POPULAÇÃO E NATUREZA. **Povos e comunidades tradicionais da Amazônia.** <https://bit.ly/4g1nXlo>

p.31: 下: FORO SOCIAL PANAMAZÔNICO/

COMISSÃO PASTORAL DA TERRA (CPT). **Atlas de Conflitos Socioterritoriais da Panamazônia.** 2020. <https://bit.ly/41j5xld>

テキスト

BRASIL. **Decreto nº 6.040, de 07 de fevereiro de 2007.** <https://bit.ly/30Comid>

CALEGARE, Marcelo Gustavo Aguiar; HIGUCHI, Maria Inês Gasparetto; BRUNO, Ana Carla dos Santos. **Povos e comunidades tradicionais: das áreas protegidas à visibilidade política de grupos sociais portadores de identidade étnica e coletiva.** 2014. <https://doi.org/10.1590/S1414-753X2014000300008>

DA SILVA, Jorge Fernandes. **A mestiçagem na região Amazônica versus Estatuto da Igualdade Racial.** 2019. <https://doi.org/10.47209/1519-6674.v31.n.1.p.175-188>

FERNANDES, Joyce Sampaio Neves; MOSER, Liliâne.

Comunidades tradicionais: a formação socio-histórica na Amazônia e o (não) lugar das comunidades ribeirinhas. 2021. <https://bit.ly/4fVwz92N>

FGV CPDOC. **A Igreja Católica e as missões.** <https://bit.ly/49kIN0u>
PORTAL UFRA. **Igarapé - caminho de canoa em tupi. Igarapé, o que tu sabe dele?**

RAMOS, C.A.; EULER, A.M.C. **Quarta baliza do agroextrativismo no estuário do Amazonas: da luta pela terra à consolidação da economia di açaí.** <https://bit.ly/4fUKIYb>

REDE WWF. **Reservas Extrativistas: o que são e qual é a importância da principal herança de Chico Mendes.** REVISTA ACTIONAID. **As lutas das quebradeiras de coco babaçu.** <https://bit.ly/3VmX0jV>
SBPC. **Povos tradicionais e biodiversidade no Brasil.** <https://bit.ly/3OF137q>
SUDAM, GOVERNO FEDERAL. **Legislação da Amazônia.** <https://bit.ly/3ZDDjXB>

32-33 - 移住

マリーリア・ガブリエラ・シルヴァ・ロバト (Marília Gabriela Silva Lobato) (アマパ連邦大学(Federal University of Amapá))、**アーレイ・ホゼ・シルヴェイラ・ダ・コスタ** (Arley José Silveira da Costa) (フルミネンセ連邦大学(Fluminense Federal University))、**フランソワ・ロロン** (François Laurent) (ル・マン大学(Le Mans University)) 著

グラフ

p.32: IDEC. **Amazônia Legal no escuro.**2021. <https://bit.ly/3ZD1CX4>
PODER 360. **Apagão no Amapá – 1 ano depois, responsáveis ainda não pagaram multas.**2021. <https://bit.ly/4f6fjae>
LOBATO, Marília; COSTA, Arley José Silveira da.
p.33: DA SILVA, José Roselito Carmelo da; SCUDELLER, Veridiana Vizoni. **Os ciclos econômicos da borracha e a Zona Franca de Manaus: expansão urbana e degradação das microbacias.**2022. <https://doi.org/10.33448/rsd-v11i6.29103>
AMAZÔNIA 2030. A Dinâmica Demográfica da Amazônia Legal: Migrações na Amazônia Legal.2022. <https://bit.ly/41hiGBC>

テキスト

ARQUIVO NACIONAL. **Estudos de viabilidade de elevação dos atuais territórios do Amapá e Roraima à condição de estados da federação.** Ministério do Interior. Secretaria Geral. Documento arquivado no Sistema Nacional de Informações sob a tipologia Confidencial nº 047557 85.1984.
FILOCREÃO, Antônio Sérgio Monteiro. **Formação socioeconômica do Estado do Amapá.**2015.
FOLHES, Ricardo et al. **Conflitos fundiários na área de pretensão do Grupo Orsa.**2012. <https://bit.ly/41q2AIn>
INSTITUTO BRASILEIRO DE GEOGRAFIA E ESTATÍSTICA (IBGE). **Estimativas IBGE 2012.**
LOBATO, Marília Gabriela Silva. **Mitigação e Compensação na reprodução de um padrão colonial: o contexto dos discursos, planos e danos das hidrelétricas no rio Araguari.**2021. <https://bit.ly/3VizDhV>
RAIOL, Osvaldino da Silva. **A utopia da terra na fronteira da Amazônia: a geopolítica e o conflito pela posse da terra no Amapá.**1992.

34-35 - 先住民の言語

アルタチ・ココマ (Altaci Kokama) (ブラジリア大学(University of Brasília))、**エバンドロ・ボンフィム** (Evandro Bonfim) (リオ・デ・ジャネイロ連邦大学(Federal University of Rio de Janeiro)) 著

グラフ

p.34: KOKAMA, Altaci; BONFIM, Evandro.
RODRIGUES, Ayrton Dall'igna. **Línguas brasileiras – para o conhecimento das línguas indígenas.**1986. <https://bit.ly/3ZHgWQU>
LABORATÓRIO DA VISUALIDADE E VISUALIZAÇÃO DA ESCOLA DE BELAS ARTES DA UFRJ. **Línguas Indígenas Brasileiras.** <https://>

bit.ly/3Vvk3G2b

IBGE. **O Brasil Indígena.** <https://bit.ly/3Bdat6S>
p.35、上: KOKAMA, Altaci; BONFIM, Evandro.
NEXO. **O aplicativo que ensina nheengatu, língua geral da Amazônia.**2024. <https://bit.ly/4eZp1EZ>
p.35、下: KOKAMA, Altaci; BONFIM, Evandro.
PROJETO COLABORA. **Brasil tem apenas 10 municípios com línguas indígenas oficiais.**2022. <https://bit.ly/41krBCu>

テキスト

Lüpke, F. et al. **Comparing rural multilingualism in Lowland South America and Western Africa – anthropological linguistics.**2020. <https://bit.ly/3ZN4dww>
NEVES, Eduardo Góes. **Sob os tempos do equinócio: Oito mil anos de história na Amazônia central.**2022.

36-37 - 都市化するアマゾン

アナ・クラウディア・ドゥアルテ・カルドーゾ (Ana Cláudia Duarte Cardoso) (パラ連邦大学技術研究所/建築・都市学部/建築・都市学大学院プログラム(Institute of Technology/School of Architecture and Urbanism/Graduate Program in Architecture and Urbanism of the Federal University of Pará)) 著

グラフ

p.36: AMAZÔNIA 2030. **Fatos da Amazônia 2021.** <https://bit.ly/3OF0iLC>
CENSO 2022
p.37: SANTOS, D. et al. **Índice de Progresso Social na Amazônia Brasileira (IPS Amazônia 2023).**Imazon.2023. <https://bit.ly/3ZyPF33>

テキスト

CARDOSO, A.C.D. **A trama dos povos da floresta: Amazônia para além do verde.**2023. <https://doi.org/10.35699/2316-770X.2021.46237>
CORREA, R.L. **A periodização da rede urbana na Amazônia.**1987.
COSTA, Francisco de Assis. **A brief economic history of Amazon (1720-1970).**2019.
IBGE. **Censo Demográfico 2022.** <https://bit.ly/3Zonp1I>
PERIPATO, V. et al. **More than 10,000 pre-Columbian earthworks are still hidden throughout Amazonia.**2023. <https://doi.org/10.1126/science.ade2541>
PRÜMERS, H. et al. **Lidar reveals pre-Hispanic low-density urbanism in the Bolivian Amazon.**2022. <https://doi.org/10.1038/s41586-022-04780-4>

38-39 - 軍事化

フランシスコ・ベント・ダ・シルヴァ (Francisco Bento da Silva) (アクレ連邦大学哲学・人間科学センター(Center for Philosophy and Human Sciences of the Federal University of Acre)) 著

グラフ

p.38: CENSO 2022.
AGÊNCIA PÚBLICA. **Caso de quilombolas afetados por Base de Alcântara chega à Corte Interamericana.**2022. <https://bit.ly/41erCI3>
O GLOBO. **Ministros de Lula visitarão Alcântara (MA) após novo conflito entre quilombolas e militares sobre expansão de Base Espacial.**2024. <https://bit.ly/3ZAiA6X>
p.39、上: FÓRUM BRASILEIRO DE SEGURANÇA PÚBLICA.

Cartografias das Violências na Região Amazônica.2023. <https://bit.ly/3POatdX>
PRODES/INPE.
p.39. 下MARQUES, Adriana Aparecida.**Amazônia: pensamento e presença militar;**
BRASIL DE FATO.**Alvo de Bolsonaro, INPE é palco de disputa entre civis e militares desde a ditadura.**2019. <https://bit.ly/4ioqUy7>
UOL.**Mourão forma conselho da Amazônia com 19 militares e sem Ibama e Funai.**2020. <https://bit.ly/3OFTixP>

テキスト

COSTA, João Craveiro.**A Conquista do deserto ocidental: subsídios para a história do território do Acre.**1940.
BRASIL DE FATO.**Militares já ocupam quase 60% das coordenações regionais da Funai na Amazônia Legal.**2022. <https://bit.ly/3OGUmlk>
MARQUES, Adriana Aparecida.**Amazônia: pensamento e presença militar.**2007.
PENIDO, Ana Oliveira; MATHIAS, Suzeley Kalil; BARBOSA, Lisa.**A defesa da Amazônia e sua militarização.**2022. <http://dx.doi.org/10.18542/ncn.v25i1.9943>
REIS, Arthur César Ferreira.**A Amazônia e a Integridade do Brasil.**2001.

40-41 - 大規模開発工事

エドナ・マリア・ラモス・デ・カストロ (Edna Maria Ramos de Castro) (パラ連邦大学アマゾン高等研究センター(Center for Advanced Amazonian Studies of the Federal University of Pará))
著

グラフ

p.40: INESC.**Você sabe o que é a Ferrogrão?**2020. <https://bit.ly/3VmQOsc>
TERRA DE DIREITOS.**Trilhos do descaso para o Oeste do Pará: violações já aparecem no planejamento da Ferrogrão.**2019. <https://bit.ly/4f4B9Ve>
INFOAMAZONIA.**Ferrogrão afetará pelo menos 6 terras indígenas, 17 unidades de conservação e 3 povos isolados.**2023. <https://bit.ly/3ZgFkY4>
p.41、上INSTITUTO SOCIOAMBIENTAL.**Dossiê Belo Monte.** <https://bit.ly/4gok0qy>
MINISTÉRIO PÚBLICO FEDERAL.
REVISTA VEJA.**Por que Belo Monte continua operando mesmo com licença vencida.**2023. <https://bit.ly/3DeTGkk>
p.41、下PETROBRÁS.
PODER 360.**Bloco na Margem Equatorial tem 5,6 bi de barris de óleo, diz estudo.**2023. <https://bit.ly/3ZFfONC>
GREENPEACE**Impacto de exploração de petróleo na Foz do Amazonas é de nível máximo.**2024. <https://bit.ly/3DOSbXf>

テキスト

ACSELRAD, Henri.**Planejamento autoritário e desordem socioambiental na Amazônia: crônica do deslocamento de populações em Tucuruí.**1991.
BAINES, Stephen.**Usina Hidrelétrica de Balbina e o deslocamento compulsório dos Waimiri Atroari.**参照元: **Energia na Amazônia.**1996.
CASTRO, Edna (org.).**Territórios em Transformação na Amazônia.**2017. <https://bit.ly/4ghwcjC>
CASTRO, Edna.**Expansão da fronteira, megaprojetos de**

infraestrutura e integração sul-americana.2012. <https://doi.org/10.1590/S0103-49792012000100004>
CASTRO, Edna.**Produção de conhecimento sobre hidrelétricas na área de ciências humanas no Brasil.**2018. <http://dx.doi.org/10.5801/ncn.v2i13.6123>
CASTRO, Edna.**Neoextractivismo en la minería, prácticas coloniales y lugares de resistencia en Amazonia, Brasil.**2018. <https://doi.org/10.22370/rpe.2018.5.1236>
CASTRO, Edna; CASTRO, Carlos Potiara.**Desmatamento na Amazônia, desregulação socioambiental e financeirização do mercado de terras e de commodities.**2022. <http://dx.doi.org/10.18542/ncn.v25i1.12189>
FEARNSIDE, Philip.**Hidrelétricas na Amazônia: impactos ambientais e sociais na tomada de decisões sobre grandes obras.**2015. <https://bit.ly/4fdzNry>
MILANEZ, Felipe.**Lutar com a floresta.Uma ecologia política do martírio em defesa da Amazônia.**2024.
RIBEIRO, Gustavo Lins.**Cuanto Más Grande Mejor? Proyectos de Gran Escala, una Forma de Producción vinculada a la expansión de Sistemas Económicos.**1987. <https://bit.ly/4g1vDnN>
SEVÁ, Oswaldo.**Conhecimento crítico das mega hidrelétricas: para avaliar de outro modo alterações naturais, transformações sociais e a destruição dos monumentos fluviais.**参照元:
Tenotã-Mö.**Alertas sobre as consequências dos projetos hidrelétricos no rio Xingu.**2005. <https://bit.ly/49rWYg8>
SVAMPA, Maristella; VIALE, Enrique.**エコロジーの終焉はもうそこまで来ている: Una brújula para salir del (mal)desarrollo.**2020. <https://bit.ly/4f4LUH5>

42-43 - 森林伐採と山火事

フィリップ・マーティン・ファーンサイド (Philip Martin Fearnside)(National Institute for Amazonian Research)著

グラフ

p.42: TERRABRASILIS. <https://bit.ly/4fydAP4>
SISTEMA PRODES/INPE.
IMAFLOA.**Mais da metade da área com exploração madeireira no Pará não foi autorizada pelos órgãos ambientais.**2020. <https://bit.ly/3VokTau>
IBAMA.**Operação do Ibama desmonta fraude para “esquentar” madeira ilegal.**2023. <https://bit.ly/3Vo2XwJ>
p.43、上GREENPEACE BRASIL.**Dia do fogo completa um ano, com legado de impunidade.**2020. <https://bit.ly/3VmfLnv>
BDQUEIMADAS/TERRABRASILIS. <https://bit.ly/4f0V11L>
p.43、下NEPSTAD, Daniel et al.**Avança Brasil: Os custos ambientais para a Amazônia – Relatório do projeto Cenários Futuros para a Amazônia.**2000. <https://bit.ly/3ZAHd3n>

テキスト

ANDRADE, M.B.T.; FERRANTE, L.; FEARNSIDE, P.M. **Brazil's Highway BR-319 demonstrates a crucial lack of environmental governance in Amazonia.**2021. <https://doi.org/10.1017/S0376892921000084>
BARNI, P.E.; REGO, A.C.M.; SILVA, F.C.F. et al.**Logging Amazon forest increased the severity and spread of fires during the 2015-2016 El Niño.**2021. <https://doi.org/10.1016/j.foreco.2021.119652>
BERENQUER, E.; ARMENTERAS, D.; LEES, A.C. et al.**Drivers**

and ecological impacts of deforestation and forest degradation. 参照元: Amazon assessment report 2021. 2021. <https://doi.org/10.55161/AIZJ1133>

BERENQUER, E.; FERREIRA, J.; GARDNER, T.A. et al. A large-scale field assessment of carbon stocks in human-modified tropical forests. 2014. <https://doi.org/10.1111/gcb.12627>

CARRERO, G.C.; WALKER, R.T.; SIMMONS, C.S.; FEARNESIDE, P.M. Land grabbing in the Brazilian Amazon: Stealing public land with government approval. 2022. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2022.106133>

FEARNESIDE, P.M. Biodiversidade nas florestas Amazônicas brasileiras: Riscos, valores e conservação. 参照元: A Floresta Amazônica nas Mudanças Globais. 2019. <https://bit.ly/6qIC>

FEARNESIDE, P.M. Rios voadores e a água de São Paulo. 2015 <https://bit.ly/3qykIsY>

FEARNESIDE, P.M. As lições dos eventos climáticos extremos de 2021 no Brasil: 2 – A seca no Sudeste. 2021. <https://bit.ly/3ZAHgfz>

FEARNESIDE, P.M. The intrinsic value of Amazon biodiversity. 2021. <https://doi.org/10.1007/s10531-021-02133-7>

FEARNESIDE, P.M. Amazon environmental services: Why Brazil's Highway BR-319 is so damaging. 2022. <https://doi.org/10.1007/s13280-022-01718-y>

FEARNESIDE, P.M. Destruição e Conservação da Floresta Amazônica. 2022. <https://bit.ly/3Bw8lnU>

FERRANTE, L.; ANDRADE, M.B.T.; FEARNESIDE, P.M. Land grabbing on Brazil's Highway BR-319 as a spearhead for Amazonian deforestation. 2021. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2021.105559>

FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. Brazil's new president and "ruralists" threaten Amazonia's environment, traditional peoples and the global climate. 2019. <https://doi.org/10.1017/S0376892919000213>

INPE. PRODES - Coordenação-Geral de Observação da Terra. 2023. <https://bit.ly/3ZBeNGh>

JOLY, C.A.; SCARANO, F.R.; SEIXAS, C.S. et al. 1º Diagnóstico Brasileiro de Biodiversidade e Serviços Ecossistêmicos. 2019. <https://bit.ly/4glEalk>

LAURANCE, W.F.; CAMARGO, J.L.C.; FEARNESIDE, P.M. et al. An Amazonian rainforest and its fragments as a laboratory of global change. 2018. <https://doi.org/10.1111/brv.12343>

NEPSTAD, D.; CAPOBIANCO, J.P.; BARROS, A.C. et al. Avanço Brasil: Os Custos Ambientais para a Amazônia Relatório do Projeto Cenários Futuros para a Amazônia. 2000. <https://bit.ly/4fSIEjk>

QIN, Y.; XIAO, X.; LIU, F. et al. Forest conservation in Indigenous territories and protected areas in the Brazilian Amazon. 2023. <https://doi.org/10.1038/s41893-022-01018-z>

TER STEEGE, H.; PITMAN, N.C.A.; KILLEEN, T.J. et al. Estimating the global conservation status of more than 15,000 Amazonian tree species. 2015. <https://doi.org/10.1126/sciadv.1500936>

VAN DER ENT, R.J.; SAVENIJE, H.H.G.; SCHAEFLI, B.; STEELE-DUNNE, S.C. Origin and fate of atmospheric moisture over continents. 2010. <https://doi.org/10.1029/2010WR009127>

VERA, C.; BAEZ, J.; DOUGLAS, M. et al. The South American low-level jet experiment. 2006. <https://doi.org/10.1175/BAMS-87-1-63>

YANAI, A.M.; GRAÇA, P.M.L.A.; ZICCARDI, L.G. et al. Brazil's

Amazonian deforestation: The role of landholdings in undesignated public lands. 2022. <https://doi.org/10.1007/s10113-022-01897-0>

ZEMP, D.C.; SCHLEUSSNER, C.F.; BARBOSA, H.M.J. et al. On the importance of cascading moisture recycling in South America. 2014. <https://doi.org/10.5194/acp-14-13337-2014>

44-45 - アグリビジネス

フランシスコ・デ・アシス・コスタ (Francisco de Assis Costa) (パラ州連邦大学アマゾン研究センター (Center for Advanced Amazonian Studies of the Federal University of Pará)) 著

グラフ

p.44: MAPBIOMAS. Área de agropecuária no Brasil cresceu 50% nos últimos 38 anos. 2023. <https://bit.ly/4gmRLJ3>

INFOAMAZONIA. Mato Grosso e Pará têm 25% das cabeças de gado e são maiores emissores de metano no país. 2024. <https://bit.ly/4gfvTz9>

SISTEMA DE ESTIMATIVAS DE EMISSÕES E REMOÇÕES DE GASES DE EFEITO ESTUFA (SEEG). <https://bit.ly/4ggTUG4>

p.45: COSTA, Francisco de Assis

IBGE. Censo agropecuário de 1995. <https://bit.ly/4gjVMOh>

IBGE. Censo agropecuário de 2006. <https://bit.ly/3B96M29>

IBGE. Censo agropecuário de 2017. <https://bit.ly/4eXgFOI>

IBGE. Produção agrícola municipal. <https://bit.ly/4fULzIn>

IBGE. Produção extrativa vegetal e da Silvicultura. <https://bit.ly/3ZjLMO8>

テキスト

COSTA F.A. Contributions of fallow lands in the Brazilian Amazon to CO2 balance, deforestation and the agrarian economy: Inequalities among competing land use trajectories. 2016. <https://doi.org/10.12952/journal.elementa.000133>

COSTA F.A. Structural diversity and change in rural Amazonia: A comparative assessment of the technological trajectories based on agricultural censuses (1995, 2006 and 2017). 2021. <https://doi.org/10.1590/0103-6351/6373>

COSTA, F.A. et al. Desenvolvimento Sustentável, Acordos Verdes e Bioeconomias na Amazônia: delineamentos para a ação programática a partir da economia agrária. 2023. <https://doi.org/10.1590/0103-6351/6373>

COSTA, F.A. et al. Complex, diverse, and changing agribusiness and livelihood systems in the Amazon. 参照元: Science panel for the Amazon (2021). Amazon assessment report 2021: Part II social-ecological transformations: Changes in the Amazon. 2021 <https://bit.ly/3VpEZkz>

COSTA, F.A. Intensificação da agropecuária aumenta ao invés de reduzir a pressão sobre a floresta amazônica: Paradoxo de Jevons impera nos casos da soja e do gado no Brasil (2001-2021). 2023. <https://bit.ly/3VLY9ll>

COSTA, F.A. From the appropriation of public lands to the dynamics of deforestation: The formation of the land market in the Amazon (1970-2017). 2023. <https://doi.org/10.1590/0103-6351/7751>

GARRETT, R.D.; LAMBIN, E.F.; NAYLOR, R.L. The new economic geography of land use change: Supply chain configurations and land use in the Brazilian Amazon. 2013. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2013.03.011>

GARRETT, R. D.; RUEDA, X.; LAMBIN, E.F. Globalization's

unexpected impact on soybean production in South America: Linkages between preferences for non-genetically modified crops, eco-certifications, and land use.2013. <https://doi.org/10.1088/1748-9326/8/4/044055>

46-47 - 鉱物開発

アナ・ポクソ・ムンドウルク (Ana Poxo Munduruku) (ムンドウルク・イペレール・アヤ運動(Munduruku Ipereğ Ayü Movement))、**ルシネテ・ソウ・ムンドウルク** (Lucinete Saw Munduruku) (ムンドウルク・ワコボルン女性協会(Munduruku Wakoborün Women's Association))、**ルシアーナ** (Luciane) **カバ** (Kaba) **ムンドウルク** (Munduruku) (ムンドウルク・ワコボルン女性協会(Munduruku Wakoborün Women's Association))、**ヒルデマラ・キリクシ・ムンドウルク** (Hildemara Kirixi Munduruku) (ムンドウルク・ワコボルン女性協会(Munduruku Wakoborün Women's Association))、**ロザマリア・ロウレス** (Rosamaria Loures) (ブラジリア大学社会科学大学院/ムンドウルク・ワコボルン女性協会/イペレ・アーユ運動(Graduate Program in Social Anthropology of the University of Brasília/Munduruku Wakoborün Women's Association/Ipereğ Ayü Movement))、**アイレン・ベガ** (Ailén Vega) (ムンドウルク・ワコボルン女性協会(Munduruku Wakoborün Women's Association))、**ルア・サンパイオ** (Luah Sampaio) (ムンドウルク・ワコボルン女性協会(Munduruku Wakoborün Women's Association))、**エリエテ・ラマリーヨ・ゴメス** (Eliete Ramalho Gomes) (ムンドウルク・ワコボルン女性協会(Munduruku Wakoborün Women's Association))、**エディエネ・キリクシ・ムンドウルク** (Ediene Kirixi Munduruku) (ムンドウルク・ワコボルン女性協会(Munduruku Wakoborün Women's Association)) 著

グラフ

p.46: IPAM. **As cicatrizes do garimpo em Terras Indígenas da Amazônia Brasileira**.2024. <https://bit.ly/3VoQUIt>
p.47、上: INFOAMAZONIA/AMAZON WATCH/AGÊNCIA NACIONAL DE MINERAÇÃO. **AMAZÔNIA MINADA**. <https://bit.ly/41iDYih>
p.47、下: PORTAL DA TRANSPARÊNCIA DO OURO. <https://bit.ly/4inBMwe>
MANZOLLI, Bruno et al/UFMG/MINISTÉRIO PÚBLICO FEDERAL. **Legalidade da produção de ouro no Brasil**.2021. <https://bit.ly/3B45S78>
INSTITUTO ESCOLHAS. **Garimpos brasileiros podem ter usado 185 toneladas de mercúrio ilegal**.2024. <https://bit.ly/4izdSOr>
FIOCRUZ. **Estudo analisa a contaminação por mercúrio entre o povo indígena munduruku**.2020. <https://bit.ly/3ZyRkVt>

テキスト

INSTITUTO ESCOLHAS. **Abrindo a caixa do garimpo**.2023. <https://bit.ly/3OENDrT>
INSTITUTO SOCIALAMBIENTAL/WWF BRASIL. **Nota técnica n.º 01/2023: competência para o licenciamento ambiental de atividades de garimpo de ouro aluvionar**.2023. <https://bit.ly/3D1tWIo>
LOURES, Rosamaria; ALARCON, Daniela Fernandes; TORRES, M. **Desenvolvimento, para nós, não é destruir o nosso território”: o cerco ao Tapajós e a resistência do povo Munduruku**. <https://bit.ly/3ZfiY9w>
MAPBIOMAS. **Destques do mapeamento anual de mineração no Brasil – 1985 a 2022: O avanço garimpeiro na Amazônia**.2023. <https://bit.ly/41iACvR>
MOLINA, Luísa Pontes; WANDERLEY, Luiz Jardim. **O cerco**

do ouro: garimpo ilegal, destruição e luta em terras Munduruku.2021. <https://bit.ly/3ZjdMl8>

MOLINA, Luísa Pontes. **Terra rasgada: como avança o garimpo na Amazônia brasileira**.2023. <https://bit.ly/49pz9G8>

48-49 - 道路

ルーカス・フェランテ (Lucas Ferrante) (サンパウロ大学人文学部/アマゾナス連邦大学(School of Arts, Sciences and Humanities of the University of São Paulo / Federal University of Amazonas)) 著

グラフ

p.48: OBSERVATÓRIO DA BR-319. FERRANTE, Lucas. **INFOAMAZONIA. Com abertura de ramais planejados, impacto da BR-319 pode chegar a 40 terras indígenas e 38 unidades de conservação no Amazonas**.2023. <https://bit.ly/3B957JX>
p.49、上: FERRANTE, Lucas e FEARNESIDE, Philip Martin. **Brazil's amazon oxygen crisis: How lives and health were sacrificed during the peak of COVID-19 to promote an agenda with long-term consequences for the environment, indigenous peoples and health**.2024. <https://doi.org/10.1007/s40615-023-01626-1>
p.49、下: VILELA, Thais et al. **A better Amazon road network for people and the environment**.2020. <https://doi.org/10.1073/pnas.1910853117>
MONGABAY. **Projetos de estradas na Amazônia podem desmatar 2,4 milhões de hectares nos próximos 20 anos**.2020. <https://bit.ly/3ZDK6jS>

テキスト

ANDRADE, M.; FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. **Brazil's Highway BR-319 demonstrates a crucial lack of environmental governance in Amazonia**.2021. <https://doi.org/10.1017/S0376892921000084>
FEARNESIDE, P.M. et al. **Região Trans-Purus, a última floresta intacta: 2 – A ameaça do Ramal de Tapauá**.2020. <https://bit.ly/3BdUPrs>
FEARNESIDE, P.M. **A Floresta Amazônica nas Mudanças Globais**.1st ed. Manaus: Editora do Instituto Nacional de Pesquisas da Amazônia.2023. <https://bit.ly/3OF91gH>
FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. **Amazonia and the end of fossil fuels**.2023.
FERRANTE, L.; GOMES, M.; FEARNESIDE. **Amazonian indigenous peoples are threatened by Brazil's Highway BR-319**.2020. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2020.104548>
FERRANTE, L. **A road to the next pandemic: the consequences of Amazon highway BR-319 for planetary health**.2024. [https://doi.org/10.1015/S2542-5196\(24\)00163-3](https://doi.org/10.1015/S2542-5196(24)00163-3)
FERRANTE, L. **Bills undermine Brazil's environmental goals**.2023. <https://doi.org/10.1126/science.adi9196>
FERRANTE, L. et al. **Brazil's Highway BR-319: The road to the collapse of the Amazon and the violation of indigenous rights**.2021. <https://doi.org/10.12854/erde-2021-552>
FERRANTE, L. et al. **Effects of Amazonian flying rivers on frog biodiversity and populations in the Atlantic rainforest**.2023. <https://doi.org/10.1111/cobi.14033>
FERRANTE, L. **Lula's decision puts Amazonia, climate goals, cultures and indigenous lands at risk**.2024.
FERRANTE, L.; ANDRADE, M.B.T.; FEARNESIDE, P.M. **Land**

grabbing on Brazil's Highway BR-319 as a spearhead for Amazonian deforestation.2021. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2021.105559>

FERRANTE, L.; BECKER, C.G. **Brazil must reverse gear on Amazon road development.**2024. <https://bit.ly/4fisUoV>
FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. **Brazil's Amazon oxygen crisis: How lives and health were sacrificed during the peak of COVID-19 to promote an agenda with long-term consequences for the environment, Indigenous peoples, and health** 2023. <https://doi.org/10.1007/s40615-023-01626-1>

FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. **Brazil's new president and "ruralists" threaten Amazonia's environment, traditional peoples and the global climate.**2019. <https://doi.org/10.1017/S0376892919000213>

FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. **Brazilian government violates Indigenous rights: What could induce a change?** 2021.

FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. **Countries should boycott Brazil over export-driven deforestation.**2022.

FERRANTE, L.; FEARNESIDE, P.M. **The Amazon's road to deforestation.**2020. <https://doi.org/10.1126/science.abd6977>
Ferrante, L.; ROJAS-AHUMADA, D.; MENIN, M.; FEARNESIDE, P.M. **Climate change in the Central Amazon and its impacts on frog populations.**2023. <https://doi.org/10.1007/s10661-023-11997-x>

50-51 - 組織犯罪

アイアラ・コラレス・クート (Aiala Colares Couto) (パラ州立大学/ブラジル公共安全保障フォーラム(State University of Pará/Brazilian Public Security Forum))、**レジネ・シェーネンベルク** (Regine Schönenberg) (ハインリヒ・ベール財団(Heinrich Böll Foundation)) 著

グラフ

p.50: FÓRUM BRASILEIRO DE SEGURANÇA PÚBLICA. **Segurança pública e crime organizado na Amazônia Legal.**2023. <https://bit.ly/4gJPrm8>

p.51、上: INSTITUTO MÃE CRIOLA.2024

p.51、下: FÓRUM BRASILEIRO DE SEGURANÇA PÚBLICA. **Cartografias da violência na Amazônia.**2023. <https://bit.ly/41ijfeA>

FÓRUM BRASILEIRO DE SEGURANÇA PÚBLICA. **Anuário brasileiro de violência pública.**2024. <https://bit.ly/3D0od5u>
REVISTA VEJA. **Crime organizado se expande na Amazônia e põe em risco preservação da floresta.**2024. <https://bit.ly/4fZHYbS>

テキスト

MACHADO, Lia Osório. **Limites e fronteiras: da alta diplomacia aos circuitos da legalidade.**2000. <https://bit.ly/41j7swp>

SCHÖNENBERG, Regine. **Drug trafficking in the Brazilian Amazon, in: Globalization, drugs and criminalization.**2002

SCHÖNENBERG, Regine. **Collateral damage of global governance on the local level: An Analysis of fragmented international regimes in the Brazilian Amazon,** 参照元: **Governance beyond the law – the immoral, the illegal, the criminal.**2019.

SCHÖNENBERG, Regine. **Factions shaping future: Causes, forms and impacts of spreading organized criminal**

organizations in the Amazon.参照元: **Brésil(s).Sciences humaines et sociales.**2024

UNODC. **O relatório mundial sobre drogas.**2023. <https://bit.ly/4imk7VG>

52-53 - 犯罪による経済活動

ロベルト・アウラージョ・デ・オリヴェイラ・サントス・ジュニオール (Roberto Araújo de Oliveira Santos Junior) (パラ州エミリオ・ゴエルディ博物館(Emílio Goeldi Museum of Pará)) 著

グラフ

p.52: INSTITUTO IGARAPÉ. **O ecossistema do crime ambiental na Amazônia: uma análise das economias ilícitas da floresta.**2022. <https://bit.ly/4fUuA8Y>

p.53、上: DE OLHO NOS RURALISTAS. **Os gigantes – os cem municípios que compõem 37% do território brasileiro.** <https://bit.ly/4fU0i0T>

p.53、下: COSTA, Francisco de Assis; JUNIOR, Roberto Araújo de Oliveira Santos.

テキスト

AMÉRICO, M.C. et al. **Pecuária e Amazônia: estratégias sociais e reestruturação do território nas frentes pioneiras: Rodovia PA-279 e região da Terra do Meio no Pará.**参照元: **Desenvolvimento sustentável e sociedades na Amazônia.**2011.

BENATTI, J.H.; ARAUJO SANTOS, R.; PENA DA GAMA, A. **A grilagem de publicas terras n Amazônia brasileira.**2006.

CONCEIÇÃO, Katyanne V. et al. **Government policies endanger the indigenous peoples of the Brazilian Amazon.**2021. <https://doi.org/10.1016/j.landusepol.2021.105663>

COSTA, Larrea et al. **Land markets and illegalities: The deep roots of deforestation in the Amazon.** <https://bit.ly/4imnBYg>
FERNANDES, M. **Donos de terras: A trajetória da UDR no Pará.**1999.

MPF/PROJETO SUDAM.

54-55 - 擁護者に対する暴力

チロ・デ・ソウザ・ブリト (Ciro de Souza Brito) (西パラ州連邦大学(Federal University of Western Pará)) 著

グラフ

p.54: COMISSÃO PASTORAL DA TERRA. **Conflitos no campo 2023.**2024. <https://bit.ly/4f8glfj>

p.55: TERRA DE DIREITOS; COMISSÃO PASTORAL DA TERRA. **Acusado de envolvimento no caso do assassinato de militante do MAB Dilma Ferreira vai a julgamento no Pará.**2024. <https://bit.ly/4iznJDQ>.

テキスト

BECKER, Bertha K. **A Amazônia na estrutura espacial do Brasil.**1974.

BRITO, Ciro. **A relevância do Brasil no combate às mudanças climáticas e na proteção de defensores ambientais.**2024. <https://bit.ly/4f4Nmt1>

CARDOSO, Fernando Henrique; MÜLLER, Geraldo. **Amazônia: expansão do capitalismo.**2008. <https://bit.ly/49nodIM>

COMISSÃO INTERAMERICANA DE DIREITOS HUMANOS (CIDH). **Criminalização do trabalho das defensoras e dos defensores de direitos humanos**. 2015. <https://bit.ly/49ob6as>
GLOBAL WITNESS. **Sempre em pé: defensores da terra e do meio ambiente à frente da crise climática**. 2023. <https://bit.ly/4f4hh4H>
GONZÁLEZ CASANOVA, Pablo. **Colonialismo interno (uma redefinição)**. 参照元: **Teoria marxista hoje: problemas e perspectivas**: Buenos Aires. 2007. <https://bit.ly/3Vms7HC>
IMAZON. **Linha do tempo: Entenda como ocorreu a ocupação da Amazônia**. <https://bit.ly/3OGAwGy>
MAPARAJUBA; COMISSÃO PASTORAL DA TERRA; SOCIEDADE PARAENSE DE DEFESA DOS DIREITOS HUMANOS; INSTITUTO ZÉ CLAUDIO E MARIA; TDD. **Diagnóstico sobre o Programa de Proteção a Defensoras e Defensoras de Direitos Humanos no Estado do Pará**. 2023. <https://bit.ly/4f8bnzv>
MESQUITA, Benjamin. **A dinâmica recente do crescimento do agronegócio na Amazônia e a disputa por territórios**. 参照元: **Terras e territórios na Amazônia: demandas, desafios e perspectivas**. 2011. <https://bit.ly/3Zol6vF>
MONTEIRO, Raimunda. **Amazônia: Espaço-Estoque, a negação da vida e esperanças teimosas**. 2021.
NASCIMENTO, Maycom; BRITO, Ciro de Souza. **Processos de desterritorialização e impactos no direito à alimentação de comunidades quilombolas na Amazônia Legal: análise a partir do conceito de Bem Viver**. No prelo.
NEVES, Rafaela P. de Almeida. **O paradoxo da (geo)grafia da violência e da r-existência no campo brasileiro: o caso mãe Bernadete**. 参照元: **Conflitos no campo Brasil 2023**. 2024. <https://bit.ly/3VqMIPQ>
PORTO-GONÇALVES, Carlos Walter. **Amazônia: Encruzilhada civilizatória. Tensões territoriais em curso**. 2018. <https://bit.ly/49sMbmj>
TERRA DE DIREITOS; JUSTIÇA GLOBAL. **Na linha de frente: violência contra defensoras e defensores de direitos humanos no Brasil 2019-2022**. 2023. <https://bit.ly/49r2NdY>

56-57 - 健康と医薬品

ジェセム・ダグラス・ヤマール・オレリャーナ (Jesem Douglas Yamall Orellana) (オズワルド・クルス財団統計・ジオプロセッシング・疫学モデリング研究所(Statistical, Geoprocessing and Epidemiology Modeling Laboratory of the Oswaldo Cruz Foundation))、**ジョアン・パウロ・リマ・バレット**(ツカノ) (João Paulo Lima Barreto (Tukano)) (アマゾナス連邦大学／パフセリコウィ土着医療センター(Federal University of Amazonas/Bahserikowi Indigenous Medicine Center)) 著

グラフ

p.56: DATASUS.

p.57: DATA SUS/SIVEP MALÁRIA.

FIOCRUZ. **Aumento dos casos de malária tem correlação direta com o garimpo ilegal**. 2023. <https://bit.ly/3VmsSMZs>

MAPBIOMAS.

HUTUKARA ASSOCIAÇÃO YANOMAMI. **Garimpo ilegal na Terra Yanomami cresceu 54% em 2022, aponta Hutukara**. 2023. <https://bit.ly/4ihaaIX>

テキスト

O GLOBO. **Mortes por desnutrição em crianças abaixo de 5 anos sobem em 2021**. 2022. <https://bit.ly/49ju3uV>

BARRETO, João Paulo Lima. **Waimahã – peixes e humanos**. 2013. <https://bit.ly/4iw7hUS>

BARRETO, João Paulo Lima. **Kumuã na kahtiroti-ukuse: uma “teoria” sobre o corpo e o conhecimento-prático dos especialistas indígenas do Alto Rio Negro**. 2021. <https://bit.ly/3Zd9fR6>

BARRETO, João Paulo Lima. **Bahserikowi – Centro de Medicina Indígena da Amazônia: concepções e práticas de saúde indígena**. 2017. <https://bit.ly/4f0tYxu>

BARRETO, João Paulo Lima et al. **OMERÕ: constituição e circulação de conhecimentos Yepamahã (Tukano)**. 2018. <https://bit.ly/49n3yok>

GRACIE, R. et al. **Desastres, Infraestrutura de Saneamento e Relações com a Saúde**. 参照元: Barcellos, C.; Corvalán, C.; Silva, E.L. 2022. <https://bit.ly/4f1D5xJ>

IBGE. **Pesquisa nacional de saneamento básico 2017: abastecimento de água e esgotamento sanitário**. <https://bit.ly/3OFkdda>

IBGE. **População residente**. <https://bit.ly/3CWnNwZ>
INSTITUTO SOCIOAMBIENTAL POVOS INDÍGENAS NO BRASIL (ISA).

MINISTÉRIO DA SAÚDE (MS). **Imunizações – desde 1994**. <https://bit.ly/3Vq1mGR>

MINISTÉRIO DA SAÚDE (MS). **Secretaria de Vigilância em Saúde**. 2022. <https://bit.ly/3CYBGL3>

Orellana, J.D.Y. et al. **Intergenerational association of short maternal stature with stunting in Yanomámi indigenous children from the Brazilian Amazon**. 2021. <https://doi.org/10.3390/ijerph18179130>

Orellana, J.D.Y. et al. **Impact of the COVID-19 pandemic on excess maternal deaths in Brazil: A two-year assessment**. 2024.

<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0298822>

Orellana, J.D.Y.; Souza, M.L.P.; Horta, B.L. **Excess suicides in Brazil during the first 2 years of the COVID-19 pandemic: Gender, regional and age group inequalities**. 2024.

<https://doi.org/10.1177/00207640231196743>

REDE BRASILEIRA DE PESQUISA EM SOBERANIA E SEGURANÇA ALIMENTAR (REDE PENSSAN). **II Inquérito Nacional sobre Insegurança Alimentar no Contexto da Pandemia da Covid-19 no Brasil (II Vigisan)**. <https://bit.ly/3CWdCIX>

58-59 - 権威主義的主観

ブルーノ・マルヘイロ (Bruno Malheiro) (パラ州南部・南東部連邦大学／パラ州立大学大学院地理学プログラム(Federal University of Southern and Southeastern Pará/Graduate Program in Geography of the State University of Pará)) 著

グラフ

p.58: CENSO 2022

FOLHA DE S. PAULO. **Cara típica do evangélico brasileiro é feminina e negra, aponta Datafolha**. 2020. <https://bit.ly/3Znp07Z>

AGÊNCIA PÚBLICA. **Morte e Vida Javari: igrejas evangélicas competem entre si pelas almas indígenas**. 2024. <https://bit.ly/3ZDEvKv>

p.59: INSTITUTO IGARAPÉ. **Amazônia no Alvo**. 2022. <https://bit.ly/4gqdi3D>

THE INTERCEPT BRASIL. **Amazônia Sitiada – Sob Bolsonaro, clubes de tiro explodem em área de conflito da Amazônia Legal**. 2022. <https://bit.ly/3D4QeZO>

MALHEIRO, B. C. **Geografias do Bolsonarismo: entre a**

expansão das commodities, do negacionismo e da fé evangélica no Brasil.2022.

PRODES
BOMBARDI, LARISSA.

テキスト

MALHEIRO, B.C.**Geografias do Bolsonarismo: entre a expansão das commodities, do negacionismo e da fé evangélica no Brasil.**2022.

MALHEIRO, B.C.; PORTO-GONÇALVES, C.V.; MICHELOTTI, F. **Horizontes Amazônicos: para repensar o Brasil e o Mundo.**2021.

60-61 - 気候変動

カミラ・モレノ (Camila Moreno) (カルタ・デ・ベレン・グループ (Carta de Belém Group)) 著

グラフ

p.60、G1. **O que são os “rios voadores” e como eles fornecem chuva para o Brasil e regulam o clima do mundo.**2023. <https://bit.ly/4fZUUid>

p.61、上: FLORES, Bernardo et al. **Critical transitions in the Amazon forest system.**2024. <https://doi.org/10.1038/s41586-023-06970-0>

G1. Amazonas tem prejuízo de R\$ 620 milhões em 2024 na pior seca da história, diz Defesa Civil.2024. <https://bit.ly/3ZEJwSV>

p.61、下 SEEG.2023. <https://bit.ly/41ll7Da>
MORENO, Camila.

テキスト

BNDES. **BNDES detalha Arco da Restauração da Amazônia em seminário prévio ao G20.**2025. <https://bit.ly/30Jc5IB>

62-63 - グリーンウォッシング

タチアナ・オリヴェイラ (Tatiana Oliveira) (パラ連邦大学アマゾン高等研究センター／ReExistTerra研究グループ (Center for Advanced Amazonian Studies of the Federal University of Pará/ ReExistTerra Research Group)) 著

グラフ

p.62: UNIVERSIDADE DE BERKELEY; ONG CARBON MARKET WATCH. **Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation (REDD+) carbon crediting.** <https://bit.ly/49oCyVq>

p.63: HERNANDEZ LERNER & MIRANDA. **Olhar para o céu com os pés fincados na terra: Áreas de uso coletivo e mercado voluntário de carbono na Amazônia brasileira: uma abordagem baseada em direitos.**2023. <https://bit.ly/40tHaXK>

テキスト

ADKINS, Lisa; COOPER, Melinda; MARTIJN, Konings. **The asset economy: Property ownership and the new logic of inequality.**2020.

BIRCH, Kean. **Rethinking value in the bio-economy:**

Finance, assetization, and the management of value.2017.

<https://doi.org/10.1177/0162243916661633>

GABOR, Daniela; WEBER, Isabella. **A COP 26 deveria se afastar da teoria de choque do carbono.**2021. <https://bit.ly/3W9jicY>

GABOR, Daniela. **The Wall Street consensus.**2021. <https://doi.org/10.1111/dech.12645>

GONÇALVES, Marcela Vecchione. **Bioeconomia e o xadrez global da crise climática.** Amazônia Latitude: Ciência e Jornalismo pela Floresta.2024. <https://bit.ly/4fLiIVT>

HERNANDEZ LERNER & MIRANDA. **Olhar para o céu com os pés fincados na terra: Áreas de uso coletivo e mercado voluntário de carbono na Amazônia brasileira: uma abordagem baseada em direitos.**2023. <https://bit.ly/40tHaXK>

MARTIN, Natassja. **A leste dos sonhos: respostas even às crises sistêmicas.**2023.

MORENO, Camila. **A Métrica do Carbono: abstrações globais e epistemicídio ecológico.**2016. <https://bit.ly/425G4Td>
MOVIMENTO MUNDIAL PELAS FLORESTAS TROPICAIS.

Neocolonialismo na Amazônia: Projetos de REDD+ em Portel, Brasil.2022. <https://bit.ly/4j9xmcp>.

OLIVEIRA, Tatiana. **Assetização da Natureza como Razão da Ex-A-Propriação Neoliberal.** 参照元: **Finanças verdes no Brasil: perspectivas multidisciplinares sobre o financiamento da transição verde.**2022. <https://bit.ly/3DYzN1l>

RAMOS, Carlos Augusto Pantoja; PASSOS, Taiana Amanda Fonseca dos; MIRANDA, Iná Camila Ramos Favacho de. **Nota técnica sobre comercialização de créditos de carbono em Portel, Marajó, Pará.**2023. <https://bit.ly/4gKhyeR>
THE INTERCEPT BRASIL. **Com discurso ambiental, empresário norte-americano lucra com terras e ilude ribeirinhos no Pará.**2022. <https://bit.ly/4gJlble>

64-65 - 気候ファイナンス

ベアトリス・ルス・エ・シミール・コレア (Beatriz Luz e Simy Corrêa) (デマ基金(Dema Fund)) 著

グラフ

p.64: CLIMATE POLICY INITIATIVE. **Panorama de Financiamento Climático para Uso da Terra no Brasil.**2023. <https://bit.ly/30JE4rE>

FUNDO DEMA

p.65: INSTITUTO TRICONTINENTAL DE PESQUISA SOCIAL; NÚCLEO DE ESTUDOS EM COOPERAÇÃO – UFFS. **Análise do Programa Nacional de Apoio à Agricultura Familiar - Pronaf 2020.**2021. <https://bit.ly/3D4Pa8g>

テキスト

ALTIERI, Miguel A.; NICHOLLS, Clara I. **Mudanças climáticas e agricultura camponesa: impactos e respostas adaptativas.**2019. <https://bit.ly/3Vn15EM>

CLIMATE POLICY INITIATIVE. **Panorama de Financiamento Climático para Uso da Terra no Brasil.**2023. <https://bit.ly/30JE4rE>

INSTITUTO TRICONTINENTAL DE PESQUISA SOCIAL; NÚCLEO DE ESTUDOS EM COOPERAÇÃO – UFFS. <https://bit.ly/3D4Pa8g>

INESC. **Caminhos para o financiamento da Política Socioambiental no Brasil.**2022. <https://bit.ly/3VBFqsf>

LEÓN, Lucas Pordeus. **Entenda o Fundo de Perdas e Danos para crise climática da COP 28.** Agência Brasil.2023 <https://bit.ly/4foItd0>

PODÁALI. **Relatório sobre financiamento climático.**2022. <https://bit.ly/30GehRc>

66-67 - 若者世代 Indigenous Youth Movement of Rondônia

グラフ

p.66: INEP/MINISTÉRIO DA EDUCAÇÃO. **Censo Escolar 2023**.2024. <https://bit.ly/3ZGV4VZ>
AMAZÔNIA REAL. **A aldeia sem escola**.2022. <https://bit.ly/4gqcTOB>
p.67、上: AMAZÔNIA 2030. **Mercado de trabalho na Amazônia Legal: Uma análise comparativa com o resto do Brasil**.2020. <https://bit.ly/3ZGkqvG>
p.67、下 CENSO 2022
AMAZÔNIA REAL. **Região Norte é a mais jovem do País e agora tem maioria feminina**.2023. <https://bit.ly/4fXIYNK>

テキスト

ABRAMO, H. **Estação juventude: conceitos fundamentais: pontos de partida para uma reflexão sobre políticas públicas**.2014. <https://bit.ly/3ZitVqS>
ABRAMO, H.; SOUTO, A.L.S. **Juventudes sul-americanas: diálogos para construção da democracia regional**.
CASTRO, L.R. **Participação política e juventude: do mal-estar à responsabilização frente ao destino comum**.2008. <https://doi.org/10.1590/S0104-44782008000100015>
GLOBAL LAND TOOL NETWORK; ONU-HABITAT. **Juventude e território: um olhar jovem sobre governança da cidade**.2015. <https://bit.ly/3BjAOjN>
KOLLODGE, R. **O poder de 1,8 bilhão: adolescentes, jovens e a transformação do futuro**.2014. <https://bit.ly/3DeWCNS>
SOLANO, E. **Juventudes e Democracia na América Latina**.2022. <https://bit.ly/3DITf3f>

68-69 - アマゾンの女性たち フランシー・ジュニオール (Francy Junior) (森の黒人女性運動、ダンダラ／イカミアバス・プロダクションズ (Movement of the Black Women of the Forest, Dandara/Ykamiabas Produções))

グラフ

p.68: INSTITUTO IGARAPÉ. **A violência contra mulheres na Amazônia Legal nos últimos cinco anos em comparação com o restante do país: violência legal desproporcional e escalada mais acentuada das violências não legais**.2024. <https://bit.ly/4gqi8Rj>
p.69: FUNDAÇÃO AMAZÔNIA SUSTENTÁVEL. **Mapeamento de organizações mulheres indígenas: Parentas que Fazem**.2024. <https://bit.ly/4f0XCCH>

テキスト

A CRÍTICA. Eleições e emergência climática.2024. <https://bit.ly/3Bge6ci>
ADICHIE, Chimamanda Ngozi. **Sejamos todos feministas**.2015.
CÂMARA DOS DEPUTADOS. **Anos 60 e 70: ditadura e bipartidarismo**.
2008. <https://bit.ly/3BbmUQK>
CENTRO DE DIREITOS HUMANOS PADRE JOSIMO; ASSOCIAÇÃO DE CATADORES DE MATERIAL RECICLÁVEL DE IMPERATRIZ. **A saga por justiça ambiental: do lixo ao aterro**.2024. <https://bit.ly/4gjtDID>
G1. **Mulheres eleitas prefeitas no 1º turno; homens são 8 em cada 10 eleitos**.2024.

<https://bit.ly/3ZNpc25>

PINHEIRO, Celia Regina de Lima; SALES, José Edvaldo Pereira; FREITAS, Juliana Rodrigues. **Constituição e processo eleitoral**.2018.

REVISTA AFIRMATIVA. **A revoada das matintas pereiras: mulheres negras na política, por uma nova ordem para o Brasil**.2022. <https://bit.ly/4fVTsgM>
REVISTA FÓRUM. **Bancada feminina quer cota de 30% das cadeiras do Congresso para mulheres**. <https://bit.ly/4fZoaFO>
RODRIGUEZ, Graciela S. et al. **A privatização da água na cidade de Manaus e os impactos sobre as mulheres**. <https://bit.ly/41dmpjH>
TRIBUNAL SUPERIOR ELEITORAL.

70-71 - 農業生態学

ロミエル・ダ・パイシャン・ソウザ (Romier da Paixão Sousa) (パラ州連邦研究所、キャンパス・カスタンホール (Federal Institute of Pará, Campus Castanhal))、タチアナ・ディーネ・デ・アブレウ・サー (Tatiana Deane de Abreu Sá) (ブラジル農業研究公社、東アマゾン (Brazilian Agricultural Research Corporation, Eastern Amazon)) 著

グラフ

p.70: REPÓRTER BRASIL. **Escravo, nem pensar!** <https://bit.ly/3VpEUhb>
DICIONÁRIO INFORMAL.
p.71、上 CNPQ
AGROECOLOGIA EM REDE. <https://bit.ly/3ZGtPK3>
p.71、下 GOVERNO FEDERAL. **Cadastro Nacional de Produtores Orgânicos**. <https://bit.ly/3Zo5qiM>

テキスト

GLIESSMAN, Steve; TITTONELL, Pablo. **Agroecology for food security and nutrition. Agroecology and Sustainable Food Systems**.2015. <https://bit.ly/4inlZxa>
NEVES, Eduardo Góes. **Sob os tempos do equinócio: oito mil anos de história na Amazônia Central**.2022.
PARDINI, Patrick. **Amazônia indígena: a floresta como sujeito**.2020. <https://doi.org/10.1590/2178-2547-bgoeldi-2019-0009>
SOUSA, Romier da Paixão et al. **Agroecologia: diálogos entre ciência e práxis em agroecossistemas familiares na Amazônia**.2022. <https://doi.org/10.11606/9788575064245>
SOUSA, Romier da Paixão; Carlos Renilton Freitas CRUZ; Júlio César SUZUKI. **No chão da floresta: trabalho, educação e agroecologia n Amazônia**.2020. <https://doi.org/10.11606/9786587621265>
VIEIRA, Ima Célia Guimarães; TOLEDO, Peter Mann de; HIGUCHI, Horácio. **A Amazônia no antropoceno**.2018. <http://dx.doi.org/10.21800/2317-66602018000100015>

72-73 - 食文化

タイナ・マラジョアラ (Tainá Marajoara) (サンパウロ大学イアチタタ食文化センター／オーラル・ヒストリー研究センター (Iacitá Food Culture Center/Oral History Studies Center of the University of São Paulo)) 著

グラフ

p.72: Rede Brasileira de Pesquisa em Soberania e Segurança Alimentar (REDE PENSSAN). **2º Inquérito Nacional sobre Insegurança Alimentar no Contexto da Pandemia da Covid-19 no Brasil**. <https://bit.ly/30F35Et>

p.73、上MINISTÉRIO DA CIÊNCIA, TECNOLOGIA E INOVAÇÃO. **Sistema de informações e análises sobre impactos das mudanças climáticas (Adapta Brasil)**. <https://bit.ly/4116M9Q> INFO AMAZÔNIA/REDE CIDADÃ. **Mudanças climáticas põem em risco segurança alimentar da população em 62% dos municípios da Amazônia Legal e região é a mais afetada do país.**2023. <https://bit.ly/41pM9Jw>
p.73、下DE OLHO NOS RURALISTAS. “Os invasores” – Quem são os empresários brasileiros e estrangeiros com mais sobreposições em terras indígenas.2023. <https://bit.ly/41iie6g>

74-75 - 共有財

アルミレス・マルチンス・マチャド (Almiros Martins Machado) (パラ連邦大学大学院法学研究科(Graduate Program in Law of the Federal University of Pará))、**ホセ・ヘダー・ベナッティ** (José Heder Benatti) (パラ連邦大学アマゾン人権クリニック(Human Rights Clinic in the Amazon of the Federal University of Pará)) 著

グラフ

p.74: GOVERNO FEDERAL. **Povos Indígenas obtêm vitória histórica com aprovação do Tratado de Propriedade Intelectual.**2024. <https://bit.ly/4f9CWbA>
AGÊNCIA BRASIL. **Pesquisa encontra indícios de biopirataria de conhecimentos indígenas.**2022. <https://bit.ly/3ZEQ4kq>
p.75: DATAPB/UFPA. <https://bit.ly/4gmwnU7>
TSING, Anna Lowenhaupt. **Viver nas ruínas: paisagens multiespécies no antropoceno.**2019.
ACOSTA, Alberto. **O Bem Viver: uma oportunidade para imaginar outros mundos.**2016.
MOORE, Jason W. **Antropoceno ou Capitaloceno? Natureza, história e a crise do capitalismo.**2022.

テキスト

ANGELIS, Massimo de. **Bens Comuns (Commons)**. 参照元: **Pluriverso: dicionário do pós-desenvolvimento.**2021.
DARDOT, Pierre; LAVAL, Christian. **Comum. Ensaio sobre a revolução no século XXI.**2017.
FEDERICI, Silvia. **Calibã e a bruxa: mulheres, corpo e acumulação primitiva.**2017.
HOUTART, François. **Dos bens comuns ao bem comum da humanidade.**2011. <https://bit.ly/3ZnuUWS>
KOPENAWA, Davi; ALBERT, Bruce. **A queda do céu. Palavras de um xamã Yanomami.**2015.
KRENAK, Ailton. **Ideias para adiar o fim do mundo.**2019.
OSTROM, Elinor. **El gobierno de los bienes comunes: la evolución de las instituciones de acción colectiva.**2000. <https://bit.ly/3Dc9ioK>
TSING, Anna Lowenhaupt. **Viver nas ruínas: paisagens multiespécies no antropoceno.**2019.

76-77 - ボディ・テリトリー

アナクレタ・ピレス・ダ・シルヴァ、**ジョジアヌ・ド・エスピリト・サント・ピレス・ダ・シルヴァ**、**ジョシクレア・ピレス・ダ・シルヴァ** (ジカ・ピレス) **ジョエルシオ・ピレス・ダ・シルヴァ** (Anacleta Pires da Silva, Josiane do Espírito Santo Pires da Silva, Josicléa Pires da Silva (Zica Pires) e Joécio Pires da Silva) (いずれもサンタ・ロサ・ドス・プレトスキロンボーラ森林農業エージェント協会/サンタ・ロサ・ドス・プレトスキロンボーラ農村生産者協会/マラニオン連邦大学開発・近代・環境研究ク

ループ(all members of Association of Quilombola Agroforestry Agents of Santa Rosa dos Pretos/Association of Quilombola Rural Producers of Santa Rosa dos Pretos/Study Group on Development, Modernity and Environment of the Federal University of Maranhão)) 著

グラフ

p.76: INCRA.
p.77、上: CENSO 2022.
p.77、下: PRODES/INPE.
INFOAMAZONIA. **Quilombolas preservam 99% da floresta em seus territórios e formam escudo de proteção na Amazônia.** <https://bit.ly/3Zd8zv2>

78-79 - 祖先

マルシア・ムラ/タナーマク (Márcia Mura/Tanãmak) (ロンドニア州立学校教師/ムラ集団/ムラ先住民女性/ムヘリオ・ダス・レトラス/ワイラクナ研究グループ/サンパウロ大学オーラル・ヒストリー研究センター (teacher in the Rondônia state school system/Mura Collective/Articulation of Mura Indigenous Women/Mulherio das Letras/Wayrakuna Research Group/Oral History Studies Center of the University of São Paulo)) 著

グラフ

p.79: MURA, Márcia

テキスト

KAMBEBE, Márcia Wayna. **O lugar do saber ancestral.**2021.
KRENAK, Ailton. **A Terra pode nos deixar para trás e seguir seu caminho.** Entrevista feita por Anna Ortega, 2020. <https://bit.ly/41mur9V>
NÚÑEZ, Geni. **As Árvores também são nossas parentes.** 参照元: **Poesia indígena hoje.**2020.
MURA, Antorokay; MURA, Márcia. **Vivência Sagrada: Despertando a Ancestralidade Mura.**2022. <https://bit.ly/41eqHBB>

80-81 - 存在と抵抗

サテレ・マウエ先住民女性協会 (Sateré-Mawé Indigenous Women's Association)

グラフ

p.80: CENSO 2022
CASA COMUM. **Aldeias invisíveis nas cidades: indígenas enfrentam desafios quando saem de seus territórios tradicionais.**2024. <https://bit.ly/4iWCpNB>
REVISTA CENARIUM. **Parque das tribos: favelização e luta por direitos básicos.**2024. <https://bit.ly/4a0Fj6h>
TRIBUNAL DE JUSTIÇA DO ESTADO DO AMAZONAS. **Comunidade indígena do Parque das Tribos em Manaus participa de audiência pública do programa Solo Seguro – Favela, promovida pela CGJ/AM.**2024. <https://bit.ly/400gUDW>
PROJETO MANAÓS – FIOCRUZ. <https://bit.ly/3ZJunP7>
p.81、上: FRANCISCO, Priscila Maria Stolses Bergamo et al. **Doenças crônicas na população indígena não aldeada: dados da Pesquisa Nacional de Saúde, 2019.**2024. <https://doi.org/10.1590/2358-289820241428889P>
p.81、下ALENCAR, A. et al. **Uma combinação nefasta – PL 490 e Marco Temporal ameaçam os direitos territoriais indígenas e colocam em risco a segurança climática da Amazônia e do país.**2023. <https://bit.ly/4gmsBdl>

大蛇の神話

子 供の頃、私の楽しみはカヌーだった。私はすでにベレンに住んでいたが、しょっちゅう両親の生まれ故郷であり、いとこ、叔母、祖父母の住むパラ州北東部の小さな町に戻っていた。祖母の家の裏の小川沿いを散歩したとき、私は初めて蛇を見た。その日の昼下がり、私はいとこ小さなボートに乗り込み、川を下っていった。その川はトゥピ語で「アンハンガの道」を意味し、アマゾンの信仰で最も恐れられている存在のひとつである。そして私たちは少し開けた地帯に入り、やがて巨大な睡蓮が点在する大きな湖に出た。

魅惑的なラグーンのような美しい場所で、私たちは新しい領域を探検することに有頂天になっていた。そのとき私たちは、一方の岸からもう一方の岸まで漁網が張り巡らされ、ラグーンの黒く凍った水の中に沈んでいるのに気づいた。私たちは素早くパドルを下に滑り込ませ、ネットを持ち上げて手でつかんだ。私たちはカヌーを網と平行に置き、後で焚き火で焼く小魚を見つけようと、それぞれが自分の持ち場を引いた。

蛇が現れたのはその時だった。網に巻かれ、目を見開き、舌を出した派手な色の頭だけが見えた。私たちは叫び声も上げず、とっさの反応もしなかった。一言も発しなかった。私たちはネットを下ろし、無言で家に戻った。遠征は中止された。理由を説明するまでもなく、一線を越えたことは分かっていた。

後に叔父が、川が地面から湧き出るとき、その泉から蛇が湧き出し、泥の中で滑る体で川がたどる道をなぞるのだと教えてくれた。仕事を終えた蛇は、その住居の守護者となる。そのため、私たちはボイアス(森の守り神)に出くわしたのであり、ボイウナ(川の守り神)でなかったのは幸運だった。ボイウナは確実に私たちを襲い、川底へ引きずり込んでいただろう。

アマゾンのスピリチュアリティでは、蛇は基礎である。私たちは、川には肉体が、空にはアストラル体があって、森林を守っていると考えている。アマゾン川の守護者の大きさを想像してほしい。これは大蛇の中で最も偉大なものだ。

ベレンでは、大蛇の物語は、ナザレの聖母のテーパーの行列の物語と絡み合っている。1700年、先住民のプラシドがムルトウク小川のほとりでナザレの聖母の木像を見つけたと言われている。プラシドはその聖人像を家に持ち帰ったが、聖人像は消え、奇跡的に小川に再び現れた。やがて、その礼拝堂が建てられ、現在のナザレのバシリカとなった。

もちろん、ムルトウク小川にも守護蛇がおり、バシリカとセ大聖堂の間の地下に眠っている。行列の際に、信者がが聖人像を持って歩く道に沿って。

川が乱暴に扱われれば、霊的存在もまた苦しむ。小川が死ねば、その守護者は眠り、埋もれる。

230年もの間、ナザレの聖母のテーパー行列の巡礼者たちはこの道を歩き、ナザレの聖母が私たちを上から守ってくれるように、そしてベレンを破壊する大蛇が下から目覚めないように祈りを捧げてきた。

アマゾンの経済的搾取によって引き起こされた多くの悪の中で、この最大の大蛇は耐えている。大蛇に敬意を払うのは私たち次第である。大蛇はすべてのものの所有者であり、その許可なく触れることはできないのだから。

私たちは生き残るだろう...私たちの貪欲さがその怒りを呼び覚ますその日まで。

マエル・アンハンガ
カバーイラストレーター

ハインリヒ・ベル財団

ハインリヒ・ベル財団はドイツの政治団体で、34カ国以上に存在し、ドイツ緑の党と提携している。民主主義のための対話を促進し、人権保障に努め、社会環境正義を提唱し、女性の権利を擁護し、反人種主義的な立場を堅持することが、当財団の理念と行動の原動力となっている。

ブラジルでは、さまざまな市民社会組織のプロジェクトを支援し、討論会を開催し、無料の出版物を制作している。社会・環境正義の分野では、環境保護と農村や森林の人々の権利擁護を結びつける公開討論の強化を目指している。

財団の名前の由来となったドイツの作家、ハインリヒ・ベルの助言に、私たちは喜んで従う：「関わるのが、現実を直視する唯一の方法だ」私たちは、他の人たちにも同じようなことをしてもらいたいと願っている。

私たちの出版物について知り、無料でダウンロードしてください。



機関のビデオを見る



br.boell.org/sobre-nos

<https://doi.org/10.29327/5491394>

出版物のダウンロード



br.boell.org/publicacoes

国際カタログ出版データ (International Cataloguing in Publication Data, CIP)
(ブラジル図書会議所、ブラジル、サンパウロ (Brazilian Book Chamber, São Paulo, Brazil))

ブラジル アマゾン アトラス/ジュリア・ドルチェ、マルセロ・モンテネグロ、レジーネ・シェーネンベルク主催。- リオデジャネイロハインリヒ・ベル財団、2025年
96 p. : il., color.

書誌
ISBN 978-65-87665-22-1

1. Amazon—Environmental aspects 2. Atlas 3. Biodiversity—Amazon 4. Environment and Amazon I. Dolce, Julia. II. Montenegro, Marcelo. III. Schöenberg, Regine.

25-249706

CDD-304.2

知り、支援する

ブラジル アマゾン アトラスの開発に協力したブラジルのパートナー団体



森の民を守るための闘いをリードする組織。シコ・メンデス・ウィークは、環境保護主義者の遺産を讃え、持続可能性、気候正義、アマゾン文化に関する議論を促進するイベントである。

www.comitechicomendes.org
@chicomendescomite



アマゾンの人々や問題を可視化する独立系調査報道機関。

www.amazoniareal.com.br
@amazoniareal



同センターは、パラ連邦大学法学部の教授と学生によって開発された研究と普及活動を統合している。

www.cidh.ufpa.br
cidhaufpa



文化、教育、科学の分野でコミュニティ・サービスを提供し、アマゾン地域、ブラジル、そして世界中の人種的・ジェンダー的公正、経済的・環境的持続可能性、人権、平和の問題に焦点を当てている。

www.institutomaecrioula.org
@imaecrioula



このセンターでは、ネグロ川上流の先住民族トウカノ族、デサノ族、トウユカ族の知識に基づき、身体的・心理的側面に対処するヘルスケアとヒーリング技術として、バセッセ（祝福）と薬草を提供している。

@centrodemedicinaindigena



これはアマゾンの森と人々を守るための運動である。ブラジルの5つの地域のネットワーク、道路、河川に存在する。

www.amazoniadepe.org.br
@amazoniadepe



パラ連邦大学アマゾン高等研究センター内の研究グループで、気候変動の時代におけるアマゾン先住民や伝統的なアマゾンの人々の適応、持続、抵抗の研究に焦点を当てている。

www.ppgdstu.propesp.ufpa.br/index.php/br/pesquisa/grupos-de-pesquisa
@reexisterra



ポルトガル語版の出版物



ATLAS DA CARNE
2016

以下の国でも出版されている：
ドイツ、フランス、チリ、
チェコ共和国、トルコ

br.boell.org/pt-br/2016/09/06/atlas-da-carne-fatos-e-numeros-sobre-os-animais-que-comemos



ATLAS DO AGRONEGÓCIO
2018

以下の国でも出版されている：
ドイツ、欧州連合

br.boell.org/pt-br/atlas-do-agronegocio



ATLAS DO PLÁSTICO
2020

以下の国でも出版されている：
ドイツ、アジア、ブルガリア、カンボ
ジア、中国、フランス、グルジア、ギ
リシャ、モロッコ、ミャンマー、ナイ
ジェリア、パレスチナ、チェコ共和
国、ロシア、セネガル、チュニジア。

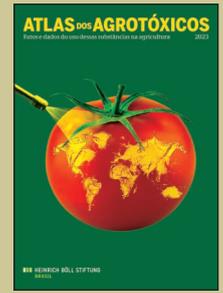
br.boell.org/pt-br/atlas-do-plastico



ATLAS DOS INSETOS
2021

以下の国でも出版されている：
ドイツ、欧州連合

br.boell.org/pt-br/atlas-dos-insetos



ATLAS DOS AGROTÓXICOS
2023

以下の国でも出版されている：
ドイツ、スペイン、アメリカ、フラン
ス、イタリア、メキシコ、
ナイジェリア、ポーランド、ケニア、
セネガル、トルコ、EU

br.boell.org/pt-br/2023/12/01/atlas-dos-agrotoxicos

英語でのシリーズ出版物



COAL ATLAS 2015
欧州連合

以下の国でも出版されている：
英語：ナイジェリア
ドイツ語：ドイツ
スペイン語：ラテンアメリカ
ボスニア語：ボスニア・ヘルツェゴビナ/
北マケドニア/アルバニア
チェコ語：チェコ共和国
ポーランド語：ポーランド

boell.de/coalatlas



OCEAN ATLAS 2017
米国

以下の国でも出版されている：
ドイツ語：ドイツ
フランス語：フランス/セネガル/チュニジア
スペイン語：ラテンアメリカ
アラビア語：パレスチナ
中国語：中国
クメール語：カンボジア
ロシア語：ロシア
トルコ語：トルコ

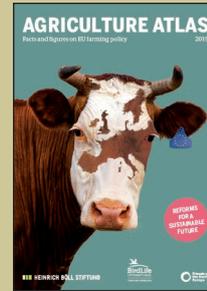
boell.de/ocean-atlas



ENERGY ATLAS 2018
欧州連合

以下の国でも出版されている：
ドイツ語：ドイツ
フランス語：フランス
チェコ語：チェコ共和国

boell.de/energy-atlas



AGRICULTURE ATLAS 2019
欧州連合

以下の国でも出版されている：
フランス語：欧州連合 (EU)
スペイン語：欧州連合 (EU)
ドイツ語：ドイツ
イタリア語：イタリア
ポーランド語：ポーランド

boell.de/agriculture-atlas



EUROPEAN MOBILITY ATLAS 2021
欧州連合

以下の国でも出版されている：
ドイツ語：ドイツ

eu.boell.org/European-Mobility-Atlas



PEATLAND ATLAS 2023
欧州連合

以下の国でも出版されている：
ドイツ語：ドイツ

eu.boell.org/ja/PeatlandAtlas



SOIL ATLAS 2024
欧州連合

以下の国でも出版されている：
ドイツ語：ドイツ
フランス語：フランス
チェコ語：チェコ共和国

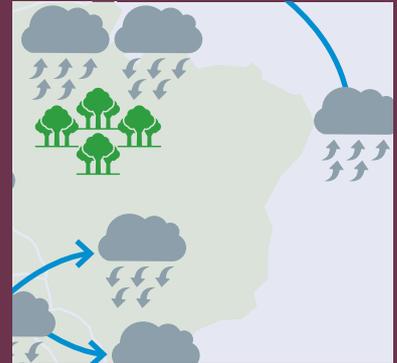
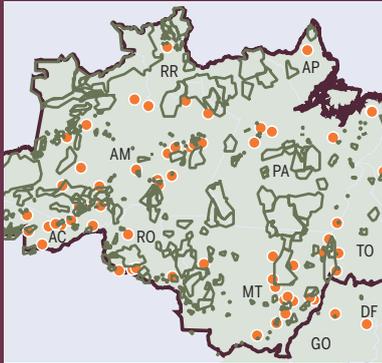
eu.boell.org/en/SoilAtlas



WASSER ATLAS 2025
欧州連合

以下の国でも出版されている：
ドイツ語：ドイツ

boell.de/de/wasseratlas



アマゾンの先住民は、自らの知識、科学、技術を利用して、生物多様性と農業生物多様性を生み出し、増幅し、維持し、土壌肥沃度を高めてきた。

先祖伝来のノウハウ26ページ

近年の森林破壊の半分は、指定されていない公有地で起きている。こうした土地の違法な森林伐採は非常に収益性が高く、土地収奪の制限を緩和しようとする一連の法律が後押しして、アマゾンでは急速に増加している。

森林の荒廃42ページ

気候変動に対する真の解決策は、先住民と地域住民の土地へのアクセスを保証し、領土主権を確保し、領土に根ざした生活様式を維持することを目的とした地元の生産活動を保護することにある。

COP 30: 回帰不能点60ページ

